

「ヤングケアラーの実態調査とその支援に関する調査研究」

アンケート基本集計報告書

■目次■

第1章	調査概要	1
1.	小中高校生アンケート	1
2.	大学生アンケート	3
3.	学校アンケート	4
4.	要保護児童対策地域協議会アンケート	5
第2章	小中高校生アンケート結果	6
1.	世話をしている家族の有無	6
2.	基本情報	9
3.	普段の生活の状況	16
4.	家族のお世話の状況について	32
5.	ヤングケアラーについて	59
第3章	大学生アンケート結果	71
1.	基本情報	71
2.	普段の生活について	75
3.	家庭や家族のことについて	82
4.	ヤングケアラーについて	93
第4章	学校アンケート結果	96
1.	学校の概要	96
2.	支援が必要だと思われる子どもへの対応	97
3.	ヤングケアラーについて	112
4.	ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないだケースの概要	118
第5章	要保護児童対策地域協議会アンケート結果	124
1.	ケース登録件数	124
2.	ヤングケアラーと思われる子どもへの対応	125
3.	要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合の対応	127
4.	ヤングケアラーの早期発見や支援についての課題	130
5.	ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として、関係機関に期待すること	131
6.	ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として必要な支援	134

第1章 調査概要

1. 小中高校生アンケート

(1) 調査目的

千葉県内の小学生、中学生、高校生におけるヤングケアラーの実態を把握するとともに、県のヤングケアラーに対する今後の支援策を検討する際の参考とすることを目的として、家庭や家族の世話の状況、ヤングケアラーの認識等についてたずねる小中高校生アンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

	対象数
①千葉県立を除く全公立小学校の6年生全員、 協力の得られた私立小学校の6年生	43,780人 (学校数 計 642校)
②千葉県立を除く全公立中学校の2年生全員、 協力の得られた私立中学校の2年生	41,814人 (学校数 計 313校)
③千葉県立を除く全公立高等学校の2年生全員、 協力の得られた私立高等学校の2年生	31,038人 (学校数 計 128校)

(3) 調査方法

郵送にて、学校長あて文書と児童生徒・保護者あて依頼文を各学校に送付し、学校経由で、児童生徒に対し、児童生徒・保護者あて依頼文を配布した。

依頼文には、調査の趣旨・概要、調査票の URL・QR コード等を記載し、ウェブ上で回答してもらった。

※事前周知

- ・アンケート調査開始の約2週間前に、県より市町村教育委員会と各学校にアンケート調査の旨を、メールにて事前周知し、協力を依頼した。

(4) 実施時期

2022年7月8日（金）～8月5日（金）

※回答締切：2022年8月1日（月）

(5) 回収状況

	回収数
小学6年生	4,414件
中学2年生	3,927件
高校2年生	3,051件
定時制高校2年生相当	58件

(6) 調査内容

- ① 基本情報（学年、性別、居住地域、学校名、同居家族の状況、健康状態）
- ② ふだんの生活について（学校の出席状況、習い事や課外活動の状況、学校生活の状況、悩みや困りごと、相談相手、ふだんの生活の状況）

- ③ 家庭や家族のことについて（お世話をしている人の有無、お世話の状況、お世話をしている理由、お世話の内容、お世話を一緒に行っている人、お世話を始めた年齢、お世話の頻度、お世話にかけている時間、お世話をしていることでできていないこと、お世話のきつさ、悩みの相談状況、相談した人、相談していない理由、学校や周りの大人に助けてほしいこと、希望する相談方法、相談しやすい相手）
- ④ ヤングケアラーについて（自身がヤングケアラーにあてはまるか、ヤングケアラーという言葉の認知状況、認知経路、ヤングケアラーへの支援のために必要と思うこと）

2. 大学生アンケート

(1) 調査目的

千葉県内の大学生におけるヤングケアラーの実態を把握するとともに、県のヤングケアラーに対する今後の支援策を検討する際の参考とすることを目的として、家庭や家族の世話の状況、ヤングケアラーの認識等についてたずねる大学生アンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

千葉県内に所在する6大学（千葉大学、亀田医療大学、川村学園女子大学、淑徳大学、城西国際大学、中央学院大学）に在籍する大学3年生を対象として実施した。対象となる学生は、6大学合計で4,137名であった。

(3) 調査方法

調査対象の大学事務室を通じて、学生本人向けに、調査回答フォームのQRコード及びURLを記載した調査依頼文をメールにて送付し、ウェブ上で回答してもらった。

(4) 実施時期

2022年7月8日（金）～8月5日（金）

※回答締切：2022年8月1日（月）

(5) 回収状況

回収数：71件（うち2件は大学3年生以外であったため、回答対象外とした）

(6) 調査内容

- ① 基本情報（学年、性別、年齢、居住地域、大学名、学部、住まい方、同居家族の状況、健康状態、通学時間、奨学金の受給状況）
- ② ふだんの生活について（大学選択理由、授業への出席状況、生活時間の確保状況、大学生活の状況、悩みや困りごと、相談相手）
- ③ 家庭や家族のことについて（お世話をしている人の有無、お世話の状況、お世話をしている理由、お世話の内容、お世話を一緒に行っている人、お世話をしている頻度・時間、お世話を開始した時期、お世話が終了した時期、お世話をすることで大学進学時に苦勞したこと、あきらめたこと、今後不安なこと、就職に関しての不安、お世話のきつき、自身がお世話をする理由、悩みの相談状況、相談していない理由、大学や周りの大人に助けてほしいこと、希望する相談方法、相談しやすい相手）
- ④ ヤングケアラーについて（自身がヤングケアラーにあてはまるか、ヤングケアラーという言葉の認知状況、認知経路、ヤングケアラーへの支援のために必要と思うこと）

3. 学校アンケート

(1) 調査目的

県内学校におけるヤングケアラーの把握状況や対応状況の実態を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

県内の小学校・中学校・高等学校を調査対象とする。対象件数およびその内訳は下表の通り。

	対象件数
千葉市立を除く全公立小学校、協力の得られた私立小学校 ※義務教育学校前期課程を含む	642 件
千葉市立を除く全公立中学校、協力の得られた私立中学校 ※義務教育学校後期課程を含む	315 件
千葉市立を除く全日制および通信制の公立高等学校、 協力の得られた私立高等学校	123 件
定時制の公立高等学校	16 件
合計	1,096 件

※義務教育学校は前期課程・後期課程をそれぞれ1件とカウントする。

※高等学校において課程が複数ある場合は、1課程を1件とカウントする。

(3) 調査方法

電子ファイルの調査票をメールにて配布・メールにて回収。

(4) 実施時期

2022年7月8日（金）～2022年10月7日（金）

※回答締切：2022年8月1日（月）

(5) 回収状況

回収件数および回収率は下表の通りであった。

	回収件数	回収率
千葉市立を除く全公立小学校、協力の得られた私立小学校 ※義務教育学校前期課程を含む	583 件	90.8%
千葉市立を除く全公立中学校、協力の得られた私立中学校 ※義務教育学校後期課程を含む	283 件	89.8%
千葉市立を除く全日制および通信制の公立高等学校、 協力の得られた私立高等学校	122 件	99.2%
定時制の公立高等学校	14 件	87.5%
合計	1,002 件	91.4%

※義務教育学校は前期課程・後期課程をそれぞれ1件とカウントする。

※高等学校において課程が複数ある場合は、1課程を1件とカウントする。

(6) 調査内容

- ① 支援が必要と思われる子どもへの対応状況
- ② ヤングケアラーの把握状況・対応状況
- ③ ヤングケアラーと思われる子どものケース

4. 要保護児童対策地域協議会アンケート

(1) 調査目的

要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーの把握状況や対応状況の実態を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

県内の要保護児童対策地域協議会（千葉市内を除く 53 協議会）

(3) 調査方法

電子ファイルの調査票をメールにて配布・メールにて回収。

(4) 実施時期

2022年7月8日（金）～2022年10月7日（金）

※回答締切：2022年8月1日（月）

(5) 回収状況

回収件数は49件、回収率は92.5%であった。

(6) 調査内容

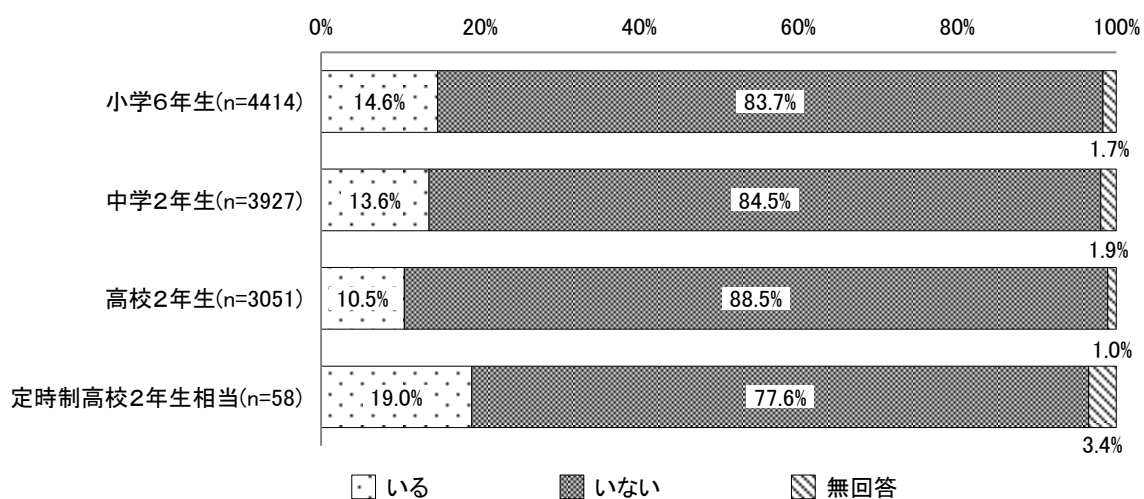
- ① ヤングケアラーと思われる子どもの把握状況
- ② ヤングケアラーと思われる子どもがいる場合の対応
- ③ ヤングケアラーの早期発見や支援の取組や課題

第2章 小中高校生アンケート結果

1. 世話をしている家族の有無

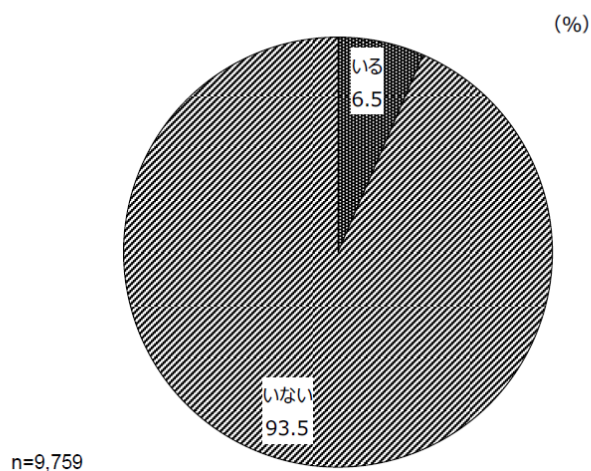
世話をしている家族が「いる」と回答した割合をみると、「小学6年生」は14.6%、「中学2年生」は13.6%、「高校2年生」は10.5%、「定時制高校2年生相当」は19.0%となっている。

図表 1 世話をしている家族の有無:単数回答 (Q14)



※参考：国調査（小学生）

図表 51 世話をしている家族の有無



(資料) 日本総合研究所「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」令和4年3月

※参考：国調査（中学生、高校生）

図表－76 世話をしている家族の有無

	(n)	調査数	いる	いない	無回答
中学2年生	5,558		5.7	93.6	0.6
全日制高校2年生	7,407		4.1	94.9	0.9
定時制高校2年生相当	366		8.5	89.9	1.6
通信制高校生	445		11.0	88.1	0.9

※通信制高校生について、本設問は18歳以下、19歳以上の年齢別に聞いており、年齢の設問に無回答であった1名は回答の対象外となっている。

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計。19歳以上は「いた（現在はお世話をしていない）」、「現在まで継続してお世話をしている」が「いる」に含まれる。

（資料）三菱UFJリサーチ&コンサルティング「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」令和3年3月

図表 2 現在住んでいる市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別
世話をしている家族の有無：単数回答（Q14）

		Q14. お世話をしている家族はいるか											
		小学6年生				中学2年生				高校2年生			
		合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答
Q3. 現在住んでいる市町村：千葉県保健福祉圏域	全体	4414	14.6	83.7	1.7	3927	13.6	84.5	1.9	3051	10.5	88.5	1.0
	習志野市区	267	16.1	80.9	3.0	425	12.9	85.6	1.4	283	11.3	88.0	0.7
	市川地区	425	15.8	82.8	1.4	149	14.1	85.2	0.7	219	9.6	89.5	0.9
	松戸地区	586	24.1	74.1	1.9	398	13.1	85.4	1.5	272	9.2	89.7	1.1
	野田地区	95	18.9	77.9	3.2	257	14.8	81.3	3.9	96	11.5	87.5	1.0
	印旛地区	570	14.4	84.6	1.1	611	13.3	84.3	2.5	357	8.7	90.5	0.8
	香取地区	58	6.9	93.1	0.0	49	4.1	95.9	0.0	121	11.6	88.4	0.0
	海匝地区	87	6.9	92.0	1.1	28	10.7	89.3	0.0	106	10.4	88.7	0.9
	山武地区	103	18.4	78.6	2.9	146	17.8	79.5	2.7	119	11.8	85.7	2.5
	長生地区	70	11.4	88.6	0.0	15	0.0	100.0	0.0	33	18.2	81.8	0.0
	夷隅地区	37	21.6	75.7	2.7	13	15.4	84.6	0.0	12	8.3	91.7	0.0
	安房地区	51	11.8	86.8	2.0	91	22.0	76.9	1.1	224	12.9	85.7	1.3
	君津地区	181	19.3	79.0	1.7	305	15.1	82.3	2.6	153	13.1	85.0	2.0
	市原地区	278	21.6	76.6	1.8	419	18.9	79.2	1.9	78	6.4	93.6	0.0
	船橋市	1227	6.8	91.4	1.9	826	9.1	89.1	1.8	372	8.9	90.3	0.8
	柏市	280	14.3	84.6	1.1	132	13.6	86.4	0.0	199	11.6	86.9	1.5
	千葉市	58	31.0	69.0	0.0	31	32.3	64.5	3.2	359	10.9	87.7	1.4
	県外	3	0.0	100.0	0.0	3	66.7	33.3	0.0	41	7.3	92.7	0.0

図表 3 通っている学校のある市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別
世話をしている家族の有無：単数回答（Q14）

		Q14. お世話をしている家族はいるか											
		小学6年生				中学2年生				高校2年生			
		合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答
Q4. 通っている学校のある市町村：千葉県保健福祉圏域	全体	4414	14.6	83.7	1.7	3927	13.6	84.5	1.9	3051	10.5	88.5	1.0
	習志野市区	248	15.7	81.0	3.2	406	13.3	85.5	1.2	134	2.2	97.0	0.7
	市川地区	415	15.2	83.4	1.4	139	15.1	84.2	0.7	315	8.3	89.8	1.9
	松戸地区	552	24.1	73.7	2.2	386	13.0	85.2	1.8	137	9.5	89.1	1.5
	野田地区	88	19.3	77.3	3.4	222	14.4	83.3	2.3	54	11.1	87.0	1.9
	印旛地区	547	14.3	84.6	1.1	584	13.0	84.4	2.6	290	7.6	91.4	1.0
	香取地区	57	7.0	93.0	0.0	47	6.4	93.6	0.0	131	11.5	88.5	0.0
	海匝地区	84	7.1	91.7	1.2	25	12.0	88.0	0.0	109	7.3	91.7	0.9
	山武地区	101	18.8	80.2	1.0	143	18.2	79.0	2.8	76	15.8	82.9	1.3
	長生地区	60	11.7	88.3	0.0	14	0.0	100.0	0.0	22	9.1	90.9	0.0
	夷隅地区	38	21.1	76.3	2.6	12	16.7	83.3	0.0	3	33.3	66.7	0.0
	安房地区	47	12.8	85.1	2.1	93	21.5	77.4	1.1	236	13.6	85.6	0.8
	君津地区	171	18.1	80.1	1.8	296	14.9	82.8	2.4	148	13.5	84.5	2.0
	市原地区	270	20.7	77.4	1.9	393	19.1	79.1	1.8	13	7.7	92.3	0.0
	船橋市	1204	7.0	91.1	1.9	760	8.0	90.5	1.4	313	11.8	87.5	0.6
	柏市	259	13.5	85.3	1.2	122	12.3	87.7	0.0	384	11.7	87.5	0.8
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	13	30.8	69.2	0.0	584	9.8	89.4	0.9

図表 4 現在住んでいる市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別
世話をしている家族の有無:単数回答 (Q14)

		Q14. お世話をしている家族はいるか											
		小学6年生				中学2年生				高校2年生			
		合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答
Q3. 現在住んでいる市町村:千葉県教育事務所別地区	全体	4414	14.6	83.7	1.7	3927	13.6	84.5	1.9	3051	10.5	88.5	1.0
	葛南	1885	9.9	88.1	2.0	1380	10.8	87.6	1.6	793	9.6	89.5	0.9
	東葛飾	995	20.6	77.7	1.7	807	13.6	84.4	2.0	648	10.6	88.3	1.1
	北総(印旛)	570	14.4	84.6	1.1	611	13.3	84.3	2.5	357	8.7	90.5	0.8
	北総(香取)	58	6.9	93.1	0.0	49	4.1	95.9	0.0	121	11.6	88.4	0.0
	北総(海匝)	87	6.9	92.0	1.1	28	10.7	89.3	0.0	106	10.4	88.7	0.9
	東上総(山武)	103	18.4	78.6	2.9	146	17.8	79.5	2.7	119	11.8	85.7	2.5
	東上総(長生)	70	11.4	88.6	0.0	15	0.0	100.0	0.0	33	18.2	81.8	0.0
	東上総(夷隅)	37	21.6	75.7	2.7	13	15.4	84.6	0.0	12	8.3	91.7	0.0
	南房総(市原・君津)	459	20.7	77.6	1.7	724	17.3	80.5	2.2	231	10.8	87.9	1.3
	南房総(安房)	51	11.8	86.3	2.0	91	22.0	76.9	1.1	224	12.9	85.7	1.3
	千葉市	58	31.0	69.0	0.0	31	32.3	64.5	3.2	359	10.9	87.7	1.4
県外	3	0.0	100.0	0.0	3	66.7	33.3	0.0	41	7.3	92.7	0.0	

図表 5 通っている学校のある市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別
世話をしている家族の有無:単数回答 (Q14)

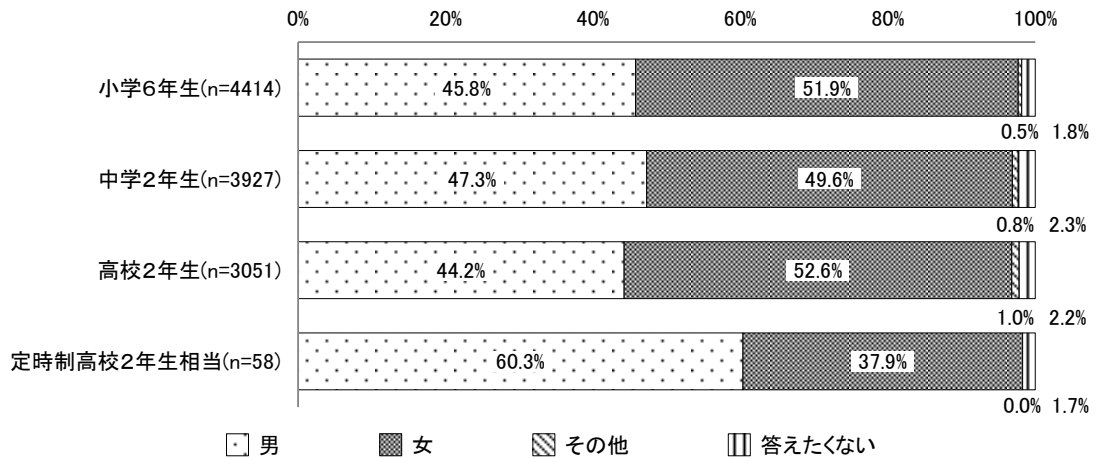
		Q14. お世話をしている家族はいるか											
		小学6年生				中学2年生				高校2年生			
		合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答	合計	いる	いない	無回答
Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県教育事務所別地区	全体	4414	14.6	83.7	1.7	3927	13.6	84.5	1.9	3051	10.5	88.5	1.0
	葛南	1836	9.8	88.2	2.0	1286	10.4	88.3	1.3	729	8.9	90.0	1.1
	東葛飾	930	20.5	77.5	1.9	749	13.2	85.2	1.6	608	10.7	88.2	1.2
	北総(印旛)	547	14.3	84.6	1.1	584	13.0	84.4	2.6	290	7.6	91.4	1.0
	北総(香取)	57	7.0	93.0	0.0	47	6.4	93.6	0.0	131	11.5	88.5	0.0
	北総(海匝)	84	7.1	91.7	1.2	25	12.0	88.0	0.0	109	7.3	91.7	0.9
	東上総(山武)	101	18.8	80.2	1.0	143	18.2	79.0	2.8	76	15.8	82.9	1.3
	東上総(長生)	60	11.7	88.3	0.0	14	0.0	100.0	0.0	22	9.1	90.9	0.0
	東上総(夷隅)	38	21.1	76.3	2.6	12	16.7	83.3	0.0	3	33.3	66.7	0.0
	南房総(市原・君津)	441	19.7	78.5	1.8	689	17.3	80.7	2.0	161	13.0	85.1	1.9
	南房総(安房)	47	12.8	85.1	2.1	93	21.5	77.4	1.1	236	13.6	85.6	0.8
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	13	30.8	69.2	0.0	584	9.8	89.4	0.9

2. 基本情報

(1) 性別

性別をみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」は、大よそ「男」「女」が半数程度ずつを占めている。「定時制高校2年生相当」は「男」が60.3%、「女」が37.9%で、「男」の割合が高い。

図表 6 性別:単数回答 (Q2)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 7 世話をしている家族の有無別 性別:単数回答 (Q2)

学年×お世 話の有無	合計	Q2.性別			
		男	女	その他	答えたくない
小学6年生-いる	646	46.6	50.9	0.9	1.5
小学6年生-いない	3694	45.7	52.1	0.4	1.8
中学2年生-いる	533	48.6	48.4	1.5	1.5
中学2年生-いない	3318	46.5	50.3	0.7	2.4
高校2年生-いる	319	49.8	47.0	0.9	2.2
高校2年生-いない	2700	43.5	53.3	1.0	2.1
定時制高校2年生相当-いる	11	63.6	27.3	0.0	9.1
定時制高校2年生相当-いない	45	57.8	42.2	0.0	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(2) 現在住んでいる市町村

① 千葉県保健福祉圏域

現在住んでいる市町村を千葉県保健福祉圏域でみると、「小学6年生」では、「船橋市」が 27.8%、「松戸地区」が 13.3%、「印旛地区」が 12.9%となっている。「中学2年生」では、「船橋市」が 21.0%、「印旛地区」が 15.6%、「習志野地区」が 10.8%、「市原地区」が 10.7%となっている。「高校2年生」では、「船橋市」が 12.2%、「千葉市」が 11.8%、「印旛地区」が 11.7%となっている。

図表 8 現在住んでいる市町村【千葉県保健福祉圏域】：単数回答 (Q3)

	合計	Q3. 現在住んでいる市町村：千葉県保健福祉圏域								
		習志野市区	市川地区	松戸地区	野田地区	印旛地区	香取地区	海匝地区	山武地区	長生地区
小学6年生	4414 100.0	267 6.0	425 9.6	586 13.3	95 2.2	570 12.9	58 1.3	87 2.0	103 2.3	70 1.6
中学2年生	3927 100.0	425 10.8	149 3.8	398 10.1	257 6.5	611 15.6	49 1.2	28 0.7	146 3.7	15 0.4
高校2年生	3051 100.0	283 9.3	219 7.2	272 8.9	96 3.1	357 11.7	121 4.0	106 3.5	119 3.9	33 1.1

	合計	Q3. 現在住んでいる市町村：千葉県保健福祉圏域								
		夷隅地区	安房地区	君津地区	市原地区	船橋市	柏市	千葉市	県外	無回答
小学6年生	4414 100.0	37 0.8	51 1.2	181 4.1	278 6.3	1227 27.8	280 6.3	58 1.3	3 0.1	38 0.9
中学2年生	3927 100.0	13 0.3	91 2.3	305 7.8	419 10.7	826 21.0	132 3.4	31 0.8	3 0.1	29 0.7
高校2年生	3051 100.0	12 0.4	224 7.3	153 5.0	78 2.6	372 12.2	199 6.5	359 11.8	41 1.3	7 0.2

※件数が1件の地区があったため、定時制高校2年生相当は非掲載。

② 千葉県教育事務所別地区

現在住んでいる市町村を千葉県教育事務所別地区でみると、「小学6年生」では、「葛南」が42.7%、「東葛飾」が22.5%となっている。「中学2年生」では、「葛南」が35.1%、「東葛飾」が20.6%、「南房総（市原・君津）」が18.4%となっている。「高校2年生」では、「葛南」が26.0%、「東葛飾」が21.2%となっている。

図表 9 現在住んでいる市町村【千葉県教育事務所別地区】：単数回答（Q3）

	合計	Q3. 現在住んでいる市町村：千葉県教育事務所別地区												
		葛南	東葛飾	北総（印旛）	北総（香取）	北総（海匝）	東上総（山武）	東上総（長生）	東上総（夷隅）	南房総（市原・君津）	南房総（安房）	千葉市	県外	無回答
小学6年生	4414 100.0	1885 42.7	995 22.5	570 12.9	58 1.3	87 2.0	103 2.3	70 1.6	37 0.8	459 10.4	51 1.2	58 1.3	3 0.1	38 0.9
中学2年生	3927 100.0	1380 35.1	807 20.6	611 15.6	49 1.2	28 0.7	146 3.7	15 0.4	13 0.3	724 18.4	91 2.3	31 0.8	3 0.1	29 0.7
高校2年生	3051 100.0	793 26.0	648 21.2	357 11.7	121 4.0	106 3.5	119 3.9	33 1.1	12 0.4	231 7.6	224 7.3	359 11.8	41 1.3	7 0.2

※件数が1件の地区があったため、定時制高校2年生相当は非掲載。

(3) 通っている学校のある市町村

① 千葉県保健福祉圏域

通っている学校のある市町村を千葉県保健福祉圏域でみると、「小学6年生」では、「船橋市」が27.3%、「松戸地区」が12.5%、「印旛地区」が12.4%となっている。「中学2年生」では、「船橋市」が19.4%、「印旛地区」が14.9%、「習志野地区」が10.3%、「市原地区」が10.0%となっている。「高校2年生」では、「千葉市」が19.1%、「柏市」が12.6%、「市川地区」「船橋市」がそれぞれ10.3%となっている。

図表 10 通っている学校のある市町村【千葉県保健福祉圏域】：単数回答 (Q4)

	合計	Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県保健福祉圏域								
		習志野 市区	市川地 区	松戸地 区	野田地 区	印旛地 区	香取地 区	海匝地 区	山武地 区	長生地 区
小学6年生	4414 100.0	248 5.6	415 9.4	552 12.5	88 2.0	547 12.4	57 1.3	84 1.9	101 2.3	60 1.4
中学2年生	3927 100.0	406 10.3	139 3.5	386 9.8	222 5.7	584 14.9	47 1.2	25 0.6	143 3.6	14 0.4
高校2年生	3051 100.0	134 4.4	315 10.3	137 4.5	54 1.8	290 9.5	131 4.3	109 3.6	76 2.5	22 0.7

	合計	Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県保健福祉圏域							
		夷隅地 区	安房地 区	君津地 区	市原地 区	船橋市	柏市	千葉市	無回答
小学6年生	4414 100.0	38 0.9	47 1.1	171 3.9	270 6.1	1204 27.3	259 5.9	0 0.0	273 6.2
中学2年生	3927 100.0	12 0.3	93 2.4	296 7.5	393 10.0	760 19.4	122 3.1	13 0.3	272 6.9
高校2年生	3051 100.0	3 0.1	236 7.7	148 4.9	13 0.4	313 10.3	384 12.6	584 19.1	102 3.3

※件数が1件の地区があったため、定時制高校2年生相当は非掲載。

② 千葉県教育事務所別地区

通っている学校のある市町村を千葉県教育事務所別地区でみると、「小学6年生」では、「葛南」が41.6%、「東葛飾」が21.1%となっている。「中学2年生」では、「葛南」が32.7%、「東葛飾」が19.1%、「南房総（市原・君津）」が17.5%となっている。「高校2年生」では、「葛南」が23.9%、「東葛飾」が19.9%、「千葉市」が19.1%となっている。

図表 11 通っている学校のある市町村【千葉県教育事務所別地区】：単数回答（Q4）

	合計	Q4. 通っている学校のある市町村：千葉県教育事務所別地区											
		葛南	東葛飾	北総 (印旛)	北総 (香取)	北総 (海匝)	東上総 (山武)	東上総 (長生)	東上総 (夷隅)	南房総 (市原・君津)	南房総 (安房)	千葉市	無回答
小学6年生	4414 100.0	1836 41.6	930 21.1	547 12.4	57 1.3	84 1.9	101 2.3	60 1.4	38 0.9	441 10.0	47 1.1	0 0.0	273 6.2
中学2年生	3927 100.0	1286 32.7	749 19.1	584 14.9	47 1.2	25 0.6	143 3.6	14 0.4	12 0.3	689 17.5	93 2.4	13 0.3	272 6.9
高校2年生	3051 100.0	729 23.9	608 19.9	290 9.5	131 4.3	109 3.6	76 2.5	22 0.7	3 0.1	161 5.3	236 7.7	584 19.1	102 3.3

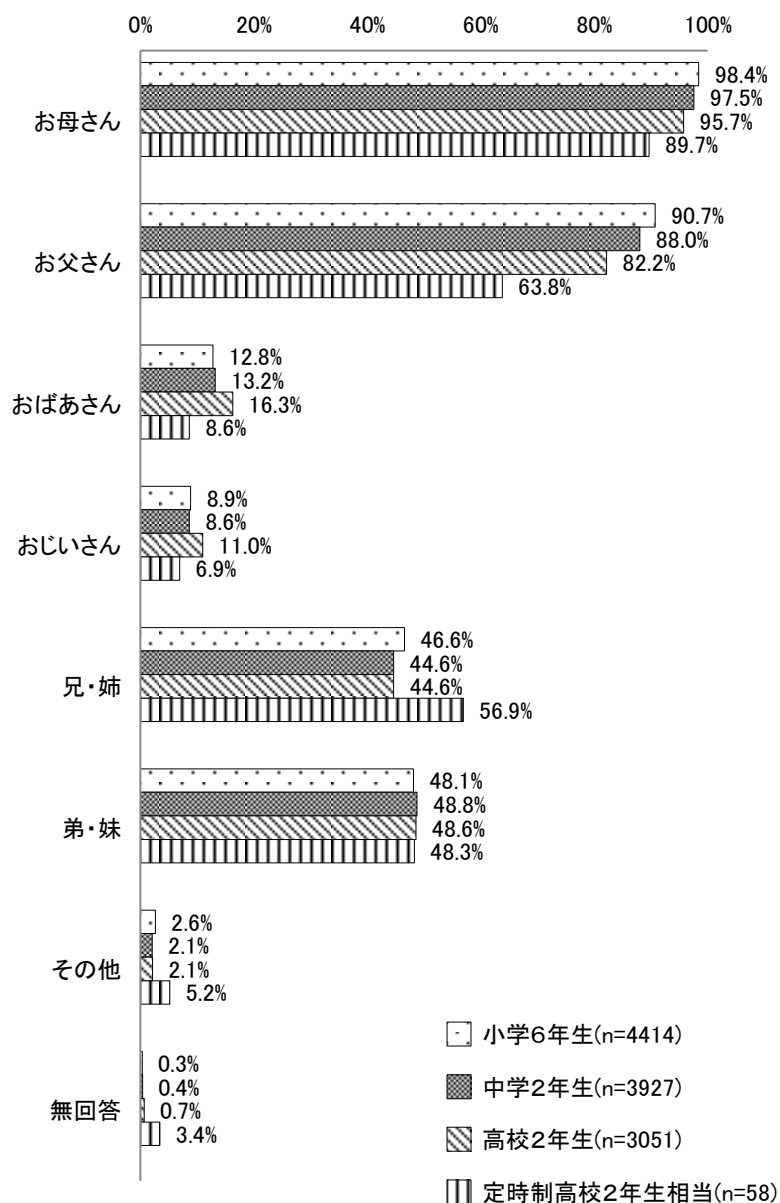
※件数が1件の地区があったため、定時制高校2年生相当は非掲載。

(4) 一緒に住んでいる家族

一緒に住んでいる家族をみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」では、「お母さん」「お父さん」が80～90%台、「兄・姉」が45%前後、「弟・妹」が50%弱、「おばあさん」「おじいさん」が10%前後となっている。

「定時制高校2年生相当」では、「お母さん」が89.7%、「お父さん」が63.8%、「兄・姉」が56.9%、「弟・妹」が48.3%、「おばあさん」「おじいさん」が7～8%程度となっている。

図表 12 一緒に住んでいる家族:複数回答 (Q5)



世話をしている家族の有無別に一緒に住んでいる家族をみると、「小学6年生」「中学2年生」は世話をしている家族が「いる」と回答した方が「弟・妹」の割合がやや高い。

図表 13 世話をしている家族の有無別 一緒に住んでいる家族:複数回答 (Q5)

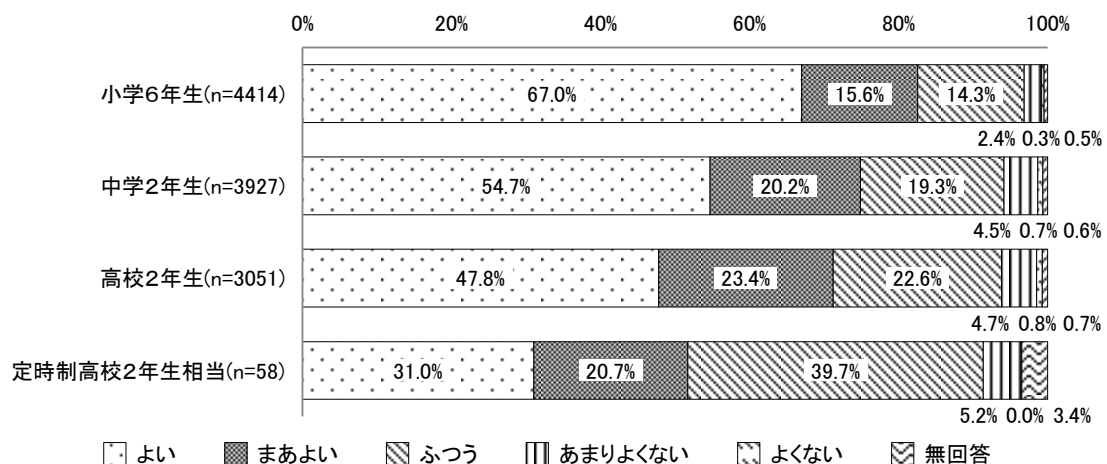
	合計	Q5.一緒に住んでいる家族							無回答	
		お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	兄・姉	弟・妹	その他		
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	96.6	88.7	14.7	10.5	47.2	56.3	3.3	0.2
	小学6年生-いない	3694	98.8	91.3	12.5	8.6	46.3	46.8	2.4	0.2
	中学2年生-いる	533	97.4	86.3	13.1	9.0	46.2	56.5	2.6	0.2
	中学2年生-いない	3318	97.8	88.5	13.2	8.5	44.4	47.5	2.0	0.2
	高校2年生-いる	319	92.2	75.2	18.8	14.1	40.1	54.2	2.5	0.9
	高校2年生-いない	2700	96.5	83.3	15.9	10.5	45.3	48.3	2.1	0.3
	定時制高校2年生相当-いる	11	100.0	54.5	9.1	9.1	36.4	72.7	0.0	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	88.9	66.7	8.9	6.7	62.2	44.4	6.7	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(5) 健康状態

健康状態について、「よい」「まあよい」を合わせた割合をみると、「小学6年生」は82.6%、「中学2年生」は74.9%、「高校2年生」は71.2%、「定時制高校2年生相当」は51.7%となっている。

図表 14 健康状態:単数回答 (Q6)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 15 世話をしている家族の有無別 健康状態:単数回答 (Q6)

	合計	Q6.健康状態						よい+まあよい	ふつう	あまりよくない+よくない	
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答				
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	63.2	17.8	14.4	3.1	0.9	0.6	81.0	14.4	4.0
	小学6年生-いない	3694	68.0	15.2	14.0	2.2	0.2	0.4	83.2	14.0	2.4
	中学2年生-いる	533	49.0	21.0	22.1	5.4	1.5	0.9	70.0	22.1	6.9
	中学2年生-いない	3318	55.8	20.1	18.8	4.4	0.5	0.4	75.9	18.8	4.9
	高校2年生-いる	319	47.3	20.1	24.1	6.6	1.3	0.6	67.4	24.1	7.8
	高校2年生-いない	2700	48.0	23.8	22.6	4.5	0.7	0.5	71.8	22.6	5.1
	定時制高校2年生相当-いる	11	27.3	18.2	54.5	0.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	33.3	22.2	35.6	6.7	0.0	2.2	55.6	35.6	6.7

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

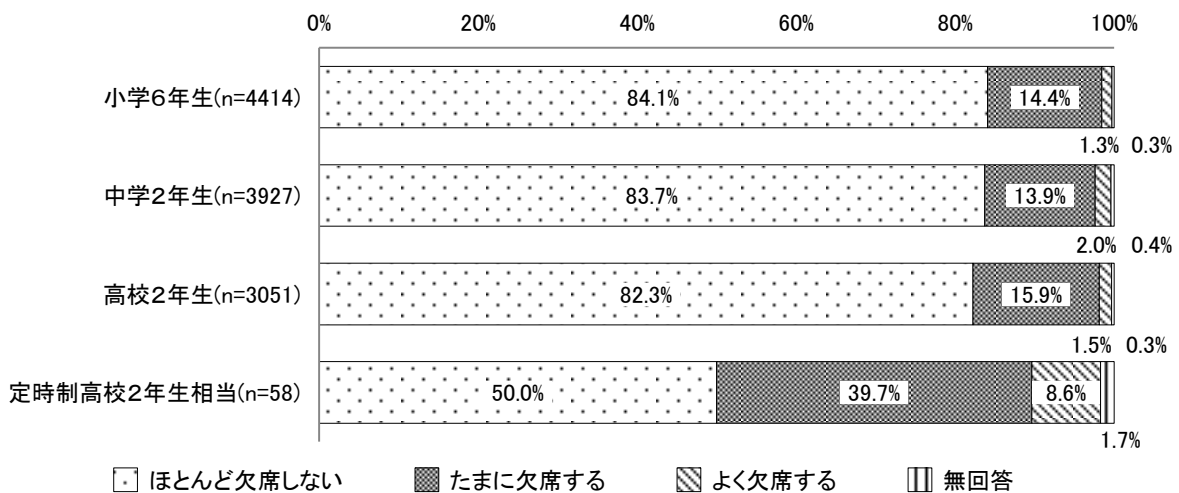
3. 普段の生活の状況

(1) 学校への通学状況

① 出席状況

学校の出席状況をみると、いずれも「ほとんど欠席をしない」の割合が高く、「小学6年生」は84.1%、「中学2年生」は83.7%、「高校2年生」は82.3%、「定時制高校2年生相当」は50.0%となっている。

図表 16 ①欠席の状況:単数回答 (Q7_1)



世話をしている家族の有無別に学校を欠席することはあるかをみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」は、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、若干「たまに欠席する」の割合が高い。

図表 17 世話をしている家族の有無別 ①欠席の状況:単数回答 (Q7_1)

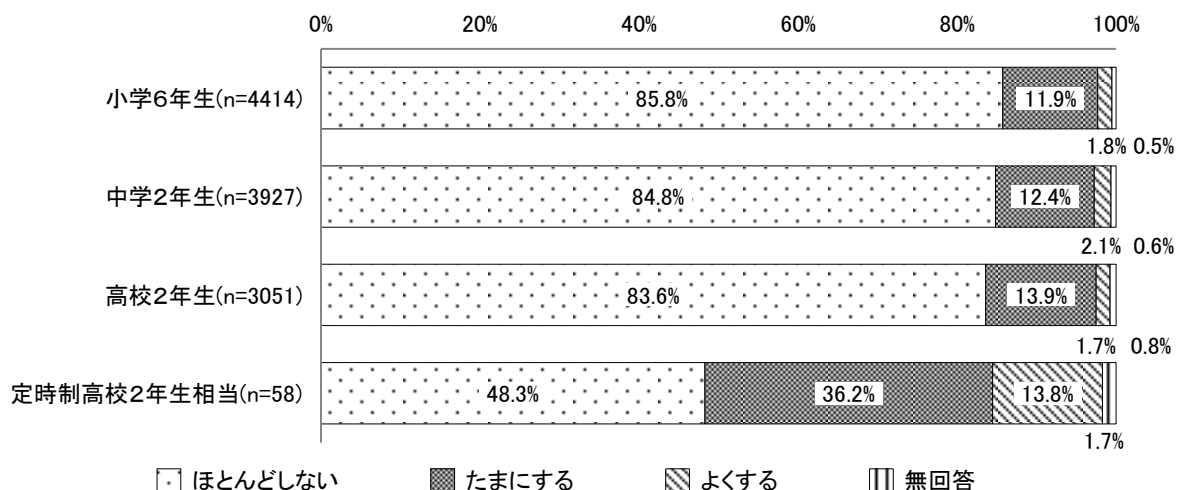
学年×お世話の有無	合計	Q7_1. ①欠席について			
		ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
小学6年生-いる	646	78.5	19.0	2.2	0.3
小学6年生-いない	3694	85.1	13.5	1.1	0.2
中学2年生-いる	533	78.6	18.0	2.6	0.8
中学2年生-いない	3318	84.9	13.1	1.8	0.2
高校2年生-いる	319	76.2	20.4	3.4	0.0
高校2年生-いない	2700	83.3	15.3	1.2	0.1
定時制高校2年生相当-いる	11	36.4	45.5	18.2	0.0
定時制高校2年生相当-いない	45	53.3	40.0	6.7	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 遅刻や早退の状況

学校を遅刻や早退することはあるかをみると、いずれも「ほとんどしない」の割合が高く、「小学6年生」は85.8%、「中学2年生」は84.8%、「高校2年生」は83.6%、「定時制高校2年生相当」は48.3%となっている。

図表 18 ②遅刻や早退の状況:単数回答 (Q7_2)



世話をしている家族の有無別に学校を遅刻や早退することはあるかをみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」は世話をしている家族が「いる」と回答した方が、若干「たまにする」の割合が高い。

図表 19 世話をしている家族の有無別 ②遅刻や早退の状況:単数回答 (Q7_2)

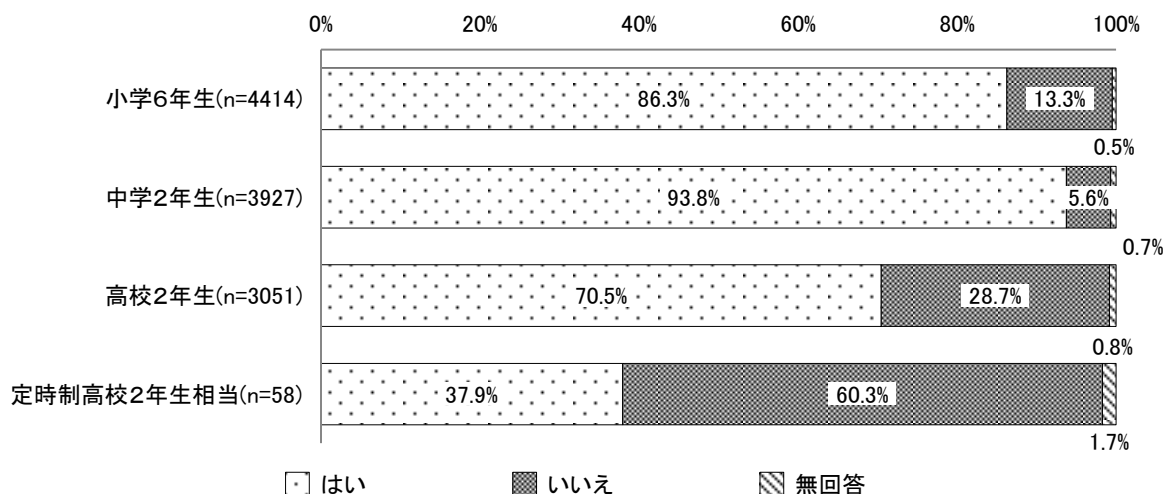
学年×お世話の有無	合計	Q7_2.②遅刻や早退について			
		ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
小学6年生-いる	646	80.2	16.7	2.5	0.6
小学6年生-いない	3694	87.0	10.9	1.6	0.5
中学2年生-いる	533	77.9	18.8	2.4	0.9
中学2年生-いない	3318	86.3	11.3	2.0	0.4
高校2年生-いる	319	77.7	17.6	3.4	1.3
高校2年生-いない	2700	84.7	13.4	1.5	0.4
定時制高校2年生相当-いる	11	27.3	63.6	9.1	0.0
定時制高校2年生相当-いない	45	55.6	31.1	13.3	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(2) 習い事や課外活動（部活動を含む）の状況

習い事や課外活動（部活動を含む）をしているかをみると、「はい」と回答した割合は、「小学6年生」は86.3%、「中学2年生」は93.8%、「高校2年生」は70.5%、「定時制高校2年生相当」は37.9%となっている。

図表 20 習い事や課外活動（部活動を含む）の状況:単数回答 (Q8)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 21 世話をしている家族の有無別 習い事や課外活動（部活動を含む）の状況:単数回答 (Q8)

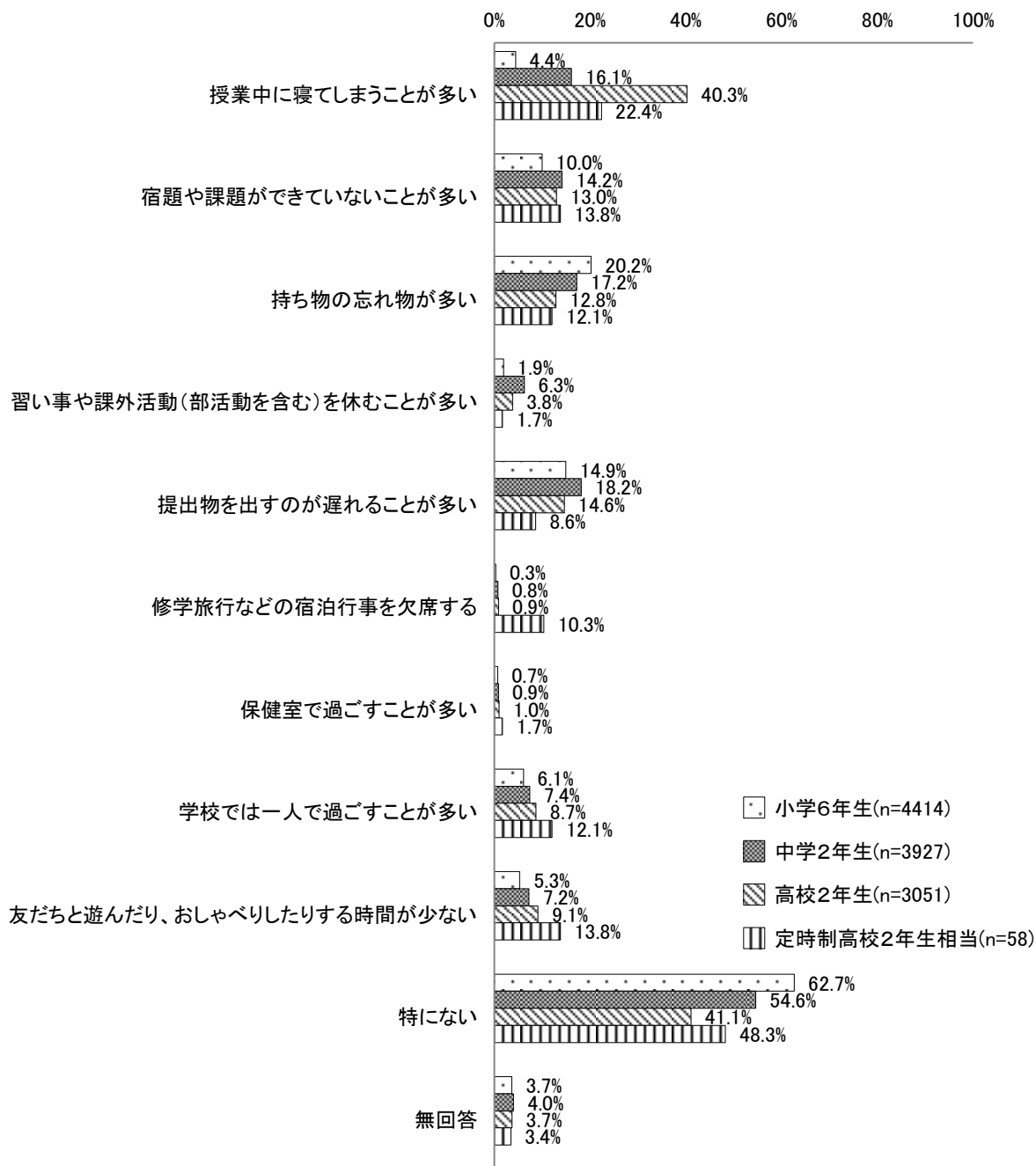
		合計	Q8. 習い事や課外活動（部活動を含む）をしているか		
			はい	いいえ	無回答
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	84.4	15.3	0.3
	小学6年生-いない	3694	86.7	12.8	0.5
	中学2年生-いる	533	93.2	6.0	0.8
	中学2年生-いない	3318	94.2	5.4	0.5
	高校2年生-いる	319	69.0	30.4	0.6
	高校2年生-いない	2700	71.0	28.4	0.6
	定時制高校2年生相当-いる	11	63.6	36.4	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	31.1	68.9	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(3) 学校生活の状況

ふだんの学校生活の状況をみると、いずれも「特にない」の割合が高いが、「高校2年生」は「授業中に寝てしまうことが多い」も40.3%で割合が高い。

図表 22 学校生活の状況:複数回答 (Q9)



世話をしている家族の有無別にふだんの学校生活の状況を見ると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「特にない」の割合が低い傾向にあり、何らかの課題に該当している場合の多いことがうかがえる。

図表 23 世話をしている家族の有無別 学校生活の状況:複数回答 (Q9)

	合計	Q9.ふだんの学校生活											無回答
		授業中に寝てしまうことが多い	宿題や課題が多い	持ち物の忘れ物が多い	休むことが多い(部活動を含む)	習い事や課外活動が多い	提出物を出すのが遅い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友達と遊んだり、おしゃべりする時間が少ない	特にない	
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	5.7	13.5	24.5	2.2	20.3	0.6	0.9	7.1	6.0	56.2	3.4
	小学6年生-いない	3694	4.0	9.1	19.2	1.9	13.9	0.2	0.6	5.8	5.1	64.1	3.7
	中学2年生-いる	533	20.8	22.3	20.5	8.4	26.3	2.1	1.5	8.6	8.4	46.5	3.0
	中学2年生-いない	3318	15.3	12.8	16.7	5.9	16.8	0.6	0.8	7.3	7.2	56.2	3.9
	高校2年生-いる	319	43.3	14.7	15.7	6.0	16.9	1.3	1.9	7.8	10.7	35.1	3.1
	高校2年生-いない	2700	40.0	12.7	12.4	3.6	14.3	0.9	0.9	8.9	9.0	41.9	3.5
	定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	18.2	36.4	9.1	18.2	27.3	9.1	9.1	9.1	45.5	9.1
	定時制高校2年生相当-いない	45	26.7	13.3	4.4	0.0	4.4	6.7	0.0	13.3	15.6	51.1	0.0

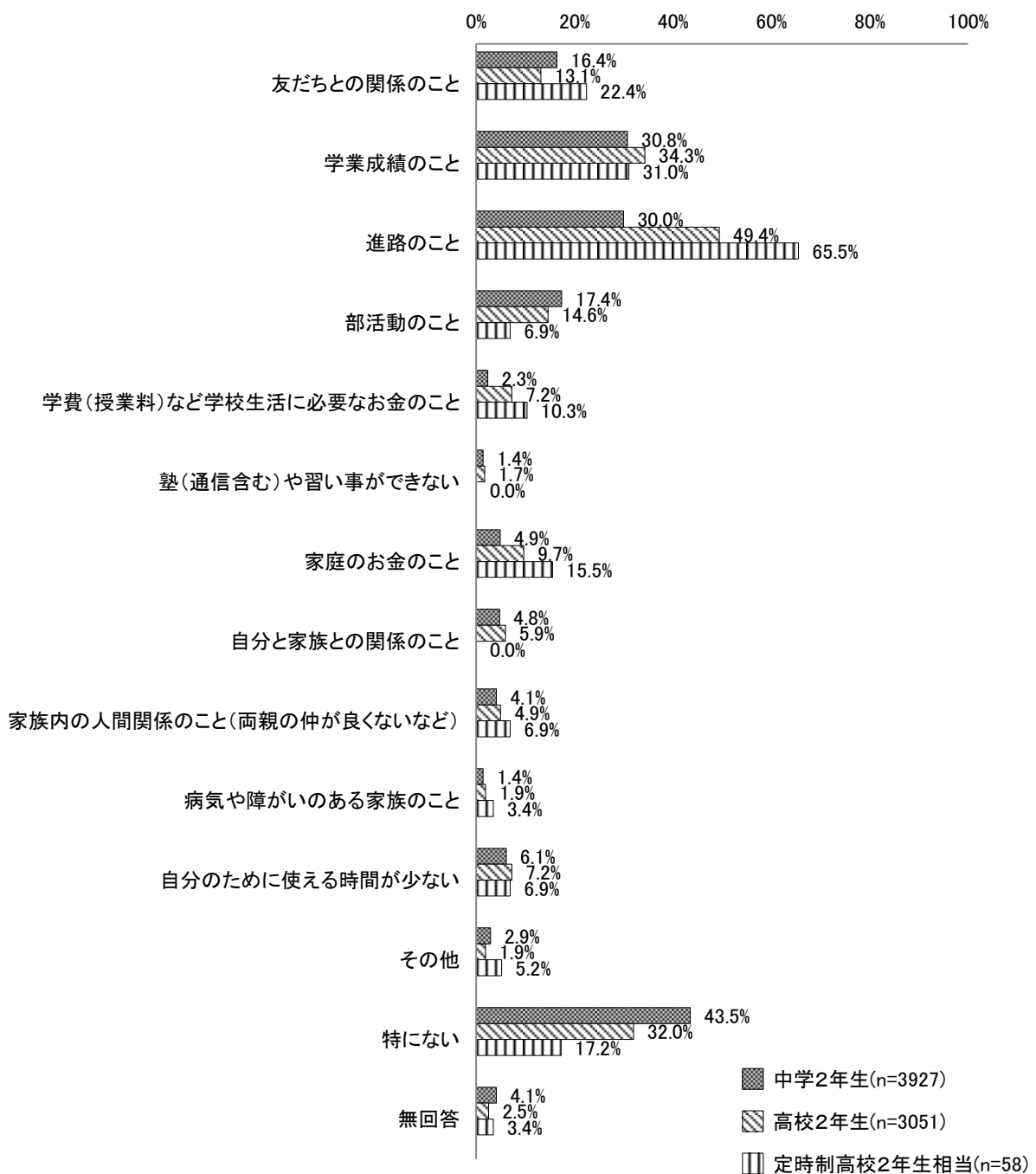
※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(4) 現在、悩んだり困っていること

① 中学生・高校生

中学生・高校生について、現在、悩んだり、困っていることをみると、「中学2年生」では、「特にない」が43.5%でもっとも割合が高く、次いで「学業成績のこと」が30.8%となっている。「高校2年生」では、「進路のこと」が49.4%でもっとも割合が高く、次いで「学業成績のこと」が34.3%となっている。「定時制高校2年生相当」では、「進路のこと」が65.5%でもっとも割合が高く、次いで「学業成績のこと」が31.0%となっている。

図表 24 (中学生・高校生) 現在、悩んだり困っていること:複数回答 (Q10_1)



中学生・高校生について、世話をしている家族の有無別に現在、悩んだり、困っていることをみると、「中学2年生」は、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「学業成績のこと」「進路のこと」の割合が高い。「高校2年生」は、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「家庭のお金のこと」の割合がやや高い。

図表 25 (中学生・高校生) 世話をしている家族の有無別
現在、悩んだり困っていること:複数回答 (Q10_1)

		合計	Q10_1. (中学生・高校生) 現在、悩んだり困っていること						
			こ 友 と だ ち の 関 係 の	学 業 成 績 の こ と	進 路 の こ と	部 活 動 の こ と	な お 金 の こ と	学 費 学 校 生 活 に 必 要 な	習 熟 い 事 が で き な い や
学年×お世 話の有無	中学2年生-いる	533	20.6	40.2	37.0	21.8	2.8	3.2	7.1
	中学2年生-いない	3318	15.9	29.4	29.2	16.7	2.2	1.1	4.6
	高校2年生-いる	319	17.2	35.7	48.9	15.4	11.0	1.6	15.7
	高校2年生-いない	2700	12.7	34.3	49.7	14.6	6.8	1.7	9.1
	定時制高校2年生相当-いる	11	27.3	45.5	72.7	9.1	18.2	0.0	27.3
	定時制高校2年生相当-いない	45	22.2	28.9	66.7	6.7	8.9	0.0	13.3

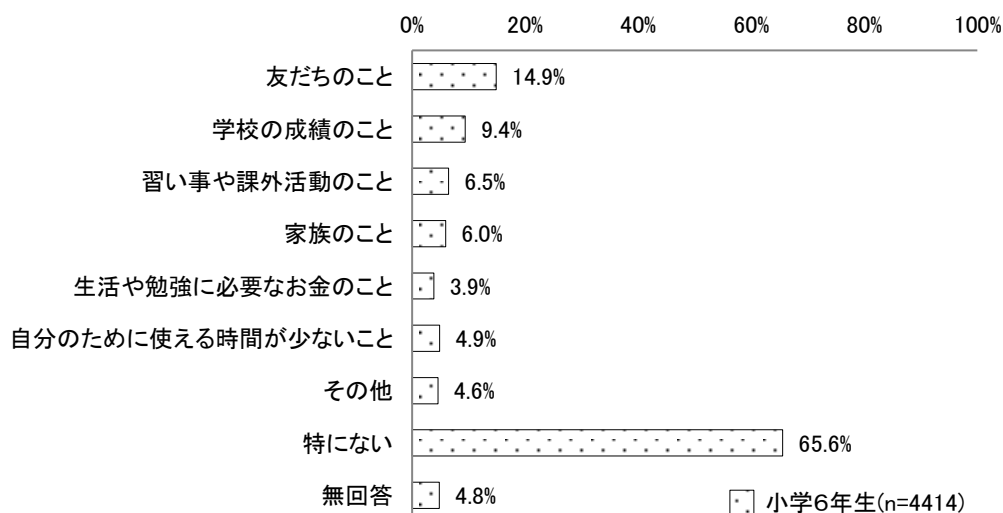
		合計	Q10_1. (中学生・高校生) 現在、悩んだり困っていること						
			こ 自 分 と 家 族 と の 関 係 の	い と 家 族 内 の 人 間 が 良 く な い な ど	家 族 の 病 気 や 障 が い の あ る 家	間 自 分 が 少 な い た め に 使 え る 時	そ の 他	特 に な い	無 回 答
学年×お世 話の有無	中学2年生-いる	533	7.3	6.2	2.3	9.4	2.6	31.0	2.4
	中学2年生-いない	3318	4.3	3.8	1.3	5.5	2.9	45.7	4.0
	高校2年生-いる	319	9.7	8.2	5.3	8.5	2.8	28.5	1.9
	高校2年生-いない	2700	5.6	4.6	1.5	7.1	1.8	32.4	2.3
	定時制高校2年生相当-いる	11	0.0	18.2	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	0.0	4.4	2.2	6.7	4.4	17.8	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 小学生

小学6年生について、現在、悩んだり、困っていることをみると、「友だちのこと」が14.9%、「学校の成績のこと」が9.4%となっている。

図表 26 (小学生) 悩んでいること:複数回答 (Q10_2)



世話をしている家族の有無別では、世話をしている家族が「いない」と回答した方が、「特にない」の割合が高い。

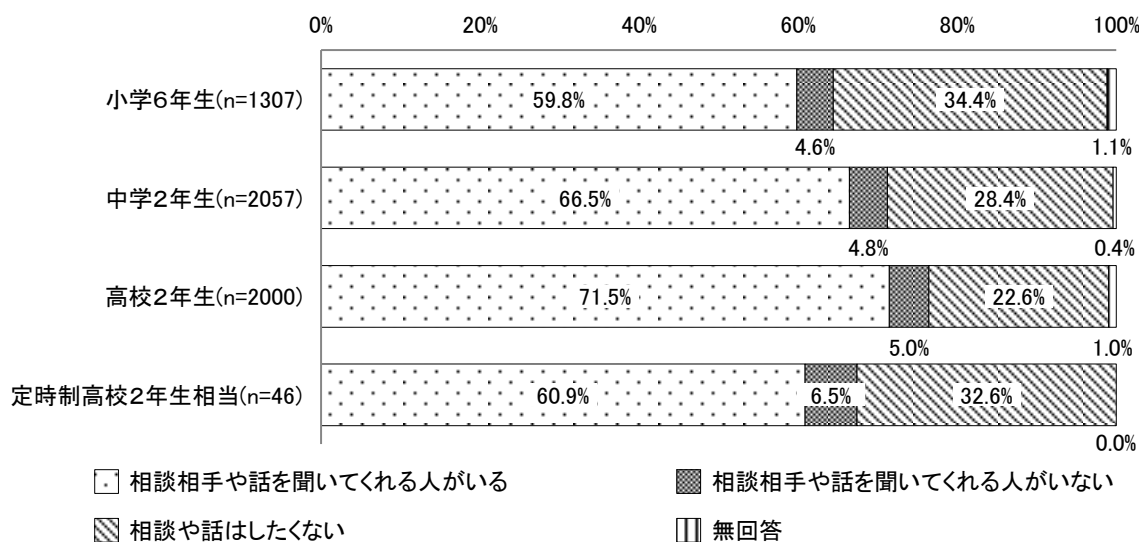
図表 27 (小学生) 世話をしている家族の有無別 悩んでいること:複数回答 (Q10_2)

		合計	Q10_2. (小学生) 悩んでいること								
			友だちのこと	学校の成績のこと	習い事や課外活動のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	少ない時間	自分のために	その他	特にない
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	19.5	13.2	7.4	8.4	6.3	7.7	6.0	58.2	5.4
	小学6年生-いない	3894	14.0	8.6	6.2	5.5	3.3	4.3	4.3	67.6	4.7

(5) 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩み事があると回答した人について、悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいるかをみると、「いる」と回答した割合は、「小学6年生」では 59.8%、「中学2年生」では、66.5%、「高校2年生」では 71.5%、「定時制高校2年生相当」では 60.9%となっている。

図表 28 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人の有無:単数回答 (Q11)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 29 世話をしている家族の有無別

悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人の有無:単数回答 (Q11)

学年×お世話の有無	合計	Q11. 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいるか			
		相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話はしたくない	無回答
小学6年生-いる	248	59.3%	7.7%	32.3%	0.8%
小学6年生-いない	1026	60.6%	4.0%	34.2%	1.2%
中学2年生-いる	355	65.4%	5.1%	29.3%	0.3%
中学2年生-いない	1669	66.6%	4.8%	28.2%	0.4%
高校2年生-いる	222	70.3%	5.0%	24.8%	0.0%
高校2年生-いない	1765	71.6%	5.0%	22.4%	1.0%
定時制高校2年生相当-いる	9	33.3%	11.1%	55.6%	0.0%
定時制高校2年生相当-いない	36	66.7%	5.6%	27.8%	0.0%

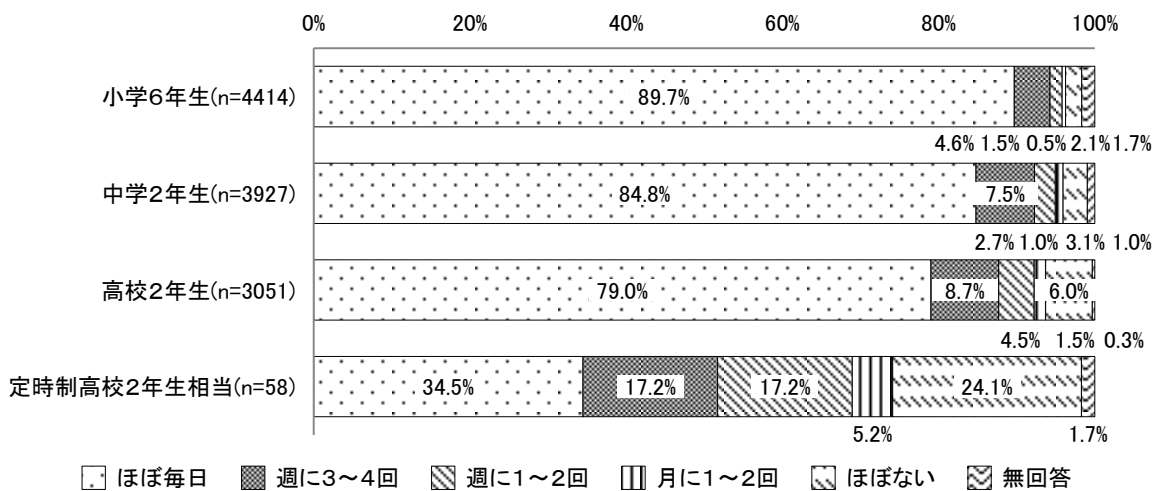
※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(6) 日常生活の状況

① 朝ごはんを食べること

ふだんの生活より「朝ごはんを食べること」をみると、「ほぼ毎日」と回答した割合は、「小学6年生」では 89.7%、「中学2年生」では 84.8%、「高校2年生」では 79.0%、「定時制高校2年生相当」では 34.5%となっている。

図表 30 ふだんの生活／①朝ごはんを食べること：単数回答 (Q12_1)



世話をしている家族の有無別に、ふだんの生活より「朝ごはんを食べること」をみると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「ほぼ毎日」の割合が低い傾向にある。

図表 31 世話をしている家族の有無別
ふだんの生活／①朝ごはんを食べること：単数回答 (Q12_1)

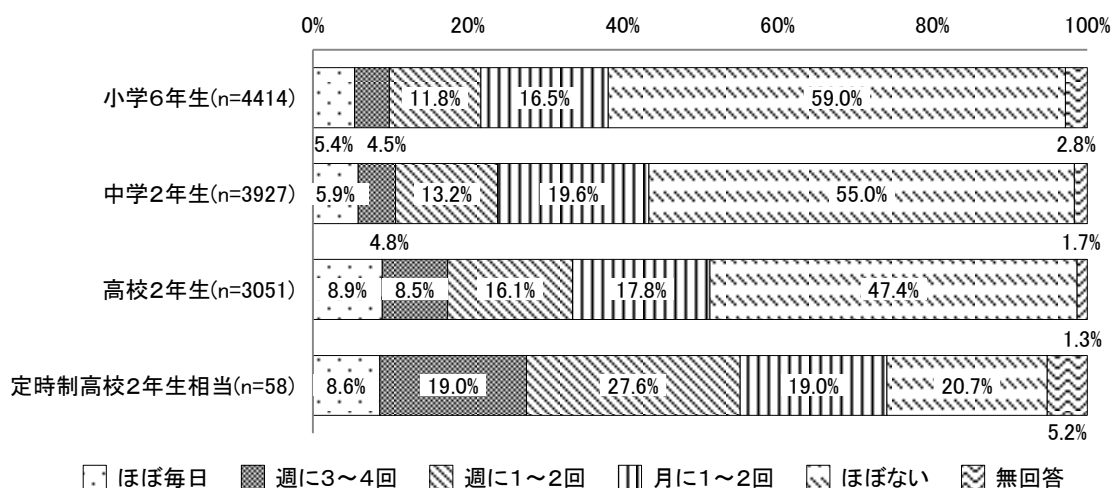
	合計	Q12_1.ふだんの生活／①朝ごはんを食べること						
		ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	ほぼない	無回答	
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	83.4	6.7	3.4	0.5	3.1	2.9
	小学6年生-いない	3694	91.4	3.9	1.1	0.4	1.8	1.4
	中学2年生-いる	533	80.3	9.8	3.9	1.7	3.9	0.4
	中学2年生-いない	3318	86.6	6.6	2.3	0.8	2.9	0.8
	高校2年生-いる	319	74.0	12.2	6.0	1.3	6.6	0.0
	高校2年生-いない	2700	80.0	8.2	4.4	1.5	5.9	0.1
	定時制高校2年生相当-いる	11	27.3	36.4	9.1	0.0	27.3	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	37.8	13.3	17.8	6.7	24.4	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 自分が食べるためのごはんをつくること

ふだんの生活より「自分が食べるためのごはんをつくること」をみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」は「ほぼ毎日」の割合が高く、それぞれ 59.0%、55.0%、47.4%となっている。「定時制高校2年生相当」では、「週に1～2回」が 27.6%でもっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が 20.7%となっている。

図表 32 ふだんの生活／②自分が食べるためのごはんをつくること：単数回答 (Q12_2)



世話をしている家族の有無別に、ふだんの生活より「自分が食べるためのごはんをつくること」をみると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「ほぼ毎日」の割合が高い傾向にあり、「小学6年生」は 11.3%、「中学2年生」は 10.9%、「高校2年生」は 20.1%となっている。

図表 33 世話をしている家族の有無別
ふだんの生活／②自分が食べるためのごはんをつくること：単数回答 (Q12_2)

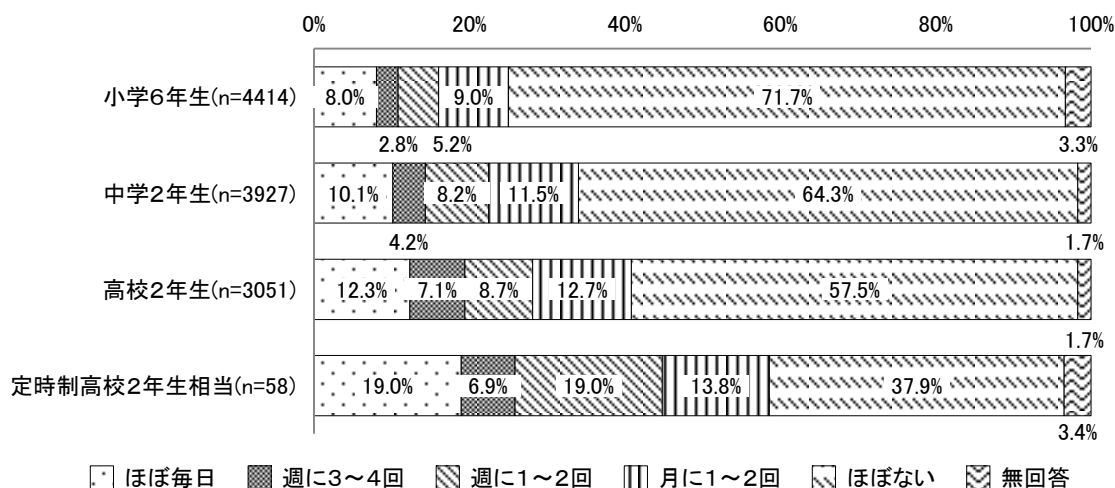
学年×お世話の有無	合計	Q12_2.ふだんの生活／②自分が食べるためのごはんをつくること					
		ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	ほぼない	無回答
小学6年生-いる	646	11.3	7.7	15.2	15.2	45.8	4.8
小学6年生-いない	3894	4.4	3.9	11.1	16.6	61.7	2.4
中学2年生-いる	533	10.9	8.3	15.8	17.3	46.7	1.1
中学2年生-いない	3318	5.1	4.1	12.8	19.9	56.5	1.5
高校2年生-いる	319	20.1	12.5	16.6	12.9	35.4	2.5
高校2年生-いない	2700	7.6	8.0	16.2	18.4	49.0	0.9
定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	18.2	18.2	27.3	18.2	9.1
定時制高校2年生相当-いない	45	8.9	20.0	28.9	17.8	22.2	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

③ 自分が着た服を洗濯すること

ふだんの生活より「自分が着た服を洗濯すること」をみると、いずれも「ほぼ毎日」の割合が高く、「小学6年生」では71.7%、「中学2年生」では64.3%、「高校2年生」では57.5%、「定時制高校2年生相当」では37.9%となっている。

図表 34 ふだんの生活／③自分が着た服を洗濯すること:単数回答 (Q12_3)



世話をしている家族の有無別に、ふだんの生活より「自分が着た服を洗濯すること」をみると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「ほぼ毎日」の割合が高い傾向にあり、「小学6年生」は15.8%、「中学2年生」は17.1%、「高校2年生」は26.0%となっている。

図表 35 世話をしている家族の有無別
ふだんの生活／③自分が着た服を洗濯すること:単数回答 (Q12_3)

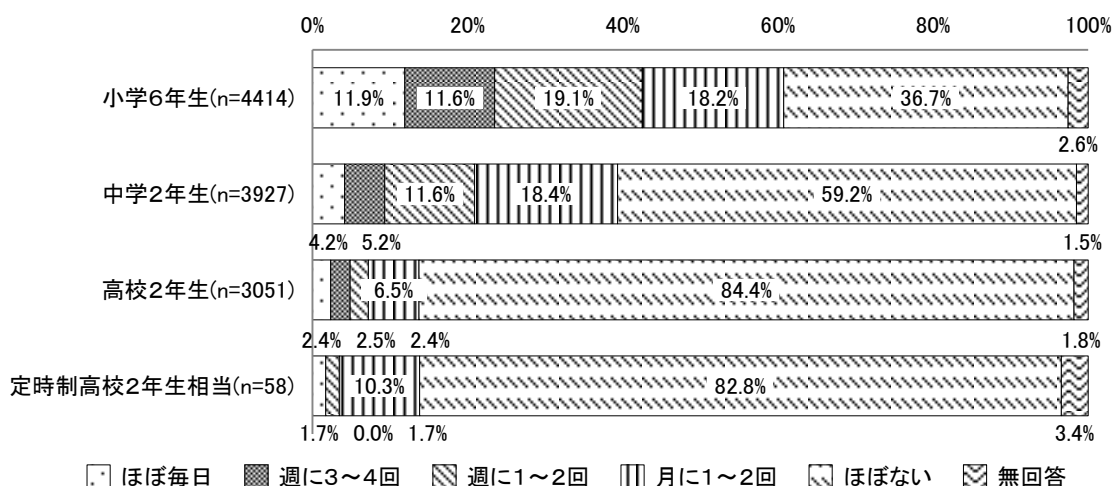
		合計	Q12_3.ふだんの生活／③自分が着た服を洗濯すること					
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	ほぼない	無回答
学年×お世 話の有無	小学6年生-いる	646	15.8	5.6	6.0	10.5	57.1	5.0
	小学6年生-いない	3694	6.7	2.3	5.0	8.8	74.3	2.9
	中学2年生-いる	533	17.1	6.2	8.4	12.4	54.2	1.7
	中学2年生-いない	3318	9.0	3.8	8.1	11.3	66.2	1.4
	高校2年生-いる	319	26.0	9.7	9.1	11.9	40.4	2.8
	高校2年生-いない	2700	10.7	6.8	8.7	12.7	59.9	1.2
	定時制高校2年生相当-いる	11	27.3	0.0	27.3	18.2	27.3	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	17.8	8.9	17.8	13.3	40.0	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

④ おうちの大人の人に勉強をみてもらうこと

ふだんの生活より「おうちの大人の人に勉強をみてもらうこと」をみると、「小学6年生」では、「ほぼない」が36.7%、「週に1～2回」が19.1%、「月に1～2回」が18.2%となっている。「中学2年生」では、「ほぼない」が59.2%、「月に1～2回」が18.4%となっている。「高校2年生」「定時制高校2年生相当」は「ほぼない」が8割を超えており、それぞれ、84.4%、82.8%となっている。

図表 36 ふだんの生活／④おうちの大人の人に勉強をみてもらうこと：単数回答 (Q12_4)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 37 世話をしている家族の有無別

ふだんの生活／④おうちの大人の人に勉強をみてもらうこと：単数回答 (Q12_4)

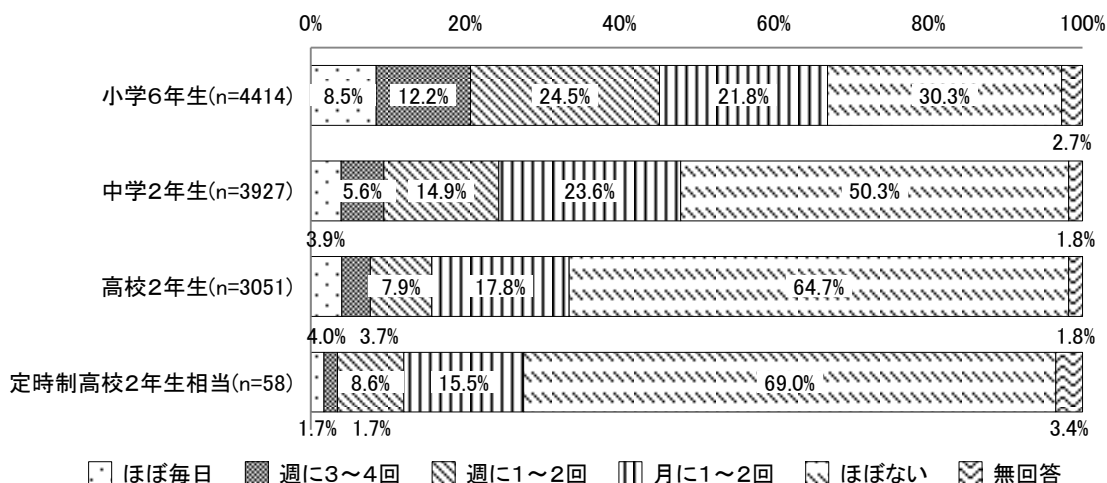
		合計	Q12_4.ふだんの生活／④おうちの大人の人に勉強をみてもらうこと					
			ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
学年×お世 話の有無	小学6年生-いる	646	10.8	11.9	15.9	17.8	39.3	4.2
	小学6年生-いない	3694	12.2	11.5	19.7	18.4	36.0	2.3
	中学2年生-いる	533	5.1	5.6	11.4	16.9	59.8	1.1
	中学2年生-いない	3318	4.0	5.2	11.6	18.9	59.0	1.3
	高校2年生-いる	319	5.3	4.7	2.5	5.6	79.0	2.8
	高校2年生-いない	2700	2.0	2.2	2.4	6.7	85.4	1.3
	定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	0.0	0.0	0.0	90.9	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	0.0	0.0	2.2	13.3	82.2	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

⑤ おうちの大人の人と一緒に遊んだり体を動かすこと

ふだんの生活より「おうちの大人の人と一緒に遊んだり体を動かすこと」をみると、「小学6年生」では、「ほぼない」が30.3%、「週に1～2回」が24.5%、「月に1～2回」が21.8%となっている。「中学2年生」では、「ほぼない」が50.3%、「月に1～2回」が23.6%となっている。「高校2年生」では、「ほぼない」が64.7%、「月に1～2回」が17.8%となっている。「定時制高校2年生相当」では、「ほぼない」が69.0%、「月に1～2回」が15.5%となっている。

図表 38 ふだんの生活／⑤おうちの大人の人と一緒に遊んだり体を動かすこと：単数回答（Q12_5）



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 39 世話をしている家族の有無別

ふだんの生活／⑤おうちの大人の人と一緒に遊んだり体を動かすこと：単数回答（Q12_5）

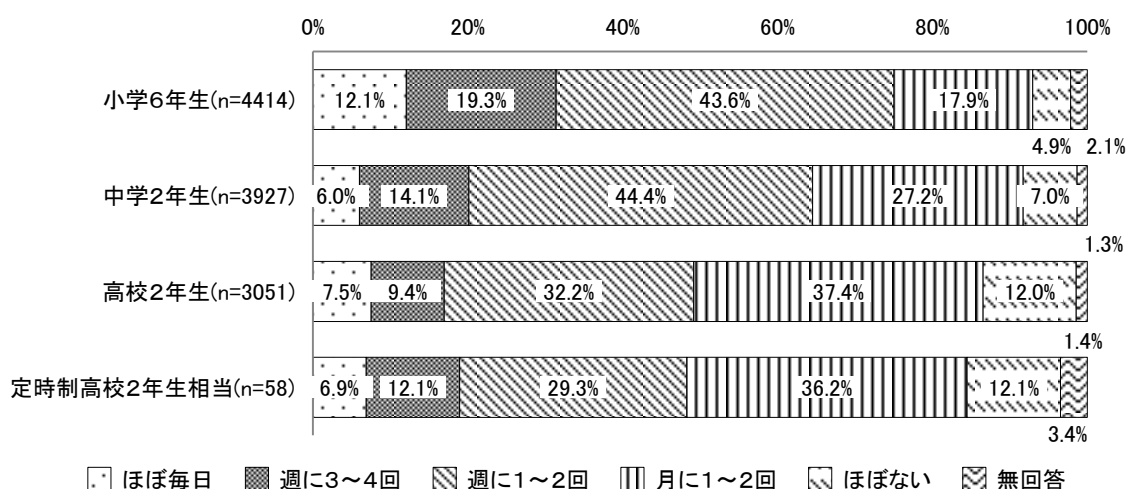
		合計	Q12_5.ふだんの生活／⑤おうちの大人の人と一緒に遊んだり体を動かすこと					
			ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答
学年×お世 話の有無	小学6年生-いる	646	11.8	13.8	19.8	18.9	31.3	4.5
	小学6年生-いない	3694	7.9	12.0	25.4	22.5	29.9	2.3
	中学2年生-いる	533	5.8	6.9	14.6	19.5	51.8	1.3
	中学2年生-いない	3318	3.6	5.4	15.0	24.4	50.2	1.5
	高校2年生-いる	319	8.8	6.6	7.2	16.3	58.0	3.1
	高校2年生-いない	2700	3.4	3.4	8.0	18.0	65.9	1.2
	定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	0.0	9.1	18.2	63.6	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	0.0	2.2	8.9	15.6	71.1	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

⑥ おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）

ふだんの生活より「おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）」をみると、「小学6年生」では、「週に1～2回」が43.6%、「週に3～4回」が19.3%となっている。「中学2年生」では、「週に1～2回」が44.4%、「月に1～2回」が27.2%となっている。「高校2年生」では、「月に1～2回」が37.4%、「週に1～2回」が32.2%となっている。「定時制高校2年生相当」では、「月に1～2回」が36.2%、「週に1～2回」が29.3%となっている。

図表 40 ふだんの生活／⑥おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）
：単数回答（Q12_6）



世話をしている家族の有無別に、ふだんの生活より「おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）」をみると、「高校2年生」で、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「ほぼ毎日」の割合が高い傾向にある。

図表 41 世話をしている家族の有無別
ふだんの生活／⑥おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）
：単数回答（Q12_6）

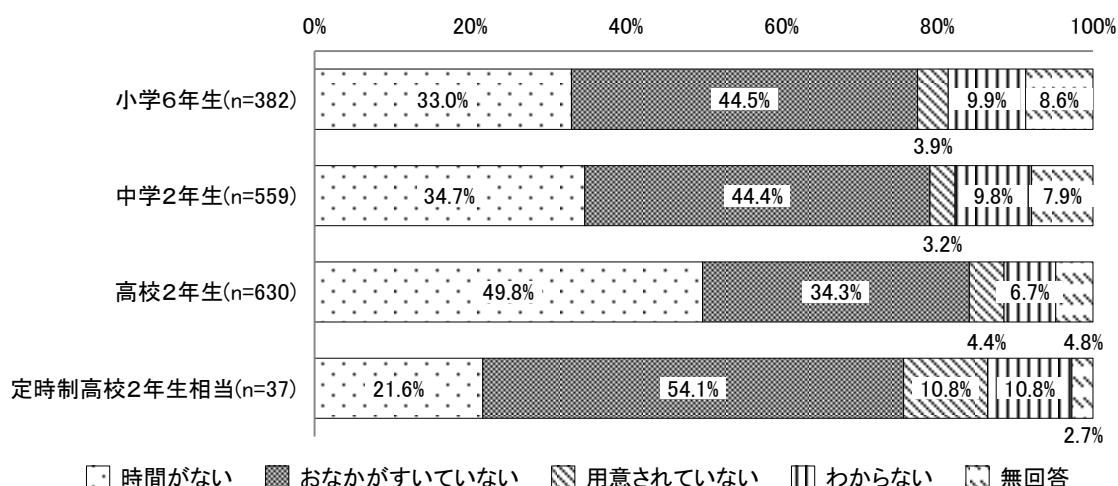
	合計	Q12_6.ふだんの生活／⑥おうちの大人の人と一緒に外出をすること（散歩、買い物、外食など）						
		ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	ほぼない	無回答	
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	17.8	20.7	34.5	17.6	5.6	3.7
	小学6年生-いない	3694	11.2	19.2	45.3	17.8	4.7	1.8
	中学2年生-いる	533	9.9	15.6	43.9	23.6	5.8	1.1
	中学2年生-いない	3318	5.5	13.8	44.6	27.9	7.2	1.0
	高校2年生-いる	319	15.0	10.0	28.2	29.5	15.4	1.9
	高校2年生-いない	2700	6.7	9.3	32.8	38.6	11.7	0.9
	定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	0.0	9.1	54.5	27.3	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	6.7	15.6	33.3	33.3	8.9	2.2

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(7) 朝ごはんを食べない理由

「朝ごはんを食べること」で「ほぼ毎日」以外を選択した人について、朝ごはんを食べない理由をみると、「小学6年生」では、「おなかがすいていない」が44.5%、「時間がない」が33.0%となっている。「中学2年生」では、「おなかがすいていない」が44.4%、「時間がない」が34.7%となっている。「高校2年生」では、「時間がない」が49.8%、「おなかがすいていない」が34.3%となっている。「定時制高校2年生相当」では、「おなかがすいていない」が54.1%となっている。

図表 42 朝ごはんを食べない理由:単数回答 (Q13)



世話をしている家族の有無別では、特に特徴は見られない。

図表 43 世話をしている家族の有無別 朝ごはんを食べない理由:単数回答 (Q13)

学年×お世話の有無	合計	Q13.朝ごはんを食べない理由				
		時間がない	おなかがすいていない	用意されていない	わからない	無回答
小学6年生-いる	88	35.2	37.5	6.8	12.5	8.0
小学6年生-いない	267	31.8	48.3	3.4	8.2	8.2
中学2年生-いる	103	32.0	46.6	4.9	9.7	6.8
中学2年生-いない	419	35.8	43.4	3.1	9.3	8.4
高校2年生-いる	83	48.2	30.1	6.0	10.8	4.8
高校2年生-いない	539	50.3	35.1	4.3	6.1	4.3
定時制高校2年生相当-いる	8	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0
定時制高校2年生相当-いない	28	21.4	50.0	10.7	14.3	3.6

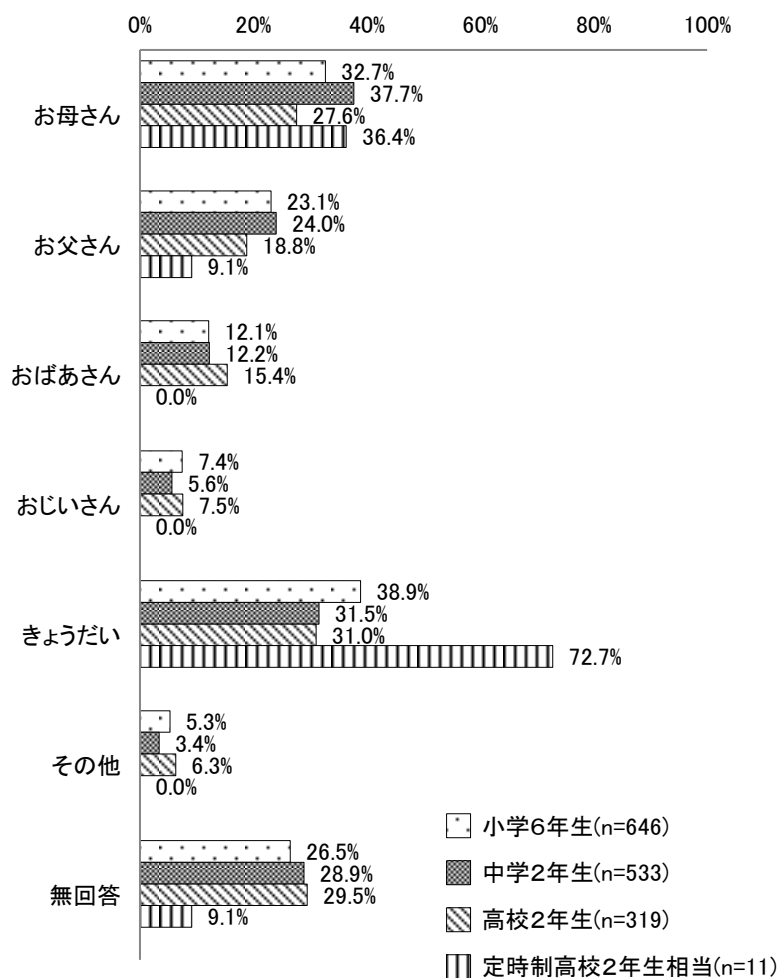
※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

4. 家族のお世話の状況について

(1) お世話をしている人

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、誰にお世話をしているのかをみると、「小学6年生」では、「きょうだい」が 38.9%でもっとも割合が高く、次いで「お母さん」が 32.7%となっている。「中学2年生」では、「お母さん」が 37.7%でもっとも割合が高く、次いで「きょうだい」が 31.5%となっている。「高校2年生」では、「きょうだい」が 31.0%でもっとも割合が高く、次いで「お母さん」が 27.6%となっている。

図表 44 お世話をしている人:複数回答 (Q15_1)



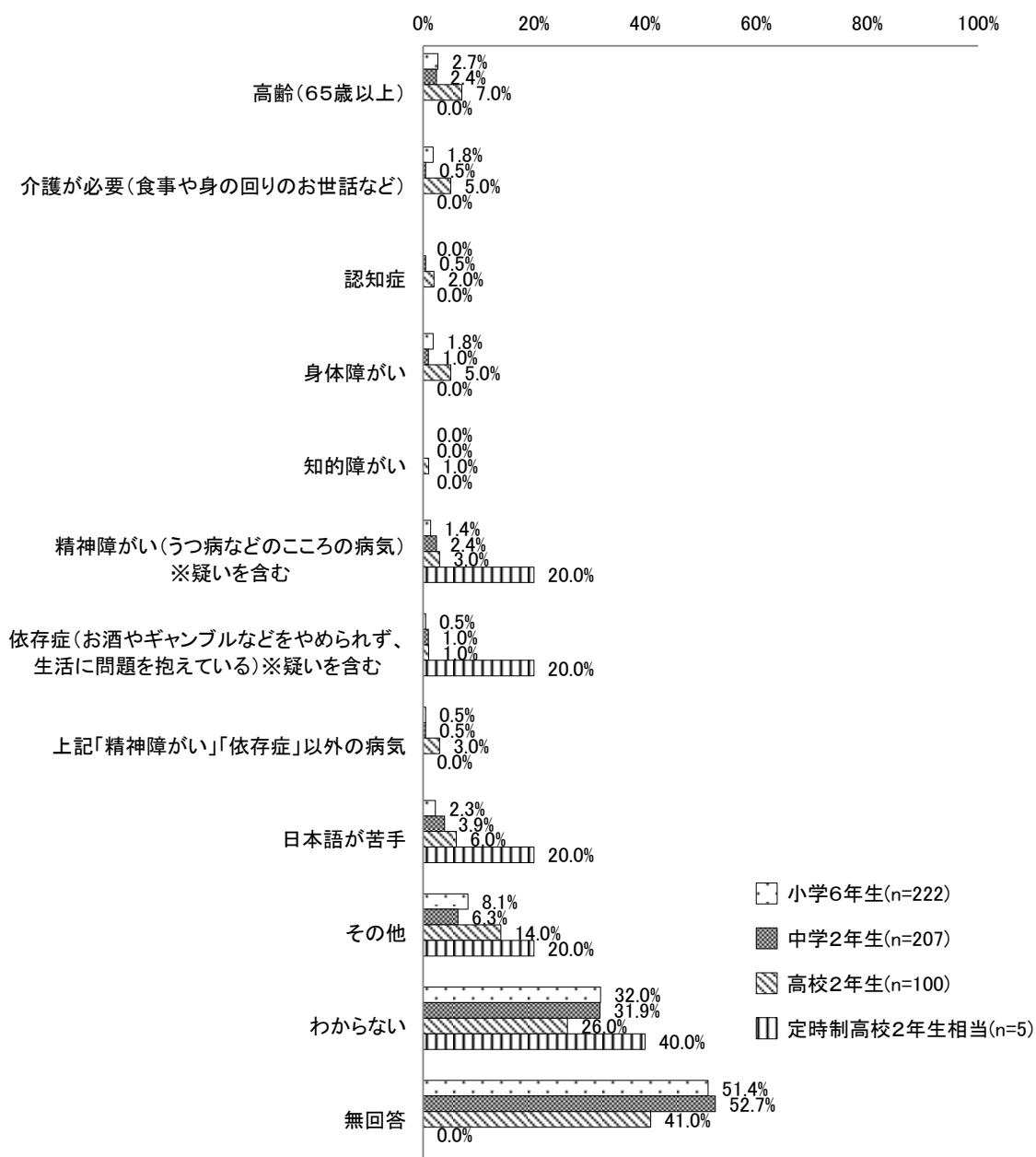
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(2) お世話をしている理由

① 母親、父親

母親もしくは父親を世話している人について、世話をしている理由をみると、いずれも「わからない」の割合が高く、3割前後となっている。

図表 45 母親、父親をお世話している理由:複数回答 (Q15_2_A)



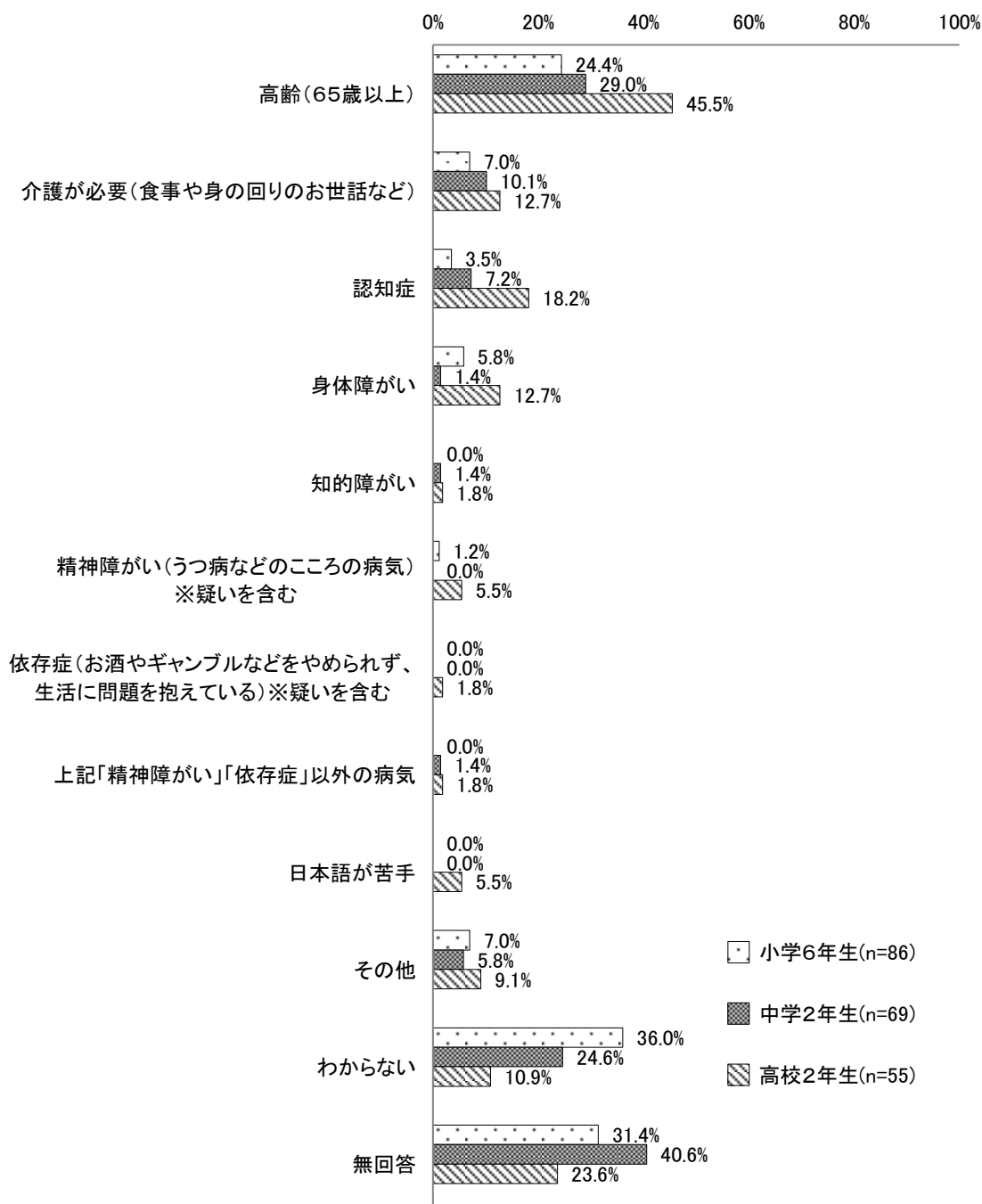
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が5件と少ないため、参考値。

② 祖母、祖父

祖母もしくは祖父を世話している人について、世話をしている理由をみると、「高齢（65歳以上）」の割合が高く、特に「高校2年生」で45.5%となっている。

一方、「小学6年生」は「わからない」の割合が高く、36.0%となっている。

図表 46 祖母、祖父をお世話している理由：複数回答（Q15_2_B）

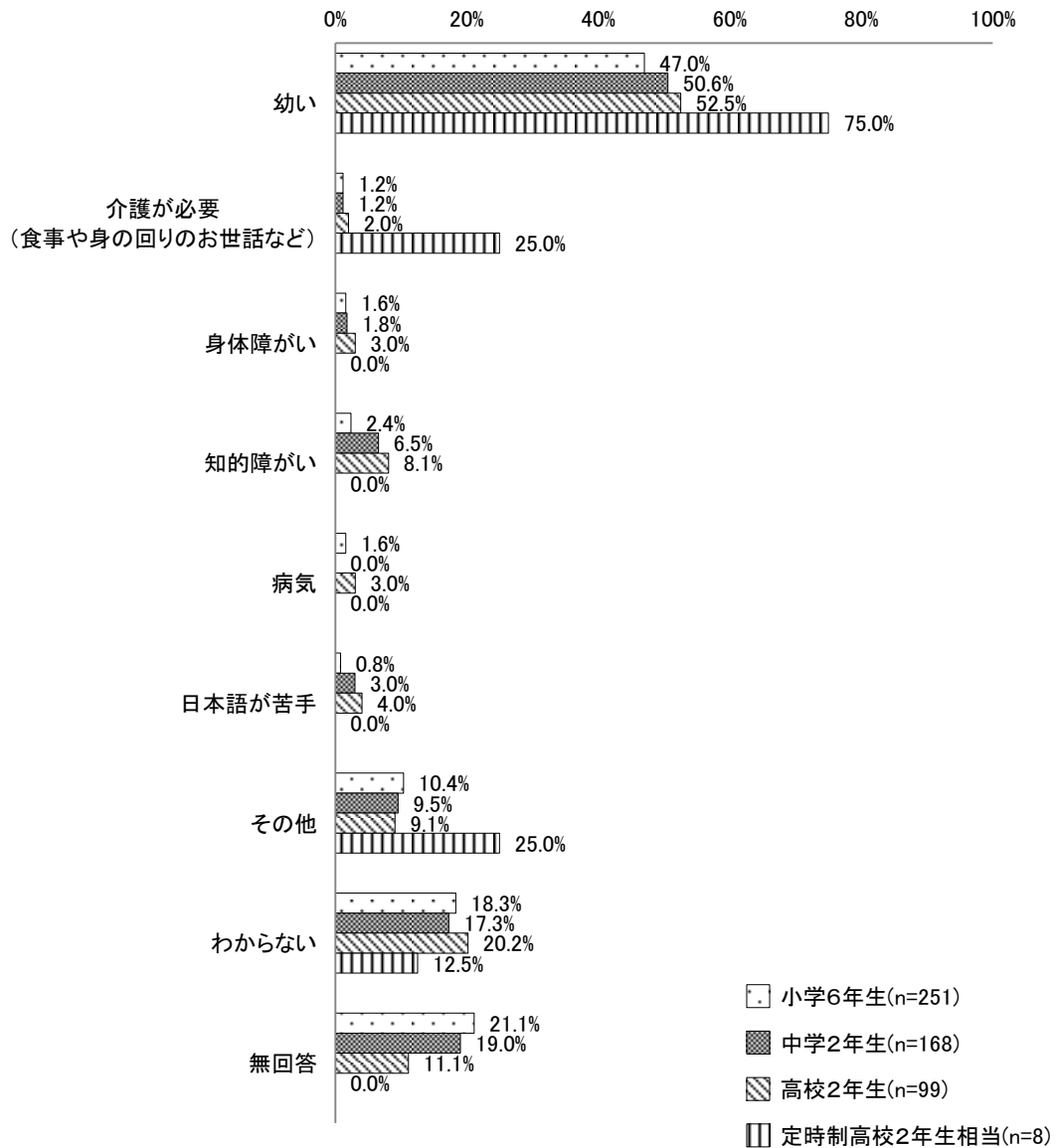


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が0件のため、非掲載。

③ きょうだい

きょうだいを世話している人について、世話をしている理由をみると、いずれも「幼い」の割合が高く、「小学6年生」では47.0%、「中学2年生」では50.6%、「高校2年生」では52.5%となっている。「わからない」も2割前後みられる。

図表 47 きょうだいをお世話している理由：複数回答（Q15_2_C）



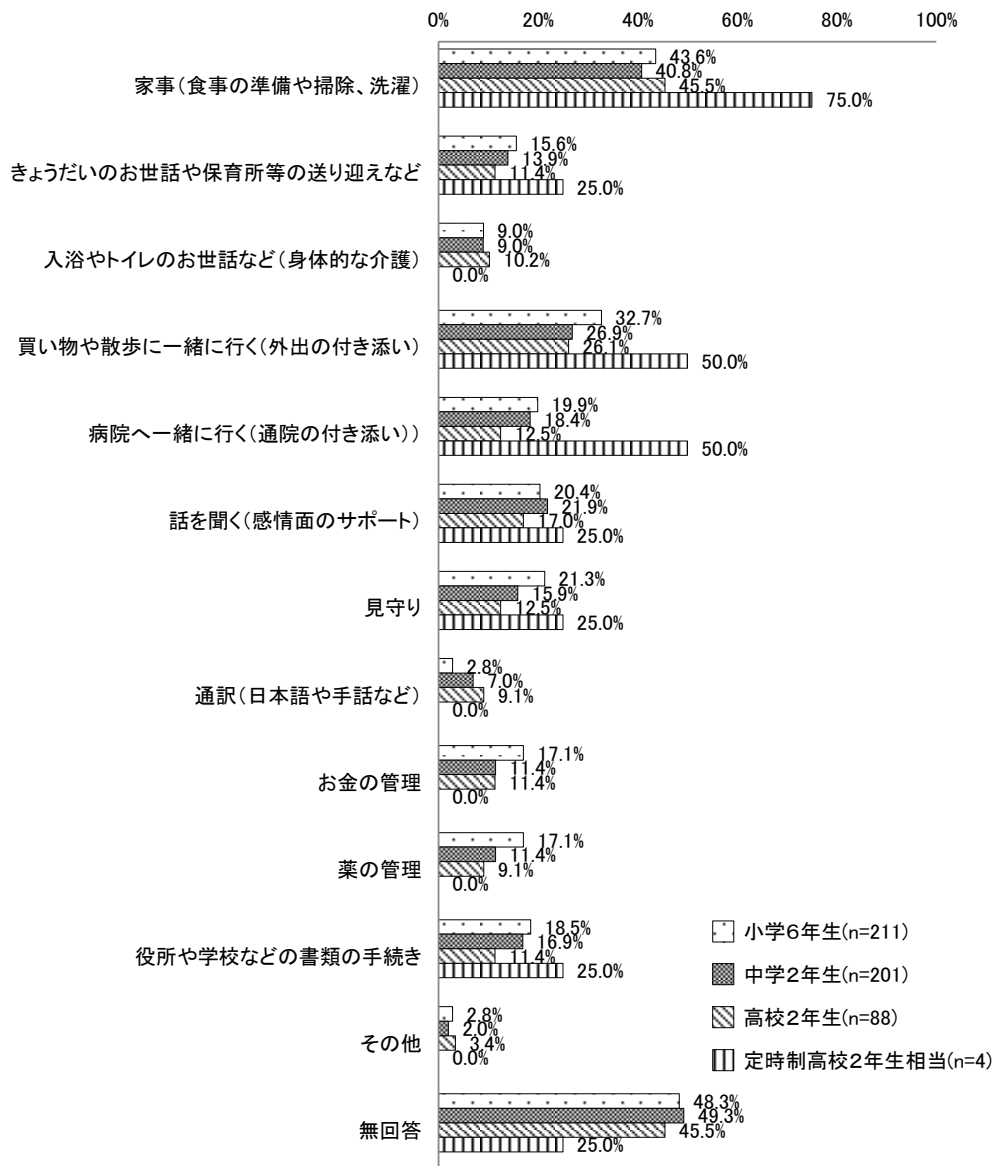
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が8件と少ないため、参考値。

(3) お世話の内容

① 母親

「母親」をお世話している人について、お世話の内容をみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」のいずれも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高く、それぞれ43.6%、40.8%、45.5%となっている。次いで「買い物や散歩と一緒にいく（外出の付き添い）」の割合が高く、それぞれ32.7%、26.9%、26.1%となっている。

図表 48 お世話の内容／母親：複数回答（Q15_B_1）

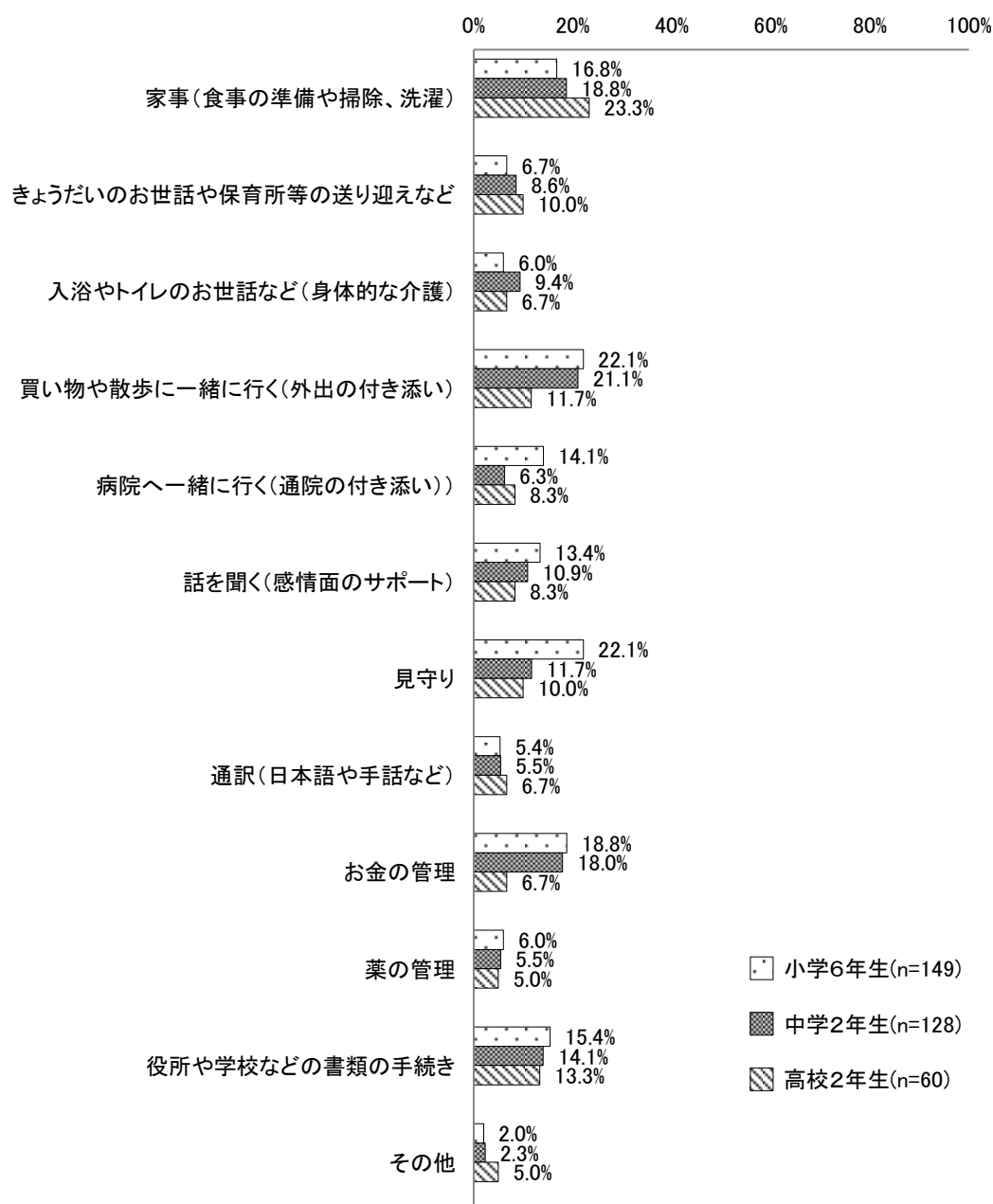


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が4件と少ないため、参考値。

② 父親

「父親」をお世話している人について、お世話の内容をみると、「小学6年生」では、「買い物や散歩に一緒に行く（外出の付き添い）」「見守り」が 22.1%でもっとも割合が高く、次いで「お金の管理」が 18.8%となっている。「中学2年生」では、「買い物や散歩に一緒に行く（外出の付き添い）」が 21.1%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 18.8%となっている。「高校2年生」では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 23.3%でもっとも割合が高く、次いで「役所や学校などの書類の手続き」が 13.3%となっている。

図表 49 お世話の内容／父親：複数回答（Q15_B_2）

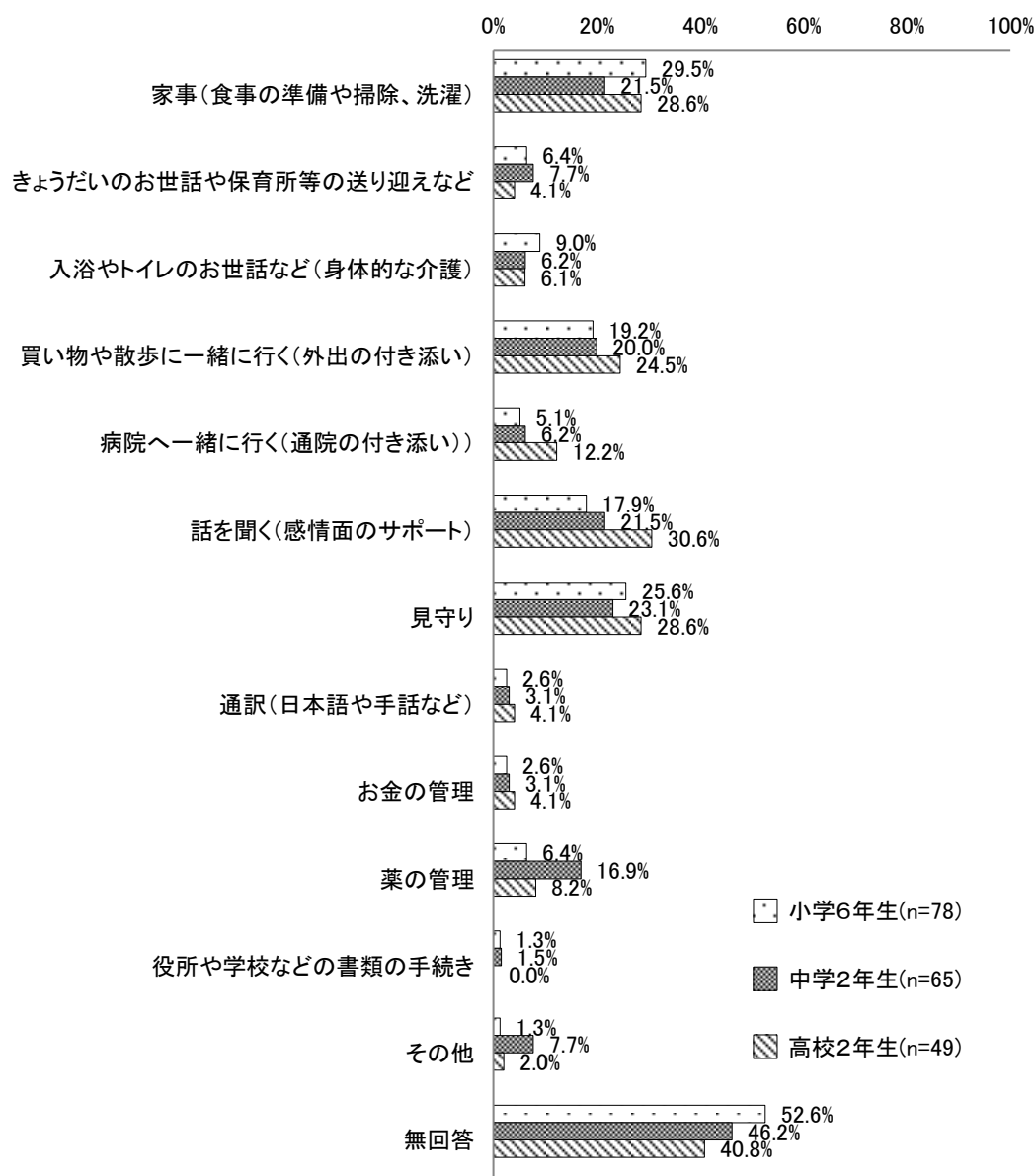


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が1件のため、非掲載。

③ 祖母

「祖母」をお世話している人について、お世話の内容をみると、「小学6年生」では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が29.5%でもっとも割合が高く、次いで「見守り」が25.6%となっている。「中学2年生」では、「見守り」が23.1%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「話を聞く（感情面のサポート）」が21.5%となっている。「高校2年生」では、「話を聞く（感情面のサポート）」が30.6%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「見守り」が28.6%となっている。

図表 50 お世話の内容／祖母：複数回答（Q15_B_3）

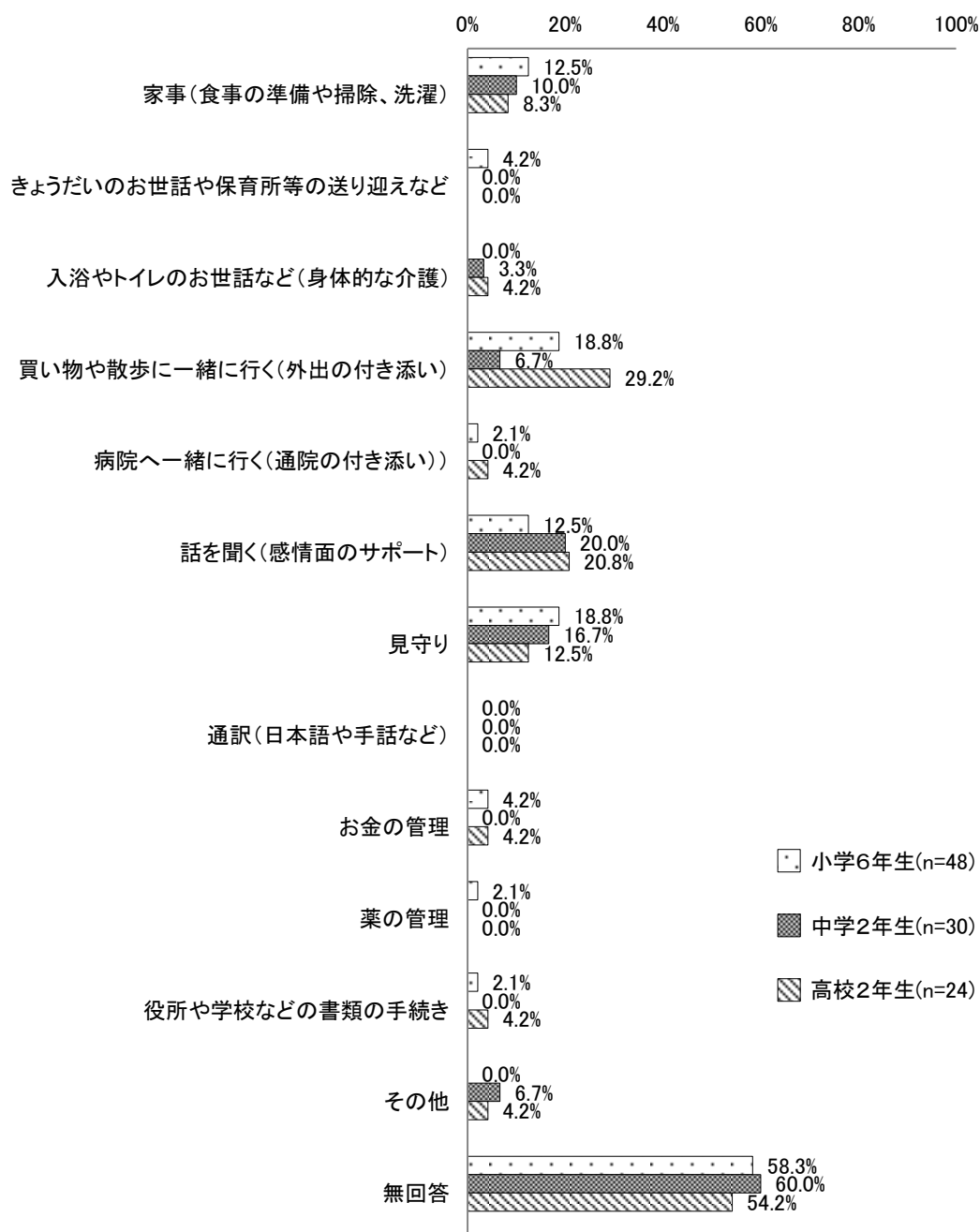


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が0件のため、非掲載。

④ 祖父

「祖父」をお世話している人について、お世話の内容をみると、「小学6年生」では、「買い物や散歩と一緒にいく（外出の付き添い）」「見守り」が 18.8%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「話を聞く（感情面のサポート）」が 12.5%となっている。「中学2年生」では、「話を聞く（感情面のサポート）」が 20.0%でもっとも割合が高く、次いで「見守り」が 16.7%となっている。「高校2年生」では、「買い物や散歩と一緒にいく（外出の付き添い）」が 29.2%でもっとも割合が高く、次いで「話を聞く（感情面のサポート）」が 20.8%となっている。

図表 51 お世話の内容／祖父：複数回答（Q15_B_4）

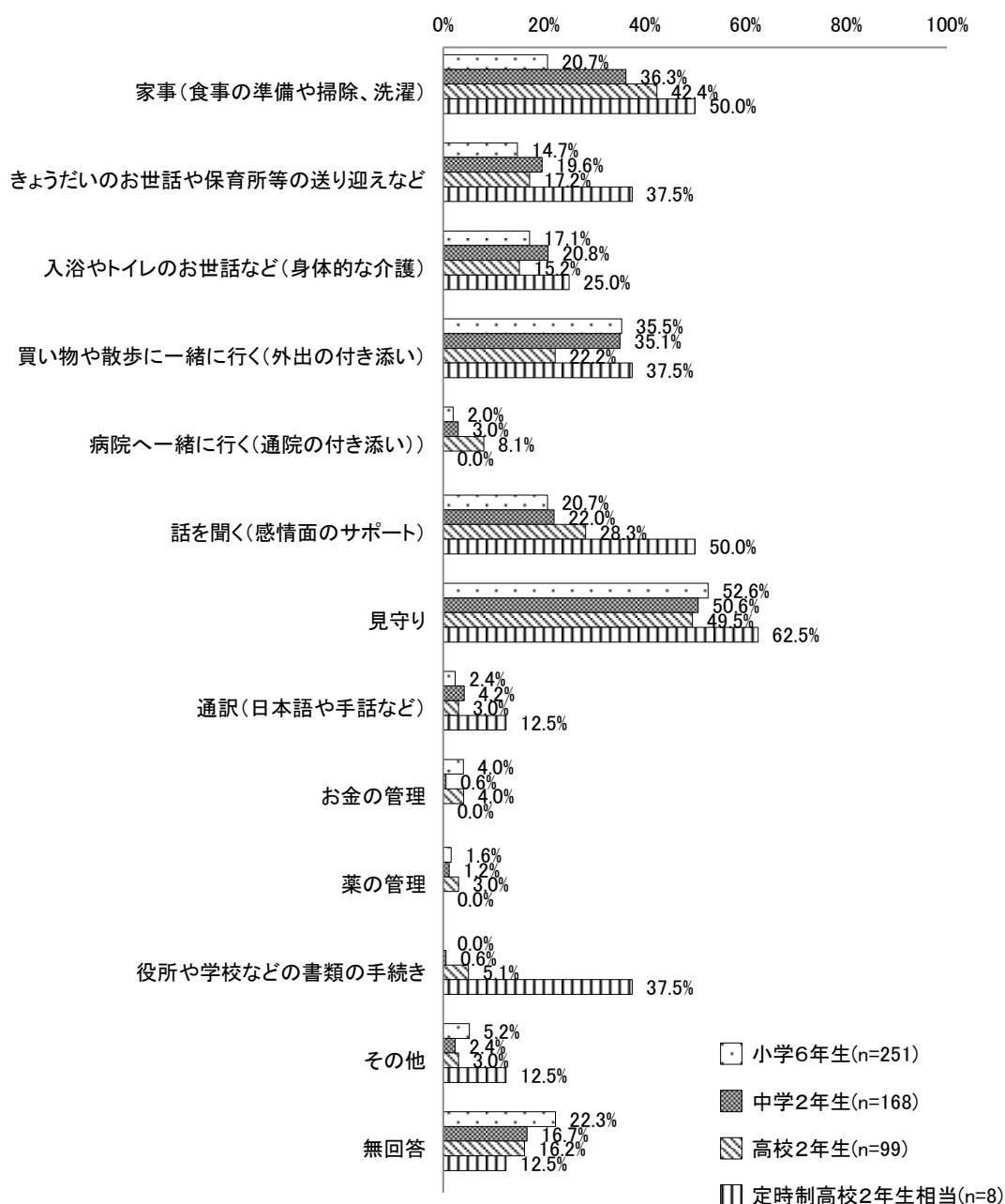


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が0件のため、非掲載。

⑤ きょうだい

「きょうだい」をお世話している人について、お世話の内容をみると、「小学6年生」では、「見守り」が 52.6%でもっとも割合が高く、次いで「買い物や散歩と一緒にいく（外出の付き添い）」が 35.5%となっている。「中学2年生」では、「見守り」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 36.3%となっている。「高校2年生」では、「見守り」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 42.4%となっている。

図表 52 お世話の内容／きょうだい：複数回答（Q15_B_5）

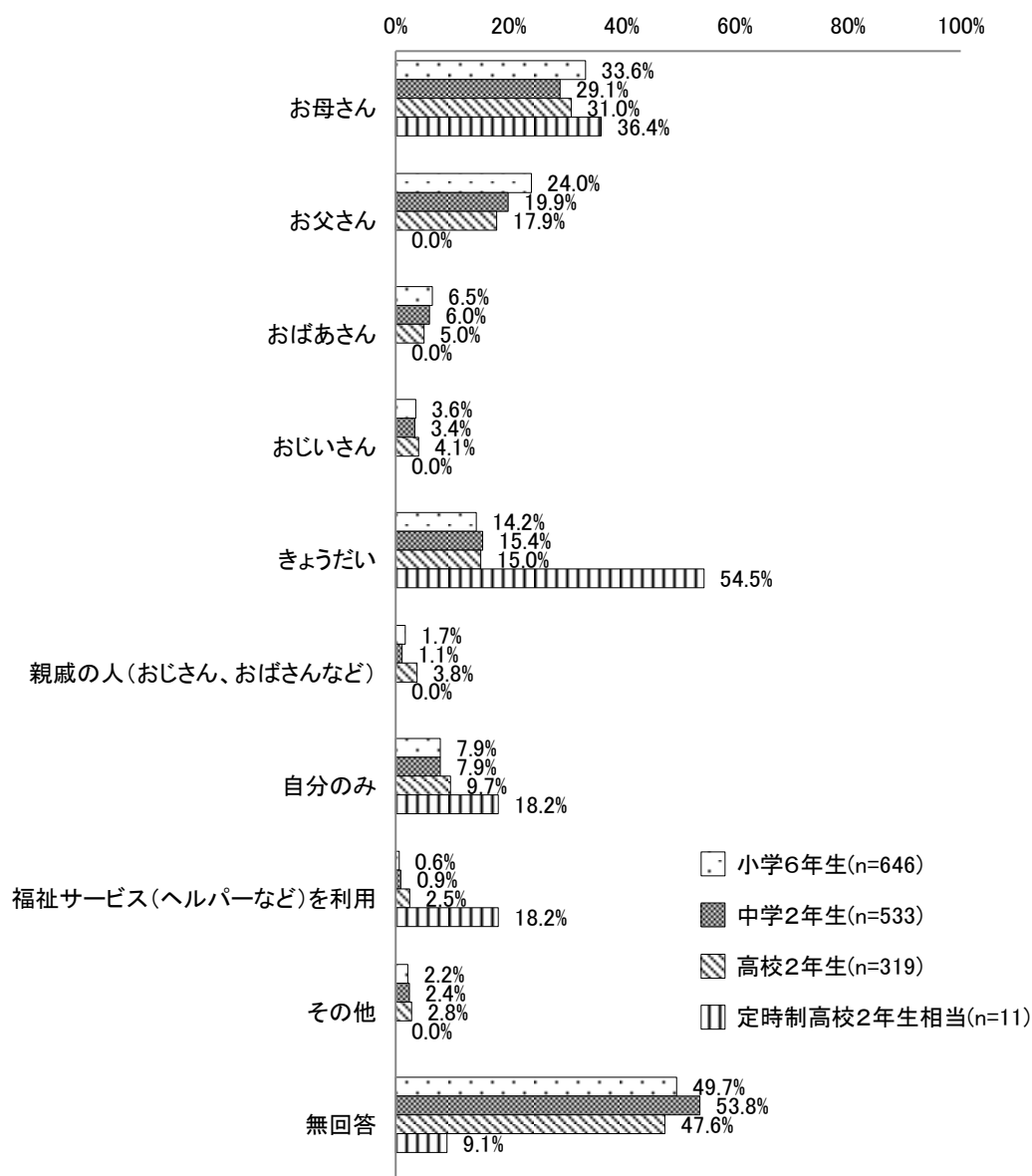


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が8件と少ないため、参考値。

(4) 一緒に世話をしている人

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、一緒に世話をしている人をみると、いずれも「お母さん」の割合が最も高く、「小学6年生」では33.6%、「中学2年生」では29.1%、「高校2年生」では31.0%となっている。次いで「お父さん」の割合が高く、「小学6年生」では24.0%、「中学2年生」では19.9%、「高校2年生」では17.9%となっている。

図表 53 一緒に世話をしている人：複数回答 (Q15_3)



※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

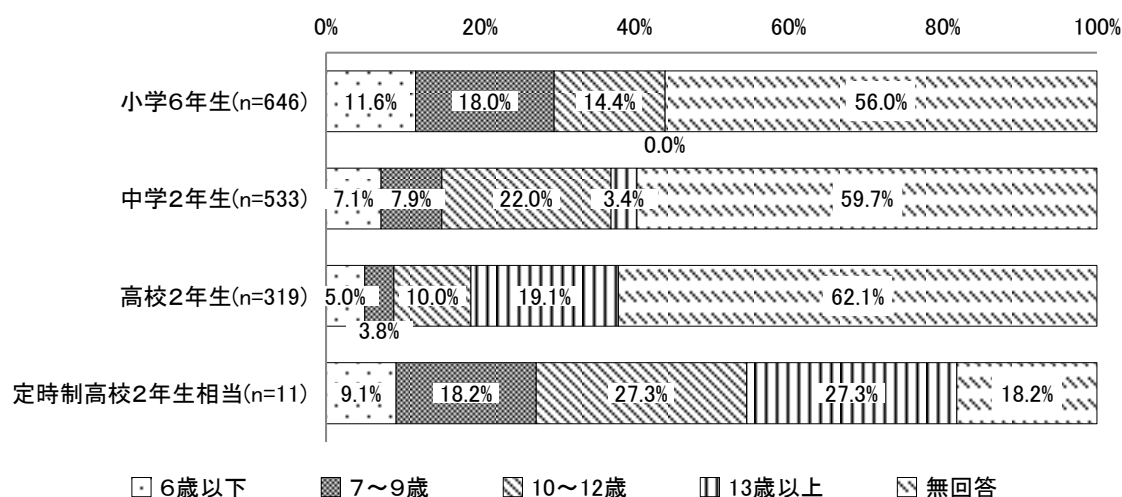
(5) お世話を始めた年齢

お世話を始めた年齢をみると、小学6年生の平均は 8.1 歳、中央値は 9 歳、中学2年生の平均は 9.5 歳、中央値は 10 歳、高校2年生の平均は 11.6 歳、中央値は 13 歳となっている。

カテゴリでみると、小学6年生は「7～9歳」、中学2年生は「10～12歳」、高校2年生は「13歳以上」の割合が最も高くなっている。

図表 54 お世話を始めた年齢:数値回答 (Q15_4)

	件数	平均	中央値
小学6年生	284	8.1	9
中学2年生	215	9.5	10
高校2年生	121	11.6	13
定時制高校2年生相当	9	10.1	10

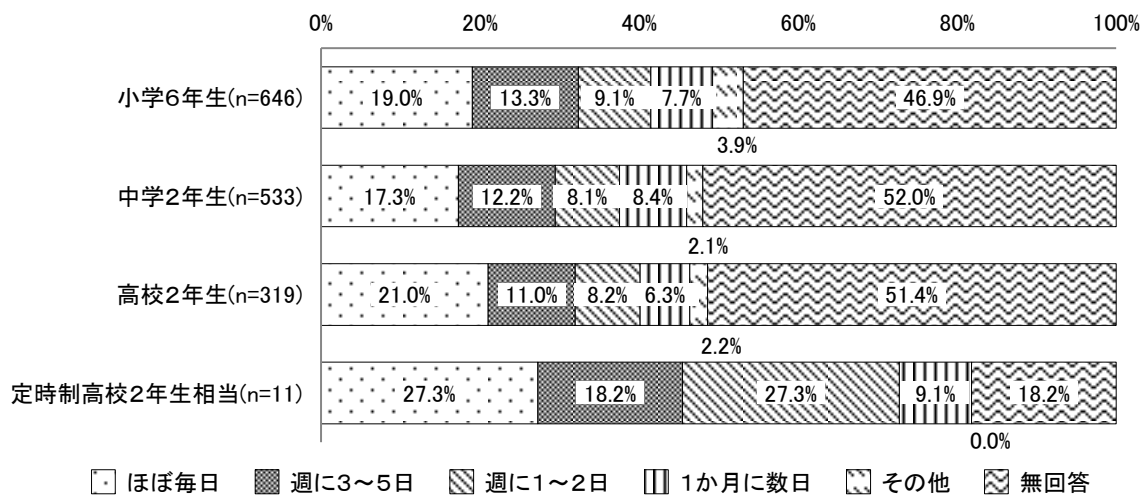


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(6) 世話の頻度

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、世話の頻度をみると、いずれも「ほぼ毎日」の割合が最も高く、「小学6年生」では 19.0%、「中学2年生」では 17.3%、「高校2年生」では 21.0%となっている。

図表 55 どのくらいお世話をしているか:単数回答 (Q15_5)



※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

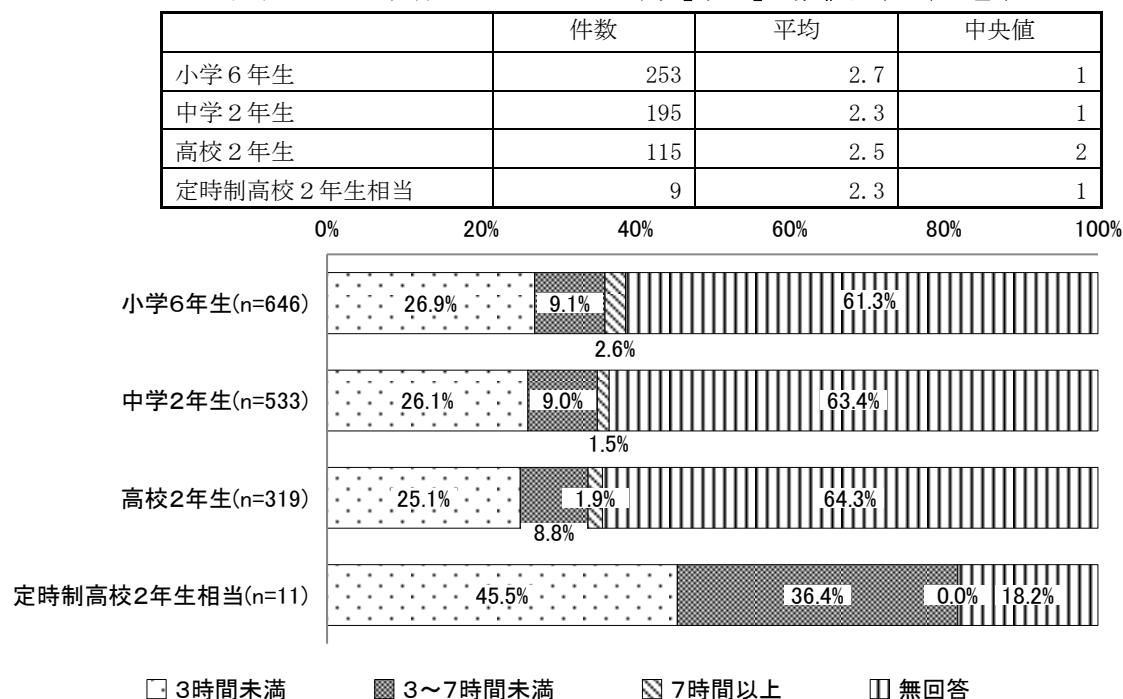
(7) お世話にかけている時間

① 平日

お世話にかけている時間について、平日をみると、小学6年生の平均は 2.7 時間、中央値は 1 時間、中学2年生の平均は 2.3 時間、中央値は 1 時間、高校2年生の平均は 2.5 時間、中央値は 2 時間となっている。

カテゴリーでみると、いずれも「3時間未満」の割合が最も高くなっている。

図表 56 お世話にかけている時間【平日】：数値回答 (Q15_6)



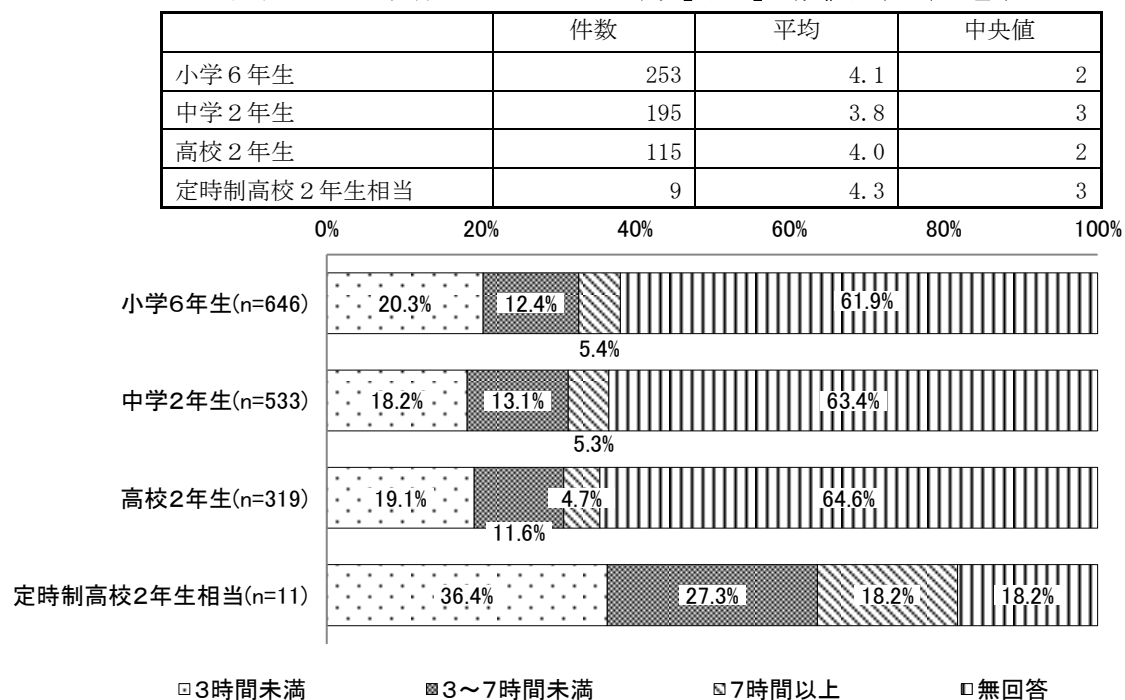
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が 11 件と少ないため、参考値。

② 休日

お世話にかけている時間について、休日を見ると、小学6年生の平均は 4.1 時間、中央値は2時間、中学2年生の平均は 3.8 時間、中央値は3時間、高校2年生の平均は 4.0 時間、中央値は2時間となっている。

カテゴリーでみると、いずれも「3時間未満」の割合が最も高くなっている。

図表 57 お世話にかけている時間【休日】：数値回答 (Q15_6)



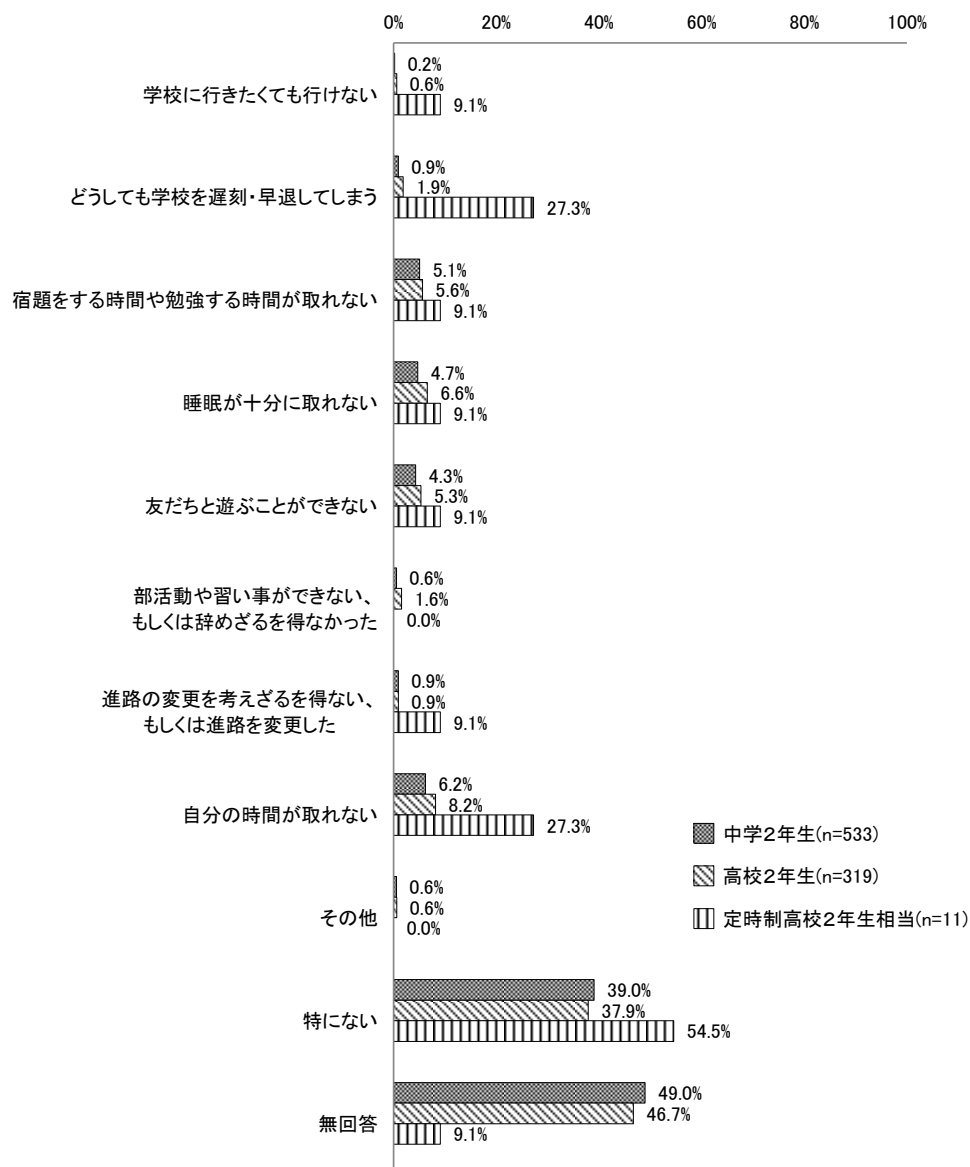
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(8) お世話をしていることで、やりたいけれど、できていないこと

① 中学生・高校生

中学生・高校生で、家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、お世話をしていることで、やりたいけれど、できていないことをみると、いずれも「特にない」の割合が高く、「中学2年生」では 39.0%、「高校2年生」では 37.9%となっている。一方、無回答も、それぞれ半数弱で割合が高い。

図表 58 お世話をしていることで、やりたいけれど、できていないこと:複数回答 (Q16_1)

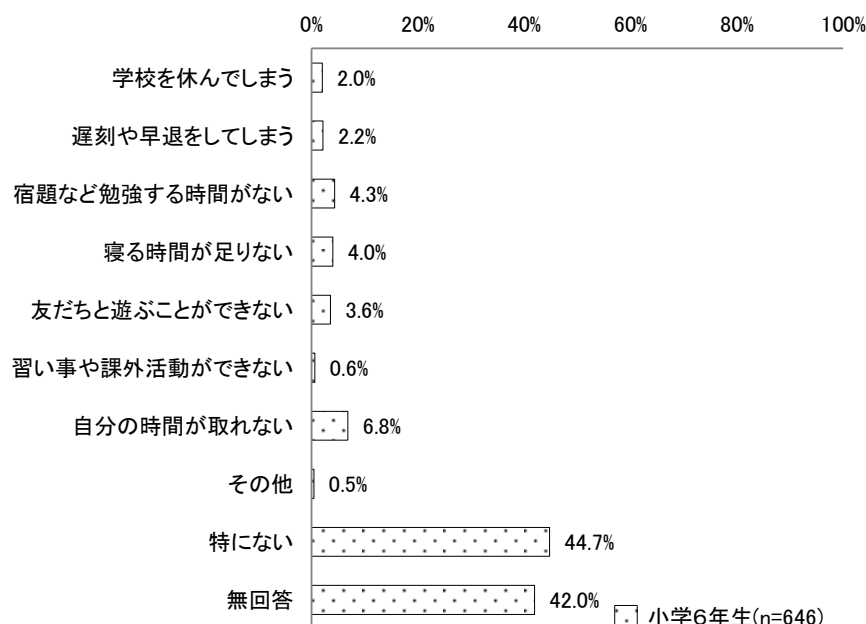


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 小学生

小学生で、家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、お世話をしていることで経験したことをみると、「特にない」が44.7%である一方、無回答も42.0%で割合が高い。

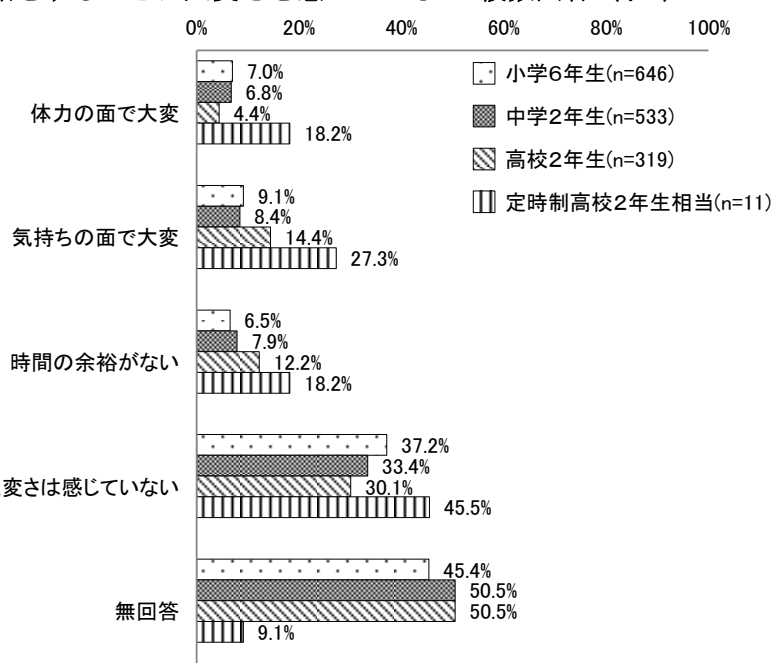
図表 59 お世話をしていることで経験したこと：複数回答 (Q16_2)



(9) お世話をすることに大変さを感じているか

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、お世話をすることに大変さを感じているかをみると、「特に大変さは感じていない」と回答した割合は、「小学6年生」では37.2%、「中学2年生」では33.4%、「高校2年生」では30.1%に留まっている。無回答が5割前後である。

図表 60 お世話をすることに大変さを感じているか：複数回答 (Q17)



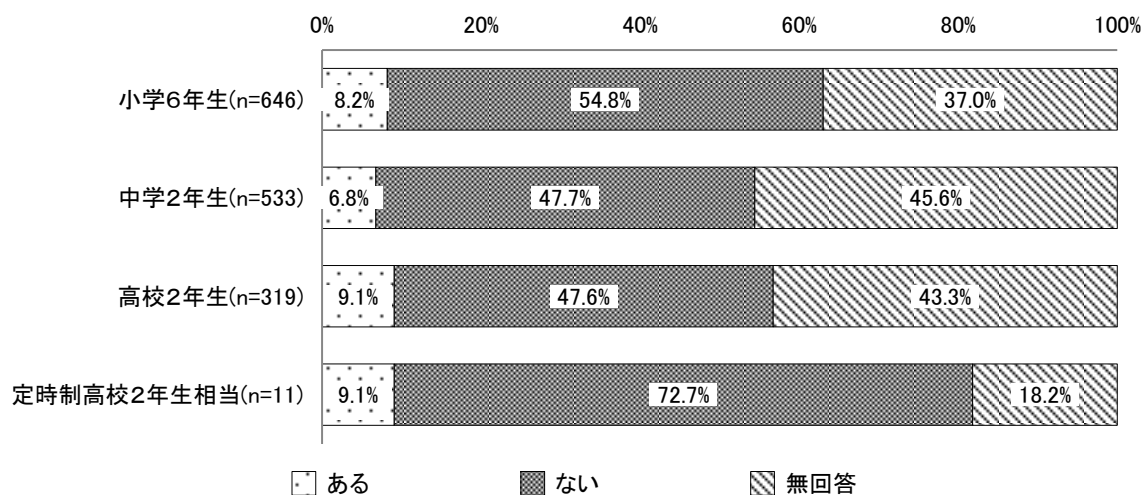
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(10) お世話に関する相談の状況

① 相談有無

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはあるかをみると、「ある」と回答した割合は、「小学6年生」では8.2%、「中学2年生」では6.8%、「高校2年生」では9.1%となっている。

図表 61 お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことの有無:単数回答 (Q18)



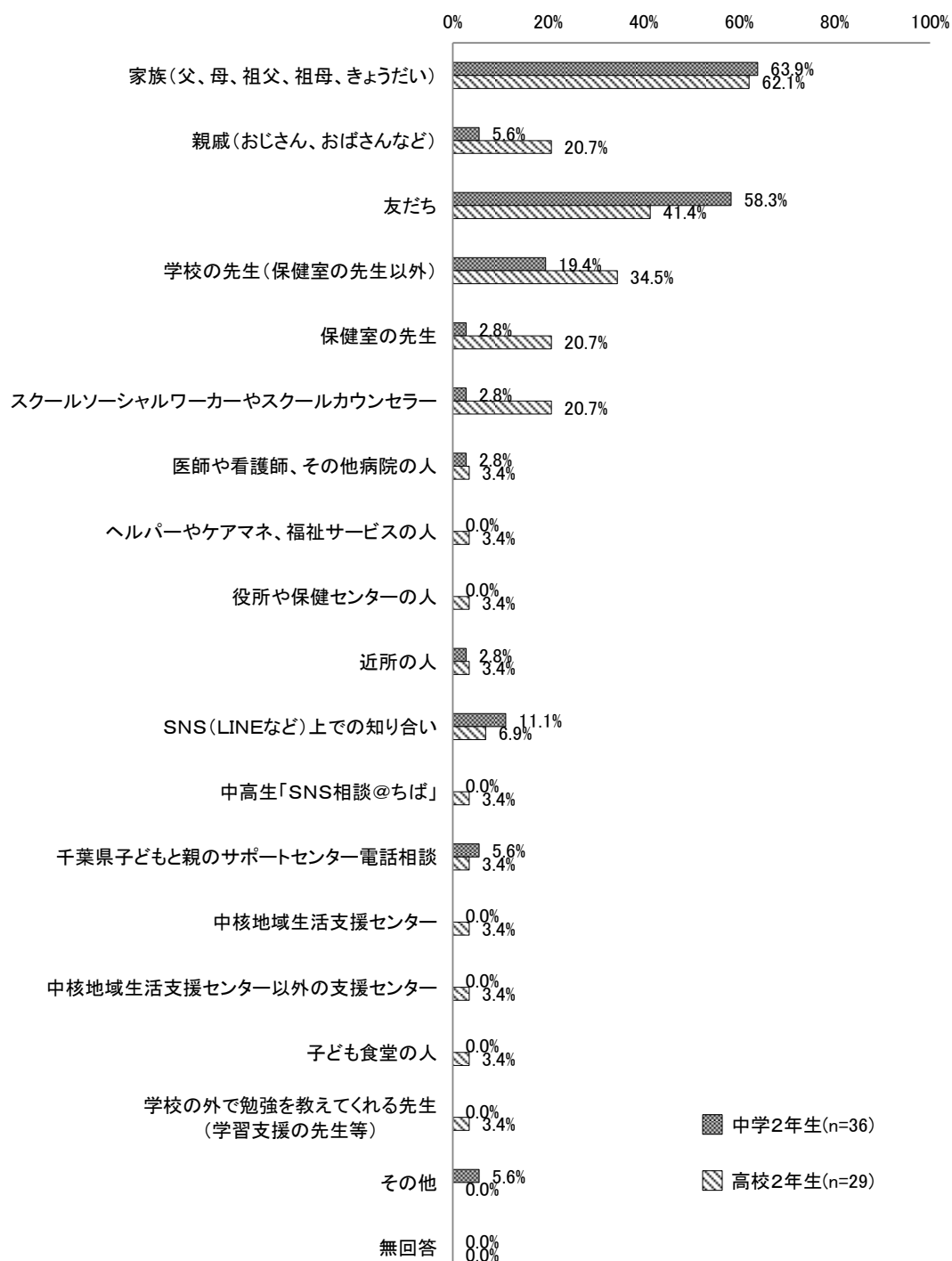
※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 相談した人

1) 中学生・高校生

中学生・高校生で、相談をしたことがある人について、誰に相談したかをみると、「中学2年生」「高校2年生」とも、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」の割合が最も高く、それぞれ 63.9%、62.1%となっている。次いで、「友だち」の割合が高く、それぞれ 58.3%、41.4%となっている。

図表 62 (中学生・高校生) 相談した人は誰か:複数回答 (Q19_1)

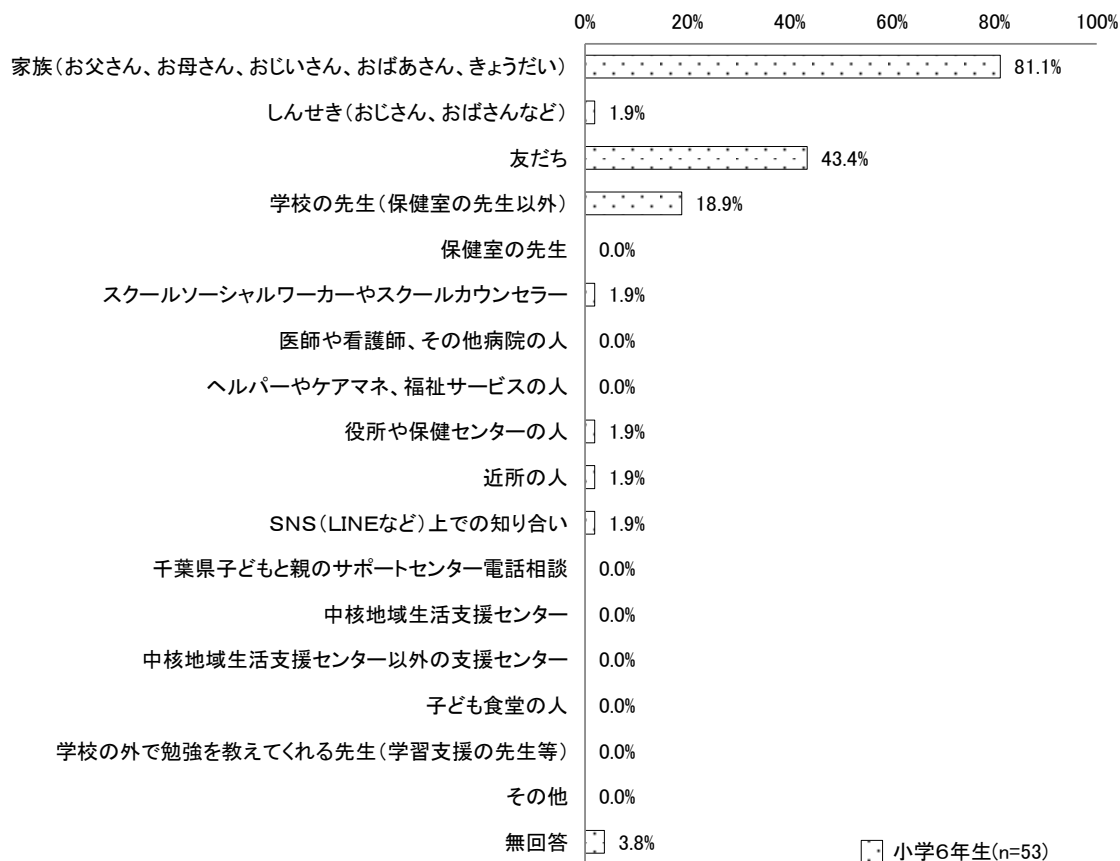


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が1件と少ないため、非掲載。

2) 小学生

小学生で、相談をしたことがある人について、誰に相談したかをみると「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」が 81.1%でもっとも割合が高く、次いで「友だち」が 43.4%、「学校の先生（保健室の先生以外）」が 18.9%となっている。

図表 63 (小学生) 相談した人は誰か：複数回答 (Q19_2)

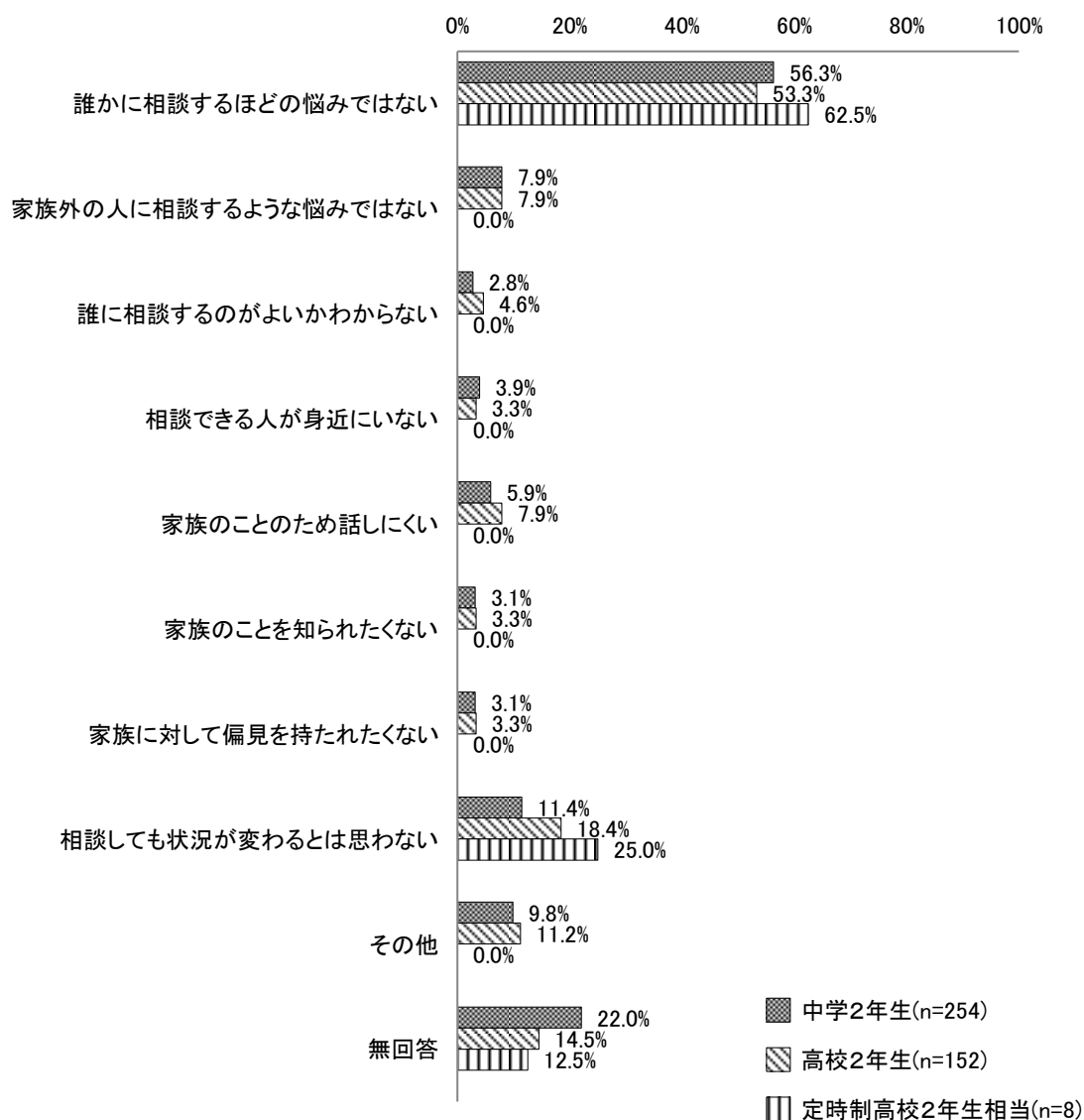


③ 相談していない理由

1) 中学生・高校生

中学生・高校生で、相談をしたことがない人について、相談していない理由をみると、「中学2年生」「高校2年生」とも「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高く、それぞれ 56.3%、53.3%となっている。「相談しても状況が変わるとは思わない」は、「中学2年生」で 11.4%、「高校2年生」で 18.4%みられる。

図表 64 (中学生・高校生) 相談していない理由:複数回答 (Q20_1)

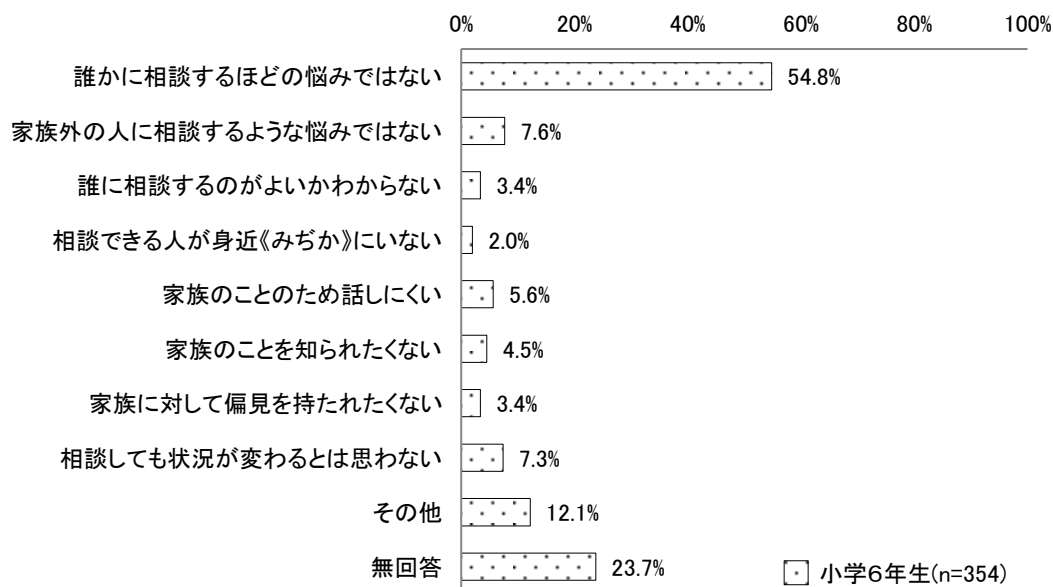


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が8件と少ないため、参考値。

2) 小学生

小学生で、相談をしたことがない人について、相談していない理由をみると、「誰かに相談するほどの悩みではない」が54.8%でもっとも割合が高い。

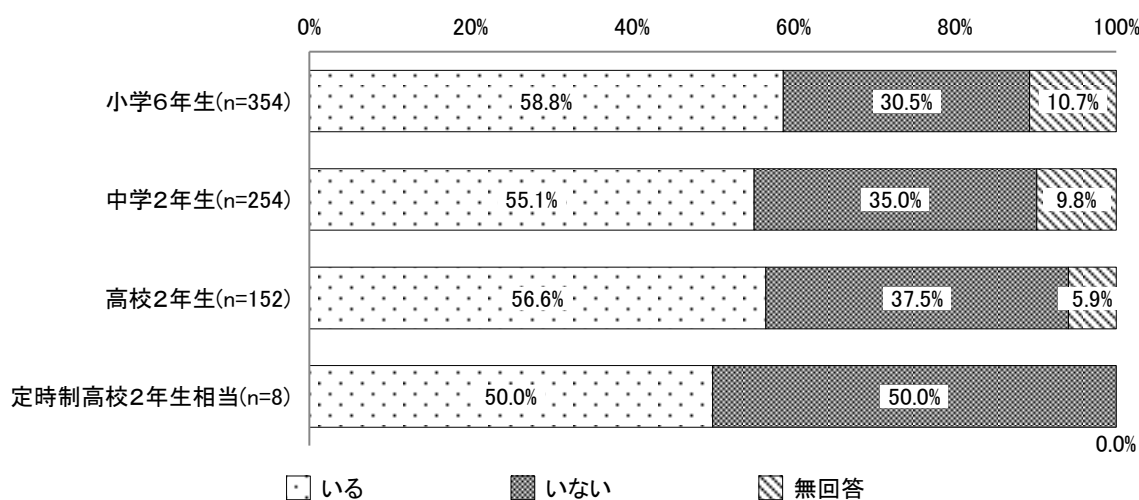
図表 65 (小学生) 相談していない理由:複数回答 (Q20_2)



④ お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいるか

相談をしたことがない人について、お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいるかをみると、「いない」と回答した割合は、「小学6年生」では30.5%、「中学2年生」では35.0%、「高校2年生」では37.5%となっている。

図表 66 お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいるか:単数回答 (Q21)



※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が8件と少ないため、参考値。

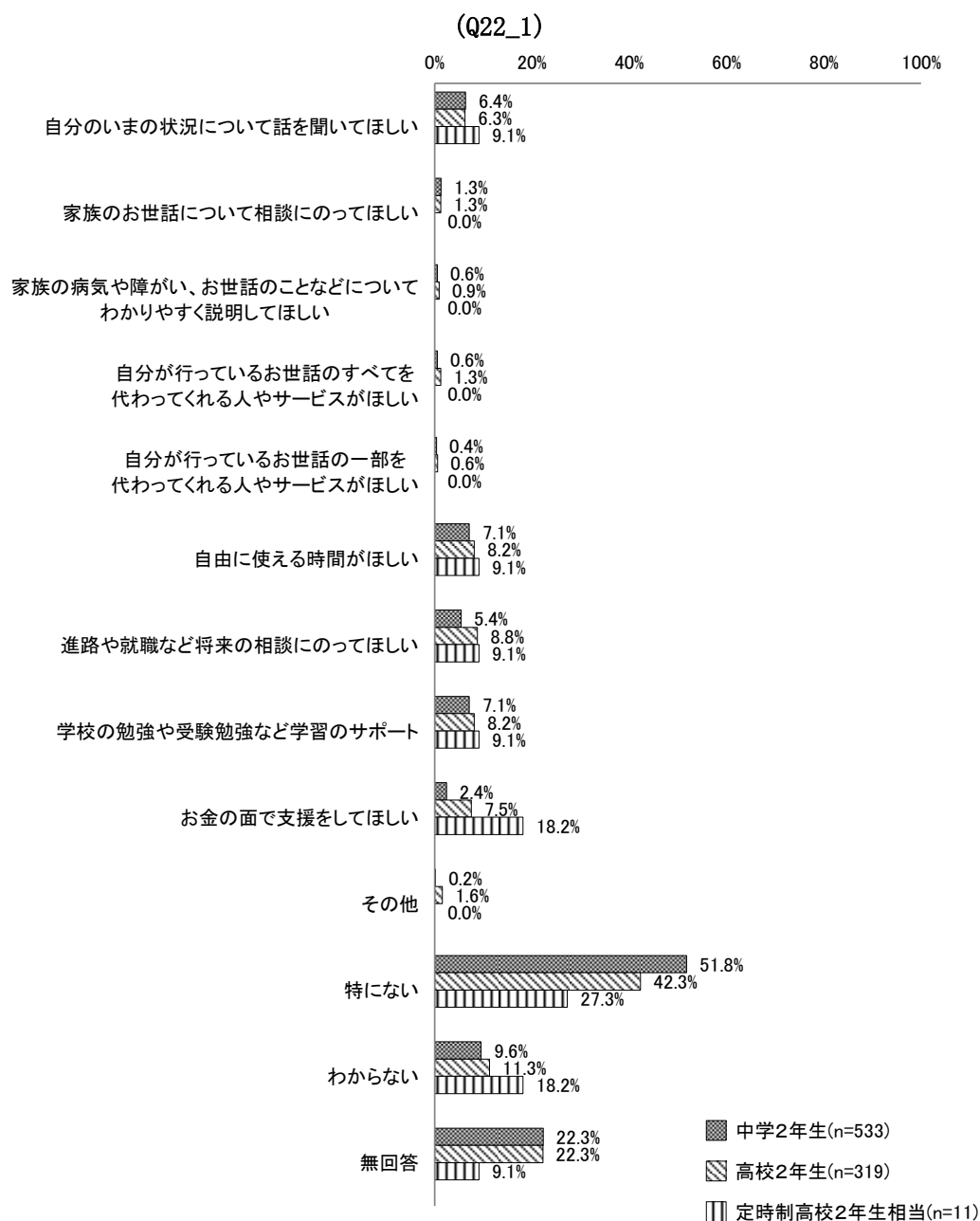
(11) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

① 中学生・高校生

中学生・高校生で、家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援をみると、いずれも「特にない」の割合が高い。

「中学2年生」では「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強や受験勉強など学習サポート」がそれぞれ7.1%、「高校2年生」では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が8.8%、「自由に使える時間が欲しい」「学校の勉強や受験勉強など学習サポート」がそれぞれ8.2%となっている。

図表 67 (中学生・高校生) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援:複数回答

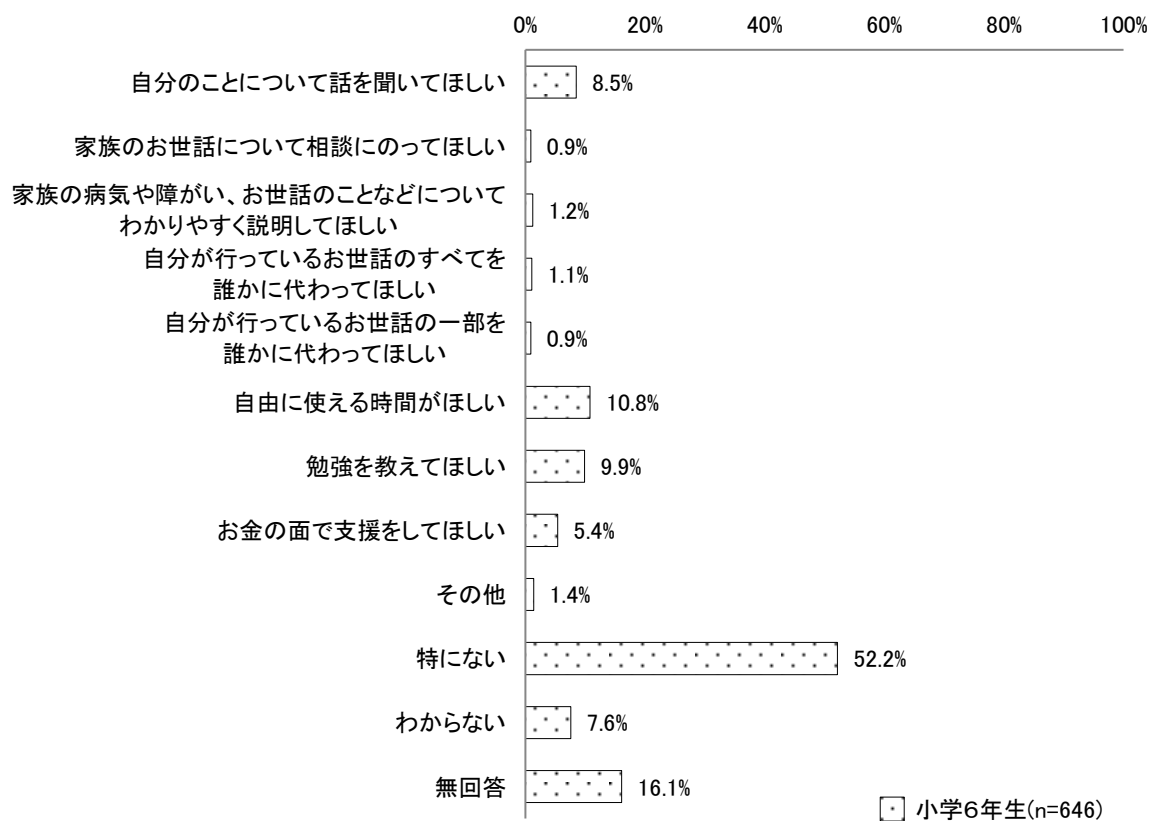


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

② 小学生

小学生で、家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援をみると、「特にない」が 52.2%でもっとも割合が高い一方、「自由に使える時間がほしい」が 10.8%、「勉強を教えてほしい」が 9.9%、「自分のことについて話を聞いてほしい」が 8.5%となっている。

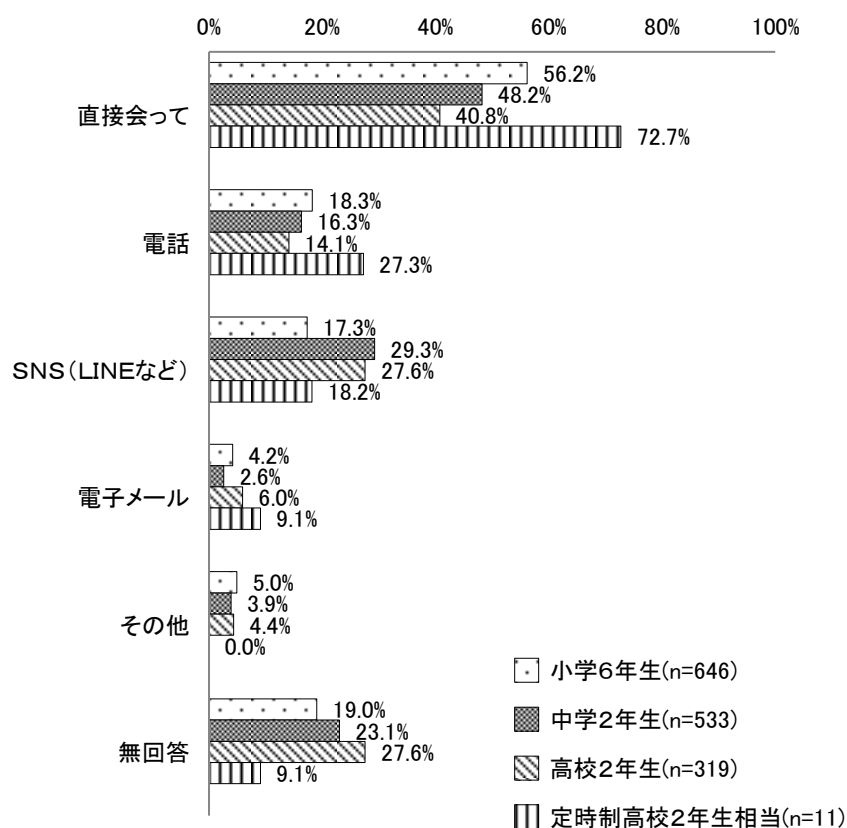
図表 68 (小学生) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援:複数回答 (Q22_2)



(12) 自分や家族のことで話を聞いたり相談にのってくれるとしたら、どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいか

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、自分や家族のことで話を聞いたり相談にのってくれるとしたら、どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいかをみると、「小学6年生」では、「直接会って」が 56.2%でもっとも割合が高く、次いで「電話」が 18.3%となっている。「中学2年生」では、「直接会って」が 48.2%でもっとも割合が高く、次いで「SNS（LINEなど）」が 29.3%となっている。「高校2年生」では、「直接会って」が 40.8%でもっとも割合が高く、次いで「SNS（LINEなど）」が 27.6%となっている。

図表 69 自分や家族のことで話を聞いたり相談にのってくれるとしたら、どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいか：複数回答（Q23）

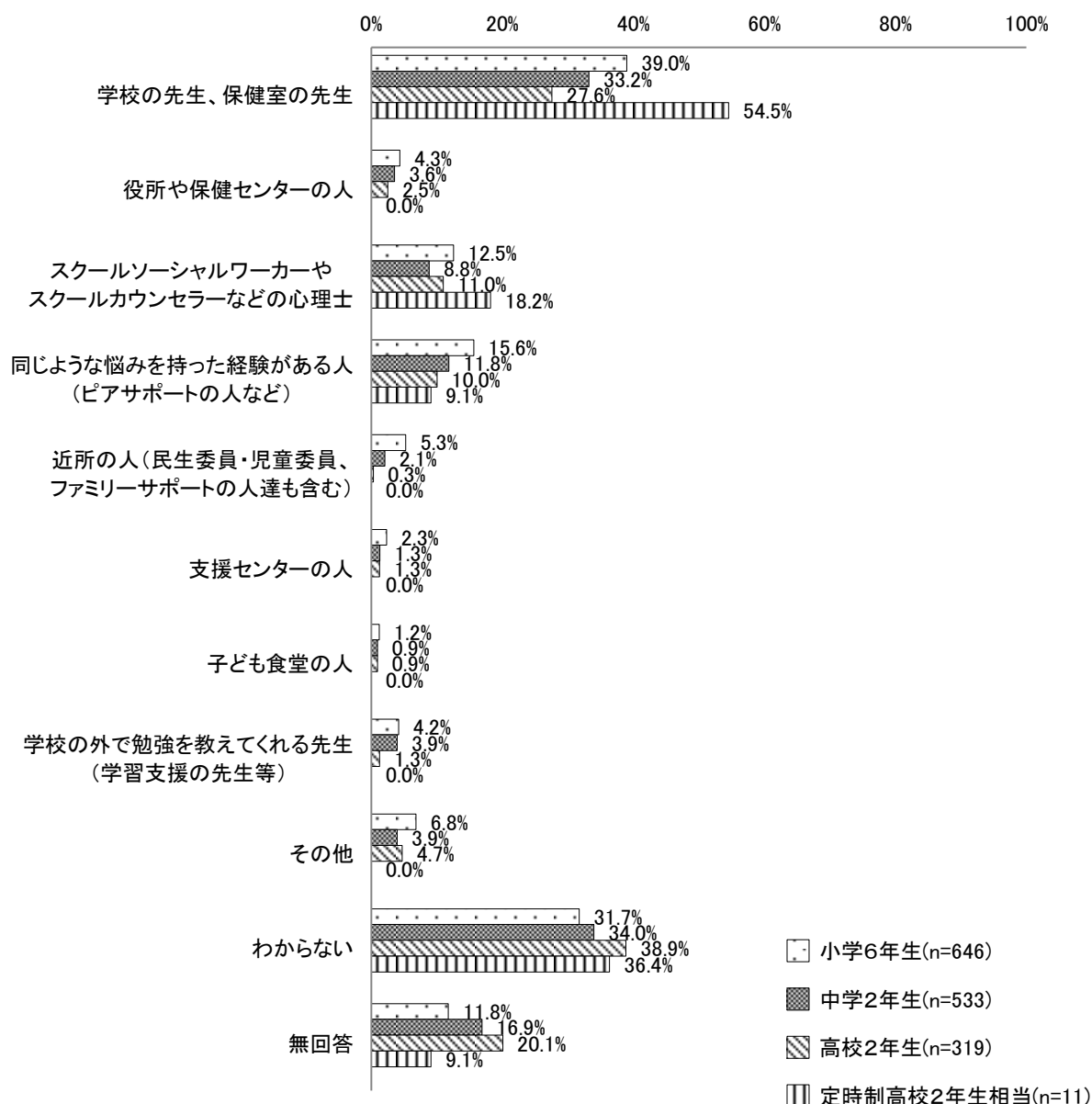


※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(13) 家族や親戚、友だち以外で、どういう相手が相談しやすいと思うか

家族の中にお世話をしている人がいると回答した人について、家族や親戚、友だち以外で、どういう相手が相談しやすいと思うかをみると、いずれも「わからない」、「学校の先生、保健室の先生」の割合が高く、「学校の先生、保健室の先生」の割合は、「小学6年生」では 39.0%、「中学2年生」では 33.2%、「高校2年生」では 27.6%となっている。

図表 70 家族や親戚、友だち以外で、どういう相手が相談しやすいと思うか:複数回答 (Q24)



※「定時制高校2年生相当」は、回答した件数が11件と少ないため、参考値。

(14) 家族のお世話をしている子どものために必要だと思うこと、学校や周りの大人にしてもらいたいこと

家族のお世話をしている子どものために必要だと思うこと、学校や周りの大人にしてもらいたいことについて、自由に記入してもらった内容をみると、「相談しやすい環境・機会づくり」「周囲の気づき、関わり、支援」「自分の時間、休息時間の確保」「勉強の支援」「家事や世話の支援等」などについての記載があった。

①相談しやすい環境・機会づくり

中学2年生	相談できる環境を整えること。
小学6年生	家族のお世話をしている子どもの悩みを大人などに話してより良い方法を考えた方がいいと思います。
小学6年生	よく相談など、遠慮なく言えることが必要だと思う。
高校2年生	出来る限り周りに広げず、相談した人と相談された人、関係者で話を進める。
高校2年生	私は妹が成長しているので世話というより見守りで苦勞もしていないのですが、もっと幼い人を見ている方もいると思います。そんな方は家族や頼れる人に相談して、解決へ一歩役立ててほしいと思います。
小学6年生	自分のことをきちんと話せる人や、環境があることが大事だと思います。
小学6年生	相談しにくい人が多いと思うので、学校やうちに来てくれるのがあったらいいと思います。
小学6年生	言うことを我慢せずにちゃんと言うことが大切だと思う。
中学2年生	定期的に世話をしている子どものところに訪れて、現在の状況を聞く。
中学2年生	詮索したりするのではなく、本当にその人が助けを求めるときに全力で助ける人。
中学2年生	相手の気持ちを第一に考える。
小学6年生	気持ちを分かちあえる。
中学2年生	自分は自分のままでいいし、自由に生きていい権利がある事を教えてあげてください。
中学2年生	話を聞くだけでも変わると思います
小学6年生	優しく一緒に話してあげる

②周囲の気づき、関わり、支援

中学2年生	身の周りの大人からの助け、支援。
中学2年生	あまり主張しない子がいると思うから「大丈夫」といっても、もう少しその子のことを観察したほうがいいと思う。
小学6年生	一人で抱え込むじゃなくて自分から相談するのも大切だけど、周りの大人が何も言わなくても気付いてあげる。そういう事が大切だと思う
中学2年生	真面目で全部のことをできている子でもちゃんとサポートが必要だと思う。
定時制高校2年生相当	子どもにも言えないことがあるから大人はそれに気づいて配慮してほしい
小学6年生	無理をせずに頼りたいときは、誰かに頼っていいということ。
中学2年生	家事の分担（兄弟たちで）話を聞いて解決方法を話し合う。親に言えない人のために代わりに話す（辛いこと大変なことを）。

③自分の時間、休息時間の確保

中学2年生	自分の時間を増やす。
中学2年生	家族のお世話をしている子どもに必要なこと：相談してくれる人や手伝ってくれる人、休憩の時間など
小学6年生	1人の時間、ゆっくり休むこと。
中学2年生	自分の時間をつくる。
小学6年生	勉強を教えること。一緒に遊んであげること。自由の時間を与えてあげること。
小学6年生	ゆっくり休む時間が必要だと思います。
高校2年生	親が休みを多く取って、子どもが休める環境を作る。
中学2年生	自分が遊ぶ時間を増やしてほしい。

④勉強の支援

中学2年生	勉強を教えてください。
小学6年生	勉強をもっと教えてもらいたい。体を動かすことを一緒にしたい。
小学6年生	学校にこれなかったら、オンラインなどで授業や、放課後に学校にきて、授業をしたり。
中学2年生	お世話が原因で家庭学習が出来なかったときにそれを理解してもらうこと。
小学6年生	休日に勉強などを教えて貰いたい。
小学6年生	時間の余裕がなく宿題などができない。やろうとすると睡眠時間が削られ授業中に寝てしまう。理解をして欲しい。

⑤家事や世話の支援等

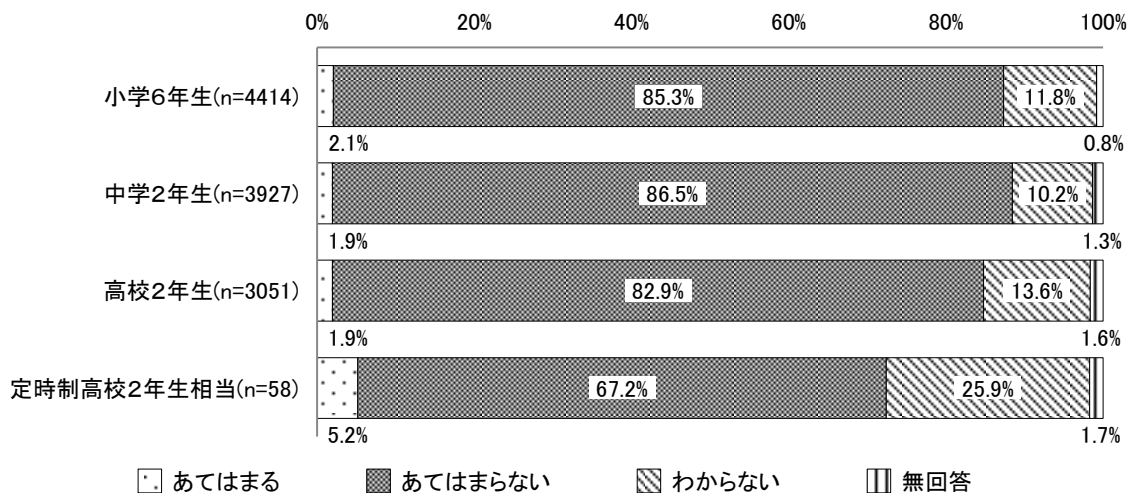
小学6年生	親のサポートをしてくれる人がいれば子どもは世話をしなくてすむと思う。
中学2年生	家事の手伝い。
小学6年生	自分の時間がとれるように手伝いをしてほしい。手伝っていることを考えて課題を減らしてほしい。
小学6年生	家族の世話をしている人やヘルパーの人の支援を充実してあげてほしい。
中学2年生	無料でお世話をしてくれる職員を増やす。
中学2年生	今回、この様なアンケートをして頂いて少しでも辛い気持ちを抱えている子に気づいてもらえたら嬉しいですが、話しを聞いてもらえるだけでは、僕らの状況は変わらないと思っています。夜間や必要な時間帯（24時間いつでも）の支援をしてほしい。僕の親は、ずっと寝れず妹の看病をしていました。24時間看病の為、仕事も出来ず、見守りや学校付き添いの看護師を個人で頼む様に市から言われたそうですが、高く頼めないとっていました。そして、夜寝たいけど、夜対応している支援などは、いっさい無いそうです。お金が掛からず、24時間診てくれる支援があったら必然的に僕らの仕事も減ると思っています。僕の文章が国の偉い人達に届く可能性があるのなら、どうか1人でも辛い子ども、辛い人達が減る様にしてほしいです。

5. ヤングケアラーについて

(1) 自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについて、「あてはまる」と回答した割合をみると、「小学6年生」では2.1%、「中学2年生」では1.9%、「高校2年生」では1.9%、「定時制高校2年生相当」では5.2%となっている。

図表 71 自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)



世話をしている家族の有無別に自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うかをみると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「わからない」の割合が高く、「小学6年生」は22.0%、「中学2年生」は18.4%と約2割、「高校2年生」は30.1%と約3割にのぼる。

また、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「あてはまる」と回答した割合がやや高い傾向にあり、「小学6年生」は7.1%、「中学2年生」は6.4%、「高校2年生」は8.5%となっている。

図表 72 世話をしている家族の有無別

自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)

		合計	Q26.自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか			
			あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	7.1	66.7	22.0	4.2
	小学6年生-いない	3694	1.2	88.8	9.9	0.1
	中学2年生-いる	533	6.4	67.7	18.4	7.5
	中学2年生-いない	3318	1.1	90.2	8.6	0.0
	高校2年生-いる	319	8.5	52.0	30.1	9.4
	高校2年生-いない	2700	1.1	87.0	11.5	0.4
	定時制高校2年生相当-いる	11	9.1	36.4	54.5	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	4.4	75.6	20.0	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

図表 73 現在住んでいる市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別
自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)

		Q26. 自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答	合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答	合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答
Q3. 現在住んでいる市町村:千葉県保健福祉圏域	全体	4414	2.1	85.3	11.8	0.8	3927	1.9	86.5	10.2	1.3	3051	1.9	82.9	13.6	1.6
	習志野市区	267	2.2	86.1	10.9	0.7	425	2.1	90.4	6.6	0.9	283	2.5	82.3	14.5	0.7
	市川地区	425	0.9	83.5	15.3	0.2	149	2.0	83.9	10.7	3.4	219	0.9	84.9	11.9	2.3
	松戸地区	586	2.0	84.1	11.8	2.0	398	1.5	86.7	10.6	1.3	272	1.1	87.9	9.6	1.5
	野田地区	95	3.2	78.9	16.8	1.1	257	1.6	83.3	12.1	3.1	96	3.1	72.9	24.0	0.0
	印旛地区	570	2.8	84.6	12.5	0.2	611	2.0	87.1	9.5	1.5	357	1.7	84.9	12.0	1.4
	香取地区	58	1.7	93.1	5.2	0.0	49	2.0	91.8	6.1	0.0	121	1.7	83.5	14.9	0.0
	海匝地区	87	3.4	86.2	10.3	0.0	28	3.6	89.3	7.1	0.0	106	1.9	85.8	11.3	0.9
	山武地区	103	4.9	80.6	12.6	1.9	146	6.2	87.0	6.8	0.0	119	1.7	75.6	21.0	1.7
	長生地区	70	0.0	90.0	10.0	0.0	15	0.0	93.3	6.7	0.0	33	3.0	84.8	9.1	3.0
	夷隅地区	37	5.4	78.4	13.5	2.7	13	0.0	92.3	7.7	0.0	12	8.3	75.0	16.7	0.0
	安房地区	51	2.0	86.3	11.8	0.0	91	0.0	82.4	14.3	3.3	224	2.2	78.6	16.1	3.1
	君津地区	181	0.6	84.0	14.4	1.1	305	2.3	79.7	16.7	1.3	153	0.7	78.4	19.6	1.3
	市原地区	278	3.6	84.2	11.5	0.7	419	2.4	83.3	12.9	1.4	78	3.8	83.3	11.5	1.3
	船橋市	1227	1.7	88.3	9.5	0.6	826	1.1	90.9	7.6	0.4	372	0.8	86.8	11.0	1.3
	柏市	280	1.8	85.7	11.1	1.4	132	3.0	84.8	11.4	0.8	199	1.5	85.9	10.6	2.0
	千葉市	58	3.4	69.0	27.6	0.0	31	0.0	71.0	22.6	6.5	359	3.6	78.6	14.8	3.1
県外	3	0.0	83.3	66.7	0.0	3	0.0	83.3	0.0	66.7	41	4.9	85.4	9.8	0.0	

図表 74 通っている学校のある市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別
自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)

		Q26. 自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答	合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答	合計	あてはまる	な あて は ま ら	わ か ら な い	無 回 答
Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県保健福祉圏域	全体	4414	2.1	85.3	11.8	0.8	3927	1.9	86.5	10.2	1.3	3051	1.9	82.9	13.6	1.6
	習志野市区	248	2.4	86.3	10.5	0.8	406	2.0	90.6	6.4	1.0	134	2.2	88.1	8.2	1.5
	市川地区	415	1.0	84.6	14.5	0.0	139	2.2	84.2	10.1	3.6	315	1.0	86.0	10.5	2.5
	松戸地区	552	2.0	84.1	12.1	1.8	386	1.6	87.6	9.8	1.0	137	2.2	86.1	10.2	1.5
	野田地区	88	3.4	77.3	18.2	1.1	222	1.4	85.1	11.7	1.8	54	3.7	68.5	27.8	0.0
	印旛地区	547	2.6	85.2	12.1	0.2	584	2.1	86.6	9.6	1.7	290	0.7	85.9	12.8	0.7
	香取地区	57	1.8	93.0	5.3	0.0	47	2.1	91.5	6.4	0.0	131	0.8	87.8	11.5	0.0
	海匝地区	84	3.6	85.7	10.7	0.0	25	4.0	88.0	8.0	0.0	109	2.8	79.8	16.5	0.9
	山武地区	101	5.0	83.2	10.9	1.0	143	5.6	87.4	7.0	0.0	76	1.3	73.7	21.1	3.9
	長生地区	60	0.0	91.7	8.3	0.0	14	0.0	85.7	14.3	0.0	22	4.5	86.4	4.5	4.5
	夷隅地区	38	5.3	78.9	13.2	2.6	12	0.0	91.7	8.3	0.0	3	0.0	66.7	33.3	0.0
	安房地区	47	2.1	85.1	12.8	0.0	93	0.0	82.8	14.0	3.2	236	1.7	79.2	16.5	2.5
	君津地区	171	0.6	82.5	15.2	1.8	296	2.4	80.1	16.2	1.4	148	0.7	79.7	18.2	1.4
	市原地区	270	3.3	84.8	11.5	0.4	393	2.5	83.5	13.0	1.0	13	15.4	84.6	0.0	0.0
	船橋市	1204	1.7	88.3	9.5	0.5	760	0.9	91.6	7.4	0.1	313	2.6	83.1	13.1	1.3
	柏市	259	1.9	84.6	12.0	1.5	122	1.6	86.1	11.5	0.8	384	1.6	84.9	12.5	1.0
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	0.0	13	0.0	61.5	30.8	7.7	584	2.6	81.3	14.0	2.1

図表 75 現在住んでいる市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別
自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)

		Q26.自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答	合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答	合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答
	全体	4414	2.1	85.3	11.8	0.8	3927	1.9	86.5	10.2	1.3	3051	1.9	82.9	13.6	1.6
Q3.現在住んでいる市町村:千葉県教育事務所別地区	葛南	1885	1.6	86.8	11.0	0.5	1380	1.4	90.0	7.7	0.9	793	1.1	85.9	11.5	1.5
	東葛飾	995	2.0	84.3	12.0	1.7	807	1.9	85.4	11.0	1.7	648	1.9	83.5	13.4	1.2
	北総(印旛)	570	2.8	84.6	12.5	0.2	611	2.0	87.1	9.5	1.5	357	1.7	84.9	12.0	1.4
	北総(香取)	58	1.7	93.1	5.2	0.0	49	2.0	91.8	6.1	0.0	121	1.7	83.5	14.9	0.0
	北総(海匝)	87	3.4	86.2	10.3	0.0	28	3.6	89.3	7.1	0.0	106	1.9	85.8	11.3	0.9
	東上総(山武)	103	4.9	80.6	12.6	1.9	146	6.2	87.0	6.8	0.0	119	1.7	75.6	21.0	1.7
	東上総(長生)	70	0.0	90.0	10.0	0.0	15	0.0	93.3	6.7	0.0	33	3.0	84.8	9.1	3.0
	東上総(夷隅)	37	5.4	78.4	13.5	2.7	13	0.0	92.3	7.7	0.0	12	8.3	75.0	16.7	0.0
	南房総(市原・君津)	459	2.4	84.1	12.6	0.9	724	2.3	81.8	14.5	1.4	231	1.7	80.1	16.9	1.3
	南房総(安房)	51	2.0	86.3	11.8	0.0	91	0.0	82.4	14.3	3.3	224	2.2	78.6	16.1	3.1
	千葉市	58	3.4	69.0	27.6	0.0	31	0.0	71.0	22.6	6.5	359	3.6	78.6	14.8	3.1
	県外	3	0.0	83.3	66.7	0.0	3	0.0	83.3	0.0	66.7	41	4.9	85.4	9.8	0.0

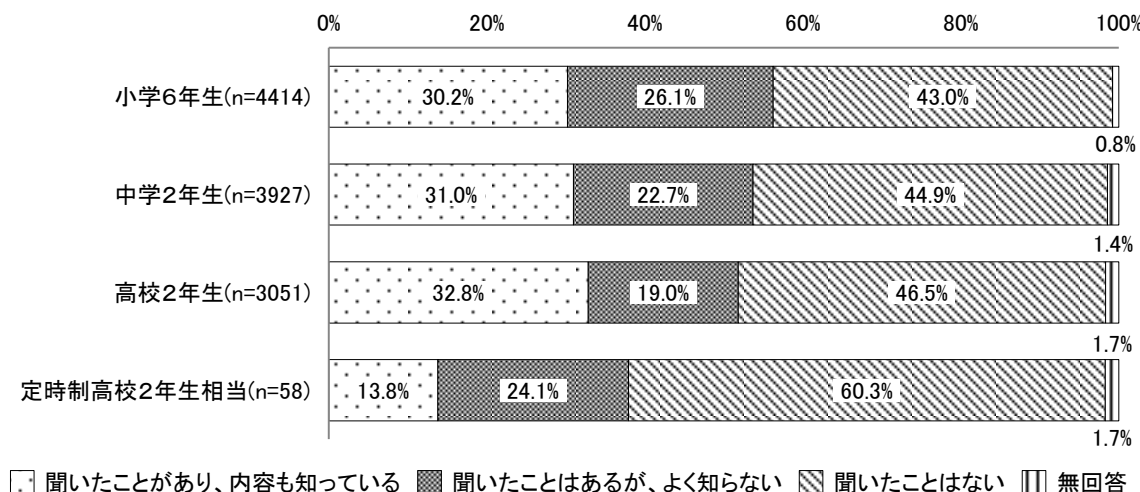
図表 76 通っている学校のある市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別
自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか:単数回答 (Q26)

		Q26.自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答	合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答	合計	あてはまる	なあてはまら	わから	無回答
	全体	4414	2.1	85.3	11.8	0.8	3927	1.9	86.5	10.2	1.3	3051	1.9	82.9	13.6	1.6
Q4.通っている学校のある市町村:千葉県教育事務所別地区	葛南	1836	1.7	87.1	10.7	0.4	1286	1.3	90.5	7.4	0.8	729	1.9	85.0	11.2	1.8
	東葛飾	930	2.0	83.8	12.6	1.6	749	1.6	86.6	10.5	1.2	608	1.8	83.9	13.2	1.2
	北総(印旛)	547	2.6	85.2	12.1	0.2	584	2.1	86.6	9.6	1.7	290	0.7	85.9	12.8	0.7
	北総(香取)	57	1.8	93.0	5.3	0.0	47	2.1	91.5	6.4	0.0	131	0.8	87.8	11.5	0.0
	北総(海匝)	84	3.6	85.7	10.7	0.0	25	4.0	88.0	8.0	0.0	109	2.8	79.8	16.5	0.9
	東上総(山武)	101	5.0	83.2	10.9	1.0	143	5.6	87.4	7.0	0.0	76	1.3	73.7	21.1	3.9
	東上総(長生)	60	0.0	91.7	8.3	0.0	14	0.0	85.7	14.3	0.0	22	4.5	86.4	4.5	4.5
	東上総(夷隅)	38	5.3	78.9	13.2	2.6	12	0.0	91.7	8.3	0.0	3	0.0	66.7	83.3	0.0
	南房総(市原・君津)	441	2.3	83.9	12.9	0.9	689	2.5	82.0	14.4	1.2	161	1.9	80.1	16.8	1.2
	南房総(安房)	47	2.1	85.1	12.8	0.0	93	0.0	82.8	14.0	3.2	236	1.7	79.2	16.5	2.5
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	0.0	13	0.0	61.5	30.8	7.7	584	2.6	81.3	14.0	2.1

(2) 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったかをみると、いずれも「聞いたことはない」の割合が高く、「小学6年生」では 43.0%、「中学2年生」では 44.9%、「高校2年生」では 46.5%、「定時制高校2年生相当」では 60.3%となっている。

図表 77 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)



世話をしている家族の有無別に「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったかをみると、世話をしている家族が「いる」と回答した方が、「聞いたことはない」の割合が高く、「小学6年生」は 56.7%、「中学2年生」は 57.2%、「高校2年生」は 51.7%と過半数を占めている。

図表 78 世話をしている家族の有無別

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)

		合計	Q27. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか			
			聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	646	17.8	22.6	56.7	2.9
	小学6年生-いない	3694	32.5	26.7	40.4	0.4
	中学2年生-いる	533	16.5	20.8	57.2	5.4
	中学2年生-いない	3318	33.8	23.0	42.8	0.5
	高校2年生-いる	319	19.7	18.5	51.7	10.0
	高校2年生-いない	2700	34.7	19.0	45.9	0.4
	定時制高校2年生相当-いる	11	0.0	18.2	81.8	0.0
	定時制高校2年生相当-いない	45	17.8	26.7	55.6	0.0

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が11件と少ないため、参考値。

図表 79 現在住んでいる市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)

		Q27. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答	合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答	合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答
Q3. 現在住んでいる市町村:千葉県保健福祉圏域	全体	4414	30.2	26.1	43.0	0.8	3927	31.0	22.7	44.9	1.4	3051	32.8	19.0	46.5	1.7
	習志野市区	267	25.1	19.1	55.4	0.4	425	33.4	25.2	40.2	1.2	283	22.6	14.5	60.8	2.1
	市川地区	425	23.8	20.9	54.6	0.7	149	32.9	22.1	41.6	3.4	219	29.7	14.6	53.0	2.7
	松戸地区	586	27.0	24.6	47.1	1.4	398	37.7	21.6	39.4	1.3	272	34.6	22.1	41.2	2.2
	野田地区	95	17.9	26.3	55.8	0.0	257	23.7	18.3	56.8	1.2	96	40.6	35.4	22.9	1.0
	印旛地区	570	20.5	24.7	54.6	0.2	611	24.1	20.5	54.0	1.5	357	44.3	18.5	36.7	0.6
	香取地区	58	24.1	22.4	53.4	0.0	49	34.7	18.4	46.9	0.0	121	18.2	20.7	61.2	0.0
	海匝地区	87	27.6	32.2	39.1	1.1	28	28.6	42.9	28.6	0.0	106	23.6	17.9	55.7	2.8
	山武地区	103	15.5	25.2	58.3	1.0	146	18.5	21.2	60.3	0.0	119	31.9	18.5	47.9	1.7
	長生地区	70	15.7	35.7	48.6	0.0	15	46.7	20.0	33.3	0.0	33	39.4	12.1	45.5	3.0
	夷隅地区	37	16.2	24.3	54.1	5.4	13	38.5	23.1	38.5	0.0	12	25.0	16.7	58.3	0.0
	安房地区	51	23.5	25.5	51.0	0.0	91	16.5	27.5	53.8	2.2	224	34.4	16.1	45.5	4.0
	君津地区	181	24.3	25.4	49.2	1.1	305	19.0	17.4	63.3	0.3	153	35.3	20.9	42.5	1.3
	市原地区	278	18.3	20.5	60.8	0.4	419	22.9	17.2	58.2	1.7	78	34.6	21.8	43.6	0.0
	船橋市	1227	50.4	31.5	17.3	0.8	826	46.0	30.8	21.5	1.7	372	27.7	18.0	53.8	0.5
	柏市	280	22.1	26.1	50.7	1.1	132	31.8	17.4	50.8	0.0	199	43.2	25.6	29.6	1.5
	千葉市	58	12.1	24.1	63.8	0.0	31	16.1	22.6	58.1	3.2	359	30.9	18.1	48.7	2.2
	県外	3	33.3	0.0	66.7	0.0	3	0.0	0.0	33.3	66.7	41	53.7	9.8	36.6	0.0

図表 80 通っている学校のある市町村【千葉県保健福祉圏域】×世話をしている家族の有無別

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)

		Q27. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答	合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答	合計	内容聞いたことがあり、	聞いたことはある	聞いたことはない	無回答
Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県保健福祉圏域	全体	4414	30.2	26.1	43.0	0.8	3927	31.0	22.7	44.9	1.4	3051	32.8	19.0	46.5	1.7
	習志野市区	248	25.4	18.1	56.0	0.4	406	33.3	25.4	40.1	1.2	134	35.1	20.1	43.3	1.5
	市川地区	415	23.9	21.0	54.7	0.5	139	32.4	22.3	41.7	3.6	315	23.5	17.8	55.9	2.9
	松戸地区	552	26.3	24.8	47.3	1.6	386	37.6	22.3	39.1	1.0	137	33.6	16.1	48.9	1.5
	野田地区	88	18.2	27.3	54.5	0.0	222	23.4	18.5	57.7	0.5	54	37.0	48.1	14.8	0.0
	印旛地区	547	20.1	24.9	54.8	0.2	584	23.5	20.5	54.3	1.7	290	50.0	19.0	30.3	0.7
	香取地区	57	24.6	22.8	52.6	0.0	47	36.2	19.1	44.7	0.0	131	22.1	14.5	63.4	0.0
	海匝地区	84	26.2	32.1	40.5	1.2	25	20.0	48.0	32.0	0.0	109	17.4	22.9	57.8	1.8
	山武地区	101	15.8	24.8	59.4	0.0	143	18.9	18.9	62.2	0.0	76	32.9	18.4	44.7	3.9
	長生地区	60	18.3	31.7	50.0	0.0	14	42.9	14.3	42.9	0.0	22	54.5	9.1	31.8	4.5
	夷隅地区	38	15.8	23.7	55.3	5.3	12	41.7	25.0	33.3	0.0	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	安房地区	47	23.4	25.5	51.1	0.0	93	16.1	28.0	53.8	2.2	236	33.1	17.4	47.0	2.5
	君津地区	171	24.6	25.7	48.0	1.8	296	17.2	18.2	63.9	0.7	148	36.5	20.9	41.2	1.4
	市原地区	270	18.1	19.6	61.9	0.4	393	22.9	16.8	59.0	1.3	13	38.5	23.1	38.5	0.0
	船橋市	1204	50.5	31.2	17.4	0.8	760	46.6	30.5	21.3	1.6	313	24.9	13.1	61.0	1.0
	柏市	259	21.6	27.4	50.2	0.8	122	34.4	17.2	48.4	0.0	384	43.0	26.8	28.6	1.6
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	0.0	13	30.8	7.7	61.5	0.0	584	29.6	16.4	52.1	1.9

図表 81 現在住んでいる市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)

		Q27. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答	合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答	合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答
全体	4414	30.2	26.1	43.0	0.8	3927	31.0	22.7	44.9	1.4	3051	32.8	19.0	46.5	1.7	
Q3. 現在住んでいる市町村:千葉県教育事務所別地区	葛南	1885	41.3	27.5	30.5	0.7	1380	40.5	28.1	29.6	1.7	793	27.4	16.1	54.9	1.6
	東葛飾	995	24.5	25.2	49.1	1.1	807	32.8	20.1	46.1	1.0	648	36.1	24.2	38.0	1.7
	北総(印旛)	570	20.5	24.7	54.6	0.2	611	24.1	20.5	54.0	1.5	357	44.3	18.5	36.7	0.6
	北総(香取)	58	24.1	22.4	53.4	0.0	49	34.7	18.4	46.9	0.0	121	18.2	20.7	61.2	0.0
	北総(海匝)	87	27.6	32.2	39.1	1.1	28	28.6	42.9	28.6	0.0	106	23.6	17.9	55.7	2.8
	東上総(山武)	103	15.5	25.2	58.3	1.0	146	18.5	21.2	60.3	0.0	119	31.9	18.5	47.9	1.7
	東上総(長生)	70	15.7	35.7	48.6	0.0	15	46.7	20.0	33.3	0.0	33	39.4	12.1	45.5	3.0
	東上総(夷隅)	37	16.2	24.3	54.1	5.4	13	38.5	23.1	38.5	0.0	12	25.0	16.7	58.3	0.0
	南房総(市原・君津)	459	20.7	22.4	56.2	0.7	724	21.3	17.3	60.4	1.1	231	35.1	21.2	42.9	0.9
	南房総(安房)	51	23.5	25.5	51.0	0.0	91	16.5	27.5	53.8	2.2	224	34.4	16.1	45.5	4.0
	千葉市	58	12.1	24.1	63.8	0.0	31	16.1	22.6	58.1	3.2	359	30.9	18.1	48.7	2.2
県外	3	33.3	0.0	66.7	0.0	3	0.0	0.0	33.3	66.7	41	53.7	9.8	36.6	0.0	

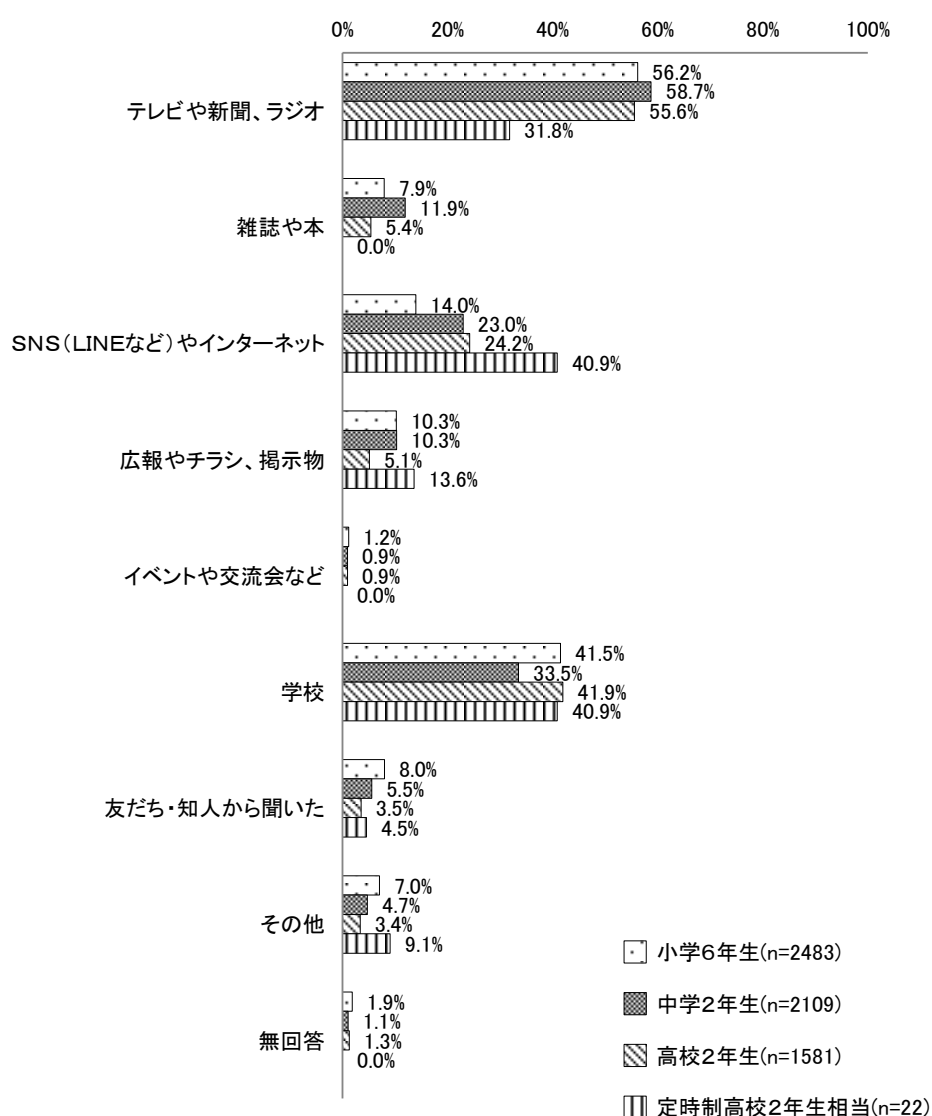
図表 82 通っている学校のある市町村【千葉県教育事務所別地区】×世話をしている家族の有無別「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか:単数回答 (Q27)

		Q27. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあったか														
		小学6年生					中学2年生					高校2年生				
		合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答	合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答	合計	内容も知つて いる、	が、聞いた ことは 知らない	聞いた ことは ない	無 回答
全体	4414	30.2	26.1	43.0	0.8	3927	31.0	22.7	44.9	1.4	3051	32.8	19.0	46.5	1.7	
Q4. 通っている学校のある市町村:千葉県教育事務所別地区	葛南	1836	41.6	27.2	30.5	0.7	1286	40.7	28.0	29.6	1.7	729	25.9	16.2	56.1	1.8
	東葛飾	930	24.1	25.8	48.9	1.2	749	33.4	20.6	45.4	0.7	608	39.6	25.8	33.1	1.5
	北総(印旛)	547	20.1	24.9	54.8	0.2	584	23.5	20.5	54.3	1.7	290	50.0	19.0	30.3	0.7
	北総(香取)	57	24.6	22.8	52.6	0.0	47	36.2	19.1	44.7	0.0	131	22.1	14.5	63.4	0.0
	北総(海匝)	84	26.2	32.1	40.5	1.2	25	20.0	48.0	32.0	0.0	109	17.4	22.9	57.8	1.8
	東上総(山武)	101	15.8	24.8	59.4	0.0	143	18.9	18.9	62.2	0.0	76	32.9	18.4	44.7	3.9
	東上総(長生)	60	18.3	31.7	50.0	0.0	14	42.9	14.3	42.9	0.0	22	54.5	9.1	31.8	4.5
	東上総(夷隅)	38	15.8	23.7	55.3	5.3	12	41.7	25.0	33.3	0.0	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	南房総(市原・君津)	441	20.6	22.0	56.5	0.9	689	20.5	17.4	61.1	1.0	161	36.6	21.1	41.0	1.2
	南房総(安房)	47	23.4	25.5	51.1	0.0	93	16.1	28.0	53.8	2.2	236	33.1	17.4	47.0	2.5
	千葉市	0	0.0	0.0	0.0	0.0	13	30.8	7.7	61.5	0.0	584	29.6	16.4	52.1	1.9

(3) 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人について、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかをみると、「小学6年生」「中学2年生」「高校2年生」は「テレビや新聞、ラジオ」の割合が最も高く、それぞれ、56.2%、58.7%、55.6%となっている。次いで「学校」の割合が高く、それぞれ、41.5%、33.5%、41.9%となっている。「定時制高校2年生相当」は、「SNS（LINEなど）やインターネット」「学校」がそれぞれ40.9%で最も割合が高くなっている。

図表 83 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか:複数回答 (Q28)



世話をしている家族の有無別に「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかをみると、世話をしている家族が「いない」方が、「テレビや新聞、ラジオ」の割合が高い。また、「小学6年生」は「いない」方が「学校」の割合も高い。

図表 84 世話をしている家族の有無別
「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか:複数回答 (Q28)

	合計	Q28.「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか									
		ジテレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	ネット	SNSやLINE	示物やチラシ、掲	広報やチャシ、	なイベントや交流会	学校	友達たち・知人から	その他
学年×お世話の有無	小学6年生-いる	281	47.1	10.3	14.2	10.3	2.3	31.8	13.8	9.6	6.9
	小学6年生-いない	2188	57.4	7.8	13.9	10.2	1.0	42.6	7.2	6.7	1.2
	中学2年生-いる	199	50.3	11.6	21.6	8.0	3.0	31.7	7.0	6.0	5.5
	中学2年生-いない	1884	59.9	12.0	23.2	10.6	0.7	33.5	5.4	4.6	0.6
	高校2年生-いる	122	44.3	6.6	25.4	6.6	3.3	36.9	4.9	4.9	6.6
	高校2年生-いない	1450	56.6	5.3	24.2	5.0	0.8	42.4	3.4	3.1	0.8
	定時制高校2年生相当-いる	2	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
定時制高校2年生相当-いない	20	30.0	0.0	40.0	10.0	0.0	40.0	5.0	10.0	0.0	

※「定時制高校2年生相当」は、世話をしている家族が「いる」と回答した件数が2件と少ないため、参考値。

(4) ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うこと、要望等

ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等、自由に記入してもらった内容をみると、「本人が相談しやすい環境・機会づくり」「ヤングケアラーについて学ぶ場、自分や家族のこと、自分のやりたいことなどについて考える機会」「ヤングケアラーへの周囲（友達、大人、地域住民等）の関わり方」「ヤングケアラーへの学びの支援」「介護や家事、家族の世話等の直接的な支援」「学校での周知や相談対応」「ヤングケアラーに関する普及・啓発」などについての記載があった。

①本人が相談しやすい環境・機会づくり

<相談しやすい環境づくり>

中学2年生	1人だと精神面できついから頼れる人に相談してほしいです。
中学2年生	ヤングケアラーがより身近に相談できる環境を作る必要があると思う。
小学6年生	みんな(ヤングケアラーの人達)の思いをいつでも話せるようにできるといいと思う。スクールカウンセラーとかみたいに申請とかが必要だと、言いに行きづらいから、児童センターとか、誰でもいつでも行けるとか簡単に話すことができる場所があって、すぐに相談できるようにすると、みんな気が楽になると思う。わたしはヤングケアラーではないけれど、他のことを相談したいときも友達とか歳が近い人のほうが言いやすいと思う。
小学6年生	ヤングケアラーの人が一人で抱え込まないように、相談できる場所をつくったり、すぐに手助けできるような町にする。
小学6年生	ヤングケアラーのための電話のところを作ってやれば困っている人が電話して相談できると思いました。
小学6年生	見た目ではわからないことなので、まわりの大人に気軽に相談できる環境が整うことを願っています。いつ自分もなるからわからないので、みんなできちんと取り組んでいきたい。
高校2年生	ヤングケアラーにあてはまる人は、誰かに相談したり助けを求めたりする時間すらない気がするから相談する機会をもっと利用しやすいものにする。
中学2年生	僕はヤングケアラーではないけれど、同じ境遇の人達が家から自由に入ったり出たりできるオンライングループなどあれば、辛さや悩みを共有できるだろうし、人と話すことで心の息詰まりを少しでも回避できるのではないだろうか。

高校2年生	子どもの居場所を、家庭と学校のみにするのではなく、違うコミュニティが欲しかったら、新たな居場所を選べる社会にしたい。
中学2年生	私はヤングケアラーではないのですが、悩みを相談する際に、話せる人がいません。電話相談やチャットだと、家族にバレたり、時間がなかったり、お金が必要だったりするので、誰もが気軽に無料でいつでも相談できるようなサービスがほしいです。
小学6年生	私はカウンセラーとか言う知らない人にそのことを話すのは難しいと思う。普段話している人や信頼のある人、家族に相談する方が気が楽かなと感じた。でもそういう物は当の本人にしか気持ちはわからないかなあ。私はヤングケアラーじゃないから少しでも力になればいいなと思う。
中学2年生	私はヤングケアラーにあてはまりませんが、世の中にはあてはまる人がたくさんいることを知り、すごく複雑な気持ちになりました。家族のために何か手伝いをするということが大切なことで素晴らしいことですが、それが自分自身の負担になってしまったりするのは良くないことなので、何か不安や疲れがあったら、すぐ周りの大人に相談することも大切だと思いました。
小学6年生	5年生の頃に担任の先生と個人面談をする機会が、学期に2回ほどあった。このような取り組みが増えていけば、相談しやすくなると思う。
小学6年生	いつでも気軽に相談できたり、同じような境遇の仲間と交流できたりする場所や、センターがあったらいいと思う。

<本人への配慮>

小学6年生	あまりしつこくせずに、本人から相談するのを待つ。その中でも学校の生徒全員に手紙を配ったりして、いつでも相談に来ていいことやこんな活動もしているということを伝える事で気が楽になるのかも？
中学2年生	親の意見じゃなくて子どもの意見を聞くことが必要だと思う。1回話しただけの意見を信じるんじゃないで何回も話してから本音を聞くのがいいと思う。出会ってすぐの人に家庭の事情を話したい人は少ないと思う。
高校2年生	とにかく思うのは「何も支援ができないのなら現況について聞くだけ聞いてただただ人の気持ちを掻き回すのをやめてくれ！」ということです。
小学6年生	1人1人の何気ない小さな悩みでも、無理には聞き出さず、ゆっくりと時間をかけて、聞いてあげることが大切だと思います。
高校2年生	本人がヤングケアラーだと自覚している場合は助けを求められるけど、自分はそうではないって自覚していない人がいたら、その人が言い出さないと支援できないので、大人が積極的に手を差し伸べることが必要だと思った。
中学2年生	ヤングケアラーの人々の意見を聞きながらその人にとって迷惑にならない程度に支えていく。無理にああしようとか、そうしようとかすると逆にその人にとってストレスになると思う。その人がこうしてほしいというのを聞いてから行動するのが一番いいと思う。

<定期的なアンケートや相談の実施>

小学6年生	大変かもしれないけど、月にまたは週に一回程度でヤングケアラーについての相談アンケートや、対面相談をしてみる。
小学6年生	相談しにくい子がいるから月に一回とか学校などでアンケートを実施すればいいと思う（友達にヤングケアラーっぽい子がいるから）
高校2年生	ヤングケアラーであることを言いだせない人も多いと思うからこのようなアンケートを定期的に行うことが必要だと思います。
小学6年生	むりをしないようにこえかけをするこのようなアンケートを定期的に行い、困っている児童の相談にのってあげる。ヤングケアラーについての手紙を配る。ありがとうございました。
小学6年生	アンケートだけでなく、その学校の先生に頼み、個人個人で話し合いをしたりすることが必要だと思う。
小学6年生	自分がヤングケアラーとわかっていない人も、多数いるから、学校でのアンケート調査も細かく行ったほうがよいと思う。アンケート調査をやるにしても、先生とアンケートの結果を、1対1で話し合うとわかっていると、書く勇気が出せない人もいるだろうから、できる限り先生とは話さず、アンケート用紙に、細かく書いてもらったほうがいいと思う。その上で、しっかりとした対策をとった方がいいと思う。
中学2年生	ヤングケアラーの人は、「自分はヤングケアラーです。」と先生や友達に伝えるのが、周りの人も気が付くことが少ないと思うので、このようなアンケートをこれからも続けていくと良いと思います。

②ヤングケアラーについて学ぶ場、自分や家族のこと、自分のやりたいことなどについて考える機会

高校2年生	学校で学んだり、言いやすい環境も作れたらいいのかなと思う
中学2年生	自分がヤングケアラーだと知らない人が多いんじゃないかと思う。学校教育でやったほうがいいのか。（道徳など）自分がヤングケアラーだと知っている人の中には、ヤングケアラーを人に話す

	のが恥ずかしいと思っている人がいて、相談しにくいのではないかと。まずは、匿名で、学校アンケートを取ったほうが良いと思う。多くの人に知ってもらう必要がある。
中学2年生	自分や家族のことをしっかり考えることが必要だと思いました。
高校2年生	ヤングケアラーもそうでない人も家族のことについて気軽に話すことができる場があると良いと思います。
中学2年生	私自身も知る機会が少ない。調べないとわからないから無自覚でやってしまっている人が多い気がする。何かを使いいろんな人に知らせる必要があると思う。
中学2年生	自分のやりたいことを見つけることが大切だと思う。お世話をするから自分の時間がないということ普通だとは思わずにまた抱え込まずに誰かに頼ったり相談したりすることが重要。それができるようサポートすることが私達にできることだと思う。
小学6年生	自分がしていることは家族だから当たり前ではなく、周りの友達はやっていないという事を知る必要があると思います。
中学2年生	本人にとっては当たり前になってしまっていると聞きます。なので、それが当たり前ではないということを学校などで伝えるべきなのではないかと思っています。
小学6年生	テレビやネット、みんなが身近に見れるものなどで、支援について書き込みを行ったりする。困ったことがある場合、気軽に相談できる場所などを身近に準備しておく。(相談室など。)
高校2年生	自分の近くにヤングケアラーの友達がいると知ったとき、その子を支えるために自分は何ができるか理解しておくこと。
小学6年生	そのような子どもたちが安心して頼れる人を近くにいさせてあげる。話を聞いてあげる。ヤングケアラーについての授業をしてみんなにヤングケアラーについて知ってもらう。
中学2年生	ヤングケアラーという言葉があまり良くないと思う。なぜなら、ヤングケアラーに当てはまることを自分がやりたいと思っている子どもがいるかもしれないと思うからだ。ヤングケアラーという言葉の線引きがグレーなのに、こんな言葉を決めないで欲しい。人の行動や思いにケチをつけないようにしてほしい。それを心に留めておいてくれると嬉しい。

③ヤングケアラーへの周囲（友達、大人、地域住民等）の関わり方

小学6年生	友達がいづもと違うテンションだったら、大丈夫？と話しかける！
小学6年生	一人にさせない、傷つけないことが大切だと思います。
中学2年生	早くヤングケアラーの存在に周りの人が気付いて、少しでも助けになれるようにしていくことが大切だと思います。
中学2年生	ヤングケアラーの子がいるということを周りの大人たちが理解してあげることが大切だと思う。
中学2年生	ヤングケアラーの方へ週1回の電話を行い、その方々の生活での悩みや、心のケアなどをしてあげることが必要だと思います。(メールでやりとりなども良い) また、食事などが、よく取れているのかも確認し、食事を、提供してあげることも大切だと思います。
中学2年生	ヤングケアラーについてよく知らない人はなんでこんな事しているの？など疑問に思うことがあると思うし、冷やかしてくる人もいると思うから、みんなは他人事だと思ってるかもしれないけど絶対ならぬいなんでことないと思うし、いざ自分になったと考えて発言行動すること。自分はそういう立場に立ったことがないから気持ちはわからないけど、ヤングケアラーが可哀想とか見た目問題じゃなくてその人の心のすきを作ってあげることが大事だと思う。誰かに相談できない助けを求められない人が世界中にもたくさんいると思うから、そういう人たちからみて今の日本は相談したり助けを求められない環境にいるから、ヤングケアラーが増えてしまうのだと思った。言葉だけでなくほんとに1人1人に寄り添える日本に変わってほしい。難しいかもしれないけどこれを叶えられたら救われる人心にゆとりを持てる人が増えていくと思った。
小学6年生	例えば、近隣に住んでいる人と仲の良い関係を築けたらお互いに助け合えるんじゃないかと思った
小学6年生	自分のことだけを考えるのだけでなく、ほかの人のことも考える。ということは将来必要になる力だと思う。
小学6年生	アンケート調査をしても言えない人がいると思うので、少しでも様子がおかしい人には地域の人は声をかけてあげる様にすれば良いと思います。
小学6年生	具体的に何ができるかはわからないけれど、元気がなさそうなお友達がいたら、目をむけてあげる、気づいてあげることが大切なんだと思います。
小学6年生	お世話されている人本人は悪くないから、周りの人達が気にかけて、話を聞いてあげることが重要だと思います。
中学2年生	ヤングケアラーだということを周りが気づいてあげることが大事だと思う。
中学2年生	息抜きする時間がとれるといい。自分だったら恥ずかしくて言えないと思うから、自分たちも「あいつちょっと変。付き合い悪い。」とか思うんじゃないかと「どうしてかな？」と相手を思って考えることが大切だと思う。
小学6年生	ヤングケアラーとはちょっと違うけど、両親がピリピリしていることが多いから、いつでも相談してくださいじゃなくて、両親が喧嘩ばかりならこんな対処方法があるよとか、両親が喧嘩しているのを聞いて

	ていて辛いなと思ったら、こんなことをしたらいいんだよとかそういう言葉がもっとあったらいいのに、と思っています。
高校2年生	ヤングケアラーの子たちが気軽に自分の思いを吐き出せる場所を作ったり、地域のバリバリ動けるお年寄りがヤングケアラーの子たちを支援できる体制を作る。
中学2年生	親が鬱になりヤングケアラーになってしまった人もいるので周りの人は子の状態だけでなく、親のことも気に掛け支え合うことが大切だと思う。

④ヤングケアラーへの学びの支援

高校2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談や支援をしやすい環境を整える。 ・無料で学べる制度、また、家の中で空いた時間に学びたいものを学べるような措置（インターネット上のサイトで専門分野を詳しく学べるなど）。 ・地域の中の交流を増やす。
小学6年生	ヤングケアラーの子ども達でも、勉強ができるようにしてほしいです。習い事や、自由に行きたい学校に行けるようにしてほしいです。

⑤介護や家事、家族の世話等の直接的な支援

高校2年生	介護に必要なお金を補助する。教育を受けられない子ども達をなくす。
高校2年生	無料か安い値段で親の目が必要な子どもを代わりに世話をしてくれる制度。
高校2年生	要介護でなくても時々介護して貰えるような場所を地域に設置したりすると思います。
小学6年生	お家にお手伝いをしてくれる人が行けばいい。
小学6年生	ヤングケアラーの人が登校や外出ができるように家政婦さんのような仕事をつくったらいと思います。
中学2年生	ヤングケアラーだったとしても相談しにくい場合があるので、匿名で相談を受け付けたり、無料で介護する人を預けられる場所を作ったり、家に介護をしてくれる代わりに人を無料で手配できるようにすることが必要だと思う。
中学2年生	大人の人達が手伝いに来てくれると楽になると思うけど、気まずい雰囲気になったり、気遣いや遠慮をしないといけないと思うので、同年齢の人で協力して支援をすればいいと思います。（都合が合わないとか色々あると思うけど私だったらこう思いました。参考にならないと思いますが、検討してみてください。）
中学2年生	ヤングケアラーの話や困っていることを聞いてあげる。たまに大人が家を訪ねてヤングケアラーがいつも世話している人を世話してあげる。
小学6年生	家族のために、手伝っている子にあわせた時間帯の学校が必要だと思う。学校に行っている間、近所の人、施設の人などが家に来て世話をしてあげると良いと思う。ヤングケアラーの人も、自分のことをまわりに伝えていくと良いと思う。
高校2年生	ヤングケアラーのいる家庭が、誰かボランティア的なお手伝いさんを雇えるようにして(金銭面に関しては県または市町村が半分負担するなどして)、ヤングケアラーの子の自由時間を増やしてあげるといいのかなと思いました。
高校2年生	気にかけることも大切だけど具体的にお手伝いをしに行ったり、活動ができると良いと思います。
小学6年生	私ではなく、兄がヤングケアラーだと思います。両親の帰りが遅く、兄が私の面倒を見てくれますが、兄も高校生で夜が遅いとき家は一人です。夜を回っても学童みたいな役割をしてくれる施設が欲しい。
中学2年生	家事代行のようなあまりお金がかからずに手伝って貰える事があれば手伝って欲しい。障害者という認定がないとサービスが受けられない事があるみたいだから、子どもでも分かるような情報が欲しい
高校2年生	ボランティアとして幼いうちからヤングケアラーになっている子達の手伝いや悩みを気軽に聞ける場所を作る。
小学6年生	ぼくが、ヤングケアラーだったらまず電話して、家に来てもらって毎日無料で家の家事などを手伝ってほしい。【これは自分の意見です】
小学6年生	ヤングケアラーのための食事や生活費、また、ヤングケアラー自身が、不自由な生活にならない用にすることが必要だと思う
小学6年生	ヤングケアラーに当てはまる人から不満の相談があれば、市とか県が支援物資で温めてできるご飯とか簡単に温めてできる食べ物セットなどをそういう家に送ってあげる。

⑥学校での周知や相談対応

小学6年生	自ら相談できる子は少ないと思います。まずは先生方が異変に気づき、市などに対応をお願いする連携をつくってもらえたらいいと思います。
-------	--

小学6年生	もし自分がヤングケアラーだったら自分からはいえないとおもうから、先生とかには、学校とかをよく休んでいたり、朝から疲れているような仕草みたいなのをしたら「家族のこととか相談ありますか？」みたいなのを誰もいない部屋で1対1ではなしてほしいなっておもいました。
小学6年生	「ヤングケアラー」という言葉をもっと身近にするため、特別授業などを学校でしてほしい。
高校2年生	ヤングケアラーという言葉がまだあまり広まっていない。小中学校であれば、道徳の授業等で扱うのもいいと思う。
小学6年生	相談窓口のフリーダイヤルの電話番号を学校で知らせる、頻繁に学校でお知らせを配る。相談できる先生が学校に来て話をきいてもらう。大人に話して、解決方法を探してもらう。
小学6年生	今後もし自分がヤングケアラーになり、担任の先生に相談した場合、実際には誰が支援してくれるのか不安。そこらへんの周知してほしい。
高校2年生	ヤングケアラーについて知らない人が多いと思うので、学校の手紙(カウンセラー便り、保健室便りなど)から学生や保護者に、まずヤングケアラーについて知ってもらうことが大切だと思います。
中学2年生	本人は気付かない内にヤングケアラーとなっている事が多いと思うので、ヤングケアラーとお手伝いの違いを本人達が知れるように学校で伝えて行けたらいいと思う。
小学6年生	学校にポスターを貼ってみたりしたら、学校内では広まると思います。そしたら、生徒が親にヤングケアラーのことを言ってくれたら、親も広げてくれるのではないかなと思います。
高校2年生	こんな人もヤングケアラーの1人なんだ、などと今回初めて知ったことも多くあったので、お便りなどを発行し、自らヤングケアラーについて調べる機会がない人にもヤングケアラーについて知ってもらう機会を増やすことで、「周りの友達や知り合いはどうだろう」と気にかけてみるきっかけにもなるのではないかな、と感じました。
高校2年生	自分自身「ヤングケアラー」という言葉自体知らなかったで、ヤングケアラーという人達がいるということを広めるために中学校、高校などで講習会を開けば広まるのではないかなと思います。
小学6年生	ヤングケアラーのことを考えたことがなかった。学校の授業などで教えてくれたら、もっとたくさん知ることができ、考えることができる。

⑦ヤングケアラーに関する普及・啓発

中学2年生	ヤングケアラー対象の人がどのようなことで困っているのか、本当に困っている人はどのように対処すればいいのか書かれているポスターを作る。
中学2年生	困っている人の事を知る機会が無いので、もっとみんなが知る機会が増えると良いと思います。
小学6年生	自分はヤングケアラーという言葉が知らなかったからもっと知名度を上げた方がいいと思う。サポートしてあげて欲しい。
中学2年生	新聞にチラシなどを挟むCMを作る。
小学6年生	ヤングケアラーの支援を広げるために、友達に話して広める。
小学6年生	色々な人にヤングケアラーという言葉の意味を知ってもらい相談所などを設置したりして対応し心の中にヤングケアラーをしまわないようにする。
中学2年生	コンビニやスーパーなどでポスターをはるいろんな人に知ってもらうため、週一くらいでCMを流す
小学6年生	自分は、ドラマや映画を見るので、ヤングケアラーをテーマにしてみたらよくヤングケアラーの事がわかると思う
中学2年生	ヤングケアラーの方が誰かに支援を求めやすいように、たくさんの方がヤングケアラーについて理解することが大切だと思う。そのために、市主催の子供向けイベント等でヤングケアラーの話題を取り上げたり、公共施設等にポスターを貼ったりするべきだと感じた。
中学2年生	ヤングケアラーにあてはあっている人でもそれが普通だと思っている人が多いと思うので、もっとテレビや新聞、SNS等で広めるべきだとおもいます。(ヤングケアラーという言葉、内容を広める)
小学6年生	ヤングケアラーの人が近くにいるかも知れないという情報を流してヤングケアラーの人を助ける。(ポスターやテレビで) それを見たヤングケアラーの子が助けてくださいと言えればいいと思います。
高校2年生	たくさんの方がヤングケアラーの存在を知る事が大切。自分はヤングケアラーなのかどうかを知らなければ誰にも相談できないし解決に進まない。ヤングケアラーが全国にどれくらい居るのかの実態を調査し、その人数分の支援が必要。
中学2年生	若い人に知ってもらうならネットを使ったり美術の交通安全ポスターや火災を無くすポスターみたいに子供たちに作ってもらえばいいと思う。作った本人もよく知ることができるし、そのポスターが選ばれなくても学校に掲示すれば学校の人達に知ってもらうことが出来る。
小学6年生	私も、実際にヤングケアラーについて聞いた事も無かったし、意味すら知らなかったで、たくさんの人に広めていきたいと思いました。呼びかける広告などがいいと思います。最近はスマホやiPadを使ってよくYouTubeやTikTokを見ているので、広告を使ったら、よくわかると思います。キャラクターなどを使った広告なら、学生のわたしたちでも見ようという気持ちになるのでオススメです！
小学6年生	まずは知ってもらうことが大事だと思うのでホームページを作ったりチラシやポスターを作って貼ったりするといいんじゃないかなと思いました。

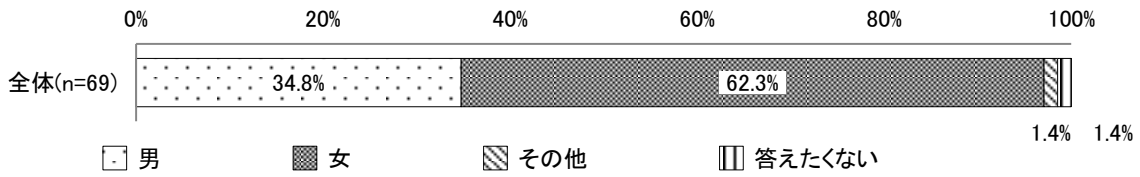
第3章 大学生アンケート結果

1. 基本情報

(1) 性別

性別をみると、「女」が 62.3%でもっとも割合が高く、次いで「男」が 34.8%、「その他」「答えたくない」がそれぞれ 1.4%となっている。

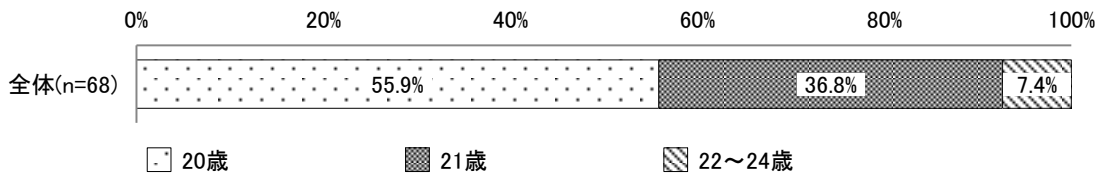
図表 85 性別:単数回答(Q2)



(2) 年齢

年齢をみると、「20歳」が 55.9%でもっとも割合が高く、次いで「21歳」が 36.8%、「22～24歳」が 7.4%となっている。

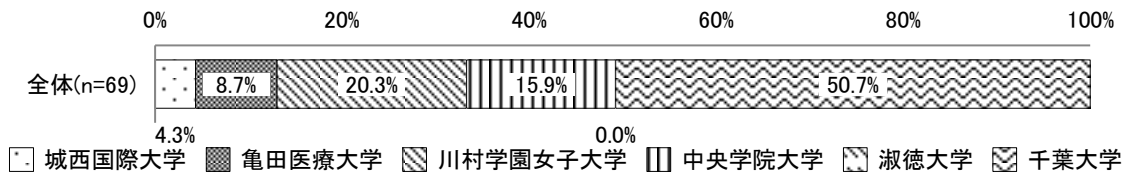
図表 86 年齢:単数回答(Q3)



(3) 通っている大学

通っている大学をみると、「千葉大学」が 50.7%でもっとも割合が高く、次いで「川村学園女子大学」が 20.3%、「中央学院大学」が 15.9%となっている。

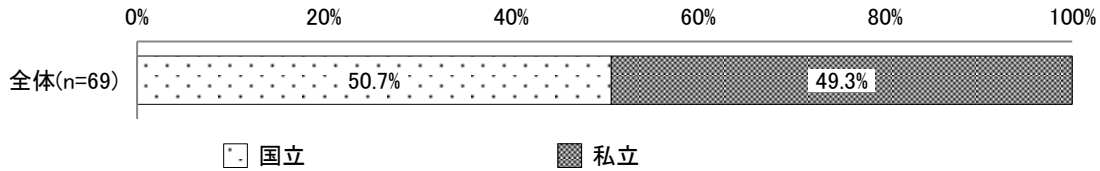
図表 87 通っている大学:単数回答(Q5)



(4) 大学種別

大学種別をみると、「国立」が50.7%、「私立」が49.3%となっている。

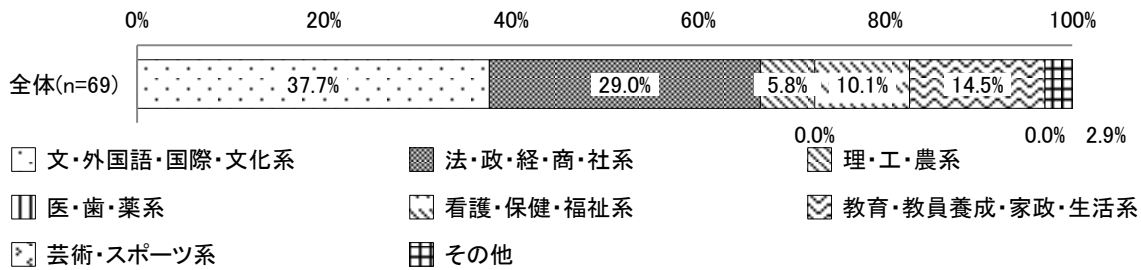
図表 88 大学種別:単数回答(Q6)



(5) 大学の学科（専攻）

大学の学科（専攻）をみると、「文・外国語・国際・文化系」が37.7%でもっとも割合が高く、次いで「法・政・経・商・社系」が29.0%、「教育・教員養成・家政・生活系」が14.5%となっている。

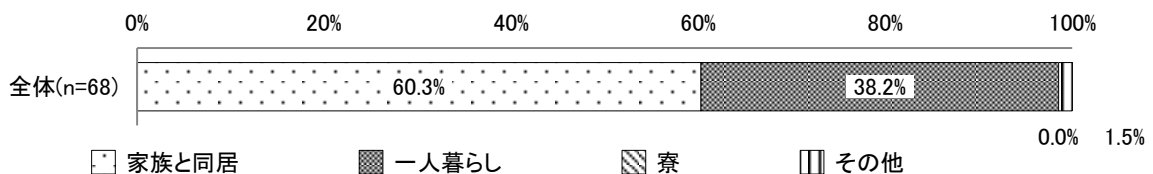
図表 89 大学の学科（専攻）:単数回答(Q7)



(6) 現在の居住形態

現在の居住形態をみると、「家族と同居」が60.3%でもっとも割合が高く、次いで「一人暮らし」が38.2%、「その他」が1.5%となっている。

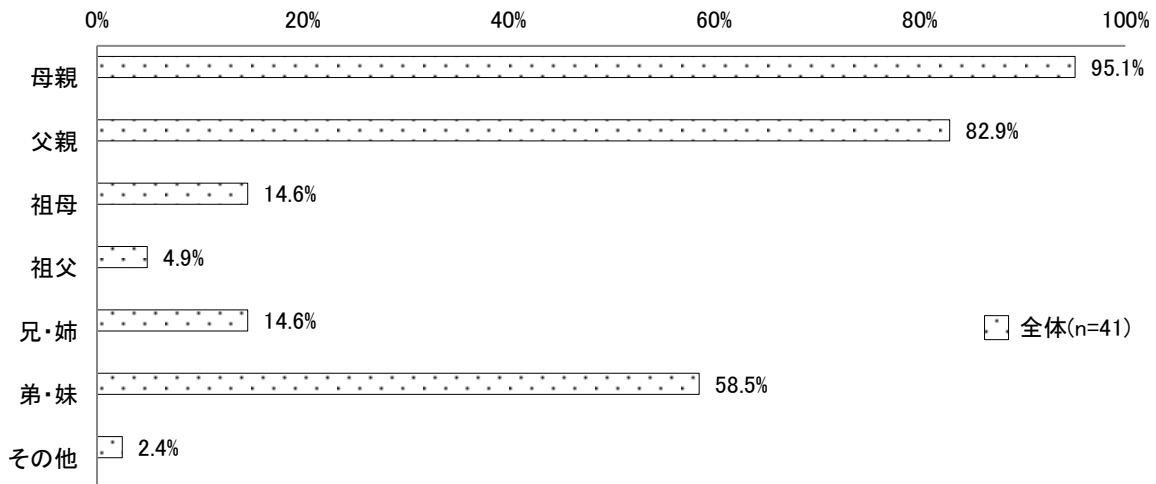
図表 90 現在の居住形態:単数回答(Q8)



(7) 現在一緒に住んでいる家族

現在の居住形態で「家族と同居」と回答した人について、現在一緒に住んでいる家族をみると、「母親」が95.1%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が82.9%、「弟・妹」が58.5%となっている。

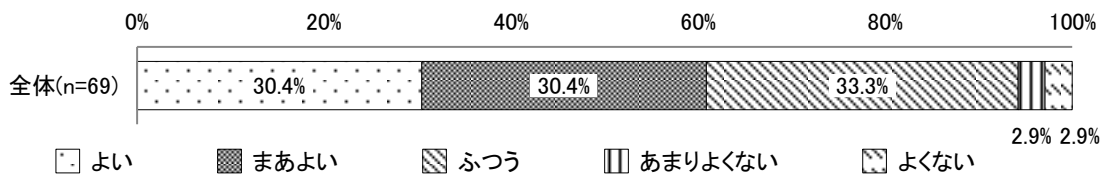
図表 91 現在一緒に住んでいる家族:複数回答(Q9)



(8) 身体面の健康状態

身体面の健康状態をみると、「ふつう」が33.3%でもっとも割合が高く、次いで「よい」「まあよい」がそれぞれ30.4%、「あまりよくない」「よくない」がそれぞれ2.9%となっている。

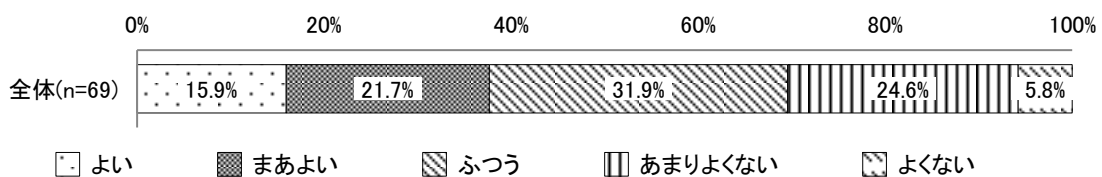
図表 92 身体面の健康状態:単数回答(Q10_1)



(9) 精神面の健康状態

精神面の健康状態をみると、「ふつう」が31.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまりよくない」が24.6%、「まあよい」が21.7%となっている。

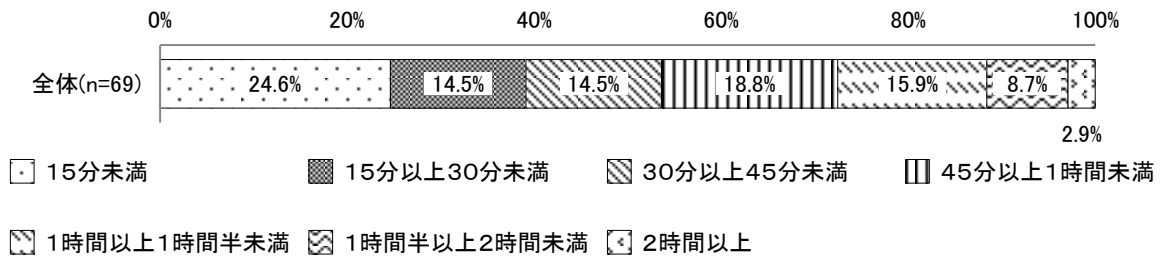
図表 93 精神面の健康状態:単数回答(Q10_2)



(10) 大学までの片道の通学時間

大学までの片道の通学時間をみると、「15分未満」が24.6%でもっとも割合が高く、次いで「45分以上1時間未満」が18.8%、「1時間以上1時間半未満」が15.9%となっている。

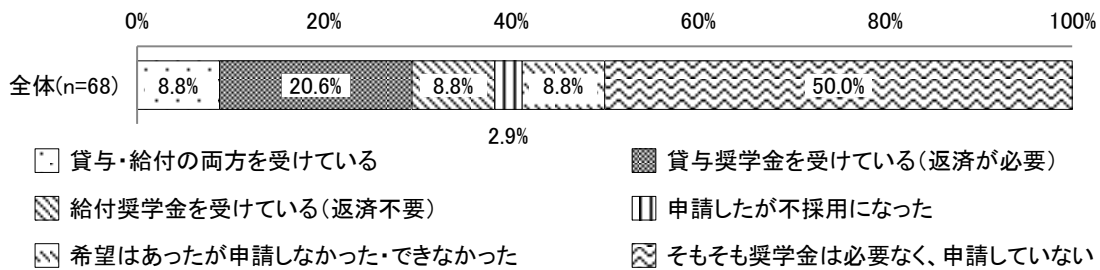
図表 94 大学までの片道の通学時間:単数回答(Q11)



(11) 奨学金の受給状況

奨学金の受給状況をみると、「そもそも奨学金は必要なく、申請していない」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「貸与奨学金を受けている(返済が必要)」が20.6%、「給付奨学金を受けている(返済不要)」「希望はあったが申請しなかった・できなかった」「貸与・給付の両方を受けている」がそれぞれ8.8%となっている。

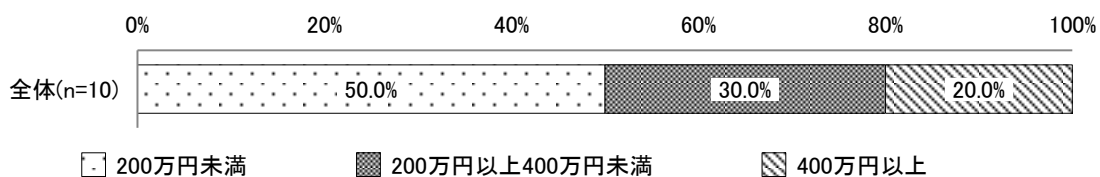
図表 95 奨学金の受給状況:単数回答(Q12_1)



(12) 奨学金の大学卒業時の予定貸与金額

奨学金の大学卒業時の予定貸与金額をみると、「200万円未満」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「200万円以上400万円未満」が30.0%、「400万円以上」が20.0%となっている。

図表 96 奨学金の大学卒業時の予定貸与金額:単数回答(Q12_2)

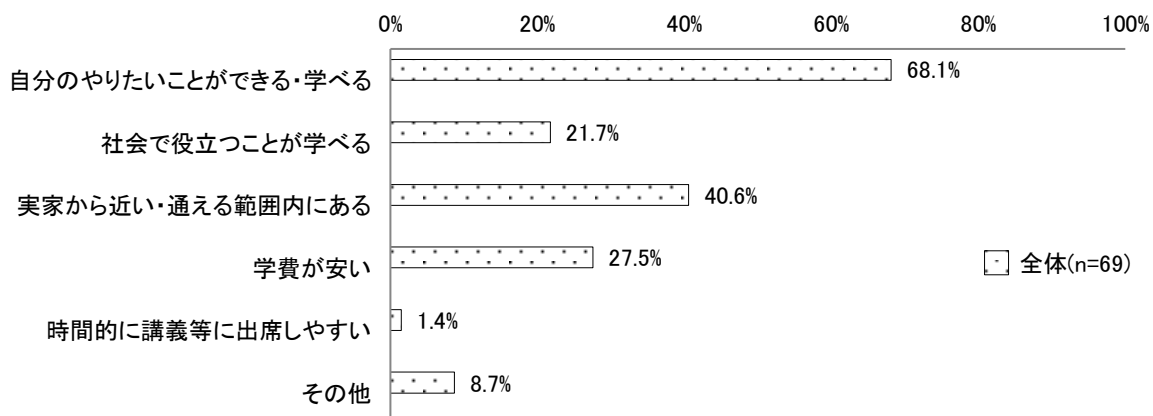


2. 普段の生活について

(1) 現在通う大学を選択した理由

現在通う大学を選択した理由をみると、「自分のやりたいことができる・学べる」が 68.1%でもっとも割合が高く、次いで「実家から近い・通える範囲内にある」が 40.6%、「学費が安い」が 27.5%となっている。

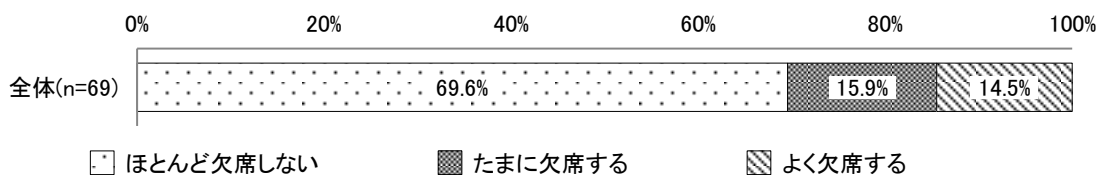
図表 97 現在通う大学を選択した理由：複数回答(Q13)



(2) 大学の授業（履修している講義）への出席状況

大学の授業（履修している講義）への出席状況をみると、「ほとんど欠席しない」が 69.6%でもっとも割合が高く、次いで「たまに欠席する」が 15.9%、「よく欠席する」が 14.5%となっている。

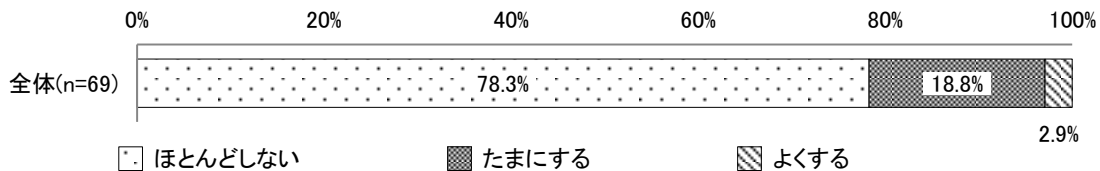
図表 98 大学の授業（履修している講義）への出席状況：単数回答(Q14_1)



(3) 大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況

大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況を見ると、「ほとんどしない」が 78.3%でもっとも割合が高く、次いで「たまにする」が 18.8%、「よくする」が 2.9%となっている。

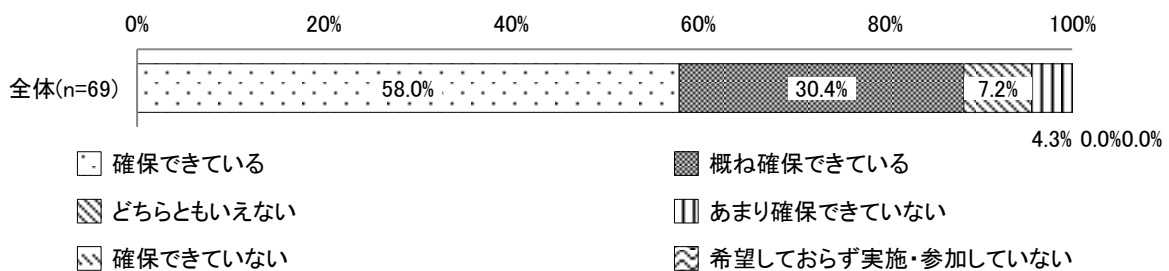
図表 99 大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況:単数回答(Q14_2)



(4) 時間の確保状況／大学の授業の受講（ゼミ含む）

大学の授業の受講（ゼミ含む）について、時間を確保できているかをみると、「確保できている」が 58.0%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が 30.4%、「どちらともいえない」が 7.2%となっている。

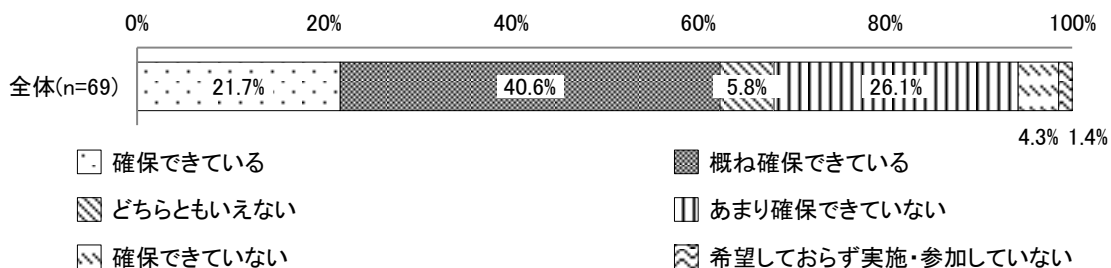
図表 100 時間の確保状況／大学の授業の受講（ゼミ含む）：単数回答(Q15_1)



(5) 時間の確保状況／大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間

大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間について、確保できているかをみると、「概ね確保できている」が 40.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり確保できていない」が 26.1%、「確保できている」が 21.7%となっている。

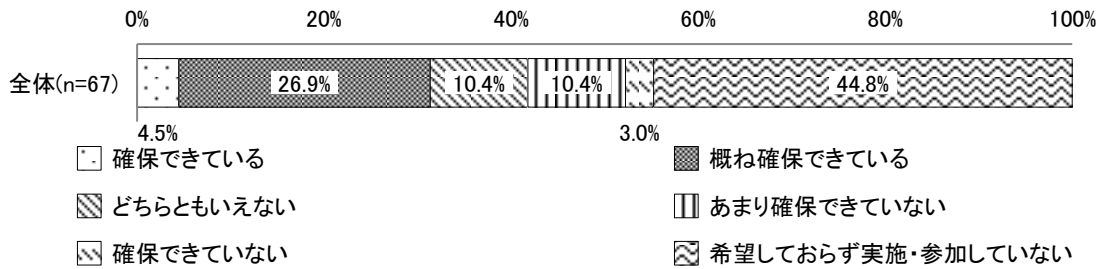
図表 101 時間の確保状況／大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間:単数回答(Q15_2)



(6) 時間の確保状況／部活・サークル

部活・サークルについて、時間を確保できているかをみると、「希望しておらず実施・参加していない」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が 26.9%、「どちらともいえない」が 10.4%、「あまり確保できていない」が 10.4%、「確保できていない」が 4.5%となっている。

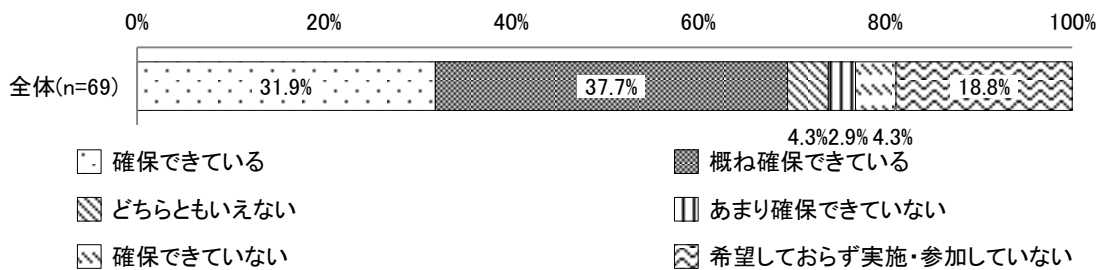
図表 102 時間の確保状況／部活・サークル:単数回答(Q15_3)



(7) 時間の確保状況／アルバイト・仕事

アルバイト・仕事について、時間を確保できているかをみると、「概ね確保できている」が 37.7%でもっとも割合が高く、次いで「確保できている」が 31.9%、「希望しておらず実施・参加していない」が 18.8%となっている。

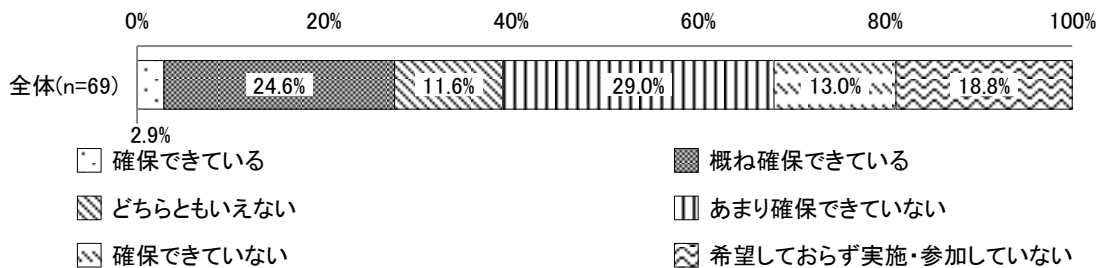
図表 103 時間の確保状況／アルバイト・仕事:単数回答(Q15_4)



(8) 時間の確保状況／就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）

就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）について、時間を確保できているかをみると、「あまり確保できていない」が29.0%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が24.6%、「希望しておらず実施・参加していない」が18.8%となっている。

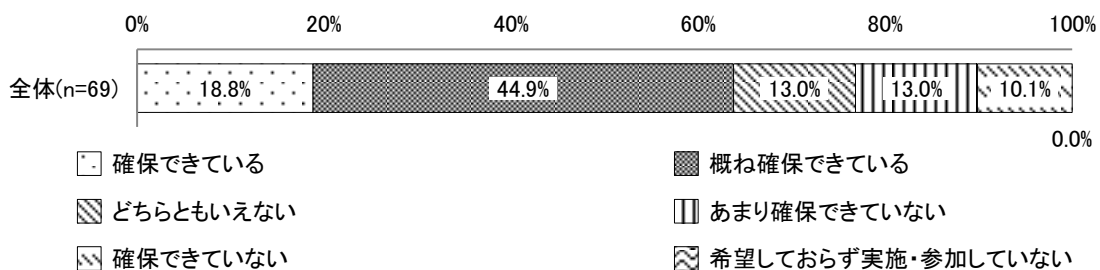
図表 104 時間の確保状況／就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）：単数回答(Q15_5)



(9) 時間の確保状況／趣味・娯楽・交友

趣味・娯楽・交友について、時間を確保できているかをみると、「概ね確保できている」が44.9%でもっとも割合が高く、次いで「確保できている」が18.8%、「どちらともいえない」「あまり確保できていない」がそれぞれ13.0%となっている。

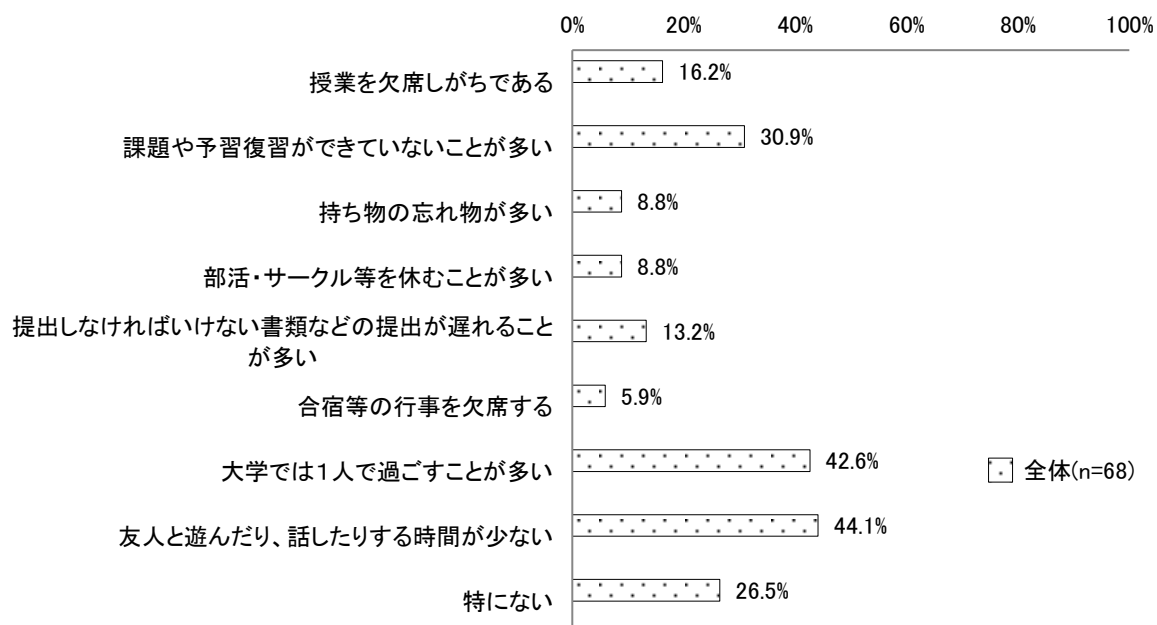
図表 105 時間の確保状況／趣味・娯楽・交友：単数回答(Q15_6)



(10) ふだんの大学生生活等においてあてはまるもの

ふだんの大学生生活等においてあてはまるものをみると、「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」が 44.1%でもっとも割合が高く、次いで「大学では1人で過ごすことが多い」が 42.6%、「課題や予習復習ができていないことが多い」が 30.9%となっている。

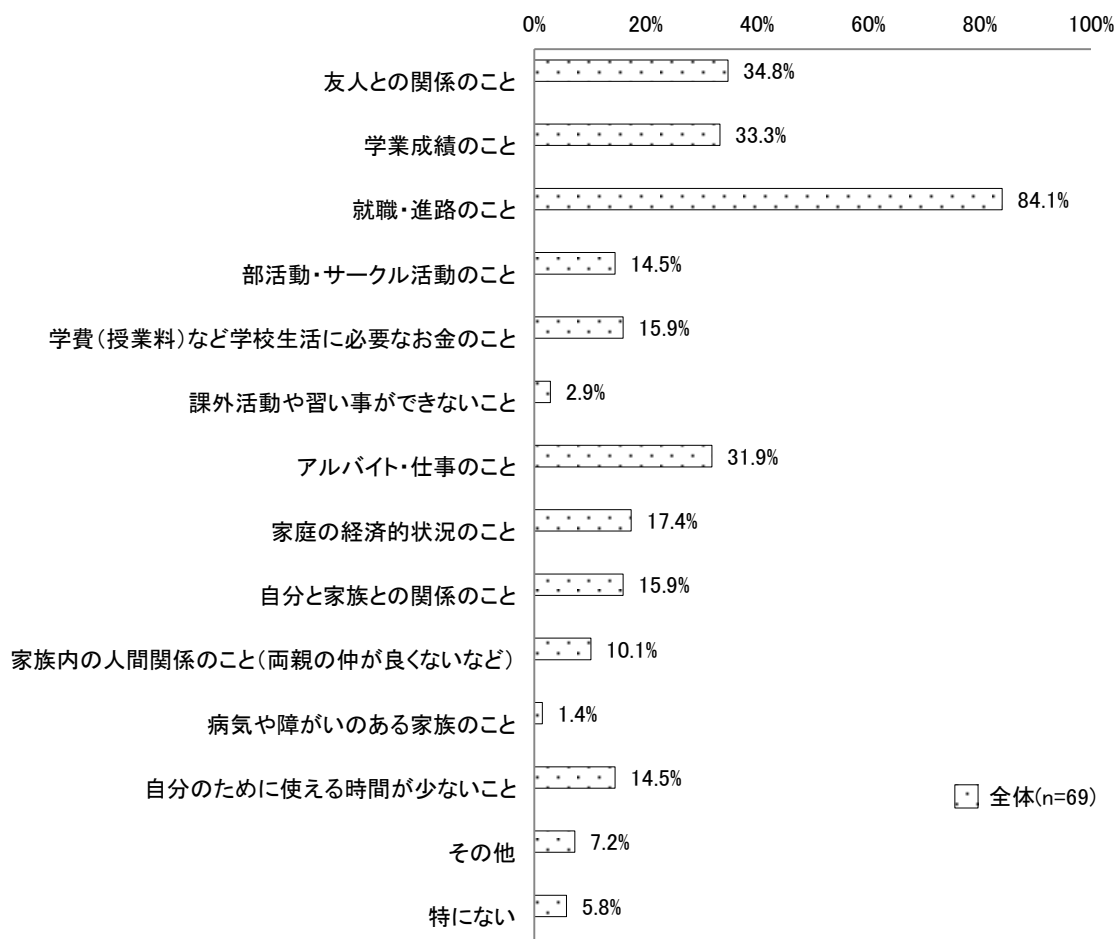
図表 106 ふだんの大学生生活等においてあてはまるもの:複数回答(Q16)



(11) 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとをみると、「就職・進路のこと」が 84.1%でもっとも割合が高く、次いで「友人との関係のこと」が 34.8%、「学業成績のこと」が 33.3%となっている。

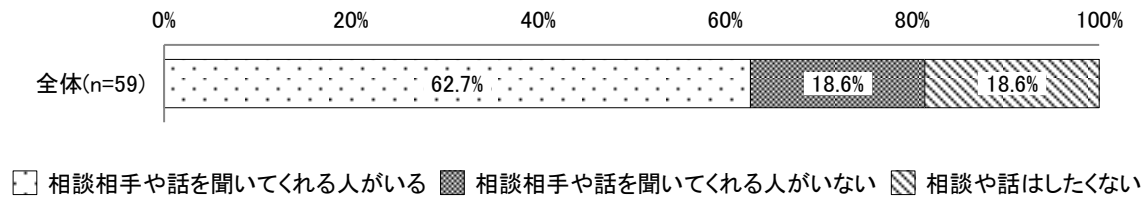
図表 107 現在の悩みや困りごと：複数回答(Q17)



(12) 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

現在の悩みや困りごとについて「特にない」以外と回答した人に関して、悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無をみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が 62.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」「相談や話はしたくない」がそれぞれ 18.6%となっている。

図表 108 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無:単数回答(Q18)

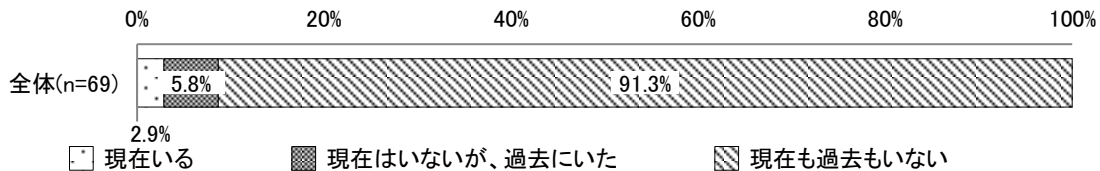


3. 家庭や家族のことについて

(1) 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無をみると、「現在も過去もない」が 91.3%でもっとも割合が高く、次いで「現在はいるが、過去にいた」が 5.8%、「現在いる」が 2.9%となっている。

図表 109 世話をしている家族の有無:単数回答(Q19)

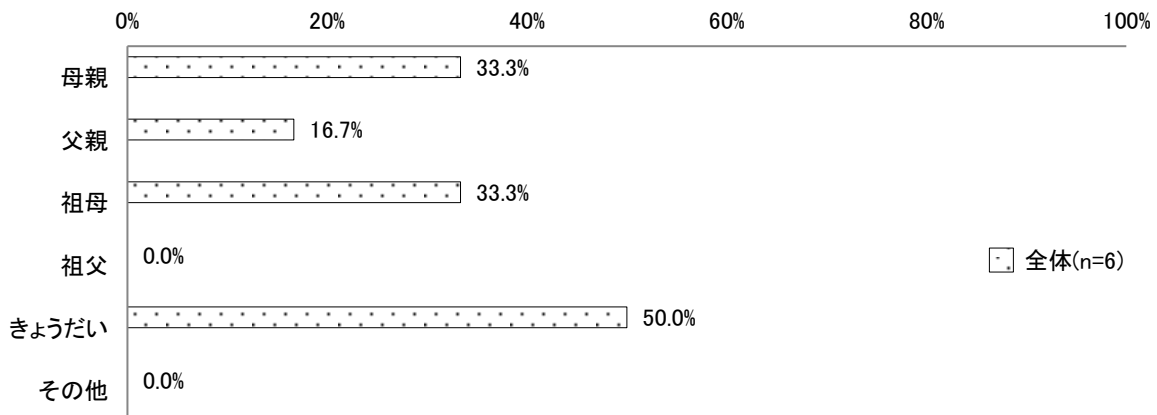


※以降、Q20~34 については、本設問で「現在いる」または「現在はいるが、過去にいた」と回答した者を対象として集計している。

(2) 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族をみると、「きょうだい」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「母親」「祖母」がそれぞれ 33.3%、「父親」が 16.7%となっている。

図表 110 世話を必要としている家族:複数回答(Q20_1)

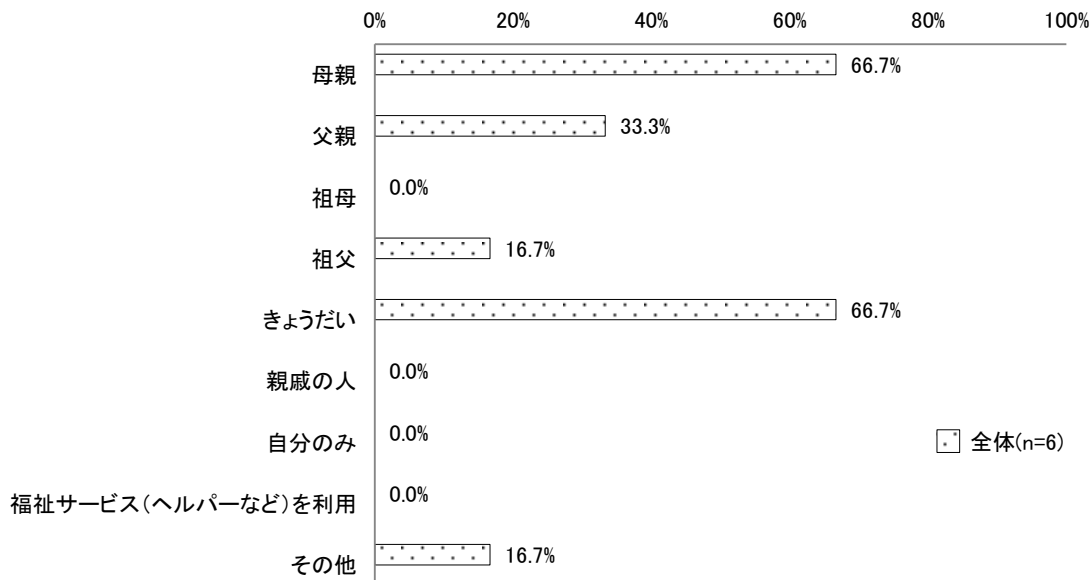


※以降、Q20_2「世話を必要としている（していた）方の状況」については、回答数が 1～2 件と少数であることから、報告書の掲載は省略している。

(3) 一緒に世話をを行っている人

一緒に世話をを行っている人をみると、「母親」「きょうだい」がそれぞれ 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が 33.3%、「祖父」「その他」がそれぞれ 16.7%となっている。

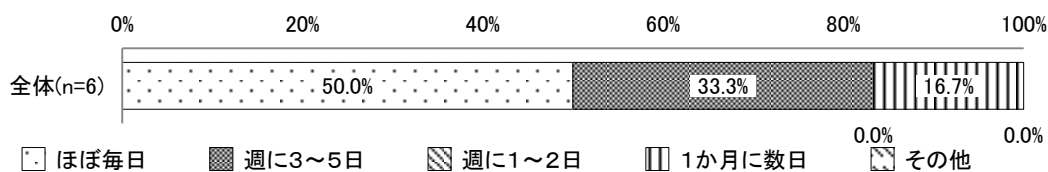
図表 111 一緒に世話をを行っている人:複数回答(Q20_3)



(4) 世話をしている(していた)頻度

世話をしている(していた)頻度をみると、「ほぼ毎日」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に3~5日」が 33.3%、「1か月に数日」が 16.7%となっている。

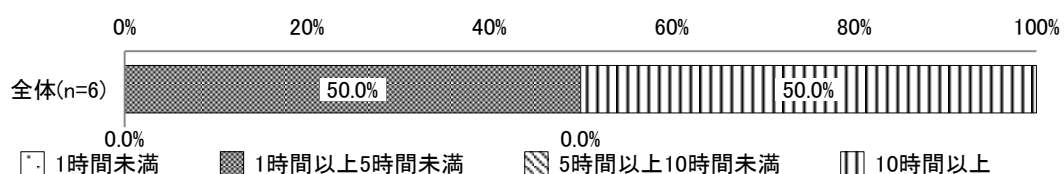
図表 112 世話をしている(していた)頻度:単数回答(Q20_4)



(5) 平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間をみると、「1時間以上5時間未満」「10時間以上」がそれぞれ 50.0%となっている。

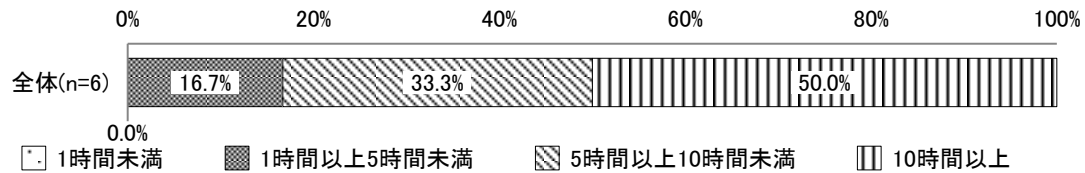
図表 113 平日1日あたりに世話に費やす時間:単数回答(Q20_5_1)



(6) 休日 1 日あたりに世話に費やす時間

休日 1 日あたりに世話に費やす時間をみると、「10 時間以上」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「5 時間以上 10 時間未満」が 33.3%、「1 時間以上 5 時間未満」が 16.7%となっている。

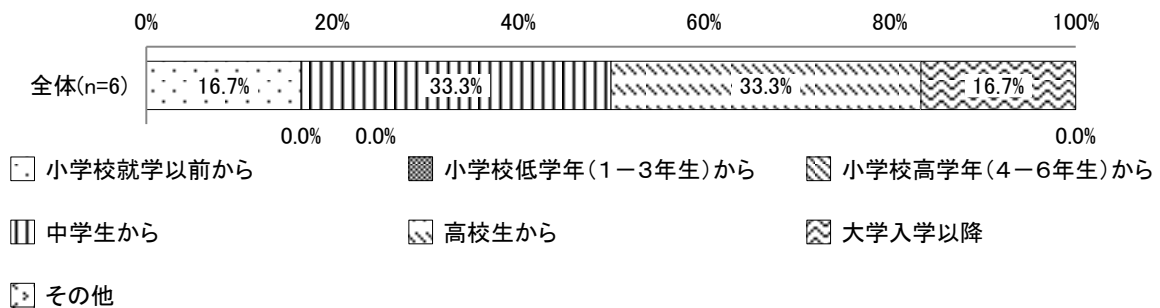
図表 114 休日 1 日あたりに世話に費やす時間:単数回答(Q20_5_2)



(7) 世話を始めた時期

世話を始めた時期をみると、「中学生から」「高校生から」がそれぞれ 33.3%、「小学校就学以前から」「大学入学以降」が 16.7%となっている。

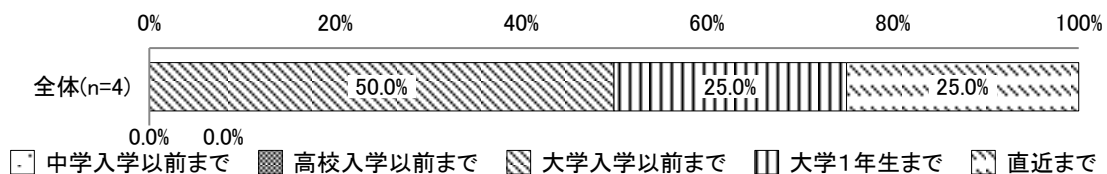
図表 115 世話を始めた時期:単数回答(Q20_6)



(8) 世話をしていた時期

世話をしている人が「現在はいないが、過去にいた」と回答した人について、世話をしていた時期をみると、「大学入学以前まで」が 50.0%、「大学 1 年生まで」「直近まで」がそれぞれ 25.0%となっている。

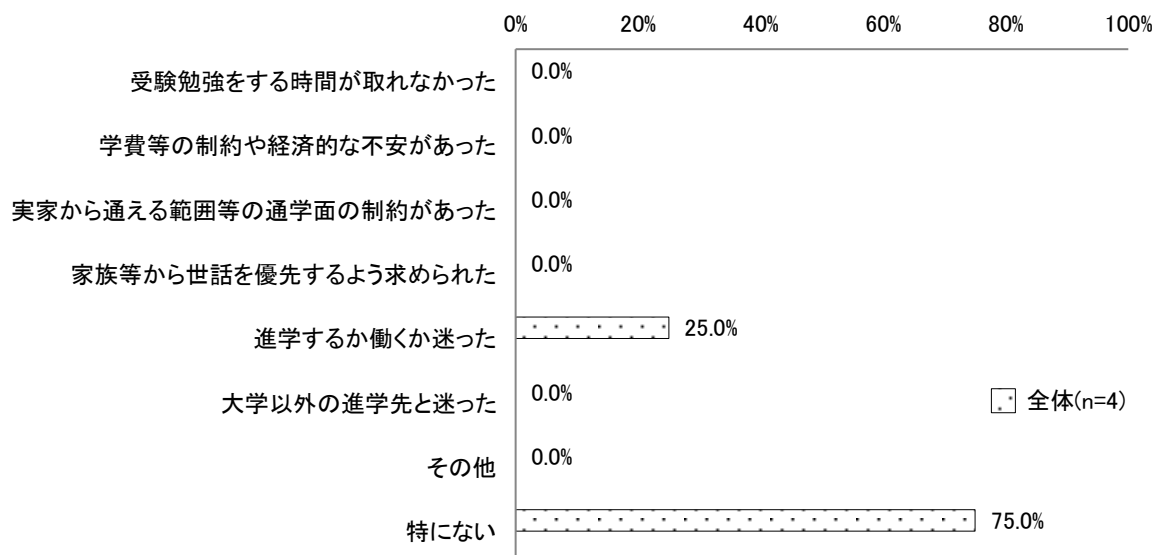
図表 116 世話をしていた時期:単数回答(Q20_7)



(9) 世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が「大学入学以降」以外と回答した人について、世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響をみると、「特にない」が75.0%、「進学するか働くか迷った」が25.0%となっている。

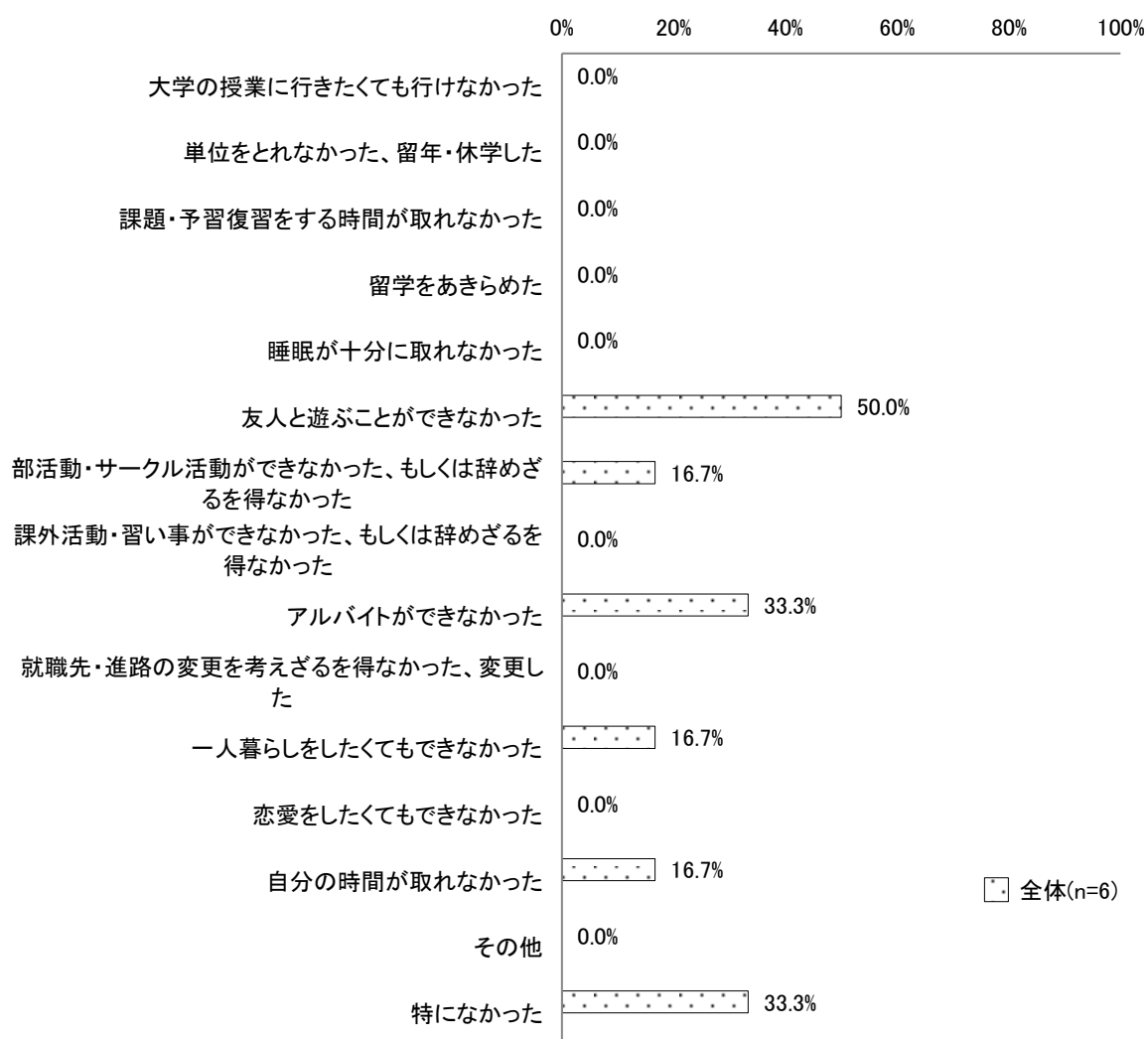
図表 117 世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響:複数回答(Q21)



(10) 世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことをみると、「友人と遊ぶことができなかった」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「アルバイトができなかった」「特になかった」がそれぞれ 33.3%、「部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった」「一人暮らしをしたくてもできなかった」「自分の時間が取れなかった」がそれぞれ 16.7%となっている。

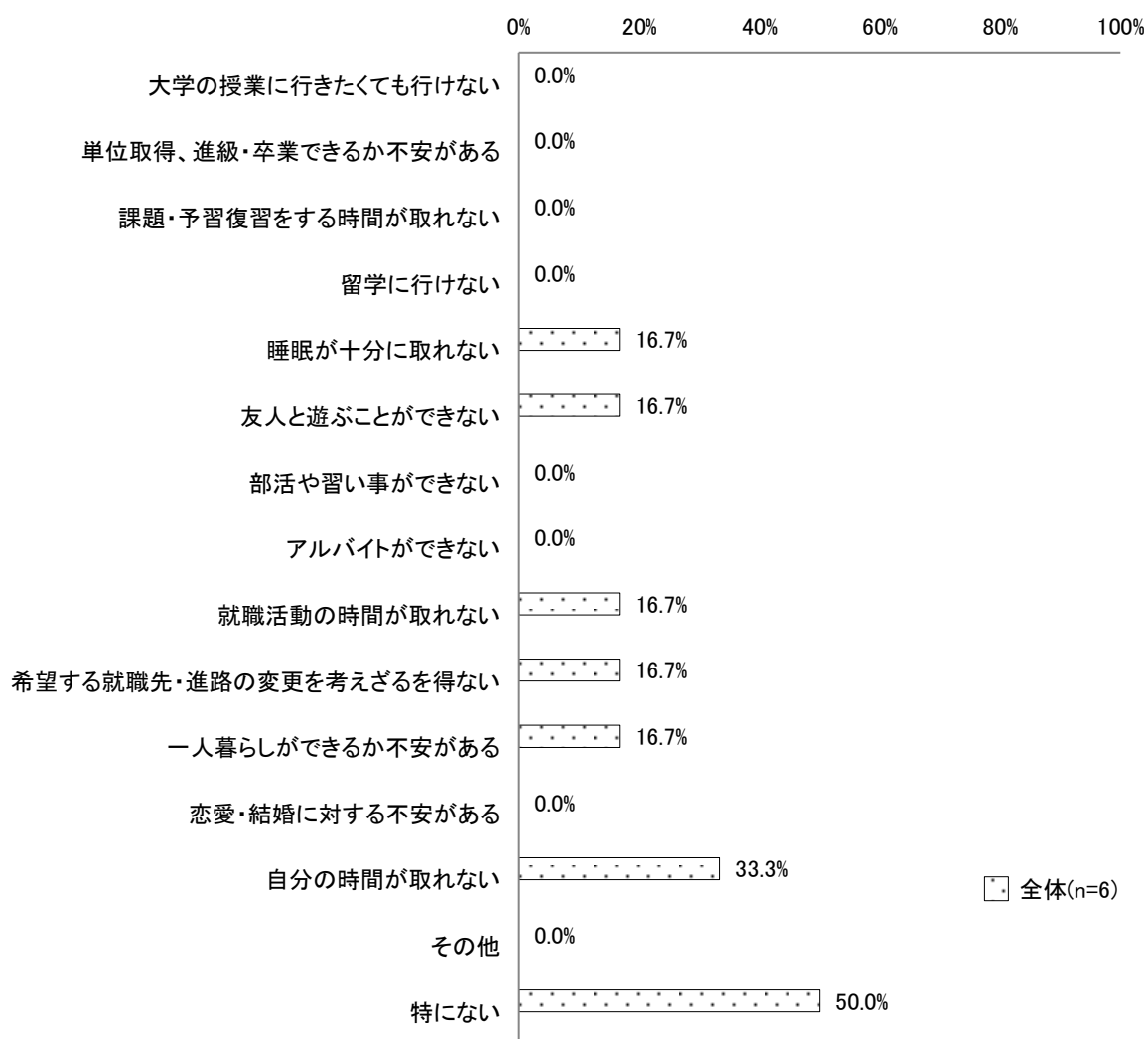
図表 118 世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと：複数回答(Q22)



(11) 世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなことをみると、「特にない」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「自分の時間が取れない」が 33.3%、「睡眠が十分に取れない」「友人と遊ぶことができない」「就職活動の時間が取れない」「希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない」「一人暮らしができるか不安がある」がそれぞれ 16.7%となっている。

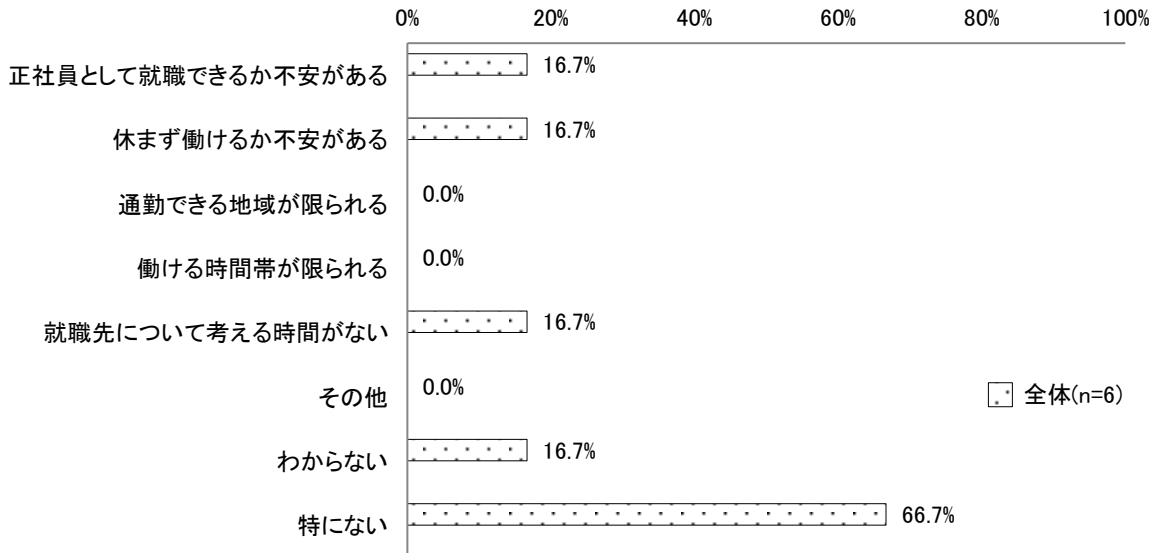
図表 119 世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと：複数回答(Q23)



(12) 世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安をみると、「特にない」が 66.7%、「休まず働けるか不安がある」「就職先について考える時間がない」「わからない」「正社員として就職できるか不安がある」がそれぞれ 16.7%となっている。

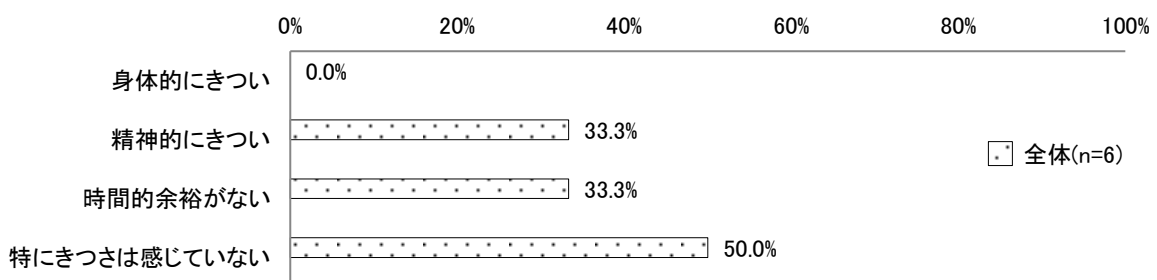
図表 120 世話をしていることで生ずる就職に関する不安:複数回答(Q24)



(13) 世話をすることで感じるきつき

世話をすることで感じるきつきをみると、「特にきつきは感じていない」が 50.0%、「精神的にきつい」「時間的余裕がない」がそれぞれ 33.3%となっている。

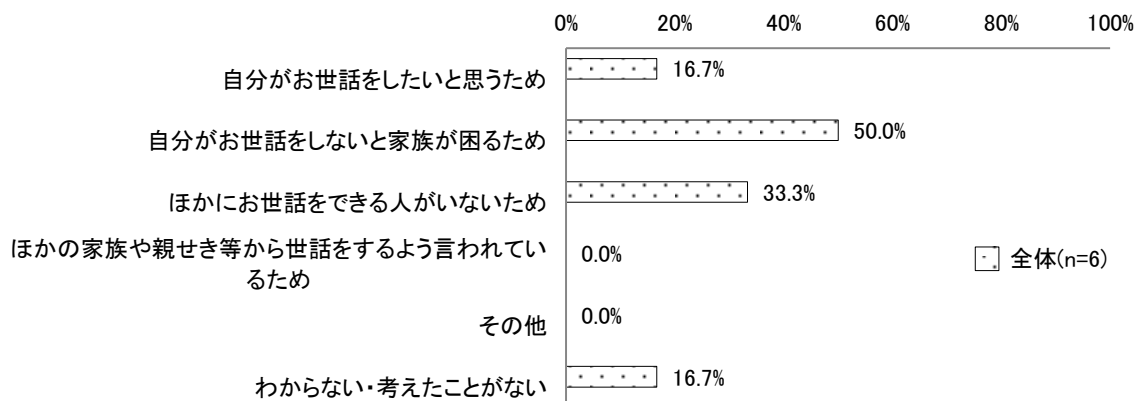
図表 121 世話をすることで感じるきつき:複数回答(Q25)



(14) 自身が世話をする理由

自身が世話をする理由をみると、「自分がお世話をしないと家族が困るため」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほかにお世話をできる人がいないため」が 33.3%、「自分がお世話をしたいと思うため」「わからない・考えたことがない」がそれぞれ 16.7%となっている。

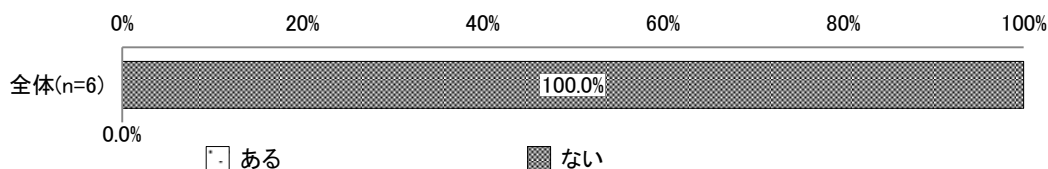
図表 122 自身が世話をする理由:複数回答(Q26)



(15) 世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無をみると、「ない」が 100%となっている。

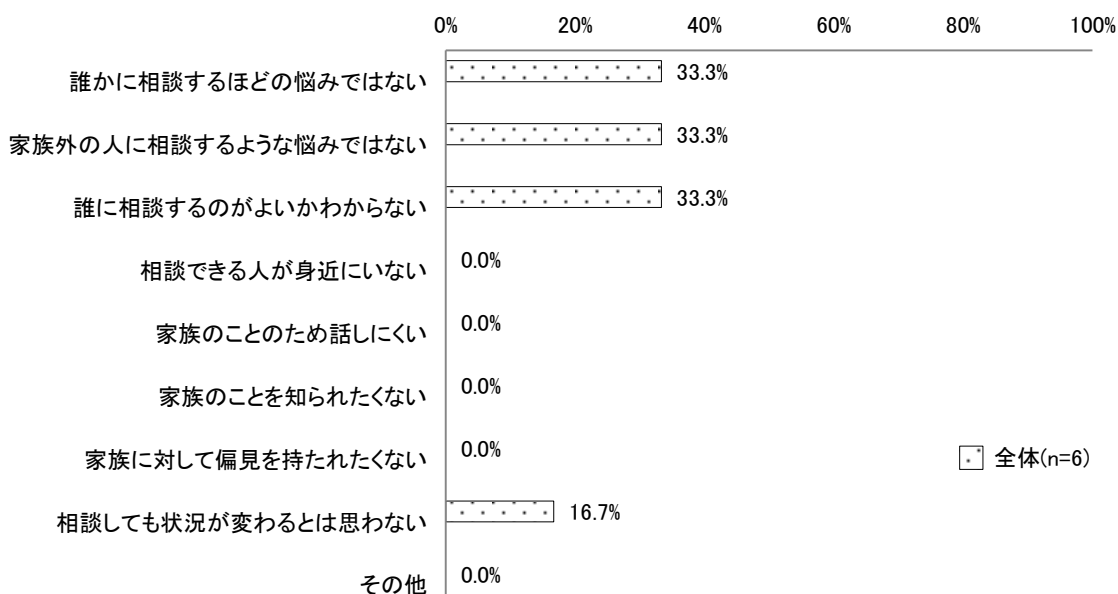
図表 123 世話について相談した経験の有無:単数回答(Q27)



(16) 悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人について、悩みを相談していない理由をみると、「家族外の人に相談するような悩みではない」「誰に相談するのがよいかわからない」「誰かに相談するほどの悩みではない」がそれぞれ 33.3%、「相談しても状況が変わるとは思わない」が 16.7%となっている。

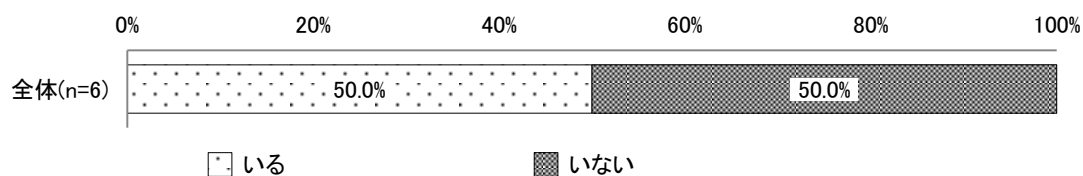
図表 124 悩みを相談していない理由:複数回答(Q29)



(17) 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人について、世話について話を聞いてくれる人の有無をみると、「いる」「いない」がそれぞれ 50.0%となっている。

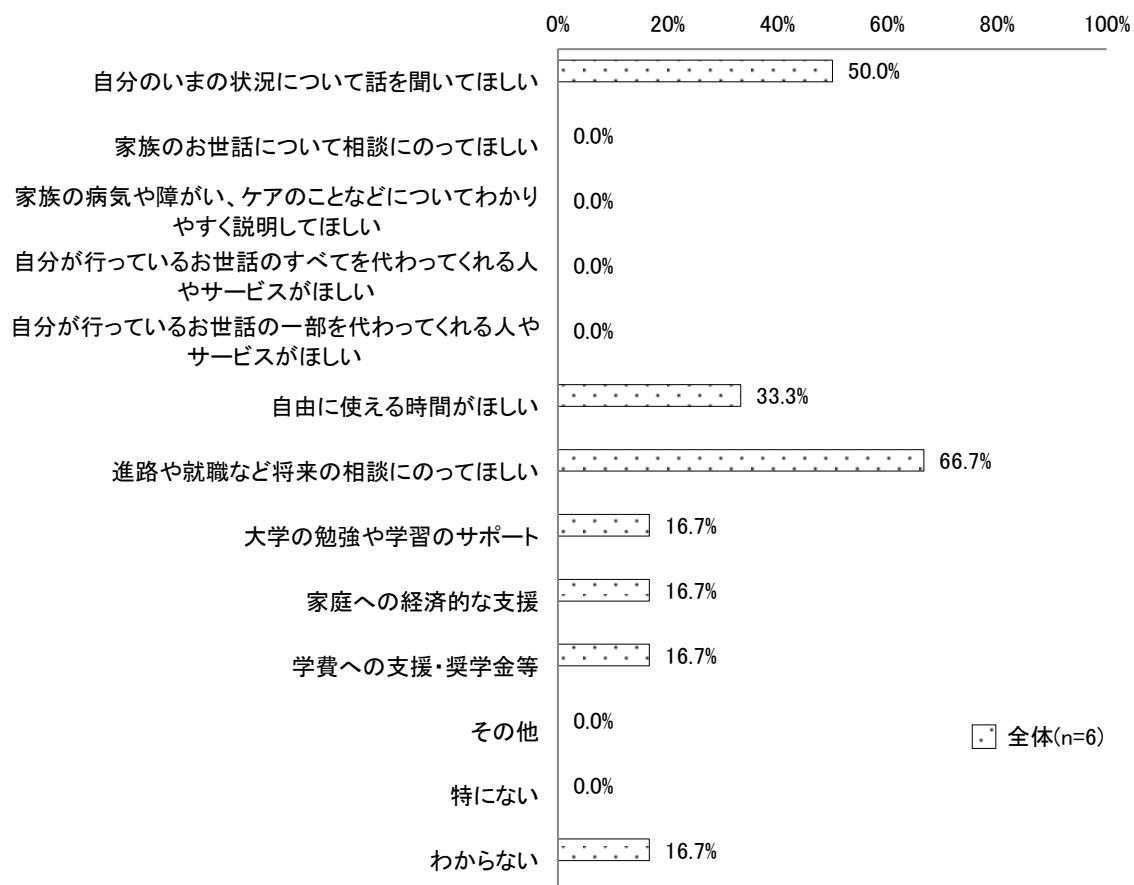
図表 125 【Q27で「ない」と回答した方】世話について話を聞いてくれる人の有無:単数回答(Q30)



(18) 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援をみると、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が 50.0%、「自由に使える時間がほしい」が 33.3%となっている。

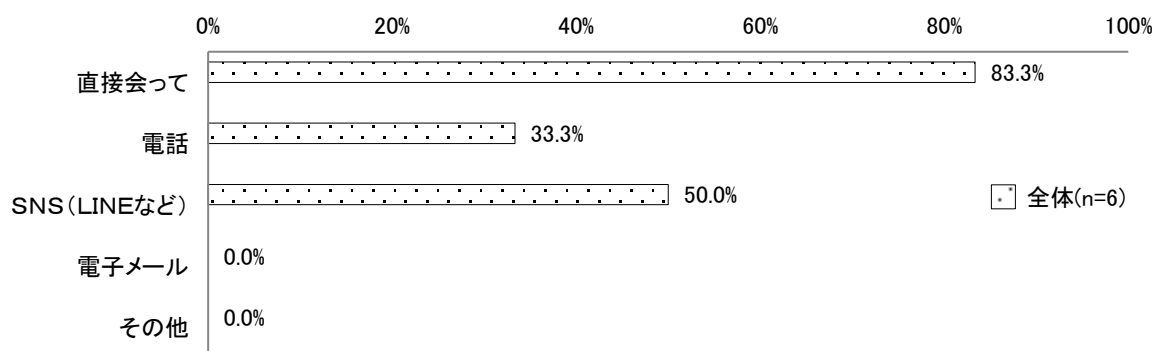
図表 126 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援:複数回答(Q31)



(19) 希望する相談方法

希望する相談方法をみると、「直接会って」が 83.3%でもっとも割合が高く、次いで「SNS (LINEなど)」が 50.0%、「電話」が 33.3%となっている。

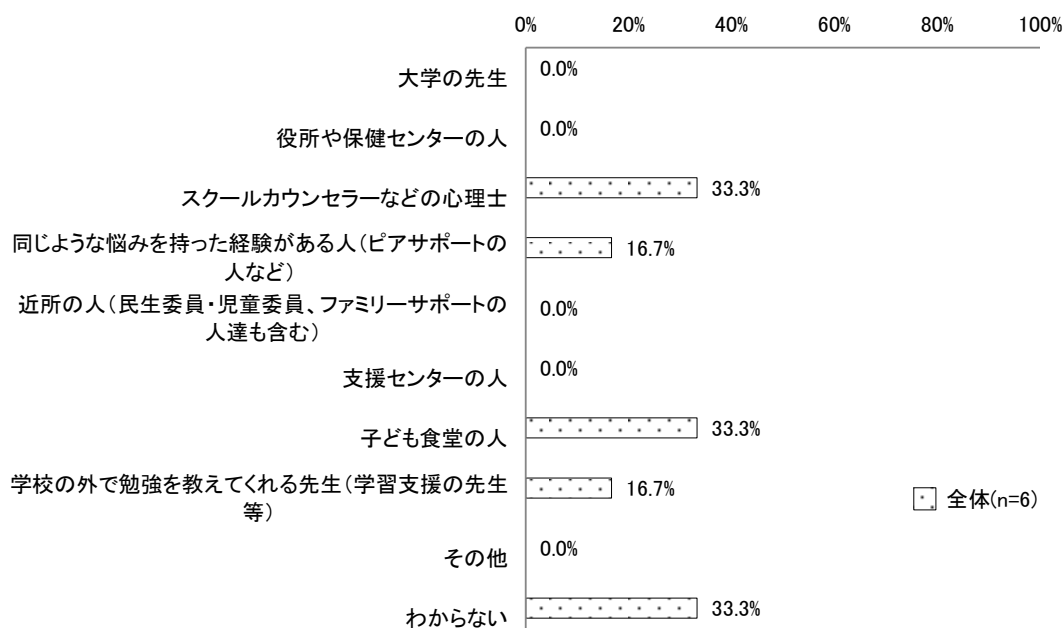
図表 127 希望する相談方法:複数回答(Q32)



(20) 相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）

相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）をみると、「スクールカウンセラーなどの心理士」「子ども食堂の人」「わからない」がそれぞれ 33.3%、「同じような悩みを持った経験がある人（ピアサポートの人など）」「学校の外で勉強を教えてくれる先生（学習支援の先生等）」がそれぞれ 16.7%となっている。

図表 128 相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）：複数回答(Q33)



(21) 家族のお世話をしている若者のために、必要だと思うことや、大学や周囲の人にしてもらいたいこと（自由回答）

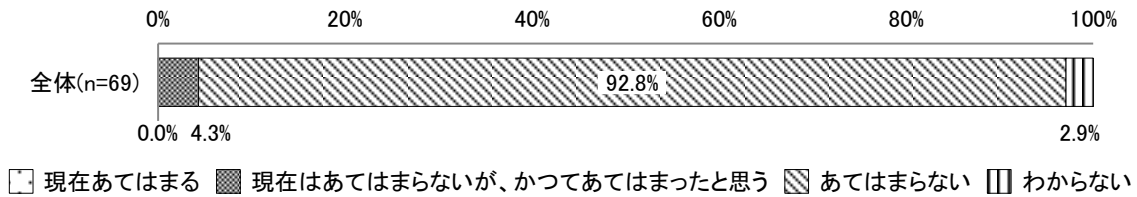
- ・話を聞くこと
- ・家の手伝いをする
- ・ホームヘルパーの増加 / 等

4. ヤングケアラーについて

(1) 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うか

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うかをみると、「あてはまらない」が92.8%でもっとも割合が高く、次いで「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」が4.3%、「わからない」が2.9%となっている。

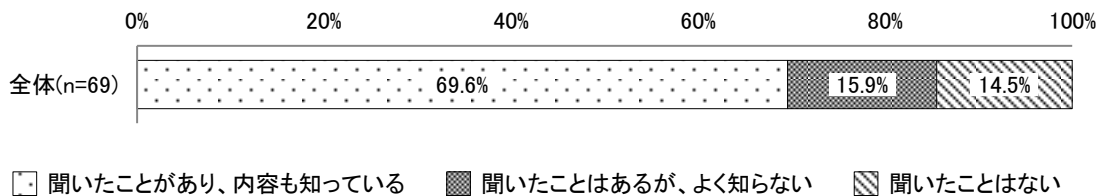
図表 129 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うか:単数回答(Q35)



(2) 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度をみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が69.6%でもっとも割合が高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が15.9%、「聞いたことはない」が14.5%となっている。

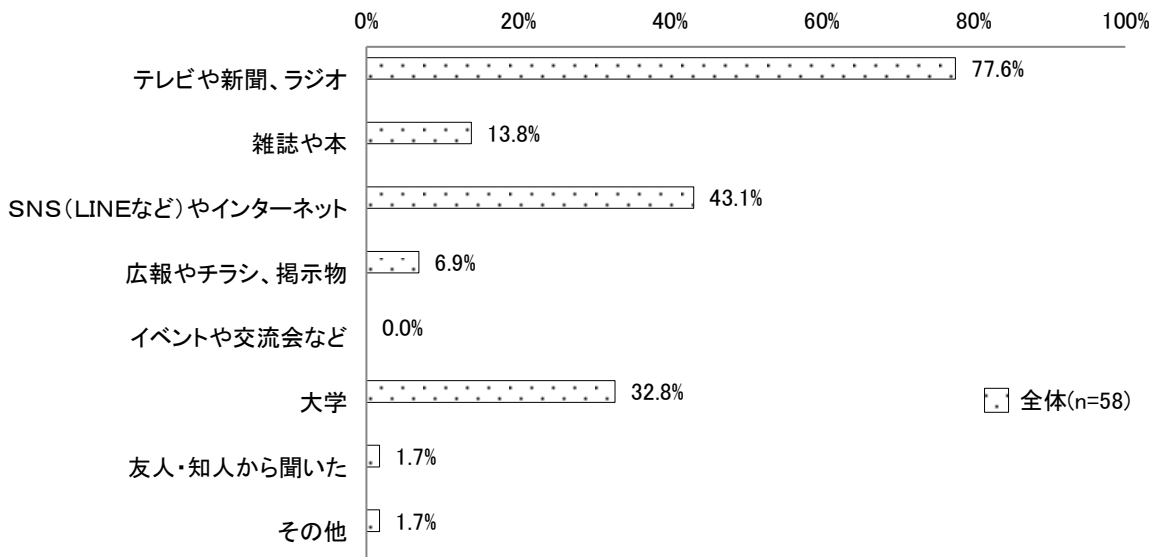
図表 130 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度:単数回答(Q36)



(3) 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけ

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけをみると、「テレビや新聞、ラジオ」が77.6%でもっとも割合が高く、次いで「SNS（LINEなど）やインターネット」が43.1%、「大学」が32.8%となっている。

図表 131 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけ:複数回答(Q37)



(4) ヤングケアラー（または若者ケアラー）の支援を広げていくために必要だと思うことや、要望など（自由回答）

<相談しやすい環境づくり>

- ・若者は学業や仕事でそれだけで忙しいので、そういった人を理解し、学校や会社が配慮する体制をとるべきだと思う。
- ・相談しやすい環境を整備する（例：気軽に立ち寄って話ができる場所など）
- ・家族のケアのためにケアをしていない人と比較して自由な時間を割くことができないことに対して配慮したり、周囲が支援しやすくしたり、支援を受けやすい環境をつくる
- ・行政が学校などに働きかけて、ヤングケアラーを発見して負担をなくしてあげる。
- ・ヤングケアラーになりやすい家庭をあらかじめ把握し、家庭訪問に行くなどして状況を確認し、ヤングケアラーを行っている人の支援を行う。
- ・相談窓口を分かりやすくするべき
- ・地域に相談できる場所を作り、相談できる場所があるということを知る機会が作れるよう手紙などを各家庭に配布する。 /等

<支援体制の充実>

- ・障がい者がヘルパーを利用するための補助金を支給する。
- ・金銭的支援
- ・奨学金の支払い義務撤廃、ヤングケアラーの経済的支援、ヤングケアラーの定期的な相談や訪問が必要であると思う。
- ・子育ての援助(金銭面や精神面)、子どもたちにさせない為の取り組み
- ・所得とか関係なしに支援をする
- ・親の都合でヤングケアラーが生まれていると思うので、親に支援をする(介護サービス、仕事の早上がり等)ことでヤングケアラーが減るはず。人の手を借りることを恥ずかしいと思

わない世の中にする。

- ・ヤングケアラーが学業や友人との交際のための時間を取れるようにするための、公的な支援。(介護サービスや経済支援等) また、相談先の充実や、学校での把握、サポート。 / 等

<認知度向上>

- ・支援に必要な手続きを可能な限り簡素化すること、またそういった支援の認知度を広げていくことは必要だと思う。
- ・ヤングケアラーの存在や実態を知らない人、正しく理解していない人は多いと考えるため世間に周知させることが必要であるとする。SNSや公共施設での広告によってまずはヤングケアラーの存在に触れる機会を設けるべきであるとする。
- ・ヤングケアラーへの理解を深めること
- ・ヤングケアラーに関する授業をしたり、テレビでもっとヤングケアラーについて取り上げるなど、内容を知ってもらう工夫が必要
- ・学校で、ヤングケアラー支援に関する情報を提供する
- ・ヤングケアラーという言葉は聞き慣れないものだと感じた。まずは、言葉の認知を広げ、社会の理解を得る必要があるとする。また、家族内の問題でもあることから、当事者からは中々声を上げづらいのではないかと推測する。自分も家族の問題となると、中々周囲には話づらいと感じる。老老介護やいじめなどといった問題と共通する部分として、周囲に相談できる人がいる一方で、周りに迷惑をかけたくないから相談できない、といった人々が問題抱え込んでしまう点があるとする。そのため、相談や支援といったサービスが用意できれば問題が解決できるわけではなく、そうしたサービスをきちんと利用してもらうにはどういった対応が必要か、議論していく必要があるだろう。
- ・SNSや動画サイトの広告を利用することで、多くの若者の目に止まりやすくなるのではないかと。
- ・学校でヤングケアラーが受けられる支援について学ぶこと
- ・まずはヤングケアラーの認知度を上げることが必要であるとする。きっとどこかで学んだりしていないとどういうものなのか分からないと思われる。
- ・まず若くして介護をしなくてはいけないというヤングケアラーがいるということを世間に広めるべき
- ・インターネットなどで発信していく必要がある
- ・ヤングケアラーに対する支援として、相談できる場所を知って理解してもらうことやヤングケアラーを知らない人に対しても理解する機会を与えてもらう
- ・ヤングケアラーの実態について、ネットや書籍などで知らせてゆく。 / 等

<その他>

- ・もし相談できる人が居るなら、その人に積極的に相談すること。
- ・近所のひととの助け合い / 等

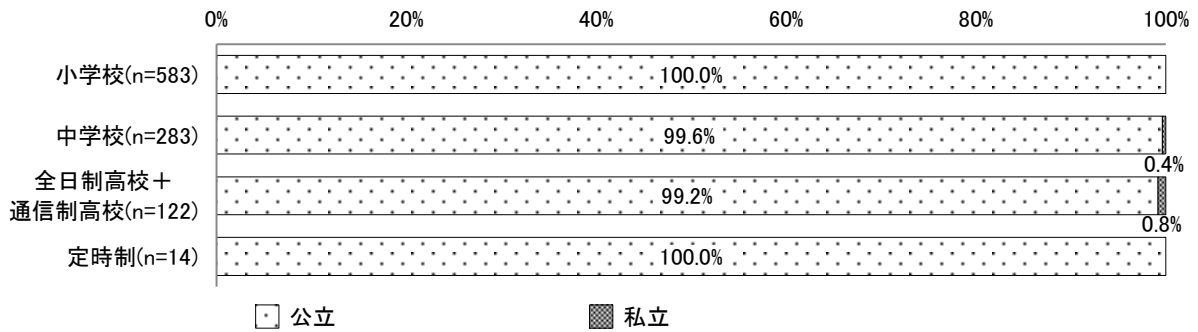
第4章 学校アンケート結果

1. 学校の概要

(1) 公立・私立

本調査では協力意向のあった私立の学校にもご回答をいただいた。回答における公立・私立の分布は下図の通りであった。

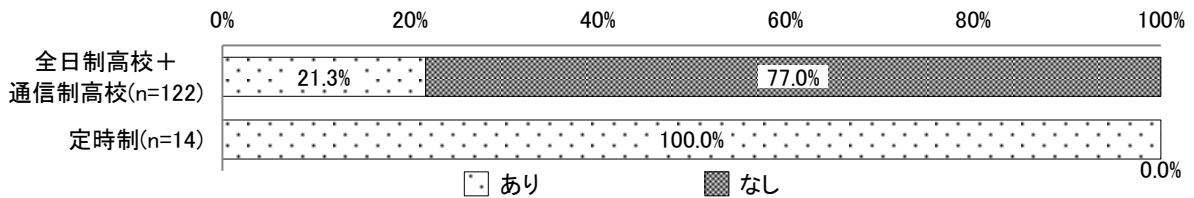
図表 132 公立・私立の別:単数回答 (基本情報②)



(2) 【高等学校の場合】単位制の有無

高等学校について、単位制の有無をみると、単位制がある割合は「全日制高校+通信制高校」で21.3%、「定時制」では100%となっている。

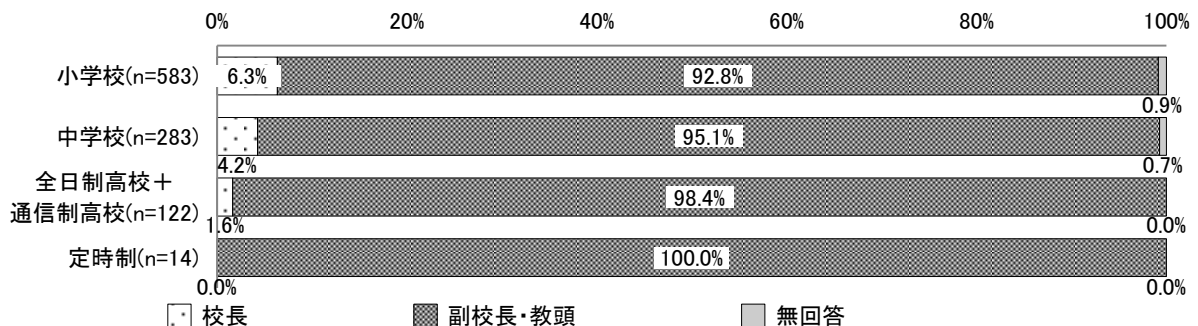
図表 133 【高等学校の場合】単位制の有無 (1つ選択) :単数回答 (基本情報⑥)



(3) 回答者の役職

本調査では、「校長」または「副校長・教頭」にご回答をお願いした。

図表 134 回答者の役職:単数回答 (基本情報⑦)

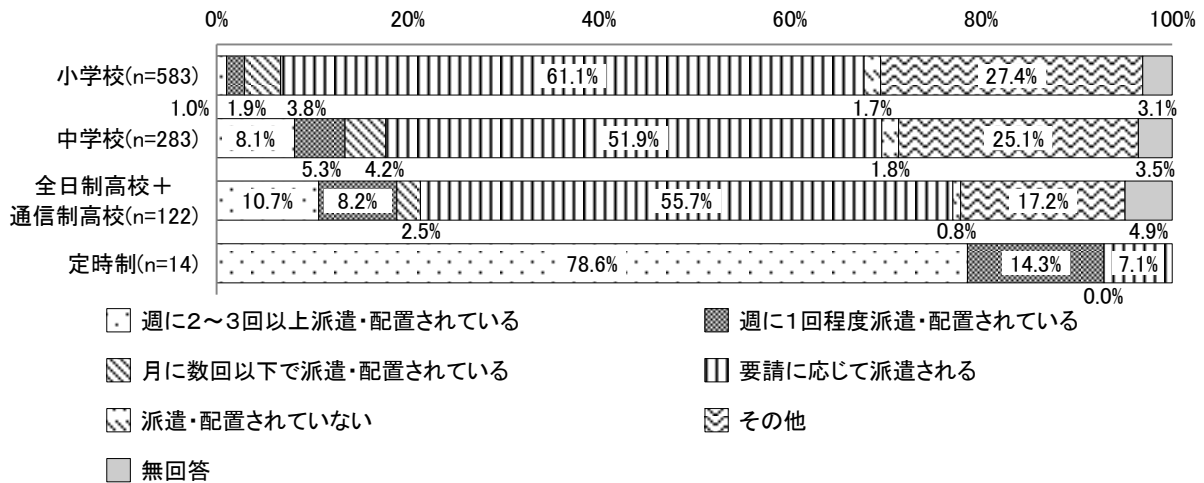


2. 支援が必要だと思われる子どもへの対応

(1) スクールソーシャルワーカー (SSW) の派遣・配置状況

SSW の派遣・配置状況を見ると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「要請に応じて派遣される」の割合がもっとも高く、それぞれ 61.1%、51.9%、55.7%となっている。

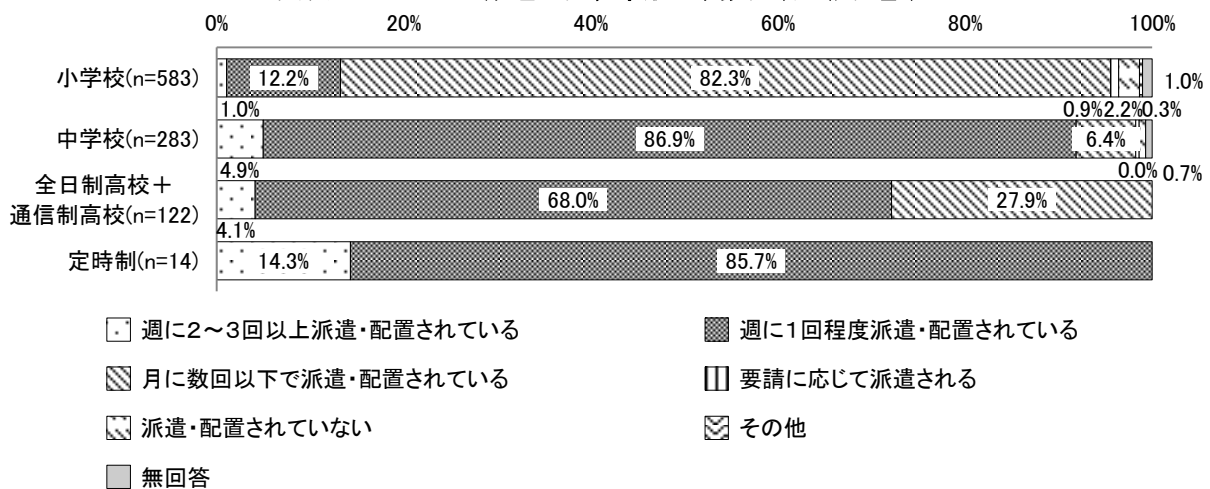
図表 135 SSW の派遣・配置状況:単数回答 (問 1_1)



(2) スクールカウンセラー (SC) の派遣・配置状況

SC の派遣・配置状況を見ると、「小学校」では「月に数回以下で派遣・配置されている」の割合が最も高く、82.3%となっている。「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「週に1回程度派遣・配置されている」の割合がもっとも高く、それぞれ 86.9%、68.0%となっている。

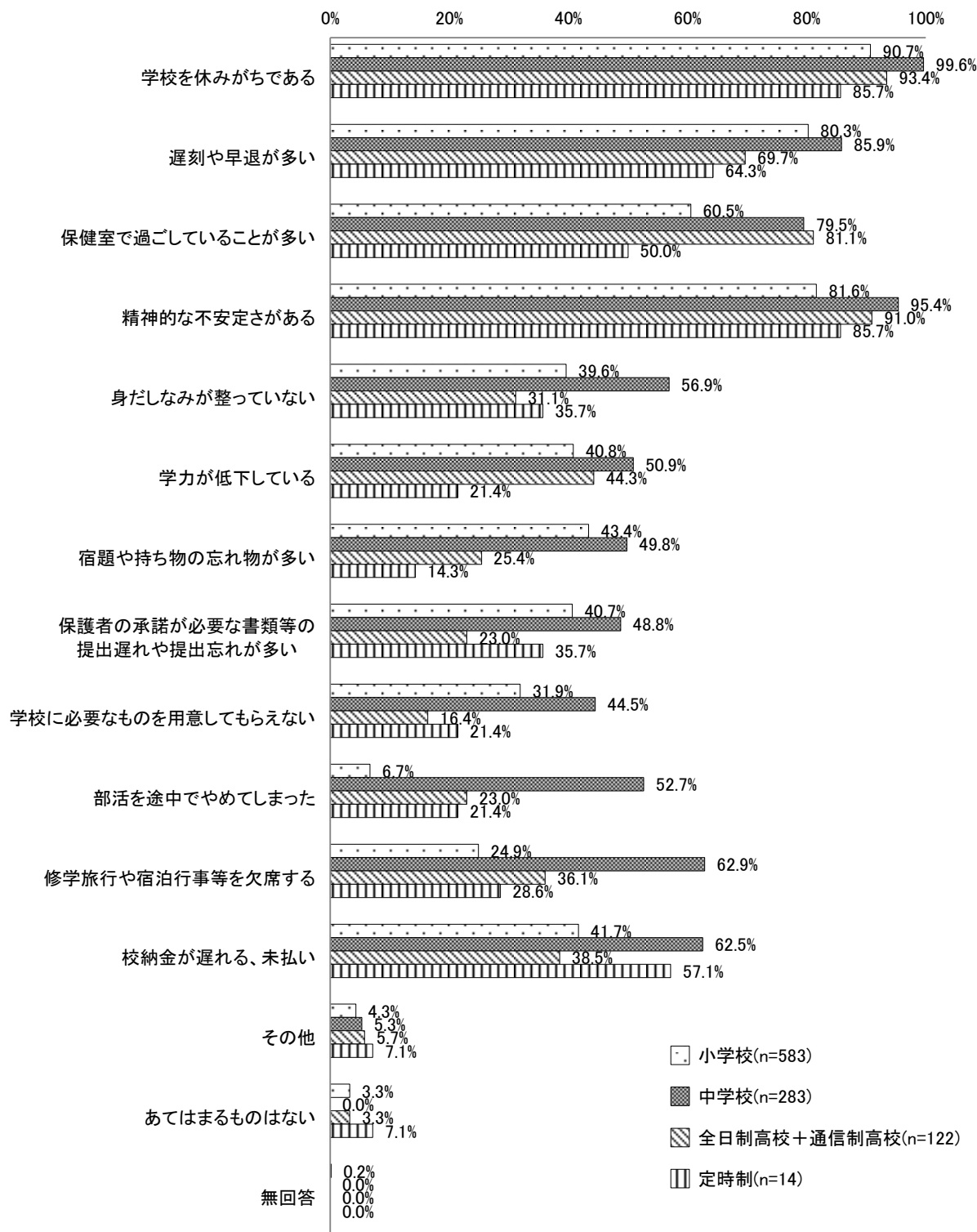
図表 136 SC の派遣・配置状況:単数回答 (問 1_2)



(3) 校内で共有しているケース

子どもについて校内で共有しているケースをみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「学校を休みがちである」の割合が最も高く（それぞれ 90.7%、99.6%、93.4%）、次いで「精神的な不安定さがある」の割合が高くなっている（それぞれ 81.6%、95.4%、91.0%）。

図表 137 校内で共有しているケース:複数回答（問2）



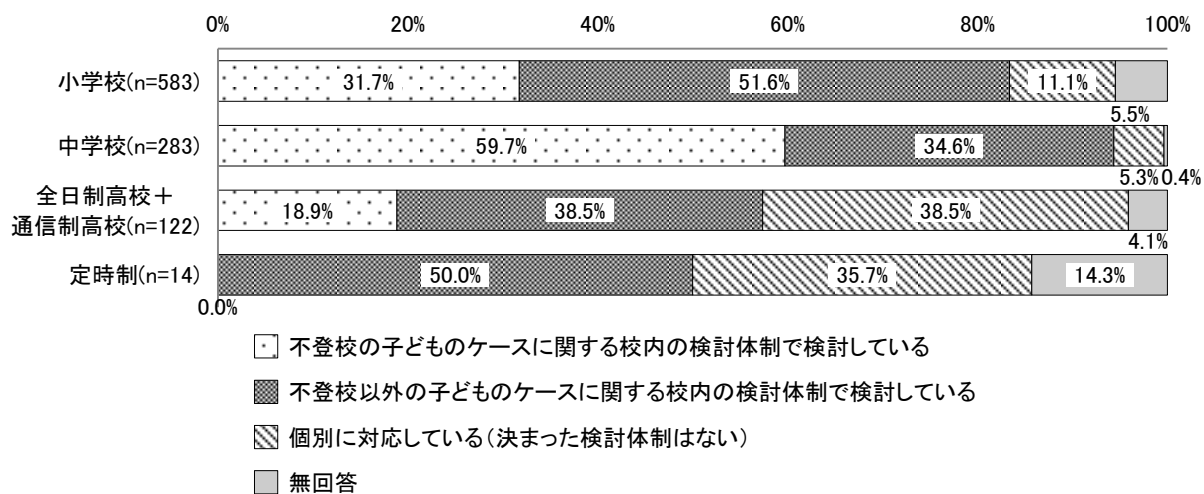
(4) 校内で共有しているケースに関する情報共有・対応の検討体制

校内で共有しているケースに関する情報共有・対応の検討体制をみると、「小学校」では、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している」の割合がもっとも高く 51.6%となっている。

「中学校」では、「不登校の子どもに関する校内の検討体制で検討している」の割合がもっとも高く 59.7%となっている。

「全日制高校+通信制高校」では、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制で検討している」「個別に対応している（決まった検討体制はない）」がそれぞれ 38.5%となっている。

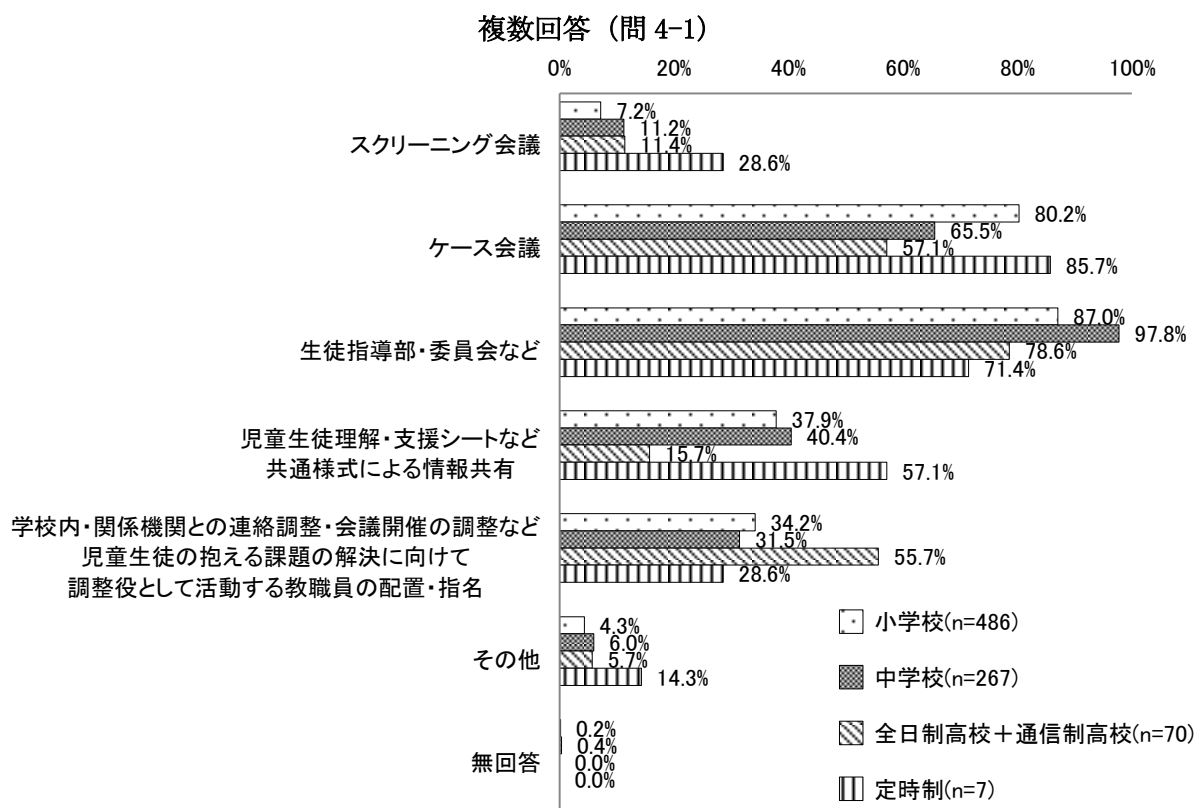
図表 138 校内で共有しているケースに関する情報共有・対応の検討体制:単数回答(問3)



(5) 具体的な情報共有・対応の検討体制

前問で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」場合に、具体的にどのような体制をとっているかをみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「生徒指導部・委員会など」の割合がもっとも高く、それぞれ 87.0%、97.8%、78.6%となっている。

図表 139 校内で共有しているケースに関する具体的な情報共有・対応の検討体制：

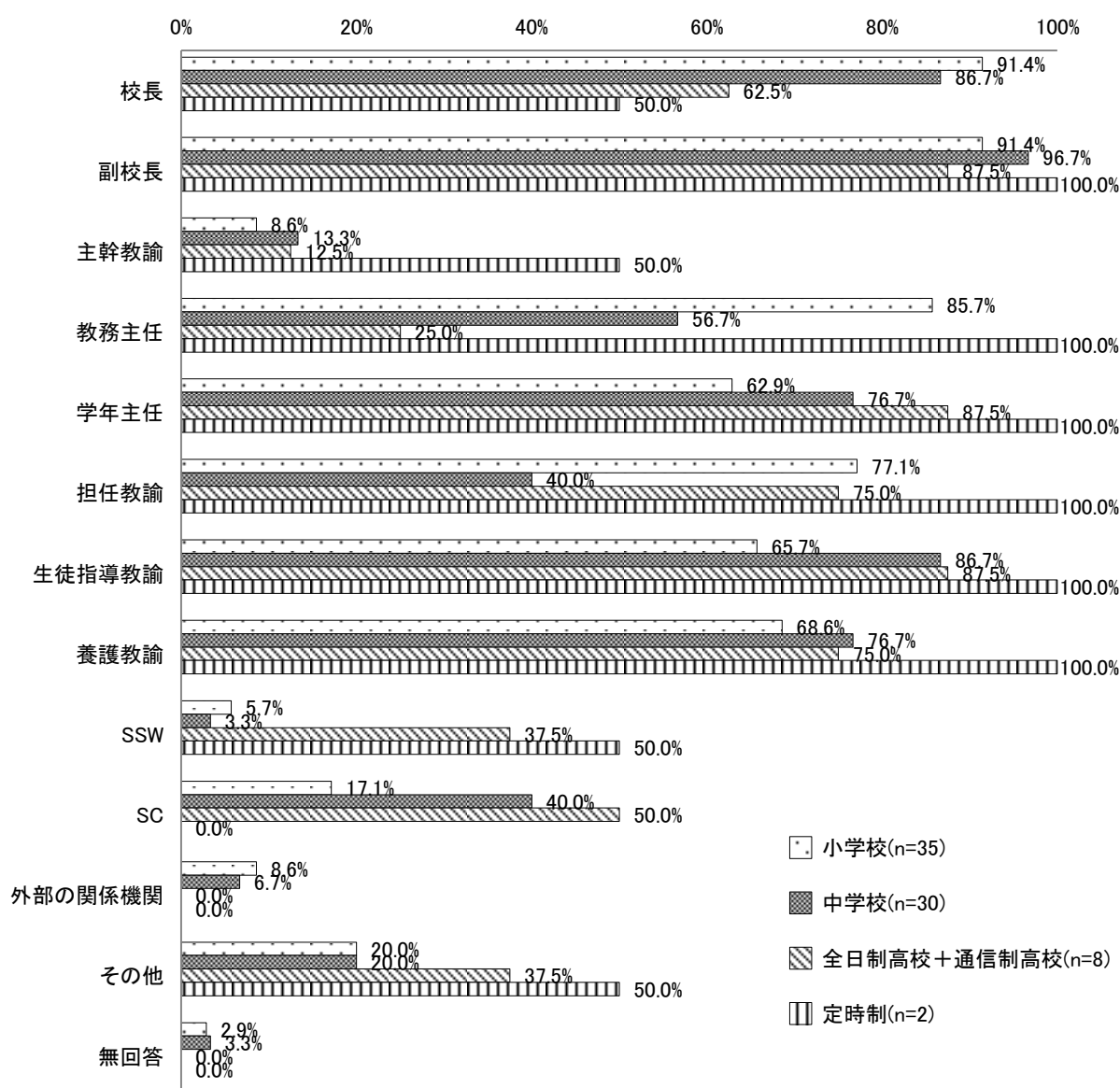


(6) 情報共有・対応の検討体制へ参加する教職員

① スクリーニング会議

スクリーニング会議に参加する教職員をみると、「小学校」では、「校長」「副校長」が 91.4%でもっとも割合が高く、次いで「教務主任」が 85.7%となっている。「中学校」では、「副校長」が 96.7%でもっとも割合が高く、次いで「校長」「生徒指導教諭」が 86.7%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「副校長」「学年主任」「生徒指導教諭」が 87.5%でもっとも割合が高く、次いで「担任教諭」「養護教諭」が 75.0%となっている。小学校・中学校・高等学校を比較すると、「教務主任」「SSW」「SSC」などの参加状況に差がみられる。

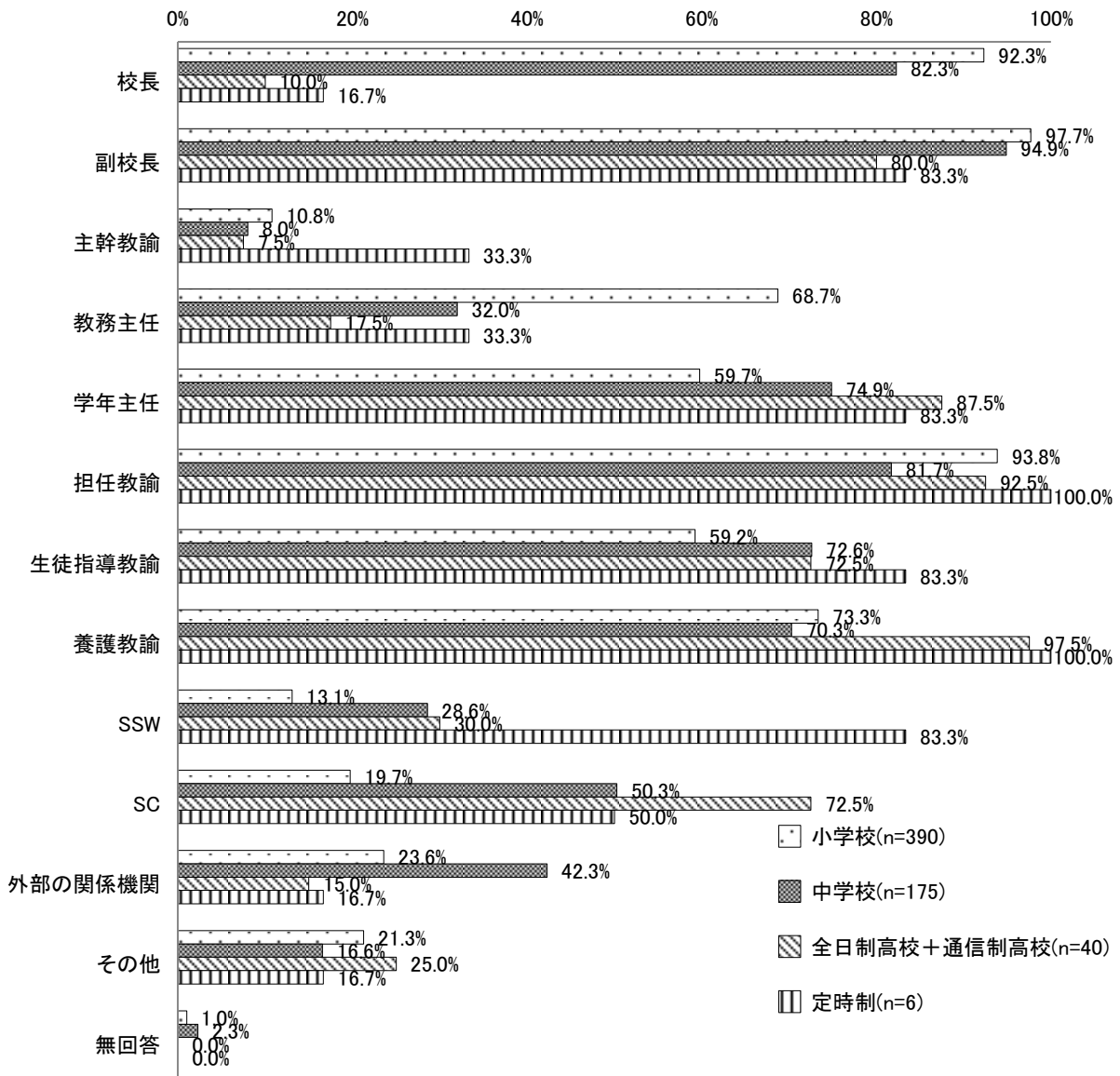
図表 140 情報共有・対応の検討体制へ参加する教職員_①スクリーニング会議：
複数回答（問 4-2_1）



② ケース会議

ケース会議に参加する教職員をみると、「小学校」では、「副校長」が 97.7%でもっとも割合が高く、次いで「担任教諭」が 93.8%となっている。「中学校」では、「副校長」が 94.9%でもっとも割合が高く、次いで「校長」が 82.3%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「養護教諭」が 97.5%でもっとも割合が高く、次いで「担任教諭」が 92.5%となっている。小学校・中学校・高等学校を比較すると、「教務主任」「SSW」「SSC」などの参加状況に差がみられる。

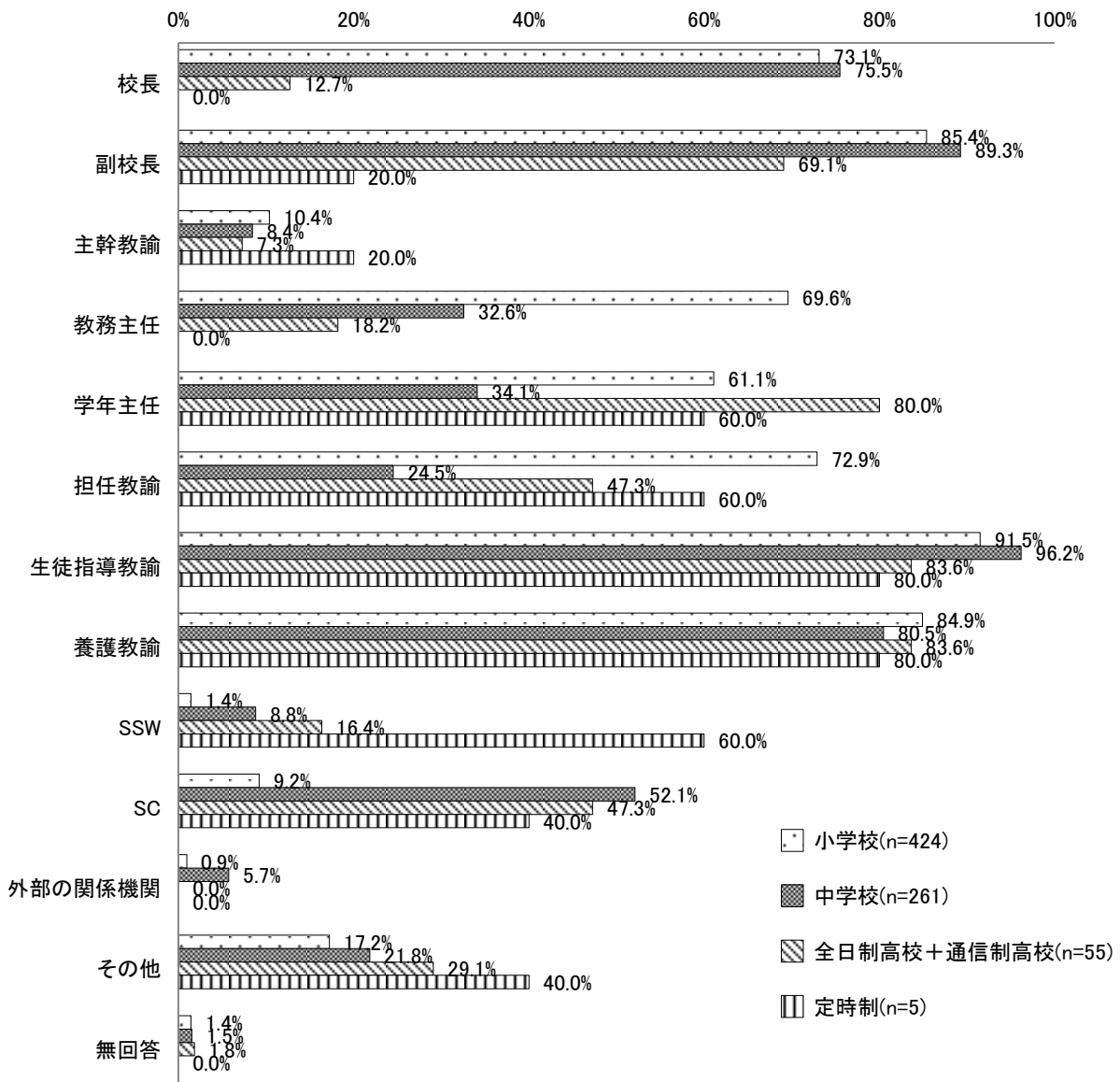
図表 141 情報共有・対応の検討体制へ参加する教職員_②ケース会議:複数回答 (問 4-2_2)



③ 生徒指導部・委員会など

生徒指導部・委員会などに参加する教職員をみると、「小学校」では、「生徒指導教諭」が 91.5%でもっとも割合が高く、次いで「副校長」が 85.4%となっている。「中学校」では、「生徒指導教諭」が 96.2%でもっとも割合が高く、次いで「副校長」が 89.3%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「生徒指導教諭」「養護教諭」が 83.6%でもっとも割合が高く、次いで「学年主任」が 80.0%となっている。

図表 142 情報共有・対応の検討体制へ参加する教職員_③生徒指導部・委員会など：
複数回答（問 4-2_3）

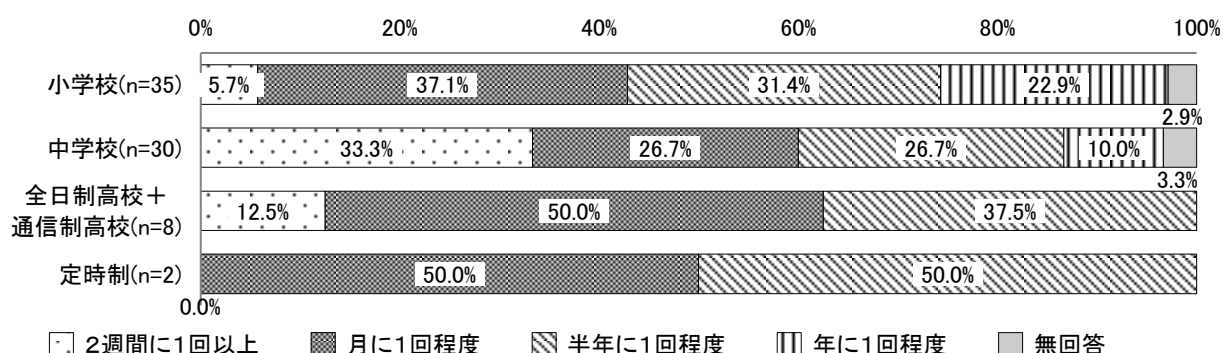


(7) 会議の頻度

① スクリーニング会議

スクリーニング会議の頻度をみると、「小学校」では、「月に1回程度」が37.1%でもっとも割合が高く、次いで「半年に1回程度」が31.4%となっている。「中学校」では、「2週間に1回以上」が33.3%でもっとも割合が高く、次いで「月に1回程度」「半年に1回程度」が26.7%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「月に1回程度」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「半年に1回程度」が37.5%となっている。

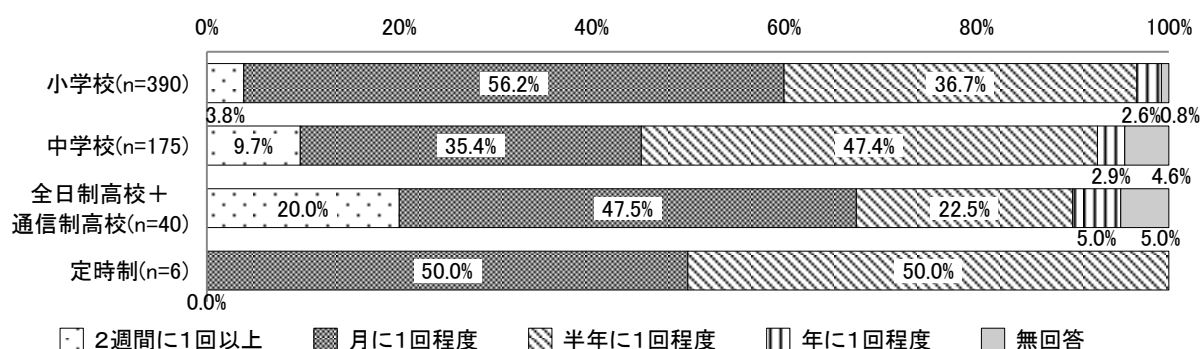
図表 143 会議の頻度_①スクリーニング会議:単数回答 (問 4-3_1)



② ケース会議

ケース会議の頻度をみると、「小学校」では、「月に1回程度」が56.2%でもっとも割合が高く、次いで「半年に1回程度」が36.7%となっている。「中学校」では、「半年に1回程度」が47.4%でもっとも割合が高く、次いで「月に1回程度」が35.4%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「月に1回程度」が47.5%でもっとも割合が高く、次いで「半年に1回程度」が22.5%となっている。

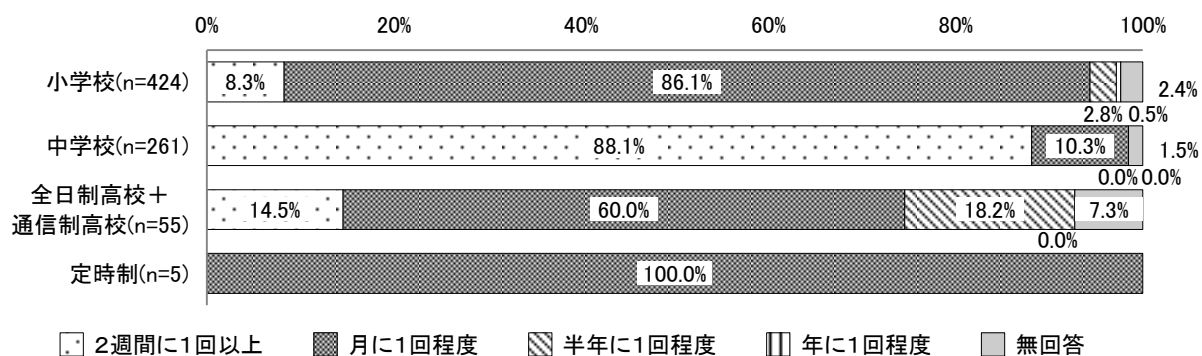
図表 144 会議の頻度_②ケース会議:単数回答 (問 4-3_2)



③ 生徒指導部・委員会など

生徒指導部・委員会などの頻度をみると、「小学校」では、「月に1回程度」が86.1%でもっとも割合が高く、次いで「2週間に1回以上」が8.3%となっている。「中学校」では、「2週間に1回以上」が88.1%、「月に1回程度」が10.3%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「月に1回程度」が60.0%でもっとも割合が高く、次いで「半年に1回程度」が18.2%となっている。

図表 145 会議の頻度_③生徒指導部・委員会など:単数回答 (問 4-3_3)



(8) 校内で共有しているケースについて「個別に対応している」場合の具体例

子どもについて校内で共有しているケース（問2）について、「個別に対応している（決まった検討体制はない）」（問3）と回答した場合に、具体的な対応方法を把握した。主な記載は下記の通りであった。

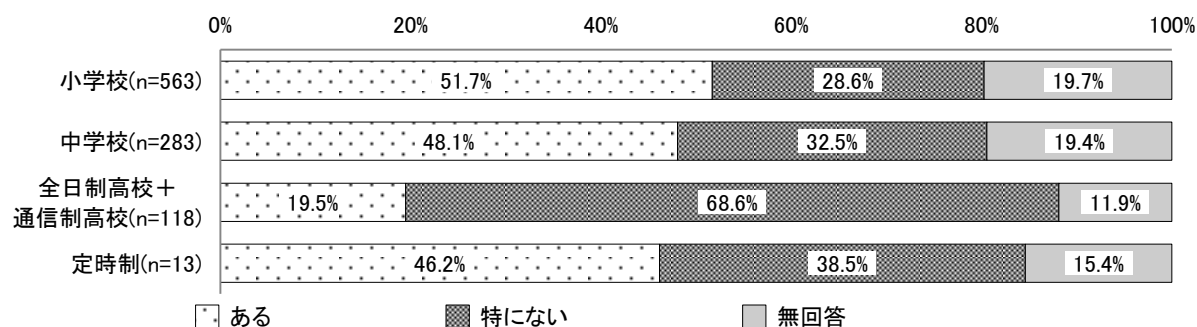
小学校	管理職・学年主任・学級担任・養護教諭・生徒指導主任・特別支援コーディネーター等、ケース対応に必要な職員にて情報の共有を実施。中学校との連携が必要な場合は、SSWを要請することもある。頻度は、その都度ケースによる。
小学校	校内に特別支援・教育相談委員会を設置。特別支援コーディネーター2名の教職員を中心に、管理職・養護教諭・各学年教育相談担当職員・スクールカウンセラー2名で構成。個別に校内支援計画を立案・承認し、この承認案をもとに支援を実行する。
小学校	「こころ部会」として全職員を学年を3つの部会に振り分けた一つの部会を校務分掌に位置付け定期的な会議を行い、学年に共有事項として周知している。また、重要な案件については、生徒指導主任から月毎の職員会議で検討、連絡をしている。
小学校	校内分掌に教育相談部を置いている。面談等で得られて情報を校内で共有し、特別支援コーディネーター、教育相談コーディネーター、養護教諭、学年主任、当該担任でケース会議を行い、生徒の置かれている状況によってはSCやSSWにも加わってもらい、外部機関と連携して対応を行っている。
小学校	月の一度、全職員での「子供を語る会」による気になる児童の共通認識。その後、必要に応じて校内ケース会議を実施している。ケース会議の参加者は、主訴によって様々であるが、基本的に校長、教頭、教務、生徒指導、特別支援コーディネーター、養護教諭である。
小学校	週に一度＜生徒指導部会＞＜主任会＞で①特別支援②不登校③生徒指導のそれぞれのケースで情報共有を行い、管理職を含めて方向性を決めて支援体制を整えている。必要に応じて、外部への連携や保護者との面談を行っている。職員全体の周知は、職員会議や生徒指導部会の記録を通じて行っている。
中学校	校務支援システム内の「気づき」にあったことを担任、もしくは関係した職員が記入し、職員会議後に共有している。また、事例によっては管理職及び担任で対応の仕方を相談して、個別に対応できるようにしている。
高等学校 (全日制)	月1回の生徒指導部会に学年担当1名 生徒指導主任 養護教諭 管理職が参加し状況や対策を協議して共通理解をはかる。後日文書で、全教職員に周知する。
高等学校 (全日制)	各学年のクラス数が少ないため、学年会議がケース会議のような役割を果たしている。そこにSCやSSWがオブザーバーのような形で参加している。問題となることが判明した時点で行うため、その頻度はおおよそ月に1～2回程度となっている。
高等学校 (全日制)	校長、教頭、生徒指導主任、学年主任、担任、養護教諭（児童の状況に応じて）で臨時に集まり、情報共有、対応の方針、児童へのアプローチをする者、保護者へのアプローチをする者を決めて、問題発覚後即時対応する。1回目のアプローチ後、この後の対応について相談して対応している。
高等学校 (定時制)	校内委員会（いじめ防止対策委員会、ハラスメント相談委員会）の職員間で定期的に情報交換を行っている。重大な案件が発生した場合は、校長の指示の下、全職員で共通理解を図り、生徒の指導に当たる。

(9) 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制

① 要保護児童対策地域協議会の登録ケース

要保護児童対策地域協議会の登録ケースについて、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制があるかどうかをみると、体制が「ある」割合は「小学校」で51.7%、「中学校」で48.1%、「全日制高校+通信制高校」で19.5%となっている。

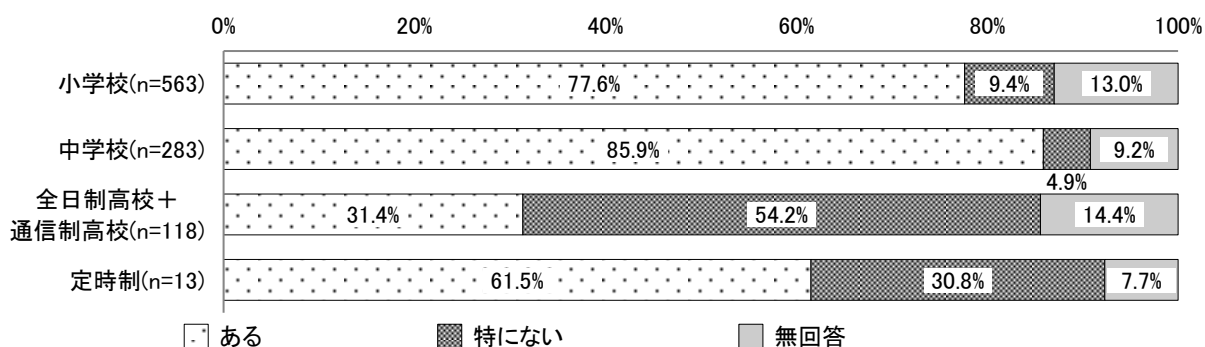
図表 146 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制_①
要保護児童対策地域協議会の登録ケースについて:単数回答 (問 6-1_1)



② 不登校のケース

不登校のケースについて、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制があるかどうかをみると、体制が「ある」割合は、「小学校」で77.6%、「中学校」で85.9%、「全日制高校+通信制高校」で31.4%となっている。

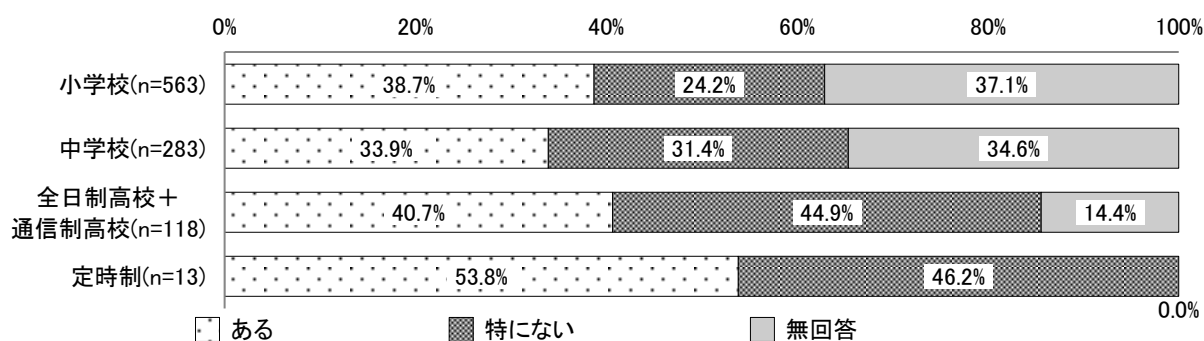
図表 147 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制_②
不登校のケースについて:単数回答 (問 6-1_2)



③ 要保護児童対策地域協議会の登録ケースや不登校のケース以外のケース

要保護児童対策地域協議会の登録ケースや不登校のケース以外のケースについて、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制があるかどうかをみると、体制が「ある」割合は、「小学校」で38.7%、「中学校」で33.9%、「全日制高校+通信制高校」で40.7%となっている。

図表 148 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制
_③要保護児童対策地域協議会の登録ケースや不登校のケース以外のケース:単数回答(問6-1_3)

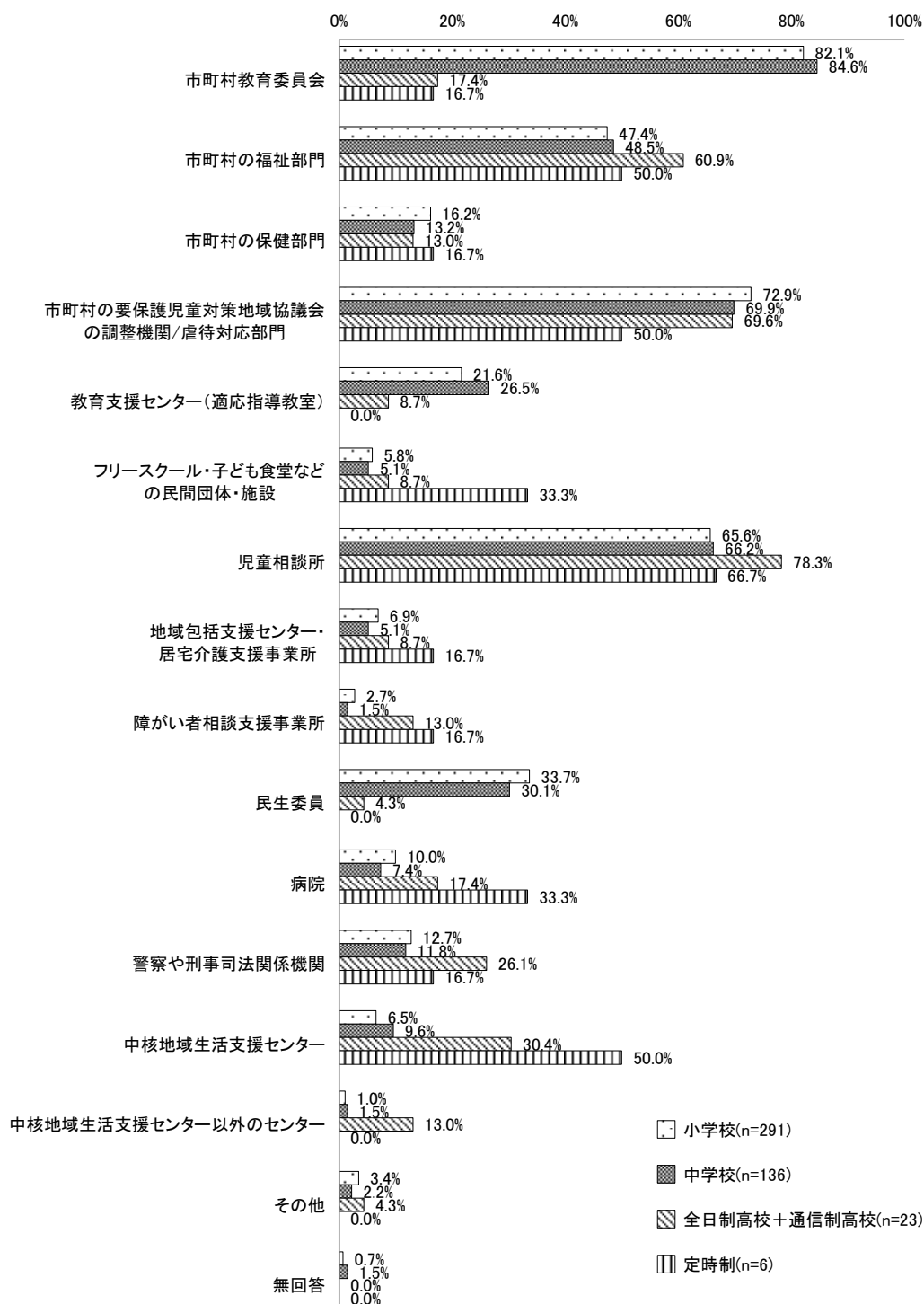


(10) 連携する関係機関

① 要保護児童対策地域協議会の登録ケース

要保護児童対策地域協議会の登録ケースについて、情報共有や対応の検討を行うための体制がある場合の連携する関係機関をみると、「小学校」「中学校」では、「市町村教育委員会」の割合がもっとも高く、それぞれ 82.1%、84.6%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「児童相談所」が 78.3%でもっとも割合が高くなっている。

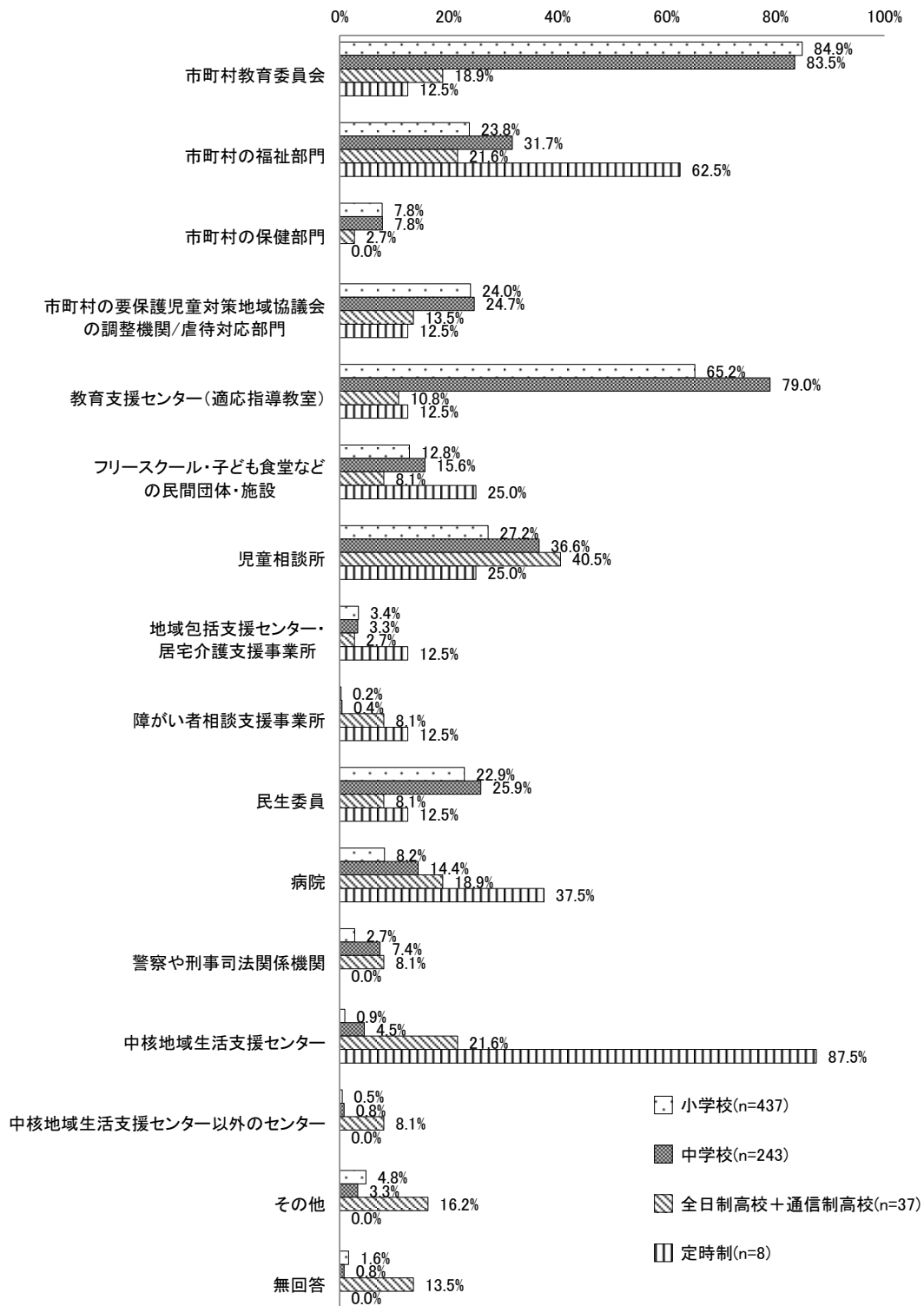
図表 149 連携する関係機関_①要保護児童対策地域協議会の登録ケース:複数回答 (問 6-2_1)



② 不登校のケース

「小学校」「中学校」では、「市町村教育委員会」の割合がもっとも高く、それぞれ 84.9%、83.5%となっている。次いで、「教育支援センター（適応指導教室）」の割合が高く、65.2%、79.0%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「児童相談所」が 40.5%でもっとも割合が高く、次いで「市町村の福祉部門」「中核地域生活支援センター」が 21.6%となっている。

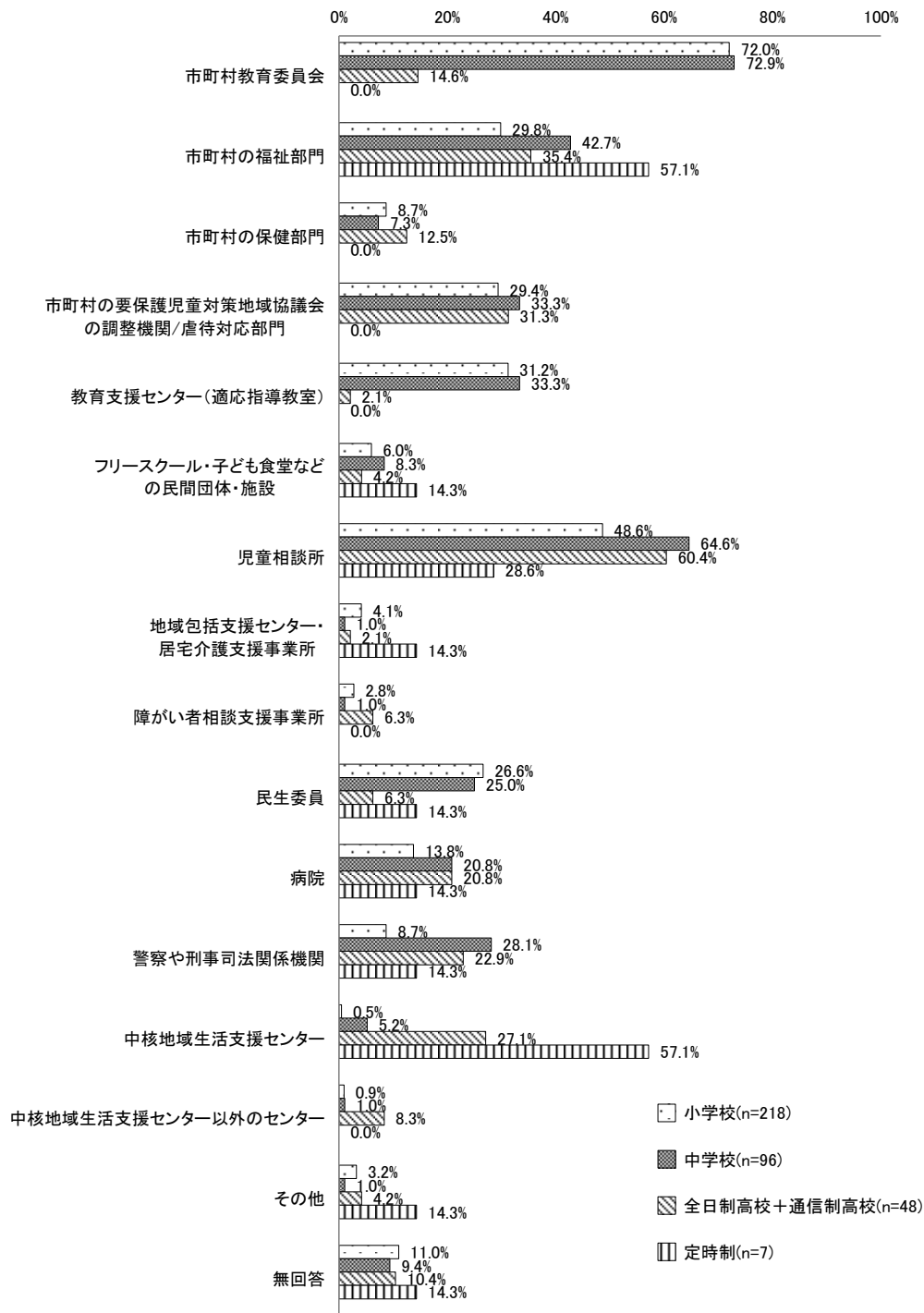
図表 150 連携する関係機関_②不登校のケース:複数回答（問 6-2_2）



③ 要保護児童対策地域協議会の登録ケースや不登校のケース以外のケース

「小学校」「中学校」では、「市町村教育委員会」の割合がもっとも高く、それぞれ 72.0%、72.9%となっている。次いで「児童相談所」の割合が高く、それぞれ 48.6%、64.6%となっている。「全日制高校+通信制高校」では、「児童相談所」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「市町村の福祉部門」が 35.4%となっている。

図表 151 連携する関係機関_③要保護児童対策地域協議会の登録ケースや不登校のケース以外のケース:複数回答 (問 6-2_3)

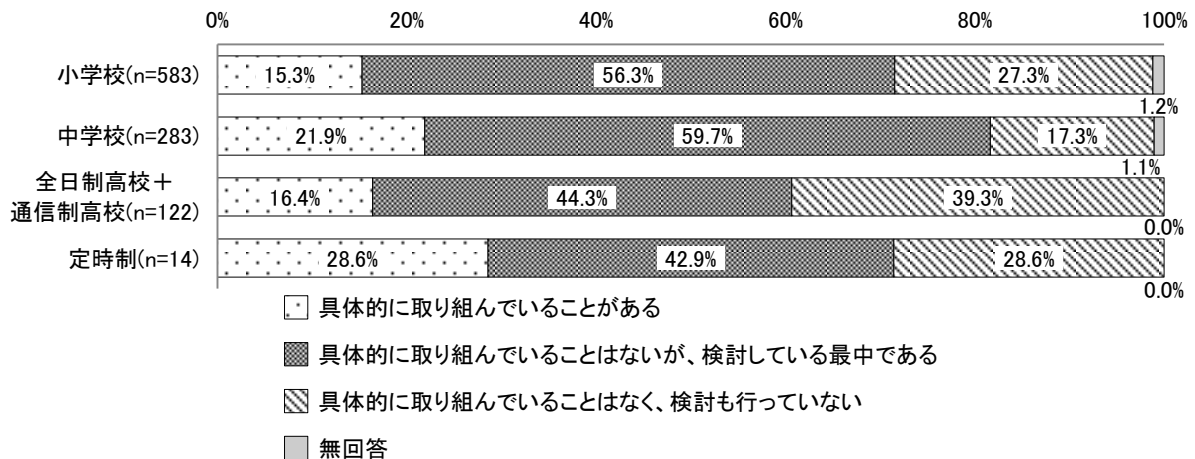


3. ヤングケアラーについて

(1) 「ヤングケアラー」に関する取組の有無

「ヤングケアラー」について、「具体的に取り組んでいることがある」割合は、「小学校」で 15.3%、「中学校」で 21.9%、「全日制高校+通信制高校」で 16.4%となっている。一方、「具体的に取り組んでいることはなく、検討も行っていない」割合は、「小学校」で 27.3%、「中学校」で 17.3%、「全日制高校+通信制高校」で 39.3%となっている。

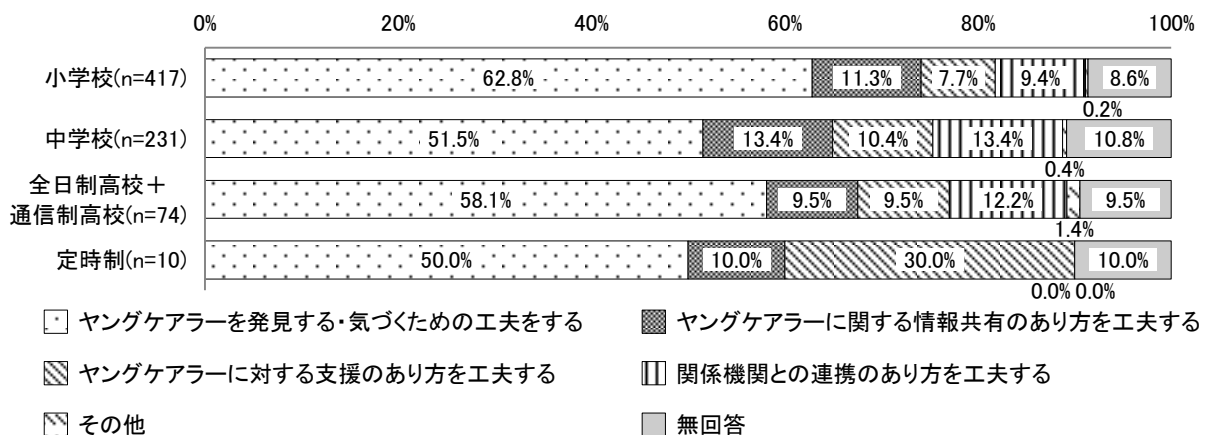
図表 152 「ヤングケアラー」に関する取組の有無:単数回答 (問 7)



(2) 「ヤングケアラー」に関する取組の内容

「ヤングケアラー」に関する取組の内容をみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「ヤングケアラーを発見する・気づくための工夫をする」の割合がもっとも高く、それぞれ 62.8%、51.5%、58.1%となっている。

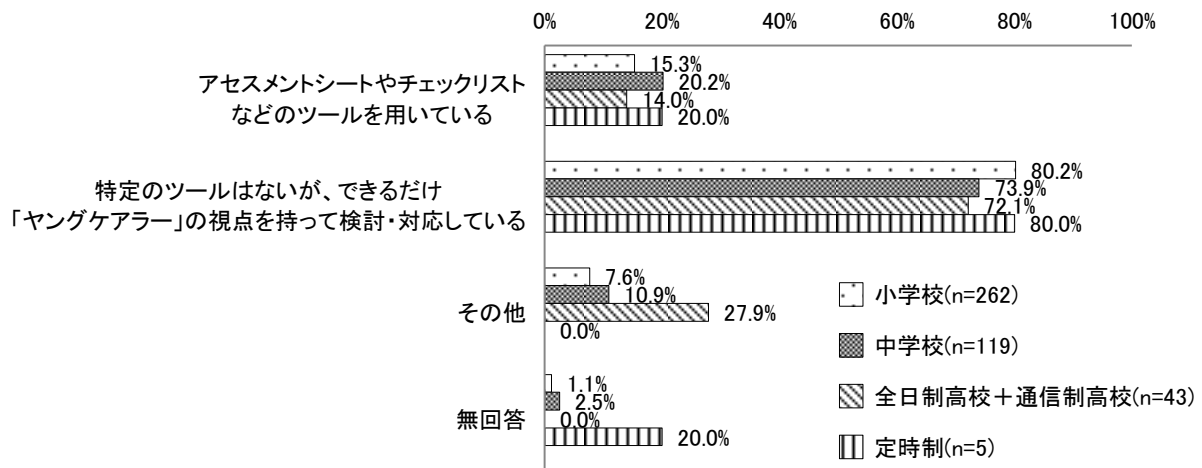
図表 153 「ヤングケアラー」に関する取組の内容:単数回答 (問 8)



(3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの把握方法

「ヤングケアラー」と思われる子どもの把握方法をみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」の割合がもっとも高く、それぞれ 80.2%、73.9%、72.1%となっている。一方、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」という割合はそれぞれ 15.3%、20.2%、14.0%にとどまる。

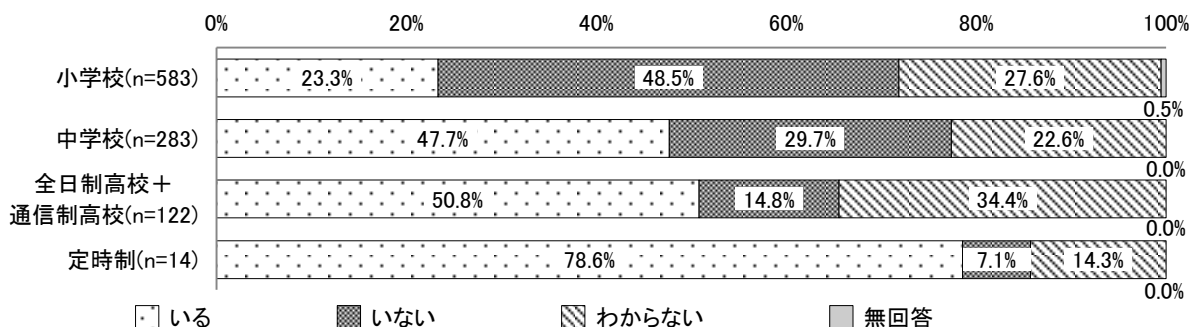
図表 154 「ヤングケアラー」と思われる子どもの把握方法:複数回答(問9)



(4) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無

校内に「ヤングケアラー」と思われる子どもが「いる」という割合は「小学校」で 23.3%、「中学校」で 47.7%、「全日制高校+通信制高校」で 50.8%となっている。

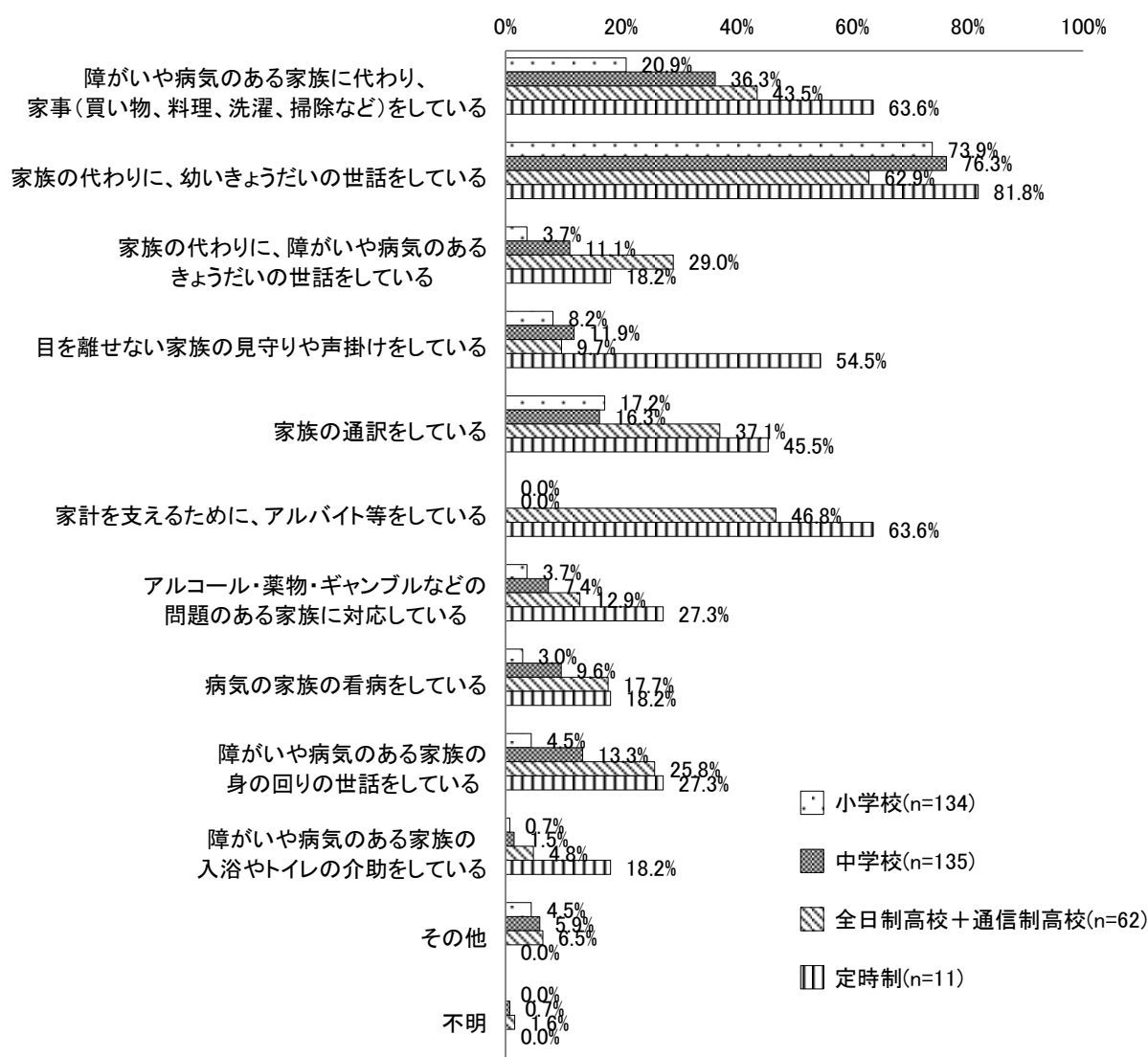
図表 155 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無:単数回答(問10)



(5) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの状況

「ヤングケアラー」と思われる子どもの状況をみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」の割合がもっとも高く、それぞれ73.9%、76.3%、62.9%となっている。次いで、「小学校」「中学校」では「障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている」の割合が高く（それぞれ20.9%、36.3%）、「全日制高校+通信制高校」では、「家計を支えるために、アルバイト等をしている」の割合が高い（46.8%）。

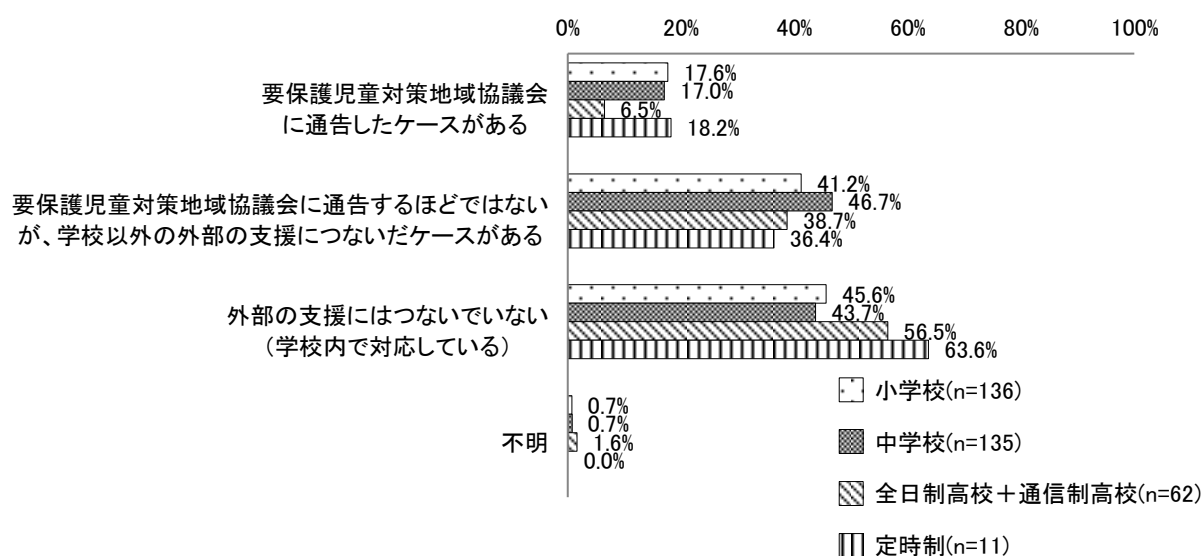
図表 156 「ヤングケアラー」と思われる子どもの状況:複数回答（問 11-1）



(6) 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースの有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもについて、過去1年以内に学校以外の外部の支援につないだケースの有無をみると、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」という割合は、「小学校」で17.6%、「中学校」で17.0%、「全日制高校+通信制高校」で6.5%となっている。また、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」という割合は、それぞれ41.2%、46.7%、38.7%となっている。

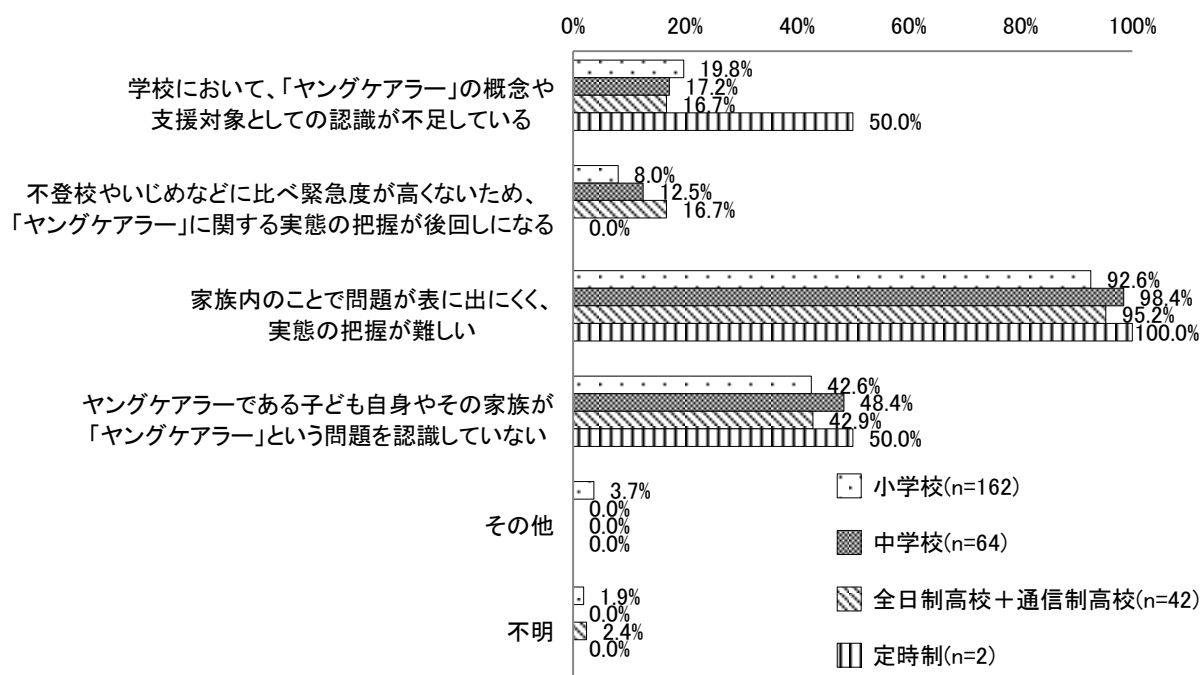
図表 157 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて、
学校以外の外部の支援につないだケースの有無:複数回答(問 11-2)



(7) 「ヤングケアラー」と思われる子どもが校内にいるかわからない理由

問 10 で「ヤングケアラー」と思われる子どもが校内にいるかわからないと回答した理由をみると、「小学校」「中学校」「全日制高校+通信制高校」では、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」の割合がもっとも高く、それぞれ 92.6%、98.4%、95.2%となっている。次いで、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」の割合が高く、それぞれ 42.6%、48.4%、42.9%となっている。

図表 158 「ヤングケアラー」と思われる子どもが校内にいるかわからない理由:複数回答 (問 12)

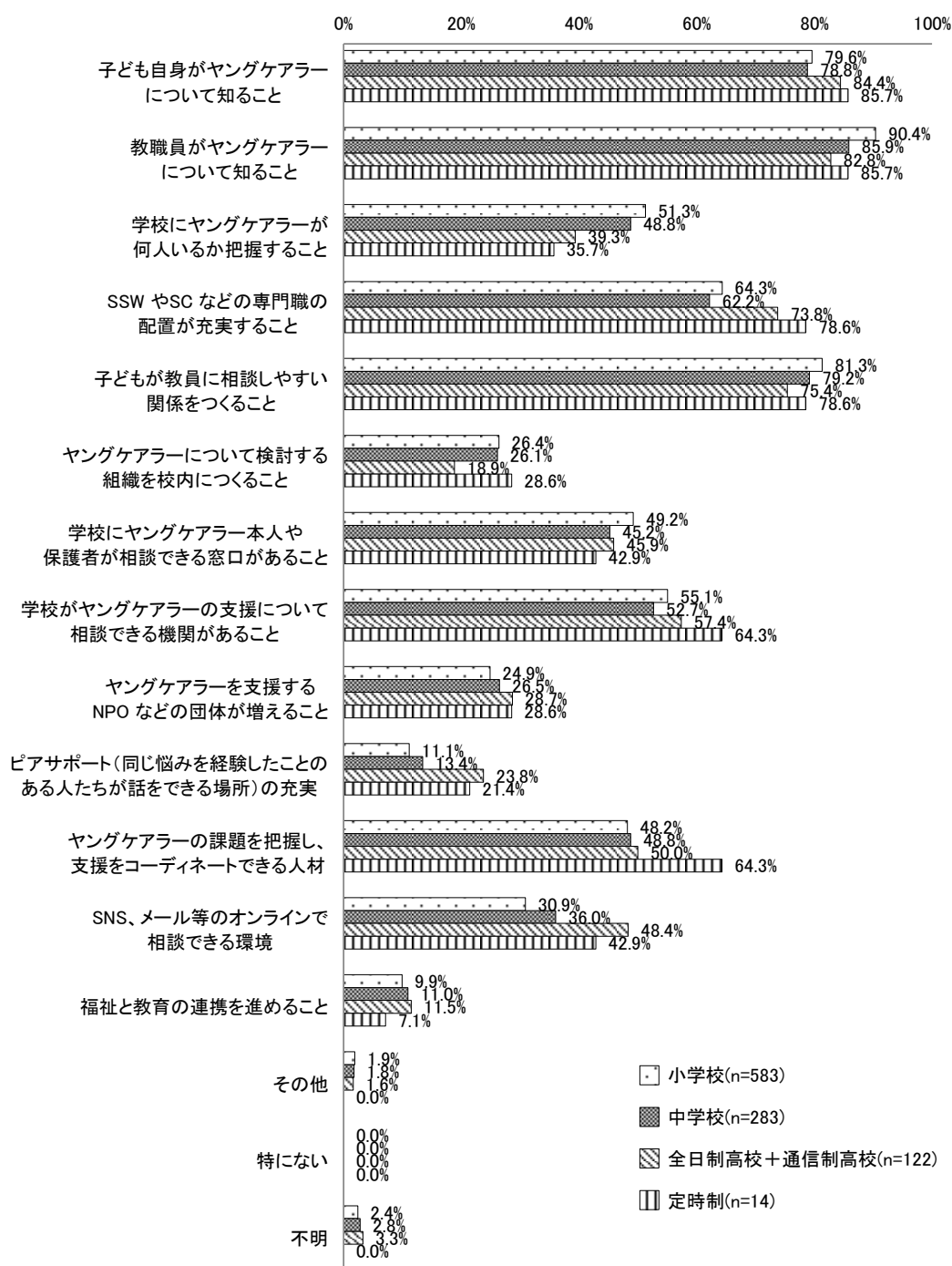


(8) ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことをみると、「小学校」「中学校」では、「教職員がヤングケアラーについて知ること」の割合がもっとも高く、それぞれ 90.4%、85.9%となっている。次いで、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」の割合が高く、それぞれ 81.3%、79.2%となっている。

「全日制高校+通信制高校」では、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が 84.4%でもっとも割合が高く、次いで「教職員がヤングケアラーについて知ること」が 82.8%となっている。

図表 159 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うこと



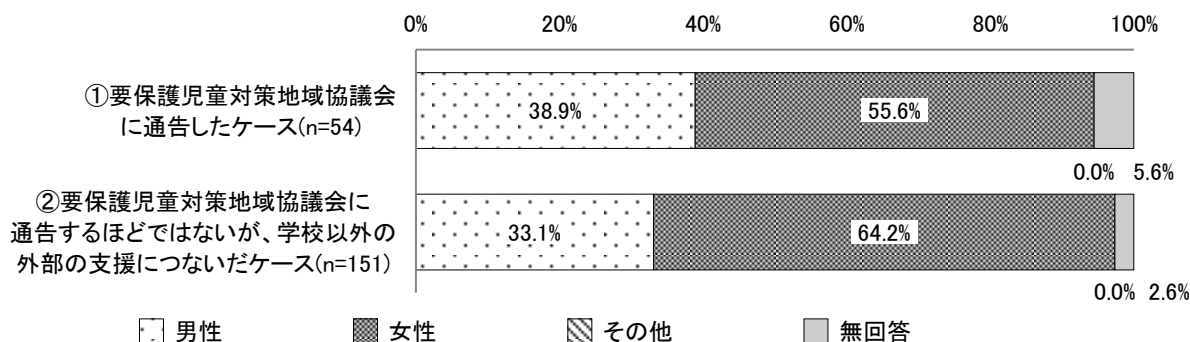
4. ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないだケースの概要

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合に、直近のケースについて回答をいただいた。全体で、「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」については 54 件のケース、「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」については 151 件のケースを収集した。収集したケースの概要は以下の通りである。

(1) 性別

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「男性」が 38.9%、「女性」が 55.6%となっている。「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「男性」が 33.1%、「女性」が 64.2%となっている。

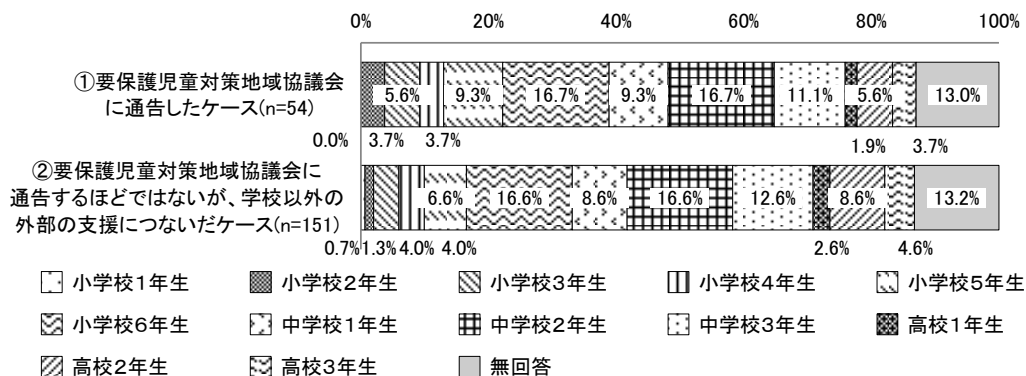
図表 160 <外部の支援につないだケース>性別:単数回答(項目1)



(2) 学年

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「小学校6年生」「中学校2年生」が 16.7%でもっとも割合が高く、次いで「中学校3年生」が 11.1%となっている。「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「小学校6年生」「中学校2年生」が 16.6%でもっとも割合が高く、次いで「中学校3年生」が 12.6%となっている。

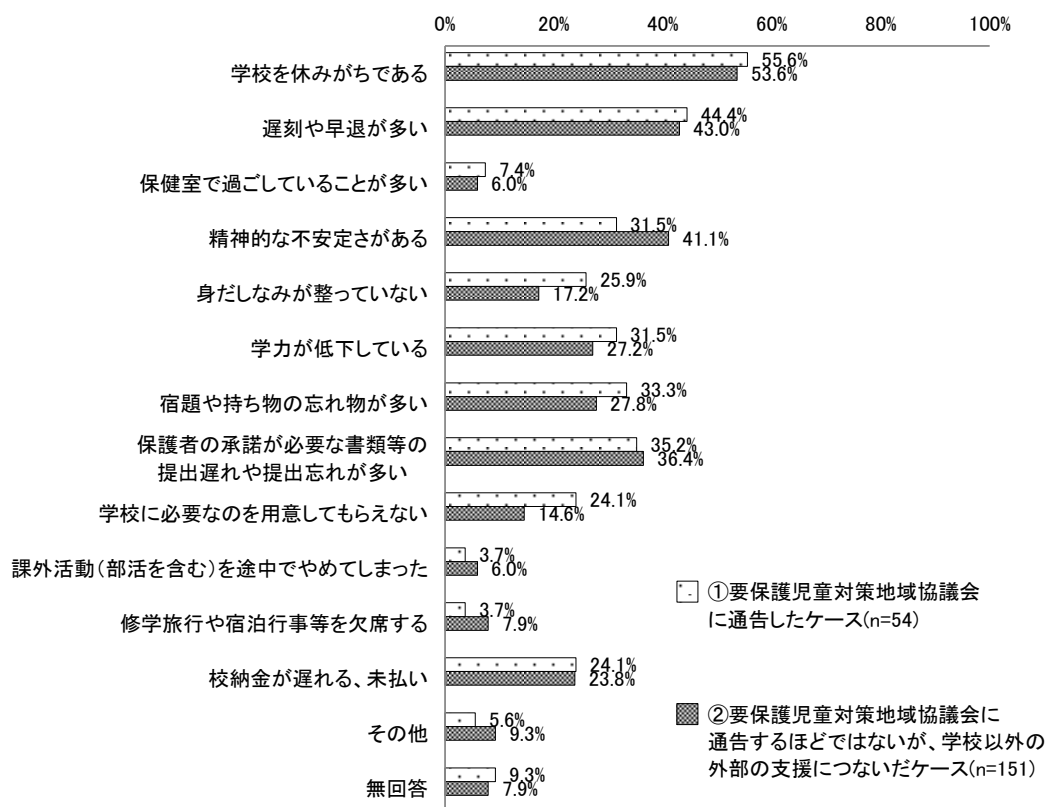
図表 161 <外部の支援につないだケース>学年:単数回答(項目2)



(3) 学校生活の状況

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「学校を休みがちである」が 55.6%でもっとも割合が高く、次いで「遅刻や早退が多い」が 44.4%となっている。「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「学校を休みがちである」が 53.6%でもっとも割合が高く、次いで「遅刻や早退が多い」が 43.0%となっている。

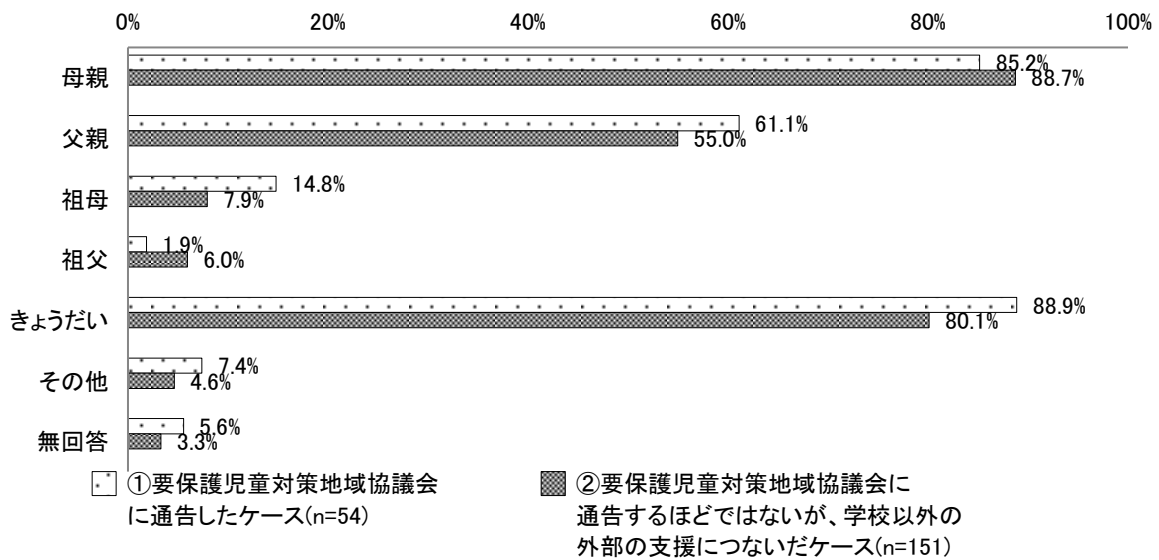
図表 162 <外部の支援につないだケース>学校生活の状況:複数回答(項目3)



(4) 家族構成

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「きょうだい」が 88.9%でもっとも割合が高く、次いで「母親」が 85.2%となっている。「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「母親」が 88.7%でもっとも割合が高く、次いで「きょうだい」が 80.1%となっている。

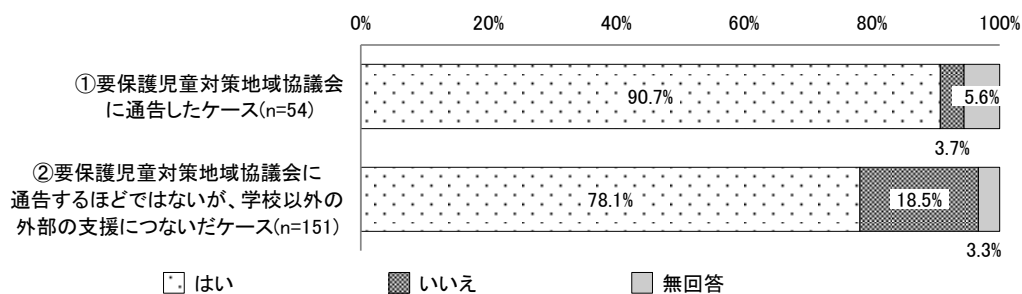
図表 163 <外部の支援につないだケース>家族構成:複数回答(項目 4)



(5) 家庭でのケアの状況の把握の有無

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「はい」が 90.7%、「いいえ」が 3.7%となっている。「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「はい」が 78.1%、「いいえ」が 18.5%となっている。

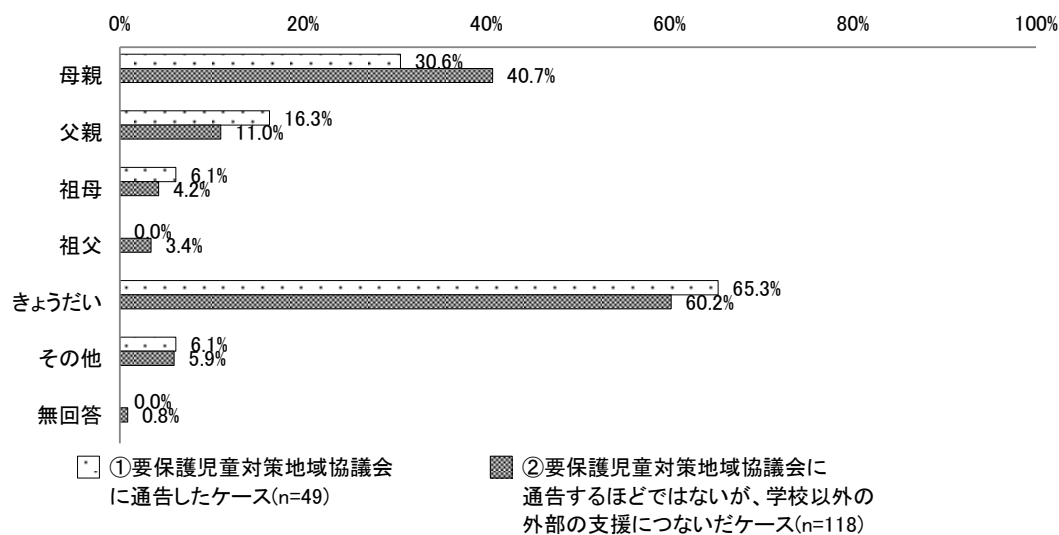
図表 164 <外部の支援につないだケース>家庭でのケアの状況の把握の有無:単数回答(項目 5)



(6) ケアを必要としている人

「きょうだい」の割合がもっとも高く、それぞれ 65.3%、60.2%となっている。次いで「母親」の割合が高く、それぞれ 30.6%、40.7%となっている。

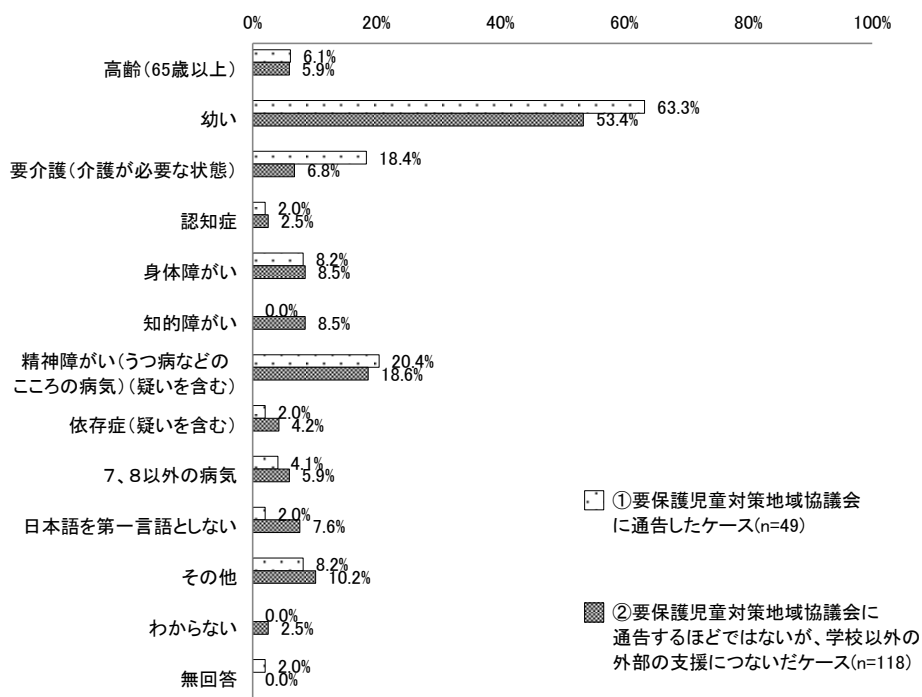
図表 165 <外部の支援につないだケース>ケアを必要としている人:複数回答(項目 5-1)



(7) ケアを必要としている人の状況

「若い」の割合がもっとも高く、それぞれ 63.3%、53.4%となっている。次いで「精神障がい(うつ病などのこころの病気)(疑いを含む)」の割合が高く、それぞれ 20.4%、18.6%となっている。

図表 166 <外部の支援につないだケース>ケアを必要としている人の状況:複数回答(項目 5-2)

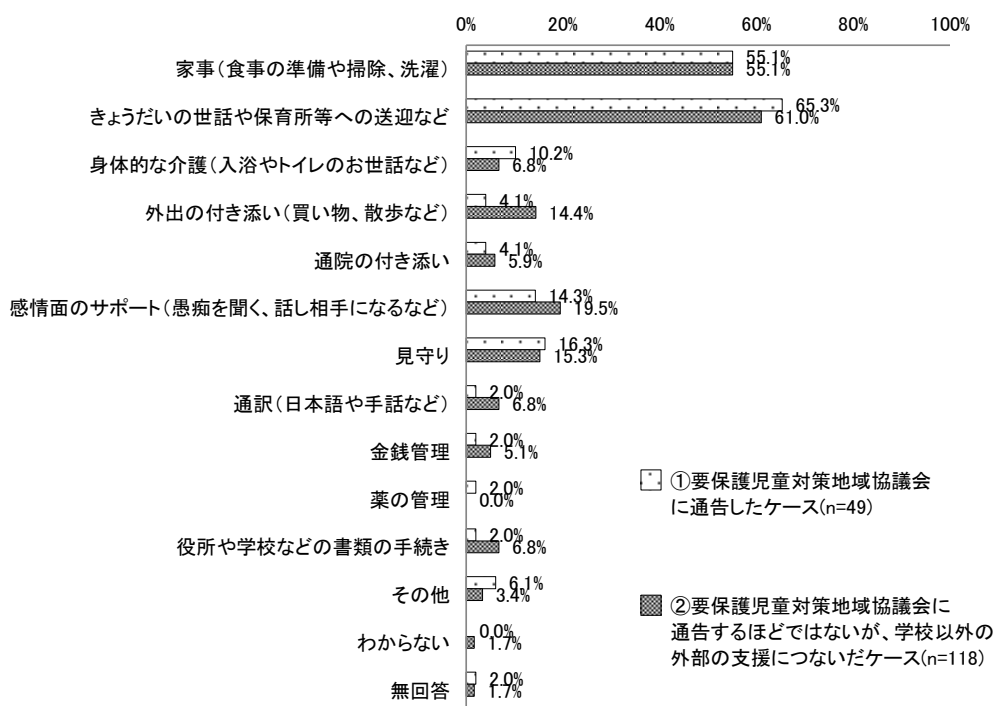


(8) ケアの内容

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」では、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 65.3%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 55.1%となっている。

「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」では、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 61.0%でもっとも割合が高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 55.1%となっている。

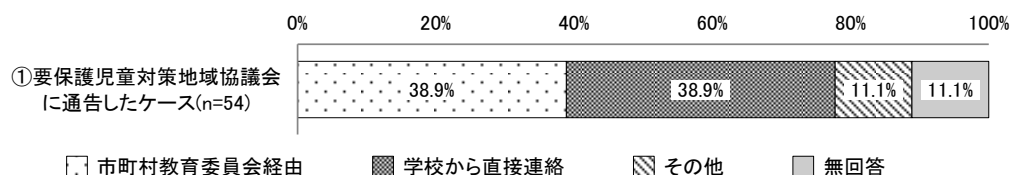
図表 167 ケアの内容:複数回答（項目 5-3）



(9) 要保護児童対策地域協議会への通告ルート

「①要保護児童対策地域協議会に通告したケース」における通告ルートを見ると、「市町村教育委員会経由」「学校から直接連絡」が 38.9%でもっとも割合が高く、次いで「その他」が 11.1%となっている。

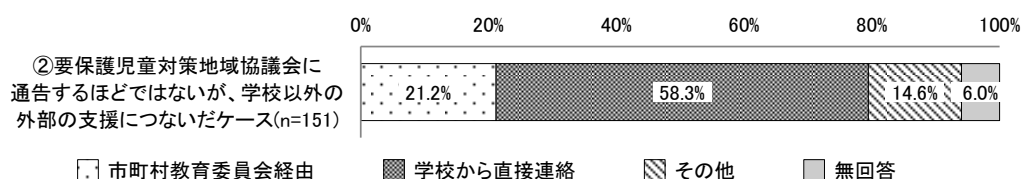
図表 168 要保護児童対策地域協議会への通告ルート:単数回答(ケース①項目7)



(10) (要保護児童対策地域協議会以外の) 外部機関へのつなぎ方

「②要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」における外部機関へのつなぎ方をみると、「学校から直接連絡」が 58.3%でもっとも割合が高く、次いで「市町村教育委員会経由」が 21.2%となっている。

図表 169 外部機関へのつなぎ方:単数回答(ケース②項目8)



第5章 要保護児童対策地域協議会アンケート結果

1. ケース登録件数

(1) ケース登録件数および「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数

要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数の合計は、令和元年度で13,818件、令和2年度で15,281件であった（いずれも49協議会における登録件数の合計）。うち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数は、令和元年度で105件（44協議会における合計）、令和2年度で126件（43協議会における合計）であった。

図表 170 ケース登録件数および「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数（令和元年度実績）：数量回答（問1）

令和元年度	n	合計	最大値	最小値	平均	中央値
① 問1.1.1.要保護児童ケース登録件数(令和元年度)	37	6,769	1,382	0	183	41
② 問1.1.2.要保護児童ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和元年度)	32	50	24	0	2	0
③ 問1.2.1.要支援児童ケース登録件数(令和元年度)	36	2,945	742	0	82	29
④ 問1.2.2.要支援児童ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和元年度)	31	36	9	0	1	0
⑤ 問1.3.1.特定妊婦ケース登録件数(令和元年度)	38	358	65	0	9	5
⑥ 問1.3.2.特定妊婦ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和元年度)	29	0	0	0	0	0
⑦ 問1.4.1.ケース登録件数の総数(令和元年度)	15	3,774	1,212	0	252	162
⑧ 問1.4.2.ケース登録件数の総数のうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和元年度)	13	19	8	0	1	0
⑨ ケース登録件数の合計(問1.1.1、問1.2.1、問1.3.1の合計または問1.4.1)	49	13,818	1,726	0	282	110
⑩ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数の合計(問1.1.2、問1.2.2、問1.3.2の合計または問1.4.2)	44	105	30	0	2	0

図表 171 ケース登録件数および「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数（令和2年度実績）：数量回答（問1）

令和2年度	n	合計	最大値	最小値	平均	中央値
⑪ 問1.5.1.要保護児童ケース登録件数(令和2年度)	37	7,627	1,851	0	206	40
⑫ 問1.5.2.要保護児童ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和2年度)	32	67	26	0	2	0
⑬ 問1.6.1.要支援児童ケース登録件数(令和2年度)	36	3,137	807	0	87	25
⑭ 問1.6.2.要支援児童ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和2年度)	31	35	7	0	1	0
⑮ 問1.7.1.特定妊婦ケース登録件数(令和2年度)	38	356	70	0	9	5
⑯ 問1.7.2.特定妊婦ケースのうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和2年度)	28	0	0	0	0	0
⑰ 問1.8.1.ケース登録件数の総数(令和2年度)	15	4,194	1,259	0	280	152
⑱ 問1.8.2.ケース登録件数の総数のうち、「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数(令和2年度)	13	24	14	0	2	0
⑲ ケース登録件数の合計(問1.5.1、問1.6.1、問1.7.1の合計または問1.8.1)	49	15,281	2,083	0	312	125
⑳ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの件数の合計(問1.5.2、問1.6.2、問1.7.2の合計または問1.8.2)	43	126	32	0	3	0

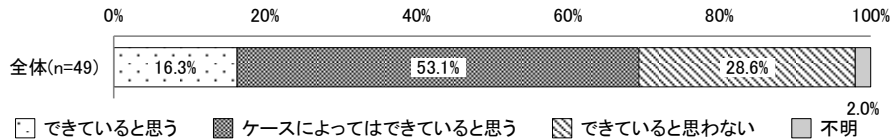
※問1では、登録ケースの件数をケースの種別ごとおよび総数にて把握したところ、ケースの種別ごとの件数のみの回答があった場合や総数についてのみ回答があった場合、ケース種別ごとの件数と総数の両方に回答があった場合がみられた。ケース件数の総数の把握のため、⑨、⑩、⑰、⑱において、ケース種別ごとの件数の積算または総数の回答のいずれかを採用し、集計を行っている。具体的には、⑨は⑦の回答があった場合は⑦の値、⑦の回答がなかった①・③・⑤のいずれかで回答があった場合は①・③・⑤の合計件数をもとに統計量を算出。同様に、⑩は⑧の値または②・④・⑥の値をもとに算出、⑰は⑮または⑪・⑬・⑮の値をもとに算出、⑱は⑱または⑫・⑭・⑯の値をもとに算出。なお、ケースの種別ごとの件数と総数の両方に回答のあったサンプルがあるため、例えば、⑨の合計は、①の合計、③の合計、⑤の合計、⑦の合計の和にはならない。

2. ヤングケアラーと思われる子どもへの対応

(1) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応・支援の実施状況

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応や支援ができているかどうかをみると、「できていると思う」が 16.3%、「ケースによってはできていると思う」が 53.1%、「できていると思わない」が 28.6%となっている。

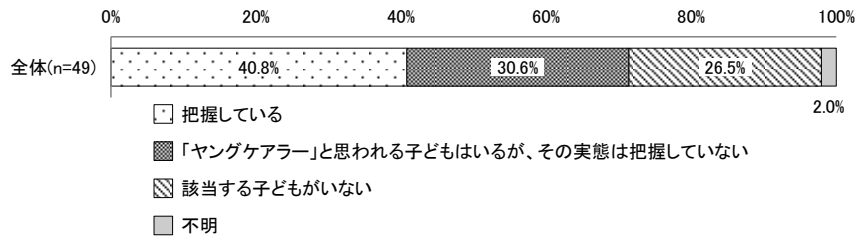
図表 172 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応・支援の実施状況:単数回答 (問 2)



(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握をしているかどうかをみると、「把握している」が 40.8%、次いで「「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が 30.6%となっている。

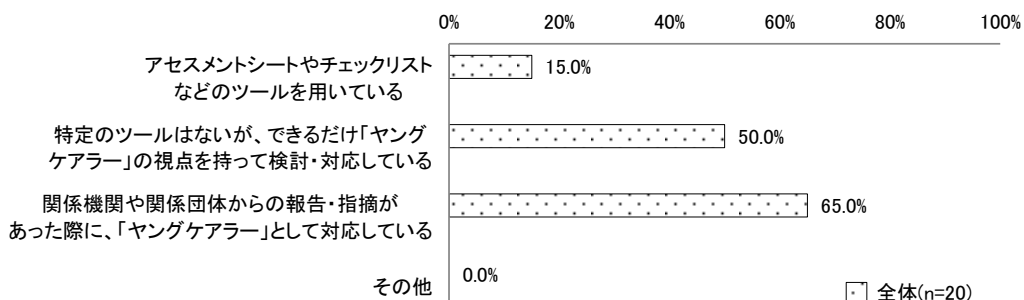
図表 173 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握:単数回答 (問 3)



(3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の方法

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握をしている方法をみると、「関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している」が 65.0%、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が 50.0%となっている。

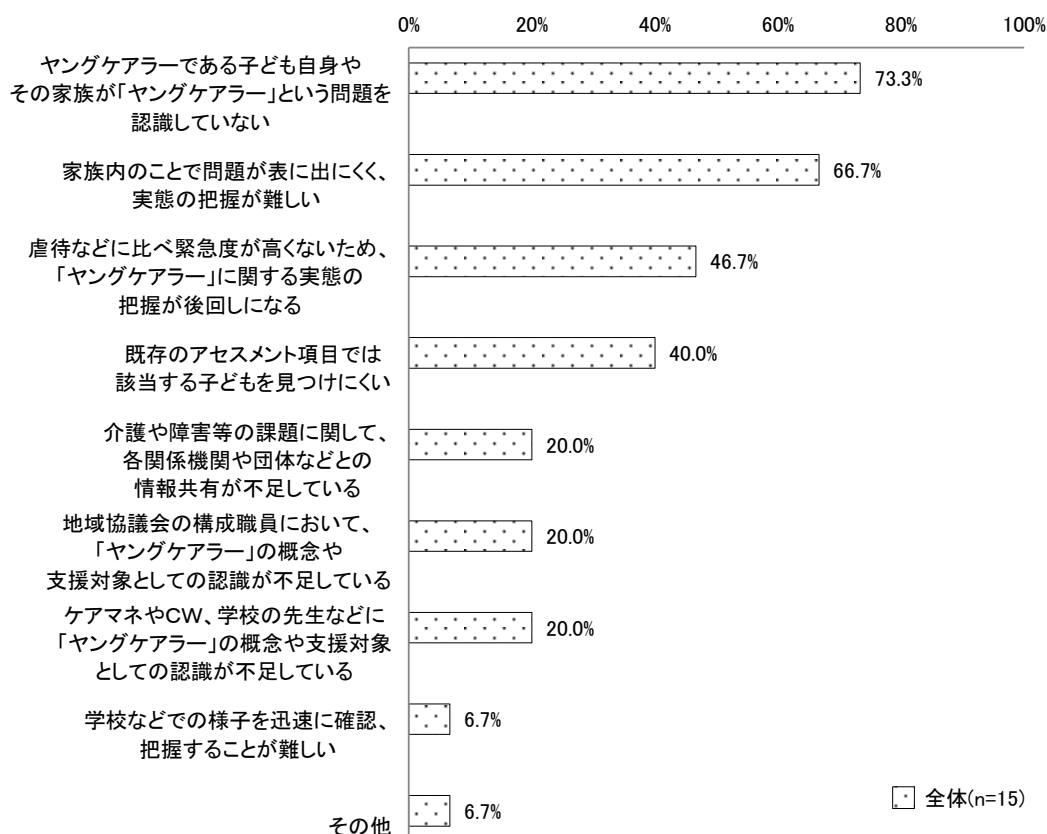
図表 174 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の方法:複数回答 (問 4)



(4) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していない理由

「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない要対協について、その理由をみると、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が 73.3%でもっとも割合が高く、次いで「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が 66.7%となっている。

図表 175 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していない理由：複数回答（問 5）

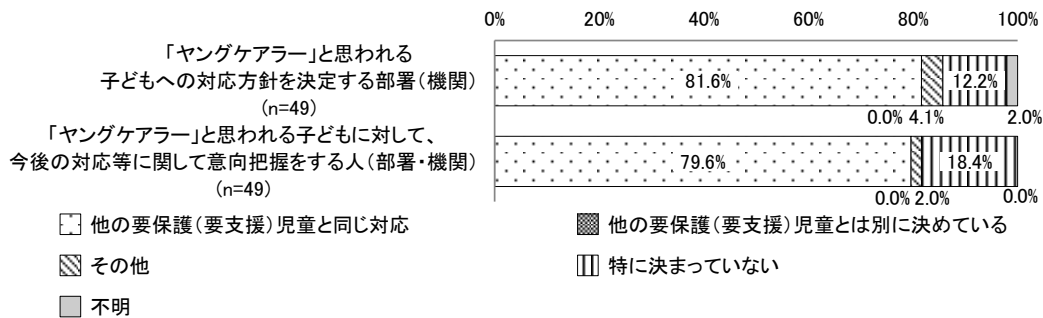


3. 要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合の対応

(1) 対応方針を決定する部署（機関）や今後の対応等に関して意向把握をする人（部署・機関）

要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応方針を決定する部署（機関）をみると、「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が 81.6%となっている。また、「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人（部署・機関）をみると、「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が 79.6%となっている。

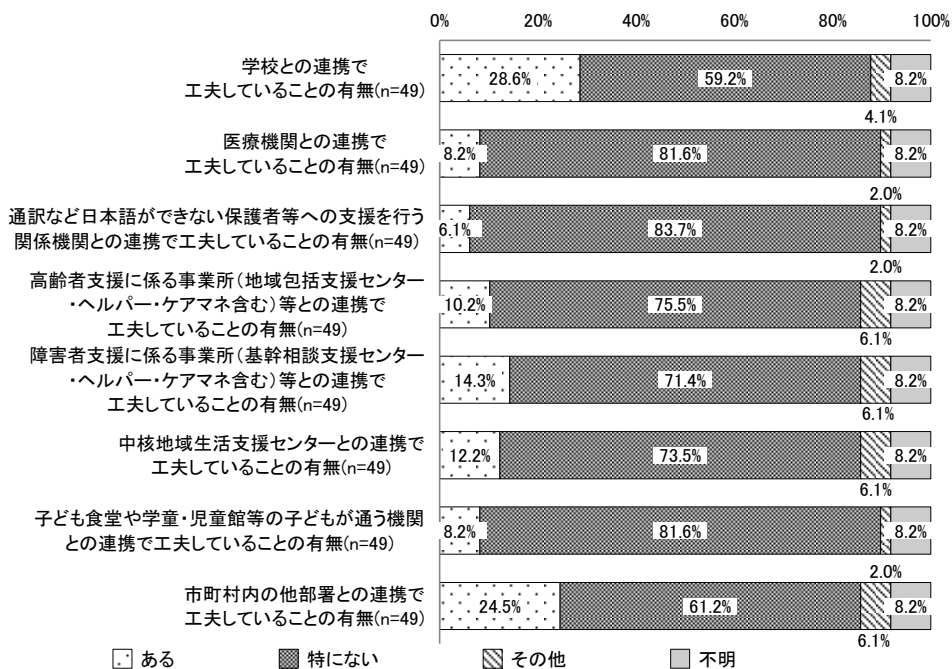
図表 176 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定する部署（機関）や今後の対応等に関して意向把握をする人（部署・機関）：単数回答（問 6_1～問 6_2）



(2) 関係機関との連携の工夫の有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、関係機関との連携で工夫していることの有無をみると、学校との連携で工夫していることがある割合は 28.6%、市町村内の他部署との連携で工夫していることがある割合は 24.5%、障害者支援に係る事業所等との連携で工夫していることがある割合は 14.3%、中核地域生活支援センターとの連携で工夫していることがある割合は 12.2%などとなっている。

図表 177 関係機関との連携の工夫の有無の有無：単数回答（問 6_3～問 6_10）



(3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、関係機関との連携で工夫していること

■学校との連携で工夫していること

生活アンケートの記載内容や生徒の発言から、ヤングケアラーが疑われるものについては、情報共有を依頼している。
要保護児童・要支援児童とも、毎月1回データにて出席状況や把握している状況を報告いただいている。
登校状況を毎日報告してもらい、遅刻、欠席あれば家庭訪問を実施した。
関係機関に対してヤングケアラーに関する講演会を実施する。
毎学期末、市内小学校と関係機関を交えた、情報共有会を実施。
学校に出向いて教職員と対面で情報共有し、支援方針を一緒に検討している。
県のヤングケアラー研修の内容を教育委員会主催の研修で共有。
定期的な状況確認と情報共有をしている。
実務担当者会議、月例の要支援ケース会議、個別支援会議等により情報共有する。新規ケースについては、都度、情報共有を行う。
学校での適応状況や、相談先の有無を確認している。
各小中学校を訪問し教頭に説明、啓発ポスターの掲示を依頼した。
発見後、要支援児童として取扱、情報の共有を図る。子どもが登校をできることを共通の目標にし、子どもが不利な状況にならないように、子どもの精神的ケアや家族への支援について役割分担を明確にする。

■医療機関との連携で工夫していること

生活アンケートの記載内容や生徒の発言から、ヤングケアラーが疑われるものについては、情報共有を依頼している。
定期的な状況確認と情報共有をしている

■通訳を依頼するなど日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していること

通訳アプリや通訳サービスの活用。
通訳ができる職員を配置している部署と連携して対応している。

■高齢者支援に係る事業所等との連携で工夫していること

介護保険サービス利用状況、ケアマネが把握している家族状況を把握。必要なサービス導入に向け、随時協議。
高齢者支援に関わる担当課や事業所（ケアマネ・ヘルパー）と随時打ち合わせを行い、緊密な情報共有の上で、支援策の検討を行う。
社会福祉法の支援調整会議で研修。ヤングケアラーについて勉強。
親族に介護等を要する高齢者がいる場合には、その状態やケアの必要性について調査している。
市内の地域包括支援センター代表者が集まる会に出席し説明。報告する窓口を確認した。

■障害者支援に係る事業所等との連携で工夫していること

障害福祉サービス利用状況、自立支援医療等の情報を把握。計画相談員から家族状況等を確認し、家庭の課題を共有する。
父親が障がい者手帳を所持していたため、ヘルパー派遣を行い、生活支援を行った。
障害者支援センターを要保護児童対策地域協議会実務者会議の構成機関としている。
要保護児童対策地域協議会実務者会議・代表者会議内において、ヤングケアラーと思われる子どもの、情報共有を図る
社会福祉法の支援調整会議で研修。ヤングケアラーについて勉強。
障害サービスの利用により、子どものケア負担軽減を図る。
障害者虐待の担当者が集まる実務者会議にて説明した。

■中核地域生活支援センターとの連携で工夫していること

子どもの居場所となれるような社会資源の情報共有。
中核地域生活支援センターを要保護児童対策地域協議会実務者会議の構成機関としている。
社会福祉法の支援調整会議で研修。ヤングケアラーについて勉強。
外国人家庭の入管での手続き、夜間・休日の対応等。
中核地域生活支援センターに相談している可能性がある場合には、相談状況について調査している。

■子ども食堂や学童・児童館等の子どもが通う機関との連携で工夫していること

学童の用務の連絡調整の一部を行っている
子ども食堂と協定。心配な子どもの情報をもらう。
子ども食堂や学童の利用により、家事負担の軽減や、居場所の確保を行っている。
子ども食堂等に関わっている民生委員、主任児童委員の定例会に出席し説明した。

■市町村内の他部署との連携で工夫していること

母子保健情報の把握。生活保護担当課への受給歴照会。
生活支援のため、生活保護部署と連携した。
要保護児童対策地域協議会実務者会議・代表者会議内において、ヤングケアラーと思われる子どもの情報共有を図る。
社会福祉法の支援調整会議で研修。ヤングケアラーについて勉強。
実務担当者会議、月例の要支援ケース会議、個別支援会議等により情報共有を行う。新規ケースについては随時、連絡を行う。
外国人の健診およびコロナワクチン接種、ワクチンパスポートの発行。学校関係の事務手続き補助。

■連携有無について、「その他」の回答の内容

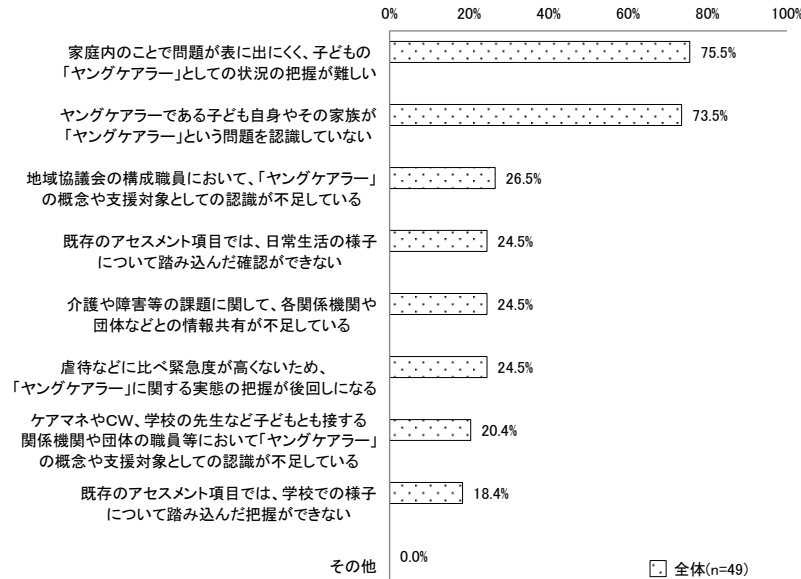
小規模自治体の為、母子手帳交付・新生児訪問等や障害が1つの課内で行われている為情報収集が容易。担当保健師が意識して情報収集を行っている。
保健福祉調整委員会の開催。
相談部署を特定せずに、ヤングケアラーを発見した部署が、関係部署と連携し、情報共有や支援を行っている。

4. ヤングケアラーの早期発見や支援についての課題

(1) 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題

「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題をみると、「家庭内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい」が75.5%でもっとも割合が高く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が73.5%となっている。

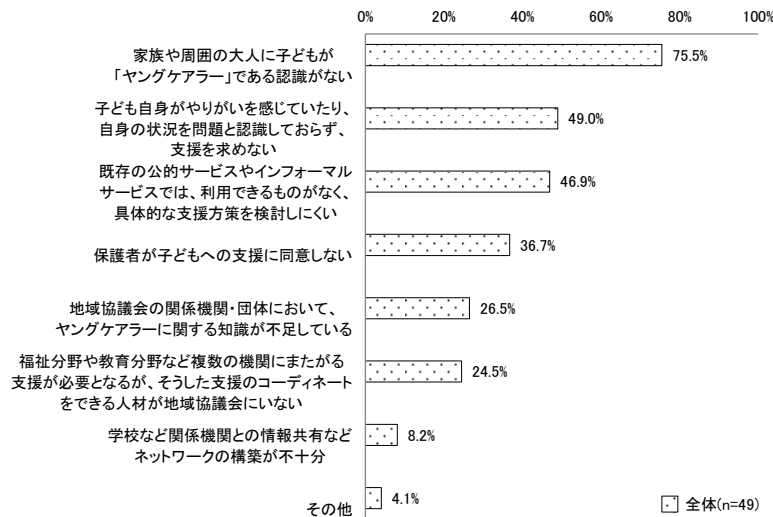
図表 178 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題:複数回答(問7)



(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題

「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題をみると、「家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない」が75.5%でもっとも割合が高く、次いで「子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない」が49.0%となっている。

図表 179 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題:複数回答(問8)



5. ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として、関係機関に期待すること

■学校に対して期待すること

①学校に対して期待すること

ヤングケアラーかどうかの確認をする機関として一番に情報を入手できるので、気になる場合は本人に確認してもらいたい。
早期に発見し、関係機関で情報共有。
児童のメンタルケア。
アセスメントツールを活用し実態把握をする。
ヤングケアラーが疑われる子どもと面談実施し生活状況を把握すること。
家庭と義務教育の重要性についての話し合いの場を設け、指導（支援）の実施。
ヤングケアラーと思われる子を発見した際は、協議会への相談や、家庭への接触をお願いしたい。
ヤングケアラーである生徒にとって最も身近な所属となるため、相談しやすい体制を整備いただきたい。
ヤングケアラーに関する共通認識を持ち、早期に発見して必要な機関に繋いでほしい。また、子どもが学校に来やすいように、子どもに合わせた受け入れ態勢を構築してほしい。
家事や育児を担うことにより学業への影響（成績不良や居眠り等）が生じている場合、保護者へしっかりと面談などで伝え、適切な状況ではない事を認識してもらうこと。
ヤングケアラー本人の状況把握、本人へのアセスメントを実施し、要対協を含めた必要な福祉機関への繋ぎを期待する。
啓発のための授業や活動を期待します。
子どもに身近な大人として、家庭のことや担っているケアの状況、進路のことについて相談にのっていただき、当事者や保護者の意思を確認しながら、必要な機関に相談を繋いでいただきたい。
学校の先生は非常に多忙と思われるため、「いじめ」や「虐待」「人権」に関する既存のアンケートを活用して、ヤングケアラーに関連することが把握されたら早期に情報提供をいただきたい。
登校状況などリアルタイムでの情報の共有と、子どもと学校の信頼を強固にしてもらうことで、子ども自身の登校意欲を維持してもらいたい。

■ケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待すること

②学校・保育所・幼稚園などに対して期待すること（きょうだいの世話をしているヤングケアラー等の支援）

親の面談と子供の状況の確認。
ケアが必要な程度や方法、今後の方針などの情報提供。
子どもの相談相手となり、家庭内での生活状況を把握する。
担任がヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合の対応の流れを組織内で周知する。
学力の遅れに対する不安や友人関係の断絶がないよう根気強い支援の継続
家庭状況の把握及び相談機関へのつなぎ。
学校への登校状況や学校での様子、成績の変化など把握し、情報共有をしてもらいたい。
家庭状況、登校状況、子の状況等日常生活の中で、発見、相談をお願いしたい。
相談につなげる役割。子どもの気持ち、意向についての聞き取り。居場所づくり
子どもの状況の把握を把握し、支援が必要な状況であるかアセスメントし、必要時支援につなげてほしい。
きょうだいの世話等の負担が心配されるケースについては、保護者のみの要件ではなく、ヤングケアラーの負担を軽減できるサービス提供や、関わり時の声掛け等。
子どもには、日常的な声かけに加え、養護教諭やスクールカウンセラーによる面接等を期待します。また、保護者等に対しても寄り添って対応し、相談しやすい関係を構築してほしいです。
保護者や家族と相談関係を築いていただき、保護者や家族の問題意識や相談意思を確認しながら、必要な機関に相談を繋いでいただきたい。
ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたら国のマニュアルのアセスメントシートを活用して状況を確認し、学校として情報共有、対応を検討のうえ、支援を要する場合、家庭児童相談室と連携して対応する。

③保健センターに対して期待すること（きょうだいの世話、精神疾患の家族の世話等をしているヤングケアラー等の支援）

保護者の病状や養育力の把握。
家庭児童相談室との情報共有、協働対応。
家庭の実態の丁寧な把握と医療機関や関係機関との連携。
子どもの気持ちに寄り添い、支援が必要なのか、どのような支援が欲しいのか等についての丁寧な聞き取り。
保護者へヤングケアラーの負担や影響について説明し、ケア負担軽減のための支援策を提示 必要に応じて関係機関と連携。
精神疾患の家族が安定して生活でき、ヤングケアラーの負担が軽減されるよう、家族の定期受診や必要なサービス利用ができるような継続的な支援。
専門職の立場から、子どもおよび家族への助言や相談対応を期待します。
精神疾患のある家族について、そのケアの必要性や、家族との関係性についてアセスメントしていただきたい。家族や子どもの意思を確認しながら、福祉サービス等を案内していただきたい。
家族の疾患の状態を正確に把握すること。そこから考えられる家族のニーズを予測しながら必要な支援につなげる。

④ケアマネなどに対して期待すること（高齢や認知症の家族介護等をしているヤングケアラー等の支援）

ケアの対象者への定期的なアプローチ、サービスの見直し。
事実を把握した場合の速やかな情報提供。
ヤングケアラーと思われる子の、負担軽減のためにも必要なサービス利用に繋いでほしい。
・世帯の経済状況に即しながら、利用可能な単位数の上限までサービスを活用出来るよう支援計画を策定すること。
在宅の現場に潜む課題を把握し、その課題を解決するために、関係機関につなげる。
ヤングケアラーかもしれないといった相談はあるが、なぜそのように判断したのかといった具体的な状況が把握できていないことがあるので、本人や家族に可能な限り聞き取りをしてほしい。
子どもがケアラーにならずに済むよう、家族全体をみて支援を計画、導入してほしい。
要介護者等へヤングケアラーの負担や影響について説明しケア負担軽減のためのケアプランの作成、ケアの提供。
利用者の適切なサービスの利用に繋がることで、家族の負担を減らし、子どもへのしわ寄せが起らないよう、家庭状況に配慮してほしい。
ヤングケアラーの早期発見と情報提供。介護が必要な家族を支援する際に、子どもがヤングケアラーにならないようなサービス調整。
子どもおよび家族への助言や相談対応を期待します。また、ヤングケアラーの負担を軽減させるためのサービス等に関する提案を期待します。
子どもや家族の意思を確認しながら、高齢者へのサービスだけでなく、子どもに対するサービスもあることなどをご説明いただき、相談につなげていただきたい。

⑤医療機関などに対して期待すること（精神疾患等の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援）

行政との医療情報の連携強化。
見回り医療等の普及など。
医療機関から自治体へ情報提供し、適切かつ効果的な情報連携の実施。
兄弟が園に通っている児童の面倒をみているといった相談を受けるが、なぜそのように判断したのかといった具体的な状況が把握できていないことがあるので、家族に可能な限り聞き取りをしてほしい。
親の状態が子どもへの影響として表出していないかアセスメントし、必要な支援に繋げてほしい。
治療対象者や保護者へヤングケアラーの負担や影響について説明。
家族の病状に対する医学的なアセスメントと情報の共有。
受診中の患者の子どもが、患者のケアをしなければならない状況を把握した際に、相談や支援につなげてもらう関わり。服薬管理等については訪問看護の利用勧奨等。
精神疾患等のある家族の治療に加えて、子どもが担っているケアの状況についても確認していただき、家族や子どもの意思を確認しながら、福祉サービス等を案内していただきたい。
児童相談所が関与したケースの子ども自身に対しては、地域相談先等を案内していただきたい。

⑥県（児童相談所など）に対して期待すること（子ども自身への支援）

ケアラー支援者向けの研修開催、各自治体の支援体制及び支援事例の情報提供等、協議会との連携。
ヤングケアラーに係る啓発活動の拡大・継続及び相談窓口について既存の資源を活用するのか、新規に設置するのか含めて整理していただきたいです。
ヤングケアラーのケースについて、相談機関が親との面接などで使用できる物として、関わる上での法的な根拠などが書かれているリーフレットなどがあると助かります。
定期的な訪問、面談等の実施。
聞き取りを行う上でのポイントなどを情報提供してほしい。
ヤングケアラーに対する適切な支援について、研修の充実や助言を受けられる機会があれば良い。
心理判定などを通じて子どもに影響が出ていないかアセスメントして、子どもの支援に繋げてほしい。
市への助言、ヤングケアラー及びケア対象児のリスクが高まった際の連携。
子どもが分離を求めた場合の対応。
個人及び関係機関が相談できる窓口の設置。
ヤングケアラーの市町村における支援体制について充実できるよう、体制構築への助言や研修等支援。
児童虐待の事実があるケースについては、市からの援助依頼や送致に対し一時保護を検討することを期待します。

■その他

⑦その他の機関に対して期待することや機関によらず期待すること

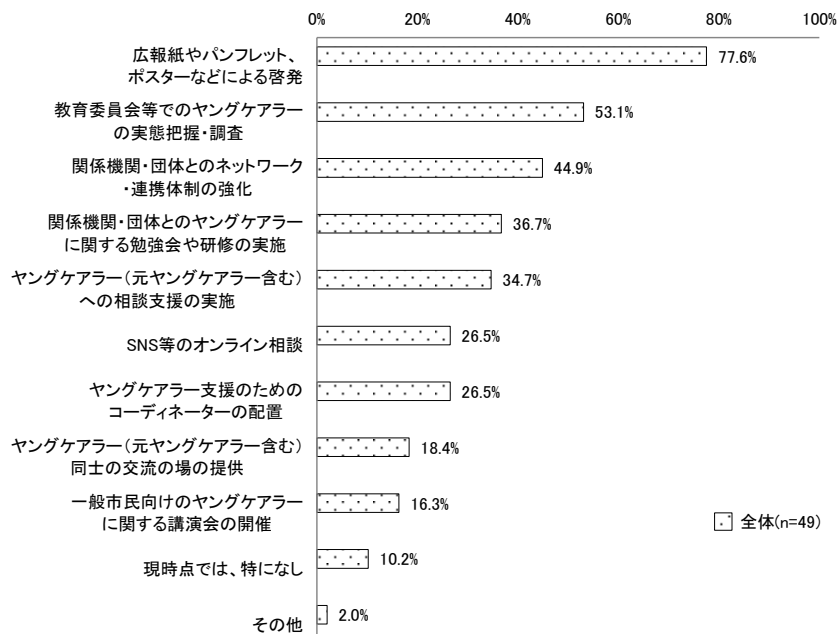
障害サービス、介護サービスの対象にならない家庭において家事支援が必要な場合、公的サービスがない。それを埋める機関が必要。
ヤングケアラーの発見、協議会との連携、担任・SSW等による支援。
民生委員など、地域での支え合いの構築。
ケアが必要な家族の支援を誰が担っているのか、ヤングケアラーの問題を視野に入れて観察していただきたい。
情報をキャッチした場合は要対協へ報告をお願いしたい。
家族の一員として、仕方なく対応している子がいるので、人的援助や金銭的援助が必要。
ヤングケアラーの可能性のある子どもを対象とした、支援検討会議・個別支援会議等の協議の場への参加。
ヤングケアラーの概念等の浸透がさらに進み、子どもの心配な情報を得た場合には、すぐに支援機関に情報共有が図られるよう進めていきたい。
ヤングケアラーの実態を知ってもらい、ヤングケアラーと思われる子を発見するアンテナをもつ。
相談体制、見守り、安心できる場所づくり。
ヤングケアラーの概念と支援のポイントについて理解すること
ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたら国のマニュアルのアセスメントシートを活用して状況を確認し、学校として情報共有、対応を検討のうえ、支援を要する場合、家庭児童相談室と連携して対応する。

6. ヤングケアラーと思われる子どもへの対応として必要な支援

(1) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として必要だと思う支援

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として必要だと思う支援をみると、「広報紙やパンフレット、ポスターなどによる啓発」が 77.6%でもっとも割合が高く、次いで「教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査」が 53.1%となっている。

図表 180 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として必要だと思う支援：複数回答（問 10-1）



(2) 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として必要だと思う支援の具体的な内容

① 広報紙やパンフレット、ポスターなどによる啓発

国の啓発リーフレット等を活用しての一般市民への啓発。
ホームページ、広報誌、チラシ等による周知活動
市民にヤングケアラーという言葉を広く周知する必要があると思われる。
「ヤングケアラー」の意味や実態の周知の徹底
ヤングケアラーの子と、家庭の手伝いをしている子の違いがわかる内容の啓発物資を作成してほしい。
ヤングケアラーに該当する事例などを広く周知する。
SNS等の電子公告を活用することも有効だと思う。
ヤングケアラーYES/NO フローチャートを掲載し、自分がヤングケアラーかどうか認識してもらう機会をつくる。
子どもが自らヤングケアラーであると発信できる方法を周知していけるようにポスター等で啓発していく。
市民には、ヤングケアラーの認識はまだ浸透していない状況。広報などでの啓発が必要。
広報を通じて、ヤングケアラーの認知・促進を図る
家族向けの内容
子どもや保護者が利用する施設へポスターの掲示やリーフレットの配布。
ヤングケアラーについて認識が浅い。
市としてホームページや広報誌に掲載して周知を図る。
学校や保育所・幼稚園以外に、商業施設など子どもが目にする場所にポスター掲示
窓口へパンフレットの設置。駅や関係機関でのポスター掲示ホームページへの掲載
学校、市役所での啓発チラシ等の配付及び掲示

広報誌やホームページに、ヤングケアラーの実態及び支援方法に関する記事を掲載し、地域住民の理解を醸成していく。
子育て世代、子ども自身に届くような啓発をしていく。
保護者や子ども向けのリーフレット作成、意識啓発
学校や公民館での掲示等
ヤングケアラーという存在への理解を深め、社会的支援が必要であることを広報する
パンフレットの配布
学校や公的機関等への掲示および設置
パンフレットを市町村に配布、市町村から住民へ周知。
関係機関のみならず、子ども自身がヤングケアラーというものがどういうものなのかわかるように子ども目線でのパンフレット、ポスターを作成し啓発。
子ども自身に向けた啓発が必要と思われる。
関係機関の中でも、学校等には周知されているが、医療機関への周知に力を入れる必要があると思う。
子ども自身に「ヤングケアラー」とは何かかわかりやすく書かれたパンフレットなどを児童全員に配布する。

②一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催

主任児童委員連絡会や実務者会議等で講演会を行う。
地域全体でヤングケアラーに気づく視点を醸成できるような内容とする。
ヤングケアラーがどのようなものなのかを一般市民に周知するための講演会を開催する。
全国調査により把握されたヤングケアラーのケアの内容や時間、相談機関へのつなぎ方等の内容と思われる。
ヤングケアラーも含めた、子どもの健全な育ちを地域で支えることの大切さなどについて当事者や支援団体のスタッフによる講演会。

③教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査

定期的に公立学校での教職員による実態調査を実施。
児童へのアンケート実施、支援体制の構築
ヤングケアラーに該当するか否かを判断するため、アセスメントツールを活用する
実態を把握しにくい場合、所属先があるところでの調査は有効だと思われる。
児童、生徒に対し「ヤングケアラー」を理解してもらい、その後に実態調査等を実施することが必要だと思われる。
ヤングケアラーの事例を生徒へ周知したうえで、自身が該当するかどうかをアンケートにて聞き取る。
内容については、検討がかなり必要であると考えている。
学校でのヤングケアラーに関するアンケートの実施依頼
学校などの所属先での定期的なアンケート調査
児童の所属で実態を把握するケースが多いため。
要対協等を通して情報把握
ヤングケアラーの視点を強化した児童家庭の把握と状況変化に対して即応できるようなものとして行う。
学校と連携し、児童の出席状況や学校での様子などを常に把握して、気になることがあれば、面談をおこなう等
小中学生を対象にアンケートを実施。
定期的に家庭内での様子が確認できるようにアンケートを実施。ヤングケアラーと疑われる児童との面談や家庭訪問の実施。
全国調査と同じ項目で調査するとともに、障害福祉分野や高齢者福祉分野でも実態把握ができるとよいと思われる。

④関係機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化

要対協の構成機関を中心としたネットワークの構築。
関係している機関と連携して、それぞれでできることをしていく。
連携体制の強化は必要と考えるが、現時点では具体的内容はなし。
要保護児童や要支援児童等への対応で培ったネットワークを生かし、ヤングケアラーの課題を共有することで、体制を強化する。
情報がスムーズに入ってくるようなシステムづくりが必要。
こども園・小中学校の情報収集
「多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル」の配布。
学校 教育委員会等と連携し少しずつ進んでいる。
要対協の構成機関の中においても、ヤングケアラーの実態及び支援方法に関する勉強会や研修などを実施し、情報連携の強化を図ってまいりたい。
保育所等の連携

要対協地域協議会における情報共有
個別支援会議、虐待防止対策等ネットワーク会議、個別支援会議の開催
対象児童及び家庭に関する個別支援会議、ケースカンファレンス等
ヤングケアラーを要支援児童としてすべて要保護児童対策地域協議会で管理するのであれば、人員、体制の強化が必要と思われる。
関係機関が集まる既存の会議を利用して定期的に情報共有するとよいと思う。

⑤関係機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修の実施

要対協の構成機関等に対して勉強会を開催。
関係機関等にヤングケアラーに関する知識を深めて早期発見、支援ができるようにする必要があると思われる。
必要と考えるが、現時点では具体的内容はなし。
ヤングケアラーの子を発見した際の対応や介入方法についての事例を基にした勉強会や研修を実施してほしい。
ヤングケアラーに該当する事例や、ケース対応するうえで、ヤングケアラーかどうかを選別するために有効な手段等を学ぶ。
ヤングケアラーに関する知識、対応等について。
要保護児童対策地域協議会実務者会議・代表者会議内での勉強会
要対協地域協議会において理解促進のための勉強会等
ヤングケアラーがどのようなものなのか、どのように対応するべきかの研修会を関係機関向けに実施する。
当事者を交えた勉強会ができるとよいと思われる。
関係機関のスタッフは入れ替えがあるため年に1回は勉強会や研修を実施するとよいと思う。

⑥ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）への相談支援の実施

公的サービス等の情報提供、支援手続き説明等を行う。 （新規に創設するのではなく、既存制度を強化する）
市ホームページに専用コンテンツを設け、家庭児童相談を促す取り組み。
必要と考えるが、具体的方針無し。
実際に相談支援を実施しながら、市としましてもノウハウの蓄積に努めてまいりたいと考えている。
学校以外で子どもが相談できる場を作る。
当該児童と保護者との仲介的な立場となり、児童が家事等の負担を減らすための代替手段（親族協力や福祉サービス等）を一緒に考えたり、身近な相談役となる存在が必要か。
心のケア、支援サービス等のニーズを探るものとして行う。
ヤングケアラーで悩んでいる子どもや関係者に対する相談窓口の開設、支援の実施を行う。
要支援児童に対する対応と同様でよいと思われる。
各啓発媒体等に相談の窓口（地域協議会）の場所や連絡先を分かりやすくのせていく。

⑦ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供

自助グループのような場を提供をすることで、当事者が回復のイメージ作りに繋げる。
他の課題で、先行事例があるため、参考に実施する。
体験談を通じ自分一人ではないことへの肯定や、経験者からのアドバイスを受けられる
民間団体の活用等が可能と考える。

⑧SNS等のオンライン相談

若者がよく利用するSNS等のオンライン相談は有効と思われる。
他の課題で、先行事例があるため、参考に実施する。
LINEやメールを活用。
メールやライン等を活用した相談窓口の設置
Lineなど子どもにとって身近な相談ツールを活用した体制を構築する。
相談が容易と思われる
いつでもどこでも相談できる体制
子ども自身が相談しやすいように、学校の時間外等、いつでも相談できる環境を整備する。子どもがヤングケアラーについて認識することができるようにSNSを使った啓発活動を行う。
AI等の活用ができるとと思われる。

⑨ヤングケアラー支援のためのコーディネーターの配置

コーディネーターが配置されると適切な支援につながると思われる。
支援していくための専門家が必要。
要保護児童対策地域協議会事務局だけの対応には限りがあるので、コーディネーターの配置は必要
S S W等による学校内で相談できる支援者の配置
ヤングケアラーの基準を理解し、しっかりとアセスメントでき、適切な資源につなげることができる人材の配置が必要。
コーディネーター育成のための研修会・講習会の開催
子ども家庭総合支援拠点として取り組むべき課題であれば、専任の職員が必要である等の意見を明確に示してほしい。現状ヤングケアラーの支援を充実できる体制ではない。
市町村向けに研修会の開催。
障害、高齢者支援の経験者や、元ヤングケアラー等の当事者が配置されるとよいと思われます。

⑩その他

ケアの対象者に対する福祉サービス、インフォーマルな社会資源の充実
実際にケア負担を軽減・代替できる施策の提供。
家事援助等、精神面のみでなく実際に児の手助けになるような支援
ヤングケアラー支援のケースに応じた標準的対応をまとめたガイドラインを国において策定
話しやすい「大人」との関係づくり